

ひ、右舷に粟津の松原を望み、瀬田唐橋の下を經、石山寺附近を過ぎ、南郷に至りて引返し、瀬田川を湖つて湖上に出で、矢橋、三上山、比良山、堅田の浮御堂、坂本、唐崎の松、三井寺等を見て、濱大津に歸着する。石山、堅田には約三十分上陸が出来、乗船時間約五時間半である。坂本、唐崎へ上陸するものは三十分毎に發する定期船を利用するがよい。

【島巡り】琵琶湖の北部にある諸島を巡航するので島巡りと云ひ、途中數多の名所を望見する。期間は三月十五日から十一月十五日までは毎日、十六日以後二十三日までの日曜、祭日にも出航する。船内に食事、賣店、浴室、娛樂等の設備がある。船は濱大津解纜、唐崎の松、比叡山、坂本、三上山、堅田の浮御堂、近江舞子、白鬚神社、竹生島、多景島、沖の白石、奥島、沖島、長命寺が眺められ、航程約三二料、竹生島には約五十分間、長命寺には約一時間停船して參詣に便し、近江舞子には夏季約三十分間停船する。濱大津を出發してから同地に歸着するまで約七時間半である。

で豪華な裝飾彫刻を施し、屋蓋の放膽な手法と共に、桃山時代の趣致を表はして居る。向唐門及び附屬の渡廊【國寶】もまた伏見城の遺構である。

- 一 釋迦三尊像 【國寶】 絹本着色 一幅
- 一 普賢十羅刹女圖額 【國寶】 一面
- 一 數十色の色絲を以て刺繡したもので今磨滅甚だしく、褪色して不明の箇所もある。鎌倉時代のものであらう。
- 一 彌陀三尊來迎圖額 【國寶】 刺繡 一面
- 一 空海將來經等目錄 【國寶】 紙本墨書 一卷
- 一 法華經序品 【國寶】 一帖
- 一 紙本墨書、金銀泥で草花蝶鳥の飛模様が有る。卷尾に寛永丁卯春松花堂昭乗の跋あり、堀川俊房の筆と鑑定して居る。
- 一 法華經分別功德品 【國寶】 紙本墨書 一帖
- 一 建長五年の奥書がある。書風が黄山谷様の眞書體であることは、この種の裝飾經として珍稀である。
- 一 毛抜形太刀 【國寶】 一口
- 一 無銘、傳藤原秀郷奉納 東京遊就館出陳
- 一 左記寶物は奈良帝室博物館出陳
- 一 十六羅漢圖 【國寶】 絹本着色 一幅

(長命寺記事後出)

★【竹生島】(指定名勝・史蹟)琵琶湖の北部に位し、大津から七二料、彦根から二四料、長濱から一二料、葛籠尾崎を距ること南方約三料である。森林鬱蒼たる花崗岩質の一小島で、周回二料に達せず、海拔三〇米に近く、湖面を抜くこと約二〇米、面積〇方料一四、湖岸は概ね絶壁をなし、東方僅に舟を寄せて上陸することを得。島に津久夫須麻神社、寶嚴寺觀音堂がある。史蹟・名勝に指定せられて居る範圍は島の全部及び周圍の水面一〇〇米である。着船場より數十の石階を登れば左に寶嚴寺本坊がある。右折して進めば觀音堂に入り廊下續きで都久夫須麻神社に至る、神社後方の磴道を登つた處に寶物館がある。

【寶嚴寺】(天台宗)竹生島辨天並に觀音の別當寺にしてその觀音堂は西國三十三所第三十番の札所である。今の觀音堂【國寶】は五間四面、單層、屋根は入母屋造柿葺、もと伏見城の遺構で慶長七年豊臣秀頼によつてここに移建されたものである。向唐門【國寶】は屋根柿葺

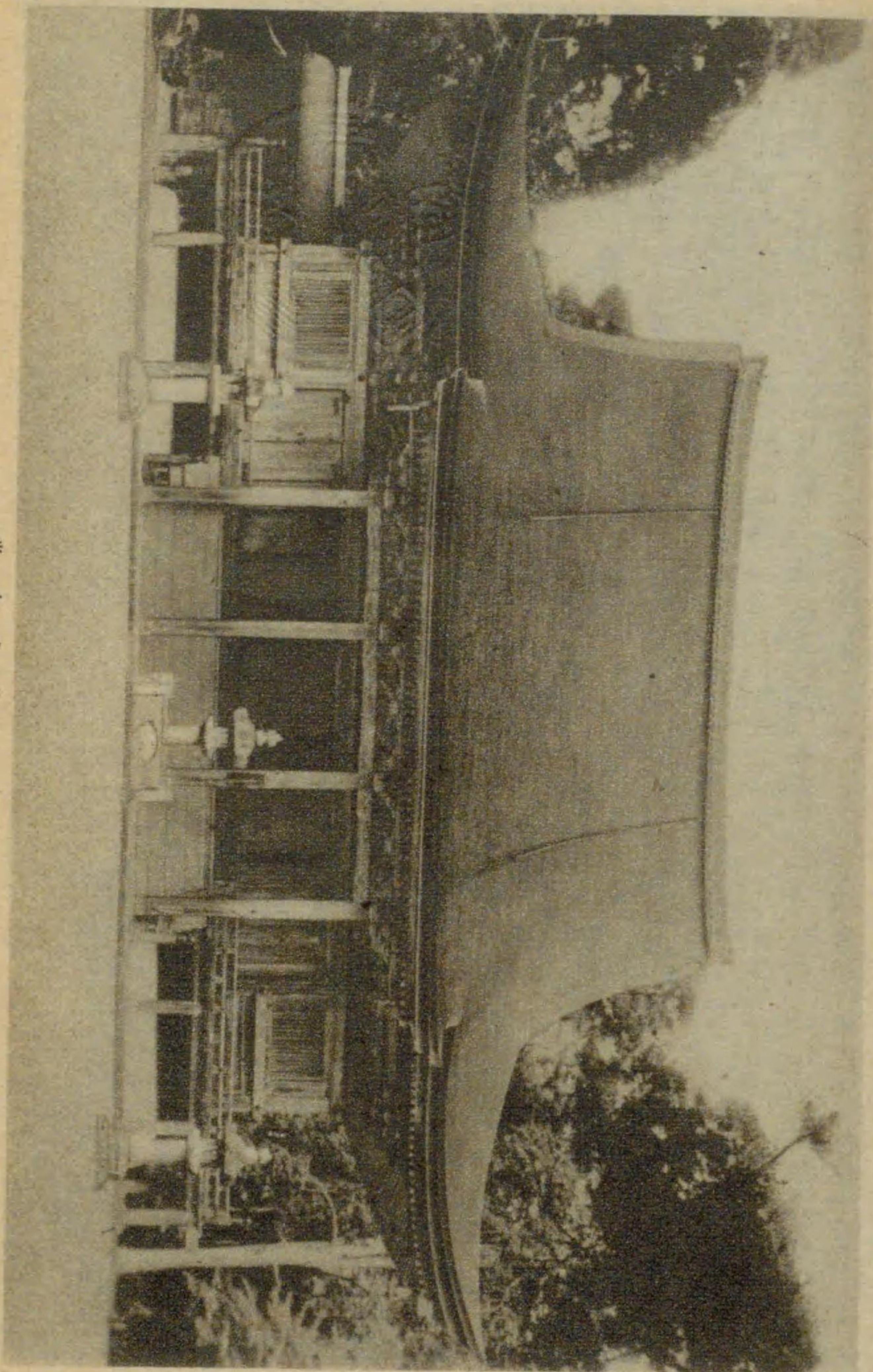
- 一 如意輪觀音像 【國寶】 絹本着色 一幅
- 一 彌陀來迎圖 【國寶】 絹本着色 一幅

【都久夫須麻神社】(縣社)寶嚴寺と並び島中景勝の地を占め、湖上の眺めが頗る廣い。淺井姫命を祀り、俗に竹生島明神の名を以て知らる。創祀の年月は詳かでないが、奈良時代の末藤原仲麻呂が叛を謀つて近江に走つた時、この神の冥助によつて早く誅滅することが出来たので、朝廷では特に從五位上を授けられた。中世以來本地佛を立て、辨財天と稱し安藝嚴島、相模江島と並稱して日本の三辨天と云ひ、廣く世に信仰せられた。戰國時代には荒廢したらしいが、慶長七年豊臣秀頼は片桐且元を奉行に任じ、伏見桃山の日暮御殿を移して改修したのが今の社殿【國寶】である。桁行五間、梁間四間、重層で屋根は入母屋造、軒唐破風、檜皮葺の建築で、桝組は出三ツ斗を用ゐる、前面に一間の向拜を附して居る。裝飾は内外ともに頗る濃麗を極め、柱長押、唐戸及び板壁などは黒漆を塗り、透彫金具を打つて居る。内陣の長押神壇の框にも何れも平蒔繪を施

し、更に天井の格間、天井下の小壁襖などに極彩色を以て花卉等を描いて居るが、狩野永徳筆と傳へて居る。要するに豪華華麗な桃山建築の特徴を遺憾なく發揮し、殊にその詩繪は京都高臺寺靈屋のそれと共に、高臺寺詩繪の代表的傑作と稱されて居る。

【多景島】琵琶湖の東岸を距ること一軒半、東西約二
三米、南北約三〇米、周圍約半軒の岩嶼で、松樹竹篠
繁茂して居る。もと篠竹の生へた島の意で竹島と云つ
たのを、景趣に富むので多景島としたものだ云ふ。
島内に見塔寺と稱する日蓮宗の寺あり、寺の北方蟻の
戸渡りを越えんと、巨岩に法華題目を刻してある。ま
た島に誓の御柱と云ふものがある、高さ約一五米、五
角形の一大銅柱で、各面に明治大帝五箇條の御誓文の
一を奉録してある。

【白石】多景島の西南約三軒半の沖にあつて沖の白石
と呼ばれ、大小四箇の奇岩が湖中に屹立し、高さ約九
米、常に水鳥が群集して居る。附近は細鱗大魚が多く、
時に發刺として水面に躍る。

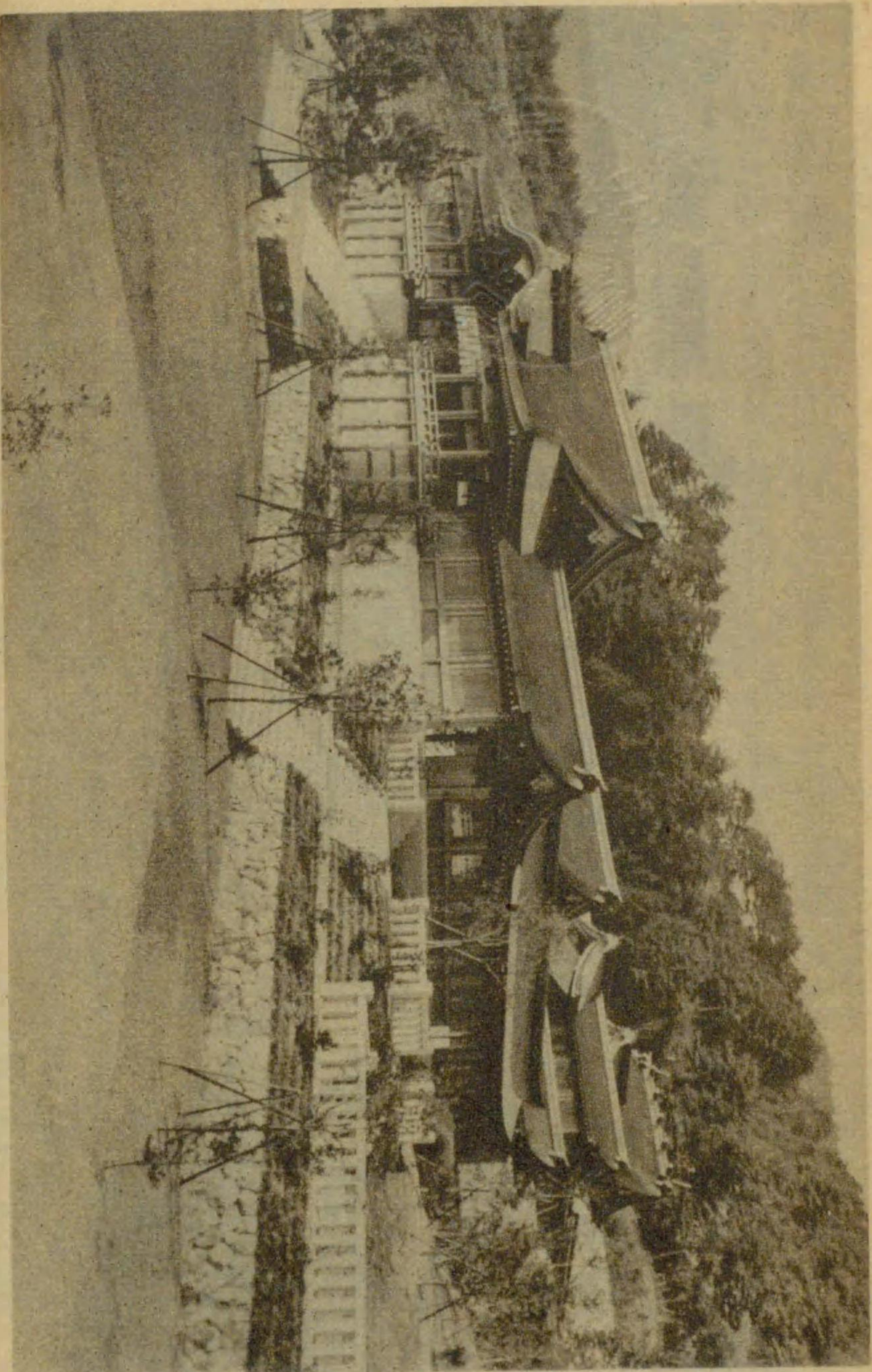


堂本寺井三七六

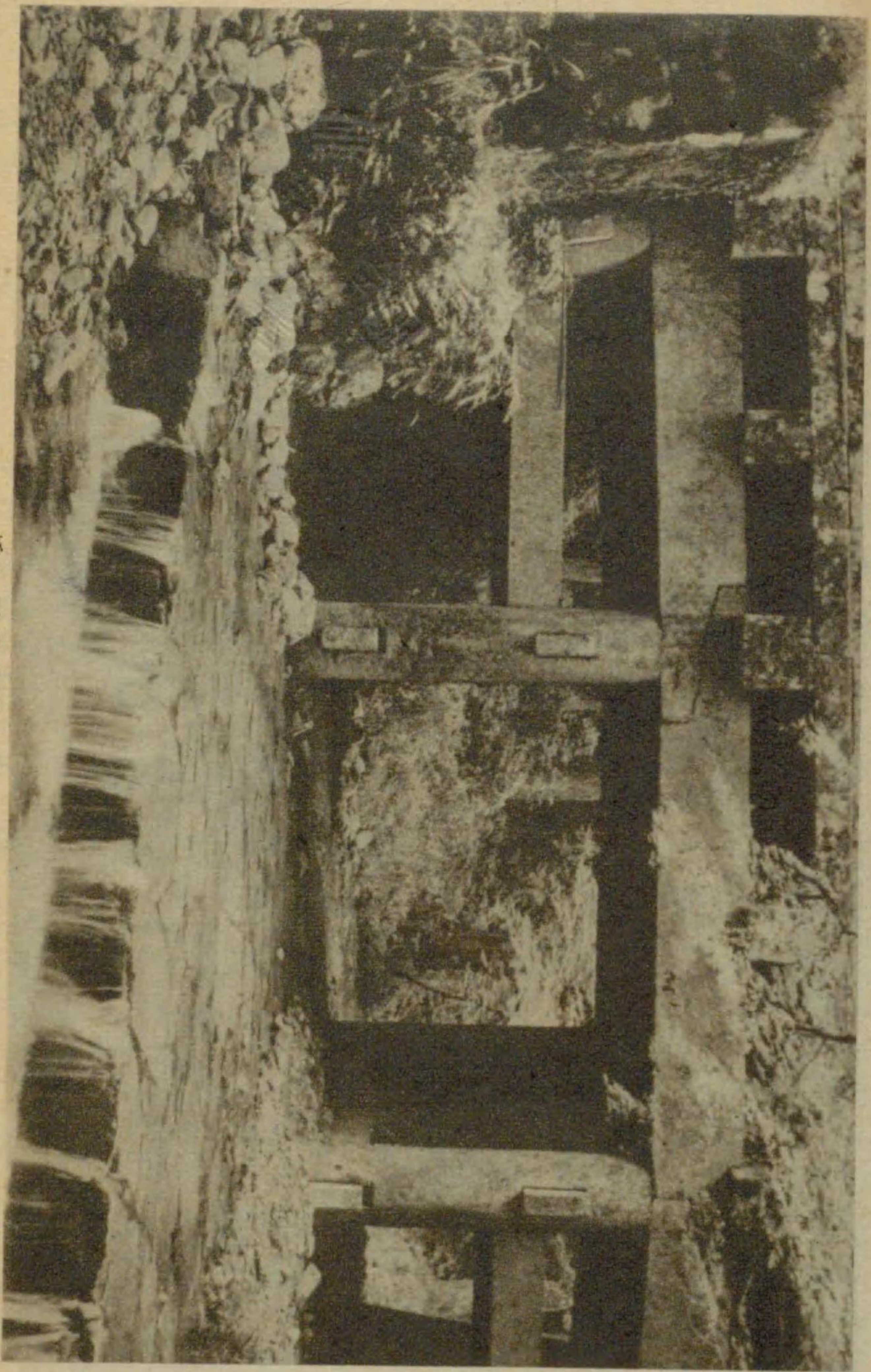
【滋賀里百塚】京阪電車坂本線滋賀里の西約半軒、志
賀峠に至る道の北側の山腹にある。その敷三十餘個あ
り、何れも南面して石室を開き、うちに石棺の身を内
部に藏するものもある。またこゝから北三〇米、里俗
山寺と呼ぶ寺の境内にも石室のある古墳がある。石室
の長さ六米、幅三米、高さ三米あり、長さ六米の羨道
を具へて居る。この地湖水を前面に見渡す景勝の地に
位して、石器時代遺物を出し、また寺址その他の古代
遺跡がある。

【寶光寺】天台宗眞盛派、京阪電車坂本線穴太下車、坂本
村穴太にある。俗に元眞如堂と稱し、文明二年京都黒
谷にあつた眞如堂（眞正極樂寺）が一時この地に移り、
元祿六年現地京都淨土寺町に轉じたので、こゝを元眞
如堂と云ふのである。本尊阿彌陀如來立像（國寶）は木
造、寺傳に圓仁自作と云ふが、室町時代の作である。

【盛安寺】天台宗眞盛派、京阪電車穴太の北一軒、坂本村
坂上にある。本尊は木造十一面觀音立像（國寶）で藤原
時代の作である。尙書院の壁貼付繪、襖繪は、桃山時



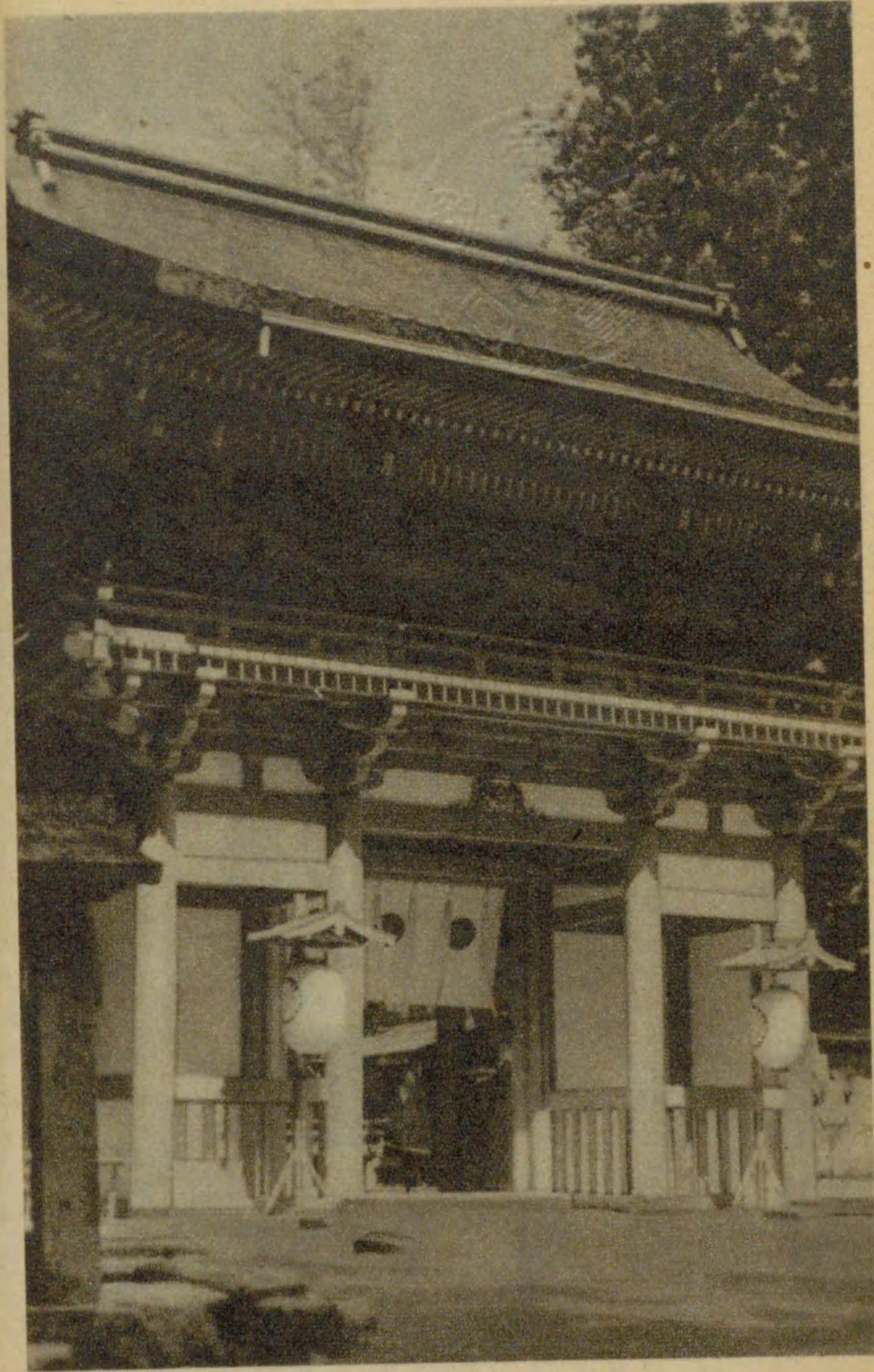
宮 神 江 近 八 六



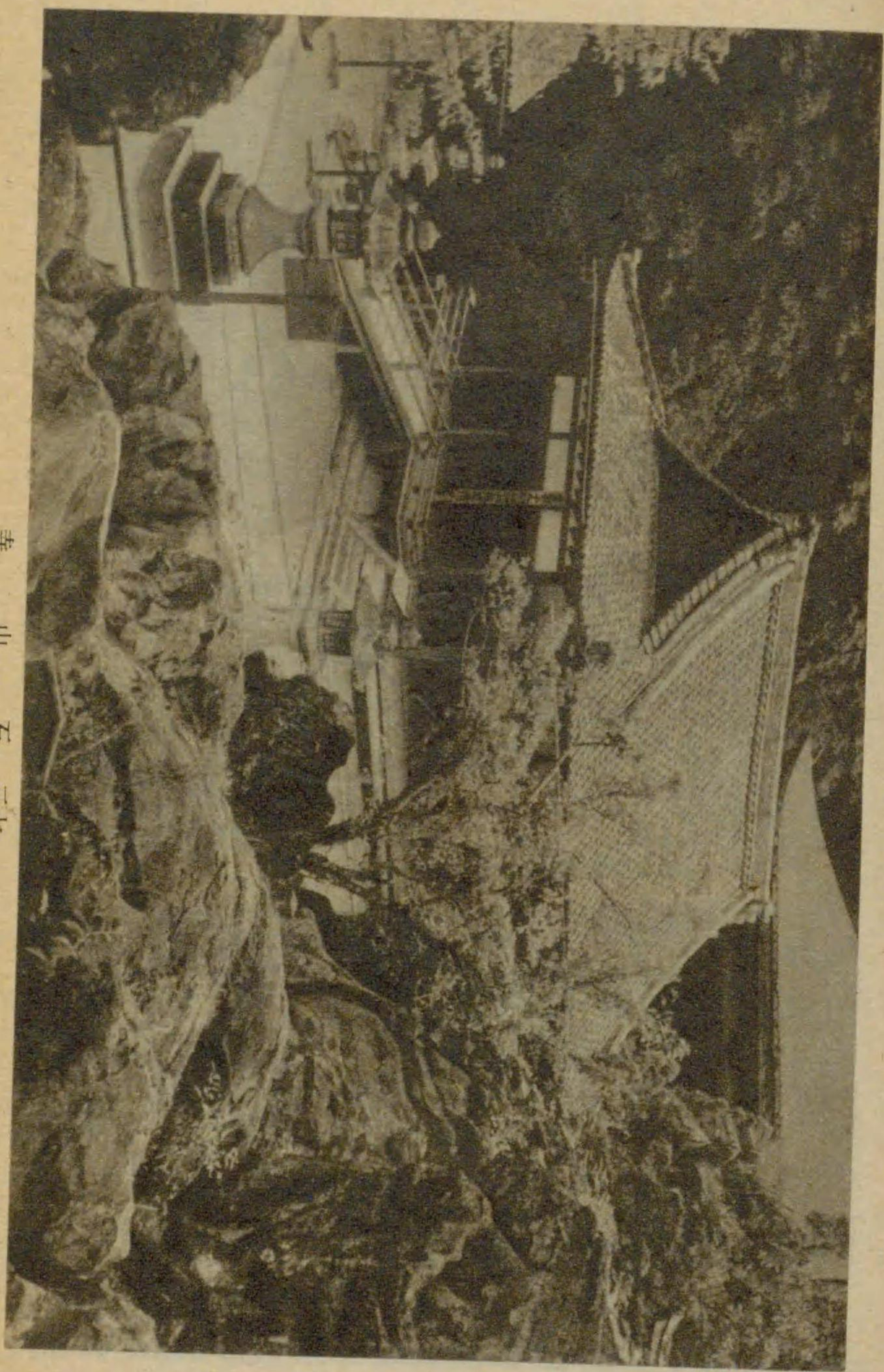
橋 三 社 神 吉 日 九 六



樂神社神吉日 一七



門樓社神吉日 〇七



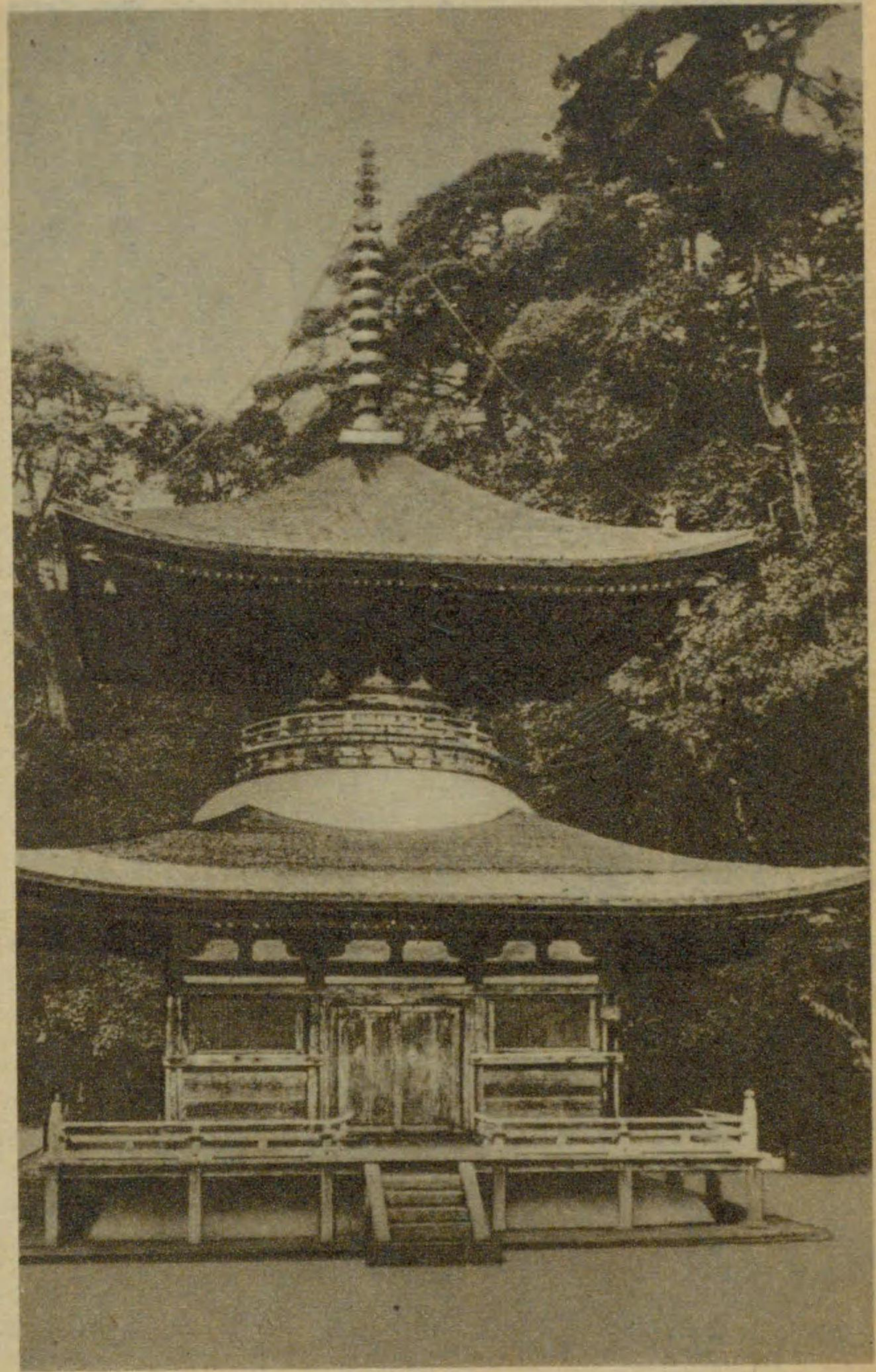
寺 山 石 三 七



像 迦 釋 堂 漢 羅 所 膳 津 大 二 七



婆塔石寺塔石 五七



婆塔寶多寺山石 四七

代の特徴を有するもので注目に價する。

★【日吉神社】〔官幣大社〕京阪電車坂本線坂本の西半
軒、比叡山の山麓にあり、世に山王と稱す。その大宮
は大比叡と稱し、大和大三輪神を祀り、二宮は小比叡
と稱し大山咋神を祀る。大山咋神は古より比叡山横川
に鎮坐せしを、僧最澄が延暦寺を創建するに及び、山
下に移しこれを地主神と云ひ、大三輪神と共に寺の鎮
守とした。

當社は延喜の制名神大社に列せられ、後二十二社に
加へられ、後三條天皇の延久三年行幸ありしより以來、
御幸行啓も屢々あり、攝關大臣及び將軍等の參詣せし
ことまた多く、比叡山の信仰と共に當社は延暦寺と密
接不離の關係を保ち朝野の崇敬を得た。爲に延暦寺の
僧徒が若し訴ふることある時は、この社の神輿を奉じ、
武裝して京に入り、朝廷に強請したことは史上に有名
な話で、世にこれを神輿振と稱した。この弊は元龜年
間織田信長が延暦寺を焼打ちするに及んで漸く除かる
るに至つた。この社には攝社末社最も多く、大宮二宮

特徴があるのである。

攝社樹下神社本殿〔國寶〕西殿の東隣にある。五間三
面入母屋造柿葺、西殿と同じく天正十四年の建築で、
その様式も全く同様である。

攝社宇佐宮本殿〔國寶〕樹下神社の東にある、三間社
流造、屋根檜皮葺、天正十四年の建築で、頗る華麗な
桃山式金具を施したものである。

攝社白山姫神社本殿〔國寶〕宇佐宮の東隣にある。三
間社流造、屋根は檜皮葺で、同じく天正十四年の建
築である。

東殿（大神神社）〔國寶〕即ち大宮大比叡神で大三輪
神なる大物主命が祀られてある。白山姫神社から參道
を東に進むと、東殿の樓門に達する。社記によると天
正年中より文祿二年の間に建てられた三間一戸の樓門
で、その規模頗る雄大である。本殿は五間三面、單層
屋根入母屋造、柿葺で、その構造殆ど西殿と同じく、
また天正十四年の建立である。

攝社三宮神社、牛尾神社本殿〔國寶〕八王子山の山頂

と共に日吉山王二十一社と云つた。それ等の建物も信
長の焼打に類焼したので、現存の主要な社殿は何れも
天正年間の再建である。神紋二葉葵。例祭は山王祭と
稱し、四月十二日から十五日に及び大いに賑ふ。

西殿（本宮）〔國寶〕即ち二宮小比叡神で大山咋神を祀
る。本宮橋を渡り、山王鳥居と稱する本社特有の朱塗
の合掌鳥居をくぐつて更に進むと樓門〔國寶〕に達す
る。この門は朱塗三間一戸、屋根入母屋造、檜皮葺、
天正十四年に建てられた頗る壯大な樓門で、臺殿には
極彩色菊花の彫刻がある。樓門を入ると三間三面入母
屋造、檜皮葺の拜殿があり、その奥に本殿が建つて居
る。

本殿は五間三面、單層、入母屋造、檜皮葺で、その
構造は聖帝造と稱する特殊の様式を傳へて居る。聖帝
造はまた日吉造とも稱し、從來の三間社神明造の正面
と左右側面に庇を附し、廻縁をめぐらしたもので、屋
根は入母屋造の後方を截斷した様な形となつて居り、
後方の軒に頗る奇異な輪郭を作り、この點に聖帝造の
にある。社殿は何れも天正十四年の建築で、本殿に舞
臺造の拜殿を合せて一字となした特殊の形式手法を有
して居る。

末社東照宮社殿〔國寶〕東殿の參道を南に進み、大神
橋を過ぎ更に南進して石造六脚勾欄附の東照宮橋〔國
寶〕を渡り、西へ三百餘階の石階を登つて達する。山
腹に東面して建ち、湖面を見晴し展望が廣い。元和九
年天海僧正の創建にかゝり、その様式は權現造に屬し
手法裝飾ともに華麗である。

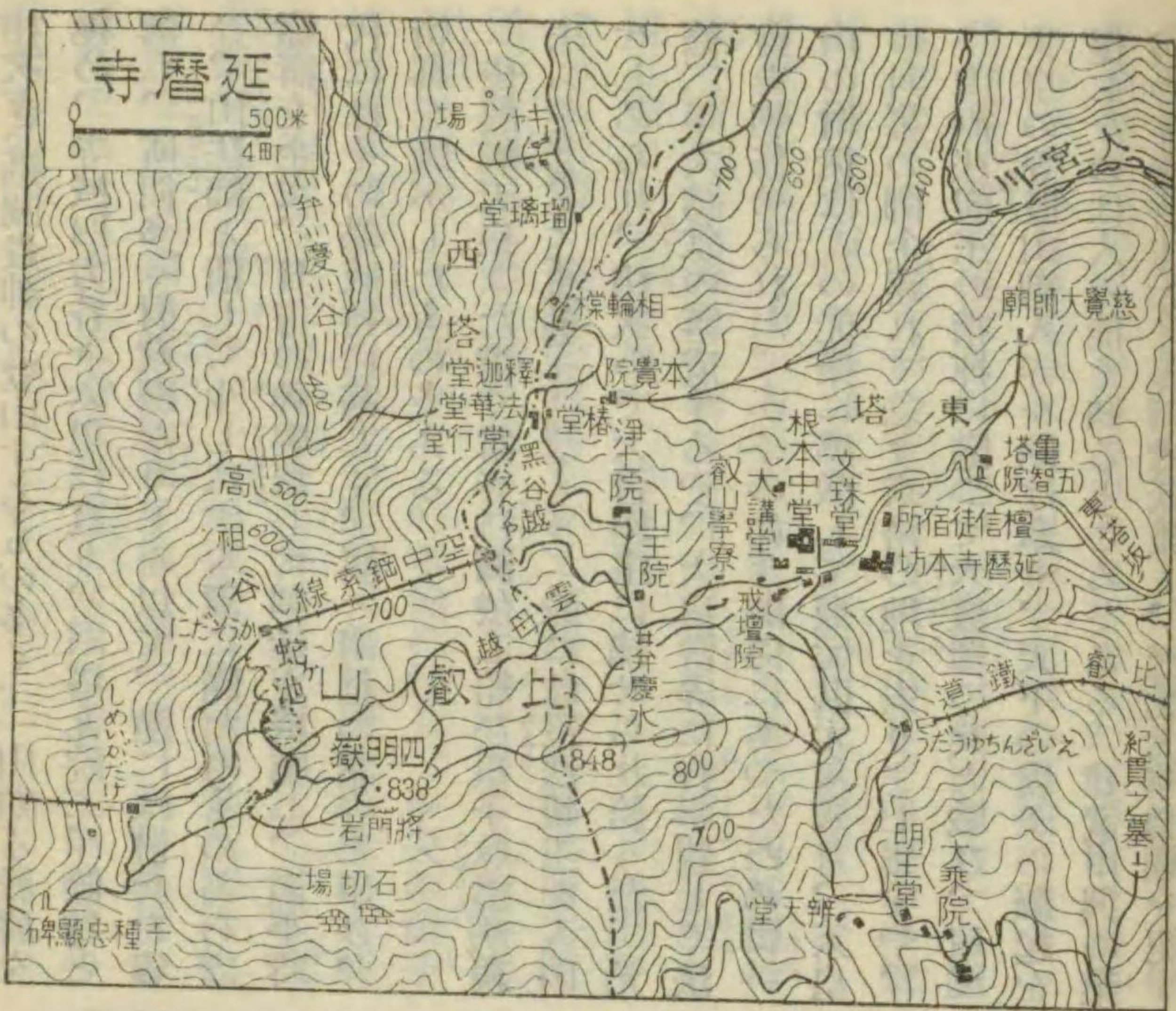
日吉三橋〔國寶〕日吉神社境内大宮川に架せられた參
道の本宮橋、東殿參道の太神橋及びその中間に架せら
れた走井橋の三橋を總稱する。往昔朱塗勾欄附、木造
であつたが、元龜の兵燹後石造に改め、天正年間豊臣
秀吉の奉建と稱されて居る。本宮、太神の二橋は十二
脚勾欄附走井橋は六脚で勾欄がない。三橋各々構造を
異にし、その形態實雄大にして雅趣に富んで居る。
我が國現存石橋中恐らく最古のものに屬し、また最も
優秀なものに數へられて居る。

寶物には左記のものがある。

- 一日吉白山宮神輿額 〔國寶〕 銅造 一面
- 一日吉二宮神輿額 〔國寶〕 銅造 一面
- 一日吉牛尾宮神輿額 〔國寶〕 銅造 一面

★【比叡山延曆寺】(天台宗總本山)指定史蹟。比叡山は京都府滋賀縣に跨り、四明岳を最高峯として東は琵琶湖を、西は京都市街を脚下に瞰下する勝地である。天台宗の開祖傳教大師最澄が、延暦四年七月この山中に一草庵を營み天台の法燈をかゝけてより、山中山下到る處寺觀僧房を以て充滿した。山下には日吉神社附近に讚佛堂、生源寺、滋賀院門跡(假本坊)等の塔頭子院があり、山中の諸堂は大體、東塔、西塔、無動寺、横川の四區に分れて集結されて居る。

坂本よりの登山路は東塔坂と呼ばれ、日吉神社參道の東西兩殿に分岐する處に登り口がある。根本中堂まで登路三料、途中に女人堂、龜塔(五智院)があるが、鋼索鐵道が通じてからは歩行者が少くなつた。比叡山電鐵鋼索線坂本驛は、日吉神社から東照宮へ到る途中



東照宮橋の近くにあり、こゝから東側山腹叡山中堂驛まで二料である。中堂驛から無動寺明王堂までは南一料半、緩かな下り坂であり、根本中堂までは西北一料谷を埋むる鬱鬱たる古杉老松の間を行く平坦な道路である。根本中堂附近には本坊、大講堂等の堂宇があり、これ等を總稱して東塔と云ふ。

中堂驛から山王院(千手堂)まで西へ半料、平坦な道を進めば途中に叡山學寮、辨慶水があり、山王院前道は三つに岐れる。西する上り坂は雲母越、西北へ向ふ坦路は叡山電車架空線延曆寺驛へ通じ、北する石階多き下り坂は淨土院を経て釋迦堂(轉法輪堂)へ達するものである。釋迦堂附近には相輪様、常行堂、法華堂等があり、これ等を總稱して根本中堂附近の東塔に對して西塔と云ふ。こゝから叡山電車架空線延曆寺驛まで南一料、急峻な上り坂である。延曆寺驛から高祖谷驛まで六〇米餘の間は、空中ケーブルである。高祖谷驛から西南一料で西側山腹の四明岳驛に達する。四明岳驛から山麓八瀬までは鋼索線で、京都方面からの登り口となつて居る。

東塔西塔と共に叡山三塔の一に數へられる横川は、横川中堂を中心とし、北方に離れて別天地をなして居る。そこへ行くには京阪電車坂本線坂本驛から北へ進み、西教寺前を經、安樂律院の前から西北への登山路(横川路)により、安樂律院迄二料、登山路また二料餘である。別に西塔から北へ、また日吉神社攝社大神神社(東殿)の東側から西北へ、共に四料の山路もあるが難路である。

延曆寺は延曆中僧最澄の創建にかゝり、我が國天台宗の總本山として眞言宗の總本山東寺と相對し、平安朝の始めから王城鎮護の道場として歴代の尊信深く、從つて平安時代藤原時代を通じて朝廷、貴族と密接な關係があつた。

延曆七年僧最澄が桓武天皇のために根本中堂を創建した當時は比叡山寺と號し、後一乘止觀院と稱したが弘仁十四年に延曆寺と改稱した。爾來歴代の尊崇厚く延喜二年宇多法皇本寺に御幸あらせられてより、御幸

相次ぎ、攝關貴紳の登山するもの多く、一山頗る殷盛を極め、寺域四方各々六里に亘り、三塔九院三千餘坊と稱し、所領多く財政豊なりしを以て、遂には僧兵を養ひ、山法師と稱して少しにても意に満たぬものあらば嗾訴を企て、日吉の神輿振して朝廷を威嚇し、源平時代にはその暴威特に甚しく、屢々南都の諸寺と争ひ、帝都を騒がしたものである。

後醍醐天皇また深く當寺に歸依し給ひ皇子尊雲法親王（後還俗して護良親王と稱せらる）竝に尊澄法親王を入山せしめられ、相次いで天台座主に補せられ給うた。元徳二年大講堂の落成するや、天皇當寺に行幸親しく法會を勅修せられた。かくの如き關係にあつたために一山の僧徒はこの光榮に感激して翌元弘元年八月、天皇の討幕の御企露れて急ぎ京洛の地を去りますや、一山兩法親王の指揮に隨つて六波羅の兵と戦ひ、以て天皇の笠置山御入寺を助け奉り、天下の義士の蹶起を促したのは人の能く知るところである。建武中興の業成つて幾許もなく足利尊氏叛し、延元元年禁闕を犯す

根本中堂「國寶」最澄の草創した一乗止觀院即ち比叡山寺の後で、甍に東塔の中心たるのみならず實に延暦寺一山の根本中堂である。寛永十九年の再建で、十一間六面、單層屋根入母屋造、銅板葺、前面左右より廻廊をめぐらし長方形の中庭を作つて居る。中庭には堂前石階の左右に竹臺があり、北を筠篠南を篠篠と云ひ、最澄が支那天台山から將來したものと云ふ。内外總丹塗で隨所に極彩色を施して居る。桝組は和様三手先を用ゐる雄大な尾極を加へ、構造頗る壯大にして、桃山時代から引續く豪壯な風格を存して居る。内部は前二間通が外陣（禮堂）で奥四間が内陣になつて居る。内陣は石敷で外陣よりも低きこと三米餘に達し、中央の厨子には本尊藥師如來の像を安置し、他の厨子には四大師の像が安置されて居る。その外にも安置されて居る千手觀音立像「國寶」は、一木彫成像で彫法雄勁貞觀時代の作であり、銅造釋迦如來坐像「國寶」は、室町時代の優作であり、また木造の四天王立像「國寶」も同時代の作である。

や、天皇はこの年の正月及び五月の兩度に亘つて當寺に行幸せられ、賊難を避け給うたが、楠木正成、千種忠顯、名和長年等の忠臣相次いで戦歿した後は官軍の勢振はず、十月天皇止むなく下山京都に還幸し給うた。延暦寺はかくの如く後醍醐天皇の宏業を翼賛し奉つたことが厚かつたので、足利氏の覇業成るや、幕府との關係圓滿を缺くものがあつて、義政の時には一山燒盡の厄に遭ひ、その後諸堂荒廢し、永祿六年繪旨を下して諸國に勸進して修造せしめられた。元龜二年山徒淺井朝倉二氏と力を戮せ、織田信長を討たんとした。信長これを聞き兵數千を以て叡山燒打ちをなし、山悉く灰燼に歸し、山門の勢力全く地に委した。豊臣秀吉出でて叡山の再興を助け天正十七年山門始めて成り、家康、家光等相繼いでその復興に盡力せしめたため、寛永七年諸堂宇悉く成り、やゝ古の盛觀を復するを得た。現存の諸堂は即ち秀吉以後の再興にかゝるもので、根本中堂、大講堂、轉法輪堂、横川中堂等その主なるものである。

中堂の東正面丘上に文殊堂があり、一行三昧院とも云ふ。中堂の北に本願堂がある。最澄が始めて草庵を結び、大乘諸經を誦讀し大願を發した靈蹟はこゝであると云ふ。中堂の東南に平坦地あり、こゝに山上本坊及び宿院があり、信徒はもとより旅行者も宿泊せしめて居る。

大講堂「國寶」中堂の西やゝ高き所にある。寛永十九年根本中堂と同時の再建で、九間六面、重屋屋根入母屋造、銅板葺、朱塗の大堂宇である。柱は粽付の丸柱で臺輪を冠して居る。桝組はすべて唐様で、下層には三斗組を用ゐる頗る單純であるが、上層には四手先詰組を用ゐる、尾極、木鼻を加へ頗る複雑であるが、構造雄大にして江戸初期の大建築である。内部は内外兩陣に分ち、内陣は一段低く床を石敷となし、後方に壇を設け、本尊大日如來像、その左右に彌勒、十一面觀音、梵天帝釋、四天王、桓武天皇の御像を安置して居る。

鐘臺（鐘樓）「國寶」大講堂の傍にある。寛永十九年の再建で一間一面單層屋根入母屋造、檜皮葺で、唐様の

柵組を用ゐ、幕股内には極彩色を施し、形態頗る莊重にしてよく江戸初期の特色を示して居る。

大乘戒壇院堂〔國寶〕大講堂の西にあり、大乘戒を授くる所で毎年四月八日、八月八日の兩度授戒する例であつたが、近時は五年に一會の授戒を行ふ。慶長九年の再建にして五間五面重層、屋根寶形造、柿葺で、上層の屋根には軒唐破風がある。内部は土間で中央に壇が作られ、中央に釋迦如來の像が安置されて居る。本堂の四隣頗る幽邃にして古杉老樹高く聳え、森嚴の氣身に迫るものがある。

淨土院 戒壇院の西北半軒餘のところであり、途中辨慶水、山王院(千手堂)の前を通る。本尊は阿彌陀如來で後方に傳教大師の廟がある。

轉法輪堂(釋迦堂)〔國寶〕西塔の中心をなす堂で、根本中堂から西北一軒半にある。淨土院より西北へ森閑として曲折多い山路を進めば先づ椿堂があり、その北の高所に法華、常行の二堂が並び建つて居る。この兩堂を連接する渡廊下を潜り、後方の低平地に下りた所

二十三部五十八卷を納め、銘文は六十四句二百五十六字より成り、一句を一國に配し、日本六十四國の安泰祈禱を修せしものと傳へて居る。

瑠璃堂〔國寶〕相輪様の西北三〇米、横川へ行く途中にある。方三間、單層入母屋造檜皮葺、唐様の小建築で、瀟洒たる趣致をそなへて居る。

横川中堂〔國寶〕嘉祥元年に慈覺大師の建立したもので、三塔中の横川の中心をなすものである。今の堂は桁行七間、梁間九間、單層、屋根入母屋造、檜皮葺、桃山時代の再建である。堂は妻を正面とし、内部は總板敷で床下は舞臺造になり、内外總丹塗で、細部の繪様彫刻等桃山時代の特色を發揮して居る。

中堂の東北に近く四季講堂がある。堂はまた定心房とも大師堂とも云ひ、もと良源(慈慧大師、元三大師)の本房でその像を本尊として居る。堂の東北に良源墓があり世にこれを御廟と云ふ。中堂の東北三〇米にある定光院は日蓮の舊跡として名高い。

無動寺明王堂 貞觀七年相應の建立で、その自作の

に釋迦堂はある。法華堂と常行堂とは並び建つて居て、兩者を併せてになひ堂と稱する。

轉法輪堂はもと三井寺の本堂を秀吉が移建したもので鎌倉時代の建築である。堂は七間八面單層屋根入母屋造、銅板葺で、棟高く頗る重厚な建築である。内部は前方三間が外陣で床は板張になつて居る。後方の五間が内陣でその床は石敷である。こゝに本尊釋迦如來の梅檀立像〔國寶〕が安置されて居る。京都嵯峨清涼寺の釋迦と同式で藤原時代の作である。廻縁の擬寶珠に「比叡山轉法輪堂奉嚴旨修造之貞享四卯年季秋」と刻書されて居るのは、本堂が江戸時代に修造された時のものである。

相輪様〔國寶〕釋迦堂の西北約三〇米の所にある。靑銅製で弘仁十一年の紀年ある銘文があるが、これは後世の偽作である。度々修造され甚だしく舊形を改めて居る。もとは露盤部をも完存したものであることが古圖によつて明らかである。我が國相輪様の創始にして具足せる一標本である。内部には法華經、大日經等

不動明王像〔國寶〕を安置して居る。像は木造、玉眼入極彩色、截金を使用して居り、鎌倉時代の作で二童子〔國寶〕を附隨して居る。また五大明王像五軀〔國寶〕を安置してあるが、木造、鎌倉時代の作で、大威徳明王には慶安の修理銘がある。

明王堂の西南三〇米に辨天社があり、東三〇米に大乘院がある。大乘院は親鸞の住んで居た所で、自作の像と傳ふる「蕎麥食の眞影」がある。寶物には左記のものがある。

一 光定大師立像 〔國寶〕 (藥師堂安置)

一 軀

木造で頭巾を被り、右手に輪を、左手に財布袋を持つて、袍を着し靴を穿つた珍奇の姿で、彫法簡素鎌倉時代の作である。

一 鍍金經筒 〔國寶〕

一 合

大正十二年横川の如法堂址から發掘された銅筒の中に納められて居たものである。當院の住僧覺超等が發願して、長元四年慈覺大師書寫の法華經を永遠に守護せんとして、銅筒を鑄造してこれをその中に納め、堂裏の土中に埋藏せんとした。その際圓融天皇皇后上東門院が、所願成就の助力を與へ、自ら法華經一部を書寫して小銅筒に納め、大師の法華經と共に銅筒中に籠

京都米原間

められたと云ふ。發掘された銅筒は正しくこれに相當するものであるが、書寫の經は大師のも門院のもあとかたもない。經筒は當時工藝の粹を盡したもので、一面に優婉な毛彫寶相華文様を鍍金鍍銀併用で表はして居る。

- 一天台大師像〔國寶〕 絹本着色 鎌倉時代 一幅
- 一山門再興文書〔國寶〕 一通
- 紙本墨書 天正十三年 繪旨その他
- 一文殊菩薩像〔國寶〕 絹本着色 一幅
- 一唐草詩繪經筒〔國寶〕 一合
- 一將來目錄〔國寶〕 紙本墨書 傳傳教大師筆 一卷
- 一羯摩金剛目錄〔國寶〕 紙本墨書 傳傳教大師筆 一幀
- 一天台法華宗年分緣起〔國寶〕 紙本墨書 傳傳教大師筆 一卷
- 一傳教大師入唐牒〔國寶〕 紙本墨書 一卷
- 一天台大師像〔國寶〕 絹本着色 一幅
- 一六祖惠能傳〔國寶〕 紙本墨書 傳傳教大師筆 一卷
- 一華嚴要義問答〔國寶〕 紙本墨書 行福筆 二卷

【求法寺】〔天台宗〕延曆寺塔頭で日吉神社參道東西兩殿に至る分れ道にあり、また走井堂とも云ふ。本尊慈惠大師坐像〔國寶〕は、木造、玉眼嵌入、極彩色、衣の縁には蓮花紋様を描き、胎内に文永四年佛師法橋院農、

像で、江戸時代初期の作である。

【玉蓮院】延曆寺塔頭の一で、本尊不動明王二王子立像〔國寶〕三軀がある。明王は高さ一尺七寸、童子は八寸の小木像で、鎌倉末期の作である。

【實藏坊】延曆寺塔頭寺寶に絹本着色の毘沙門天像〔國寶〕と水晶舍利塔〔國寶〕がある。舍利塔は五輪塔形をなし、椗は銅製鍍金で、周圍に蓮花唐草の透刻あり、反花は胡桃形で同じく銅製鍍金、全體の形式その他から見て、室町時代初期のものであらう。別に銅製佛像を附屬して居る。

【安樂律院】〔延曆寺塔頭〕京阪電車坂本線坂本の北二軒半、坂本村横川坂登口にあり、もと天台律の總本寺であつた。惠心僧都作彌陀三尊を本尊として源信晩年の隱棲地であつた。寺寶に彌陀三尊二十五菩薩來迎圖〔國寶〕、千手觀音像圖〔國寶〕があり、何れも絹本着色の圖幅である。本堂の南方に定家墓碑があり、また庭前に菩提樹がある。

【西教寺】〔天台宗眞盛派總本山〕京阪電車坂本線坂本下車、

京都米原間

繪師法橋快圓云々の朱漆銘がある。作者の明瞭な鎌倉時代の彫刻として貴重な遺品である。

【滋賀院】〔延曆寺假本坊〕日吉神社の東南にあり、延曆寺門跡寺院の一である。元和元年山城國北白川の地からこゝに移り、慈眼大師、後陽成天皇より賜はる所の高閣一字を以て再建した。明暦元年後水尾上皇改めて院號を降し給ひ、日光山輪王寺貫主天台宗管領法親王の里坊となり、滋賀院門跡と呼ばれた。明治年間から延曆寺の假本坊をこの中に設けた。寺寶の阿彌陀如來立像〔國寶〕一軀は木造で玉眼を嵌入し、像身は金泥塗で衣に蓮華唐草などの截金文様を施し、舟形光背十一重臺座を具足する精巧なもので、鎌倉時代の優秀な作である。

【乘實院】〔延曆寺塔頭〕本尊阿彌陀如來立像〔國寶〕は木造で、舟形光背七遍葺十四重臺座まで凡て精巧な莊嚴を具足し、室町時代の作である。

【惠日院】延曆寺塔頭の一で、本尊慈眼大師坐像〔國寶〕は、繪材に極彩色を施し、禮堂上に坐せる玉眼嵌入の東北二軒、坂本村坂本西教寺にある。天台宗眞盛派の本山で眞盛上人を開祖とする。上人もと山門に修行したが、惠心僧都の往生要集によつて大いに念佛を唱道し、文明十八年一流を開立し、西教寺を復興して教化に努めた。後土御門天皇屢々宮中に召されて問法せられ、義政將軍を始め武將の歸依する所となり、僧侶の隨喜するものが多かつた。寺は坂本に接するため元龜の兵火に類焼し、天正十七年漸く小規模の堂宇を再建し、同十八年勅令によりて洛東法勝寺を併合し本尊什物を附屬せしめられた。これより本寺を圓戒弘通、常行三昧本道場とせられ、兼法勝西教寺と稱した。今寺内に祖殿、本堂、客殿、開山御廟等がある。祖殿は眞盛上人(慈攝大師)の御影殿で近時の建築である。本堂は元文年間の壯大な伽藍で丈六阿彌陀如來坐像〔國寶〕を安置して居る。木造、高さ九尺二寸の巨像で鎌倉初期の作である。

客殿〔國寶〕桁行十二間梁間八間、單層、屋根片妻入母屋造、片妻切妻造、柿葺の大建築で、伏見桃山御殿

の遺構である。床や違棚を設け、襖障子、壁貼付には花鳥畫がある。筆者は詳でないが桃山時代の豪華な特色を發揮して居る。

寶物には左記のものがある。

一 觀經曼荼羅 〔國寶〕 絹本着色 鎌倉時代 一幅

一 阿彌陀如來像 〔國寶〕 絹本着色 鎌倉時代 一幅

絹本着色、退雲彌陀如來と云ひ、彌陀が飛雲に乗じて來迎し上部に廿五菩薩雲上伎樂を奏し、尙上縁に十三の圓相に種子を書し、下邊に色紙三枚を置き、天台僧源信が正暦五年作らしめたと記してある。鎌倉時代の作、堅五尺、幅一尺六寸餘。

一 阿彌陀如來像 〔國寶〕 絹本着色、來迎彌陀を描いたもので宋畫の影響の著しい鎌倉時代の作である。 一幅

一 天台大師像 〔國寶〕 絹本着色、如意を持ち椅子にかゝれる姿で畫幅の上方に智顛大宋慶元府張思訓筆とあるのは疑はしいが、明時代製作の支那畫で堅三尺八寸餘、幅一尺九寸餘ある。 一幅

一 山王諸神像 〔國寶〕 絹本着色、山王上中十四社の神々を上下左右に配列して或は唐風或は宋風を法體等に描かれ、鎌倉時代の作である。 一幅

た左記の寶物を有する。

一 山王靈驗記 〔國寶〕 一 卷

堅一尺四分、長さ三十一尺四寸六分、叡山諸僧の事蹟を中心に、普く山王の靈驗利生を説いたもので、詞四段、繪五段で、六角寂濟の筆と傳へらる。その畫風などから見ればその製作の時代は室町中葉を測り難い。

【唐崎の松】江若鐵道滋賀驛の東一軒半、下坂本村下坂本、唐崎神社境内にある。黒松の極めて巨大となり且つ特異の發生を遂げたもので、主幹は地上約七〇厘の所で三分し、中央の一本は主幹となり高さ九米餘、二本は太い枝となり北と東に出で長く延びて居たが今は枯死して居る。唐崎夜雨は近江八景の一である。

こゝより北二軒の下坂本村比叡辻の湖岸、磯成神社の境内に新唐崎の松と云ふのがある。幹の高さ約一米、唐崎老松の實生と傳へて居る。

【眞光寺】〔天台宗〕江若鐵道叡山下車、下坂本村坂本梵音堂町にある。俗にあやめ地藏と云ひ、本尊の地藏菩薩半跏像〔國寶〕は木造、鎌倉時代の作である。

一 聖觀音立像 〔國寶〕

木造、丸木彫、總身漆箔を施した姿勢端嚴の藤原時代初期の優作である。 一幅

一 藥師如來像 〔國寶〕

木造、膝裏に享保五年の修理銘あり、高さ二尺九寸餘の鎌倉時代初期の作である。 一幅

一 後土御門天皇後柏原天皇宸翰 〔國寶〕

紙本墨書 一幅

一 扇面古寫經 〔國寶〕

紙本着色 一幅

釋迦如來像 〔國寶〕 絹本着色、持鉢釋迦如來と稱す。 一幅

一 無量義經疏 〔國寶〕 紙本墨書 上中下三卷

總持院供奉懺昭の述作で、本書の成れるは寛平七年であり、弟子良思に上卷、善賢に中下卷を寫さしめ、更に自らこれを見査したのであり、本文中の塗抹、加筆等のあるは、この時懺昭自ら施せるもので、實に希觀の典籍である。

【生源寺】〔天台宗〕京阪電車坂本線坂本下車、坂本村坂本にある。延暦寺支院の一で延暦年間の創建と傳へる。この地は最澄の父三津首百枝の邸址で最澄誕生の地と云ひ、大師産湯の井の遺址がある。觀音堂には圓仁作と傳ふる十一面觀世音並に最澄兩觀の像を安置し、また

【來迎寺】〔天台宗〕江若鐵道日吉驛の東二軒、下坂本村比叡辻、琵琶湖に臨んだ低地にある。延暦九年傳教大師の草創にかゝり、長保年間惠心僧都によつて再興されたと云ふ。その後天正十七年京都北白川元應國清寺をこゝに合して、その本尊法具等に移した。

客殿〔國寶〕桁行十間梁間六間、單層、屋根左切妻造、右入母屋造、棧瓦葺の建物で、寛永年間の造營にかゝり、床間、違棚、書院構、欄間の手法その他全體の構造、江戸時代の特質を表はした方丈造の建築である。而してその上段の間の床の壁貼付、襖は探幽の筆に成つた水墨の瀟湘八景を圖し、次ぎの間の襖もまた探幽筆の龍虎圖を貼り付けて居る。中央奥の間は佛間で、四周壁貼付と襖には守景筆に成る十六羅漢を圖し、佛壇の前の間は襖に尙信筆の竹林七賢人圖が描かれて居る。また佛間の左側も前後二室に別れ、前方の奥壁に大床あり、壁貼付には信政の丹精に成れる雪中梅、松禽圖がある。本尊は釋迦如來坐像〔國寶〕で木造高さ二尺三寸五分、玉眼嵌入、鎌倉時代の製作である。

寶物には左記のものがある。

一十 界 圖 [國寶]

十五 幀

絹本着色、板装、巨勢弘高筆と傳へて居るが、鎌倉初期のものである、十五幀の五幀は奈良帝室博物館に出陳。

一十二 天像 [國寶]

十二 幀

絹本着色、板装、傳高階隆兼筆、立委の十二天像で堅四尺九寸餘、幅一尺一寸餘あり、濃麗なる彩色を施し、繊細なる截金文様の手法頗る巧妙、鎌倉時代末期の作である。

一釋迦三尊十六善神圖

一 幅

絹本着色、巨勢金剛筆と傳へるが、鎌倉時代末期の佳作で、堅三尺七寸七分、幅一尺九寸餘。

一十六羅漢圖 [國寶]

十六 幅

絹本着色、圖様は所謂禪月様の奇異な相貌と全く異なり、自然的に柔和な相を示し、或は殿堂に誦經し、或は深山幽谷に安座するあり、或は乗馬のもの、渡海のもの等もあり、頗る興味深き圖様を示し、且つその筆致頗る豊麗にして、藤原時代末期の純粹な大和繪畫家の手に成つた逸品であつて、その様式に於いてまた製作年代に於いて最古の遺品である。堅三尺一寸七分、幅七寸八分。

一多羅葉梵木

四 枚

平安時代、毛筆で墨書したものと察せらる。

一 堆朱香盆 [國寶]

一 枚

一楊柳觀音像 [國寶] 絹本着色

一 幅

【雄琴鑛泉】江若鐵道雄琴驛附近、比叡山東麓の小丘上にあり、琵琶湖を隔て、近江富士が美しく眺められる。鑛泉は食鹽含有アルカリ泉で加熱して居る。胃腸病、リウマチス、婦人病などに效くと云ふ。鮎かき、舟遊、魚釣、水泳の樂しみがある。旅館 舊溫泉、新溫泉。

【福領寺】〔淨土宗〕江若鐵道雄琴驛の北半軒、雄琴村雄琴にある。本尊阿彌陀如來坐像〔國寶〕は木造高さ二尺九寸、鎌倉時代末期の作である。

【眞迎寺】〔天台宗〕江若鐵道雄琴驛の西北約二軒、仰木村辻にある。多田滿仲の創建で源信を開山とする。地藏堂安置の本尊地藏菩薩立像〔國寶〕は木造高さ五尺三寸餘、櫻路は木製彫出になつて居り、彩色美しく彫法精巧で藤原末期の優秀なる作である。

【專念寺】〔眞宗本願寺派〕江若鐵道雄琴驛の西北約三軒、

絹本着色、鎌倉時代の作で堅二尺八寸餘、幅一尺三寸。

二 幅

一十六羅漢圖 [國寶]

絹本着色、十六羅漢を二幅に書き分けたもので、羅漢は各々椅子に寄り或は石上に坐し、その間に眷屬禽獸の類を描いて居る。畫風は宋畫の趣があり、堅三尺六寸五分、幅一尺四寸餘。

三 幅

一釋迦三尊像 [國寶]

絹本着色、寺傳に張思恭筆と云ふが恐らく元畫であらう、堅三尺九寸、幅一尺九寸四分。

二 幀

一兩界曼荼羅 [國寶]

絹本着色、厨子入、鎌倉時代末期の細密鮮麗な着彩の曼荼羅で、堅約八寸、幅七寸餘。

一 幅

一十一面觀音立像 [國寶]

木造、もと崇福寺に安置されたものと傳へ、藤原時代の様式を具へた優作で高さ五尺九寸五分。

一 幅

一地藏菩薩立像 [國寶]

木造、室町時代の優秀な作で高さ二尺一寸七分。

一 幅

一日光月光佛立像 [國寶]

木造、室町時代初期の作で高さ各々三尺六寸。

一 幅

一藥師如來立像 [國寶]

金銅、左手に藥壺を捧げ、右手に法衣の一端を握つた古致のある像で貞觀時代の作。

一 幅

仰木村上仰木にある。藥師堂の本尊藥師如來坐像〔國寶〕は、もと叡山にあつたのを、元龜の戰亂に當りこの地に移したものと傳へて居る。藤原時代の作である。が、腰部以下は後世の修理を経て原形を損して居る。

【堅田町】江若鐵道堅田驛所在地。往古は關を置いて湖上往來の船を檢査したと云ふ。名高い浮見堂を有し、この地の落雁は近江八景の一つに數へられて居る。町に東洋紡績堅田工場がある。

【滿月寺(浮御堂)】〔臨濟宗大徳寺派〕江若鐵道堅田驛の東南約一軒、堅田町の南端、本堅田にある。もと惠心僧都の草創で千體阿彌陀佛を安置したが、後荒廢したので、櫻町天皇、御能舞臺を賜ひて移建せしめられたものから、浮御堂の名が起つた。近年湖の水位低く堂の附近渚洲が多くなつたので保勝會で改修した。

本尊聖觀音坐像〔國寶〕は木造著色彩色殆ど剝脱し、高さ二尺一寸餘あり、本像の如き聖觀音の坐像は、作例の頗る乏しいものである上に、この像は面相雄偉、

貞觀時代の特色をよく現した遺作である。

【伏龍祠】江若鐵道堅田驛の西北約四軒、伊香立村南庄の洪積層臺地の畑中にある。木造の小祠に、彩色を施した長さ約六〇厘の木彫龍首を神體として祀つて居る。これは文化年間にこの地點から發掘された舊象スデゴドンの化石を龍骨と稱して崇め祀つたもので、この化石は現今東京科學博物館に陳列されて居る。

【新知恩院】〔淨土宗〕江若鐵道堅田驛の西北約五軒、伊香立村下在地にある。京都知恩院三世秀譽上人が應仁の亂を避けて一時この地に止住したので後、上人を開基として創めた寺である。寺寶の阿彌陀如來二十五菩薩來迎圖掛幅〔國寶〕は專心僧都筆と傳へ、絹本著色、豎三尺六寸餘、幅二尺二寸餘、鎌倉時代の製作にかゝる。境内には名木枝垂櫻がある。

【慈眼院】〔淨土宗〕江若鐵道堅田驛の西北約七軒、伊香立村北在地にある。本尊の木造佛像〔國寶〕は高さ四尺五寸、寺傳聖觀音と云ふが兩足に靴を穿ち、頭に天冠を戴き、甲に身を固めた上、更に袈裟を纏うた一種

【小野道風神社】小野篁神社の南にあり、小野道風を祀る。社殿〔國寶〕は小野篁神社と共に曆應二年佐々木氏の建立にかゝり、三間社流造、側面二間、屋根切妻造柿葺で凡て篁神社と同一であるが、たゞ向拜の裏股に獅子の彫刻がある部分のみ趣が異なつて居る。室町時代初期の遺構である。

【小野妹子墓】江若鐵道和邇驛の西南約二軒、和邇村小野堂の宮唐臼山と呼ぶ丘陵の頂上景勝の地にある。板石で造られた細長い石室が露出し、里俗妹子さんの墓または山の神と云ひ、推古天皇の御代に隋に使した小野妹子墓と傳へて居るが、石室は今破壊されて居る。

【還來神社】江若鐵道和邇驛の西約三軒、伊香立村上龍華から途中部落に至る道の北側にあり、堅田驛から一〇軒、自動車の便がある。社傳に淳和天皇の御生母藤原旅子を祀ると云ひ、戰役旅行等に無事歸還するやう祈願する者が多い。

【明王院】〔天台宗〕江若鐵道和邇驛の西北一六軒、葛川

不思議なる形相をなし、その彫法などから見て、貞觀風の作風を襲うた藤原初期の作であらうと思はれる。

【神田神社本殿】〔國寶〕江若鐵道眞野驛の西一軒、眞野村普門にある。三間社流造、屋根檜皮葺、建徳元年建立の棟札を存しよく室町時代の特徴を發揮して居る。

【西岸寺】〔淨土宗〕江若鐵道和邇驛の西南約半軒、和邇村和邇中にある。本尊阿彌陀如來立像〔國寶〕は、木造高さ二尺七寸、寫實的の作風を帯びたる精巧な技工に成る鎌倉時代の遺品である。

【天皇神社本殿】〔國寶〕江若鐵道和邇驛の西南約一軒、和邇村中にある。三間社、屋根切妻兩流造、柿葺で元中元年の建立と傳ふる鎌倉時代の建築である。

【小野篁神社】江若鐵道和邇驛の西南一軒、和邇村小野にある。郷社式内小野神社の境内社で小野篁を祀る。社殿〔國寶〕は曆應二年佐々木氏頼の建立にかゝり、三間社流造、側面二間、屋根切妻造、柿葺で前面に一間の向拜を有する室町時代初期に於ける神社建築の一佳作である。境内に上代古墳の石棺が露出して居る。

村坊にあり途中まで自動車の便がある。相應和尚の草創と傳へ、本尊不動明王立像〔國寶〕は桂材を用いた極彩色の木像で、毘沙門天立像〔國寶〕と共に藤原時代末期の作にかゝる。また應永五年の奥書を有する光明眞言功德繪詞〔國寶〕三卷あり、自由なる筆致を見せて居る。これ等の外に文書、經卷等を多く藏し、參籠札のうちには足利義滿、義政、義尚等の筆蹟を有するものがある。

【地主神社】同和邇驛の西北一六軒、葛川村坊の山中にあり、貞觀元年相應和尚の創立と傳へ、恐らく明王院の地主神であつたと思はれる。本殿〔國寶〕は三間社春日造屋根檜皮葺、その裏股には草花の彫刻があり、一々意匠を異にして居る。幣殿〔國寶〕は方一間、屋根向唐破風造、檜皮葺で本殿と共に文龜二年の建立にかかり、頗る精妙な彫刻を有して居る。祭神國常立尊の坐像の外に、男神坐像五軀、女神坐像、僧形坐像合せて八軀あり、各々彩色の小木像で、藤原時代普通見の神像に屬し、何れも國寶である。

【比良山】和邇村から大溝町まで二二軒に亘る花崗岩質の山で蓬萊岳（一、七四米）と武奈岳（二、三四米）は南北兩端をなし、その間に打見山、大物峠、堂満岳等がある。山頂は寒冷にして樹木なく、茅蓐が叢生して居る。初冬から中春まで雪が絶えず、銀光鮮に湖上に映ずる。比良の暮雪は近江八景の一である。山中に夫婦瀧、八ッ淵の瀧、滑床の絶景等がある。

【比良登山】比良は古來眺むる山として知られて居たが、近年登山者が多くなり、蓬萊岳から武奈岳への縦走が盛になつて來た。

この縦走をするには江若鐵道比良口驛下車、小女郎ヶ池を経て蓬萊岳頂上まで約五軒半、それより打見山、大物峠、堂満岳を過ぎて比良の最高峯武奈岳まで約一二軒、武奈岳から下り近江舞子まで約八軒で、一日行程に恰好である。蓬萊岳からは大湖を眼下に、江若國境の連山や京都の粉壁も見渡される。大物峠は太湖の大展望臺である。堂満岳は比良山脈中の仙境で未だ斧の音も聞かぬ大闊葉樹林があり、時に猿の聲を耳にす

宇水谷にあり、汽車内からも望見される。雌雄二瀑に分かれ、雄瀑は高さ四米半、幅五米半、雌瀑はその下にあつて高さ一〇米、幅三米半である。楊梅の名は天文の頃足利義輝が與へたと云ふ。

【白鬚神社】江若鐵道白鬚驛前、湖に面して建てられて居る。祭神は猿田彦命、長壽の神として聞え、大祭九月五日には殊に賽客雜沓する。社域は山脚湖に迫り、朱塗の大鳥居高燈籠を湖上より遙拜される。また祠前より湖面を望む景色もよい。

【近藤重藏墓】江若鐵道大溝驛の西北約半軒、大溝町勝野丘陵の中腹、瑞雪院の境内にあり、石玉垣を繞らしてある。重藏は幕臣で明和八年江戸に生れ、寛政七年長崎奉行手附となり、十年魯人蝦夷に寇するや、命をうけて擧提に渡り、魯人の建てた標柱を撤去して別に我が銅柱を建てた。これより幕府北海防備に力を用ゐ、重藏も大いにその功を賞せられたが、文化四年譴責を蒙つて小普請となる。既にして書物奉行に任ぜられ、楓山文庫の文書通覽せざるなし、文政二年出て大

ることがある。武奈岳頂上の眺望は廣く若狹方面の海光も望まれる。近年山の家が設けられた。

【志賀清林墓】江若鐵道近江木戸驛から南半軒餘、西近江路に沿うてある。清林は本邦角力行司の元祖である。

【雄松崎】指定名勝。江若鐵道近江舞子驛の東南約二〇〇米、滋賀郡小松村男松にある。比良川の下流に當り、湖中に突出する弦月狀の砂洲で長さ約一軒一、幅狭きところ約一〇米、赤松が多く生じ、根元の周圍二米に達するものがあり、砂洲の南部には黒松が散生して居る。

こゝからは東方琵琶湖上遙に沖の島を見るべく、その背面には長命寺山脈の聳えて居るのが見え、西北は比良山麓に接し、山上の楊梅瀧が望まれる。湖畔の松原として風光愛すべく、眺望の勝れたる境地である。この附近春夏の候大網を敷いて鱒を漁獲することが多い。旅館 松鶴園。

【楊梅瀧瀑布】江若鐵道北小松驛の西北一軒餘、小松村阪弓矢奉行となる。重藏憂鬱これより志操を破る。文政六年また小普請となり江戸に歸る。同九年事を以て譴責を蒙り大溝藩に預けられ以來志を得ず、文政十二年不遇のうちに歿した。歳五十九。萬延元年幕府その功を追賞して罪を赦し、維新後正五位を贈られた。

【稻荷山古墳】江若鐵道水尾驛の北約一軒、水尾村鴨にある。附近に散在する小古墳群の一で、小形の前方後圓墳に屬し、今後圓部の一部を存す。墳中の小石室内にある彫拔家形石棺の内部から、金製垂下飾、金銅製冠、同沓、雙魚佩飾、切子玉、古鏡、鹿角製柄頭付鐵刀、同小刀子、金銅製拵環頭太刀その他を發見し、棺外から馬具、土器等三十餘種、百二十餘點の極めて豊富なる遺品を發見した。石棺は上部に覆屋を作つて現場に保存し、遺物は東京帝室博物館、京都帝國大學文學部に收藏保管されて居る。

【藤樹書院址】指定史蹟。江若鐵道安曇驛の東南一軒、青柳村上小川にあり、自動車の便がある。途中藤樹神社とその墓のある玉林寺を経て行く。藤樹の老株道路

の傍に蟠屈生茂して、おのづからその目標となつて居る。中江藤樹講學の遺址で、もと四間に八間の茅葺の書院があつたが、明治十三年罹災し、今僅に入口の四脚門と土藏等を遺存して居る。門は簡素な小門で門扉に下り藤の透彫がある。今書院址に假屋を建て、「致良知」の扁額、自筆著書、釋奠器具、筮竹その他の遺物を陳列して居る。

藤樹通稱與右衛門小川村の人である。祖父吉長伊豫大洲侯に仕へて居たので幼時大洲にあり、十一歳大學を讀みて始めて聖賢の學に志し、大洲侯に仕へて學徳夙に高かつたが、寛永二年致仕して郷に歸り、徒を集めてこゝに書を講じた。家の傍に藤の老樹があるので雅號も書院も藤樹と稱した。藤樹人を率ゐるに躬を以てし、徳化善く行はれ、名聲籍甚世に近江聖人と稱した。慶安元年に歿す年四十一、郷人祠廟を作りてこれを祀つた。享保十一年大溝藩主、分部光忠は書院の諸役を免じ、長く祭祀を絶たざらしめ、歴代これに倣つた。寛政九年光格天皇勅してその講堂に徳本堂の號を

降し給ひ、明治四十年正四位を贈られた。

墓はこゝより東玉林寺門前の道側にあり、玉石垣を繞らし、向つて左方に藤樹先生墓、右方に母堂北河氏墓があり、各々土饅頭の前面に石碑が建つて居る。入口の直ぐ右にその子常省の墓がある。

【藤樹神社】〔縣社〕墓地の北約三〇米、上小川中道にあり、中江與右衛門藤樹を祀る。大正九年の創建で同一年縣社に列せられた。神社には藤樹の門人であつた大洲藩家老佃氏に與へた藤樹の文その他を一巻としたもの及び皇后陛下の御作文等を社寶として居る。

【正法寺】〔曹洞宗〕江若鐵道安曇驛の西北約二軒半、安曇村常磐木にある。寺寶の佛涅槃圖〔國寶〕は絹本著色の圖幅で利様に唐様を加へた様式のもの、明兆以前の涅槃圖として注意すべきである。

【大善寺】〔天台宗眞盛派〕江若鐵道安曇驛の東北約三軒、新儀村新庄にある。寺寶の大日如來坐像〔國寶〕は木造の胎藏界大日で總身漆箔を施し、藤原時代の作である。

【保福寺】〔曹洞宗〕江若鐵道安曇驛の北約四軒、新儀村安井川南井の口にある。本尊釋迦如來坐像〔國寶〕は木造高さ四尺六寸八分、寺傳には饗庭村大法寺にあつたのを、同寺廢絶の際當時に移したと云ひ、平安時代の作である。焼残りの釋迦と稱して火難除の信仰が篤い。

【朽木溪谷】江若鐵道安曇驛から西五軒の岩瀬まで自動車の便がある。湖西第一の大河安曇川の上流荒川橋から高岩橋邊までの間約三軒の間を云ひ、自動車内からその風光が見られる。夏は鮎狩、秋は紅葉狩によく、近江耶馬溪とも呼ばれて居る。

【朽木スキー場】江若鐵道安曇驛から生水坂まで八軒、自動車の便がある。生水坂から尙一軒餘徒歩で朽木スキー場に達する。海拔約三〇〇米の山頂に拓かれたスキー場で、斜面はやや狭少の憾があるが、京阪地方からの週末スキー練習に適して居るので相當賑ふ。積雪も五〇糎乃至一米に達するので、この附近のスキー場としては雪量の多い方である。スキー季節は十二月

下旬から三月上旬までである。近年従来の練習場の西寄りに新にスロープを開拓して擴大した。練習場には小屋が新設されて相當便利になつた。上荒川には旅館の設備があるが、下荒川に宿泊する人は荒川の民家に泊めて貰へる。

【興聖寺】〔曹洞宗〕江若鐵道安曇驛の西約一六軒、朽木村岩瀬にある。佐々木氏の創設で永平寺懷辨禪師を請じて開山とし、嘉禎三年堂宇を建立した。近江に於ける最初の禪林である。享祿元年足利義晴が三好氏に追はれてこの地朽木植綱に頼り、こゝに假座所を設けた。今境内の秀隣寺庭園はその遺構で泉水、築山、列石等を存し、下方安曇の清流を俯瞰する景勝の地である。本尊の釋迦如來坐像〔國寶〕は木造で高さ二尺九寸、藤原時代の作である。

【舊秀隣寺庭園】〔指定名勝〕興聖寺境内にある。屈曲せる汀線を有する池に瀑を落し、二箇の中島を置いて石橋を架し、石組は堅石多く、小椋栖山安曇川一帯を借景とした室町時代の代表的庭園であり、享祿元年朽木

種綱が將軍足利義晴の爲に館を建てた時築造したものと傳へられる。

【洞照寺】「曹洞宗」江若鐵道安曇驛の西約二〇軒、朽木村雲洞谷にある。阿彌陀堂に安置する本尊阿彌陀如來坐像「國寶」は木造、高さ三尺七寸七分、もと延曆寺から移したものと云ひ、藤原時代の作である。

【饗庭野】江若鐵道今津驛の西邊、饗庭村外四箇村に亘り、東西八軒餘、南北約五軒、面積七六ヘクタール、縣下第一の原野である。この原野は相模野、三方ヶ原に次いで明治十八年基線が選定された所で、我が測量史上注意すべき地である。冬はスキー練習場として相當賑ふ。

琵琶湖線

近江今津 木ノ木間 三八軒

省營自動車琵琶湖線は江若鐵道、省營自動車若江本線の終點近江今津を起點として琵琶湖の北岸を縫うて木ノ本に至りて北陸本線に接する線で、途中蛭川から

あり、大津から太湖汽船便もある。寺の本尊十一面觀音坐像「國寶」は、木造、高さ二尺八寸八分、漆箔の上に盛上彩色を施し、船形光背、光雲形の透彫あり、寺傳泰澄作と稱するも室町時代の作である。

【天神社法華經】「國寶」海津驛下車、海津村海津天神社の社寶である。紙本墨書、開結共十卷あり、雲母引料紙に金泥の小花模様を散らし、優美の趣がある。各巻毎に正中二年三月十八日奉施入の奥書を有して居る。

【知内鱒孵化場】海津驛の南約一軒半餘、百瀬村大字知内にある。滋賀縣水産試験場の附屬孵化場で、琵琶湖に放流すべき幾萬の鱒を孵化養殖する。

【海津大崎】「指定名勝」大崎觀音驛下車、海津から鹽津へ行く汽船はその近くを通航するので、船上からその風光が眺められる。附近は古生層を貫いて噴出した花崗岩より成り、奇岩怪石多く、翠松綠樹これを蔽うて居る岬角で、湖南の風景の女性的なるに反して雄壯なる男性的の景致を爲して居る。巖頭には大崎寺と云ふ古刹があり、千貫松、辨天松等の名木がある。脚下の

北牧野に至る四軒の支線を岐ち、本線は海津、近江大浦、鹽津濱、賤ヶ岳口等を経て木ノ本に達する。

【藥師堂】「淨土宗」蛭川から岐れる支線上開田停留場下車、西庄村上開田にある。本尊藥師如來立像「國寶」は、木造着色の像で高さ七尺一寸、背面に佛師僧源僧光仁沙彌妙源延久六年八月廿五日云々の墨書銘がある。

【牧野スキー場】蛭川から岐れる支線北牧野停留場下車、琵琶湖の北端比良連峯と賤ヶ岳の山麓に東面せる高原一帯には、緩急種々な好スロープがある。練習場の北方に三國山（六七米）が聳えて居るからこれへ登るのも興味が深い。スキー季節は大體一二兩月で積雪は五〇糎乃至一米以内である。

季節中は土曜から日曜にかけて、太湖汽船がスキーホテル船と稱して、大津から別仕立の夜行船を出し、船中に宿泊する様にして居る。海津からスキー場まで約六軒省營自動車による。主に京阪地方からの週末スキーの適地として知られ、牧野山の家設がある。

【宗正寺】「新義真言宗智山派」海津驛下車、海津村海津に濱を辨天濱と稱する。

【長縁寺】「眞宗佛光寺派」小山口停留場の北二軒、永原村山門にある。藤原末期の作と思はる、佛頭「國寶」を有して居る。また同じく山門にある和藏堂には弘仁期の作になる木造十一面觀音像「國寶」を有して居る。

【稱福寺】「眞宗本願寺派」月出停留場下車、永原村月出にある。信願房教念が廢寺を再興したもの、顯如影像を有する。

東海道線の列車は大津から東南に向ひ膳所 一軒七を過ぎて石山二軒八に至る、膳所石山共に大津市内である。

石山驛 大津市膳所粟津町

▽京阪電車石山坂本線 石山寺、石山驛前、濱大津、坂本間、一四軒二

▽乗合自動車 草津行、上田上行、下田上行、石山寺南郷字治川ライン行

▽太湖汽船 石山驛前石山寺南郷行、膳所濱大津坂本

行

【膳所】石山驛附近はもとの膳所町で、琵琶湖口の西岸に沿ひ、昭和八年四月大津市に編入された。往古は陪膳濱と云ひ、人家なく、天智天皇大津宮に在ました時の御厨の地であつたと云ふ。本多氏六萬石の舊城下で、師範學校、農事試験場等を置かれ、人造絹絲の工場があり、また、膳所城址、粟津原、茶臼山、膳所神社、篠津神社等がある。

【杉浦重剛邸】京阪電車石山線瓦ヶ濱下車、膳所驛からは一軒二、膳所の別保にある。氏が十二歳まで居住された家で、今は町有として保存して居る。

【梅仙窟】京阪電車瓦ヶ濱下車、盆梅の名所として知られ、花期は豊川神社境内に陳列して一般の觀覽に供する。

【羅漢堂釋迦像】〔國寶〕京阪電車石山線中庄下車、大津市内膳所にある。圓福院羅漢堂本尊で、高さ一尺八寸六分の小坐像であるが當初の光背を具備し、鎌倉時代に運慶と並び稱せられた佛師安阿彌快慶の作で、普通

【和田神社本殿】〔國寶〕京阪電車石山線錦下車、神社の創立は詳かでないが、現存の本殿は一間社流造、桃山時代建築の特徴を發揮して居る。

【石座神社神像】〔國寶〕京阪電車錦下車、錦にある。天命開別命(天智天皇)、伊賀采女宅子媛、弘文天皇及び彦坐王の神像が四軀ある。何れも一尺乃至二尺に満たざる小像で、もと彩色を施した藤原時代の木彫である。

【茶臼山古墳】〔指定史蹟〕京阪電車膳所下車、西南へ約八〇米、膳所平尾にある。茶臼山と呼ばれる丘陵上に東面して営まれた大規模な前方後圓墳で、長徑二〇米ある。この西南約二〇米の所に小茶臼山古墳がある。

【粟津原】石山驛附近の南一帯の地で亭々たる青松連り、その晴嵐は近江八景の一である。近年までこの邊には家屋がなく、夏は小川に螢が多かつたが、最近工場商店棟を並べて、以前の面影を失ひ、松並木も年々枯死する有様である。原に今井兼平の墓がある。

【瀬田橋】石山驛の南一軒、京阪電車石山線唐橋の東

安阿彌作の優麗なものよりも、面相も目を大きく開いて鋭く、衣褶のうねりも高く、寫實に富んだ強味のあつた作である。胎内に「頌識和州南都建久八年十月十二日安阿彌佛御作本主空」の銘がある。

【篠津神社表門】〔國寶〕京阪電車中庄下車、膳所にある。明治三年舊膳所城を毀却した時、その城門を各神社へ移建したものゝ一である。その構造は高麗門に屬し、屋根は本瓦葺、慶長年間に創築された膳所城の遺構と認められて居る。

【清徳院】〔淨土宗〕京阪電車石山線膳所下車、膳所にある。長福寺とも云ひ、開創は詳かでないが、慶長年中徳譽上人の中興する所で、本尊阿彌陀如來坐像〔國寶〕は木造、半丈六の像で高さ四尺、藤原時代の作である。

【膳所神社表門】〔國寶〕京阪電車膳所下車、膳所神社境内にある。舊膳所城の城門で、明治三年城郭を毀却した時當神社に移建したものである。一種の藥醫門に屬し、屋根は本瓦葺、慶長年間に創築された膳所城の遺構と認められて居る。

に近い。瀬田川の右岸大津市石山鳥居川から、左岸瀬田町大字橋本に架設され、一名臥龍橋と云ふ。中島によつて連絡する大小二橋に分かれ、三者を合せて長さ三六〇米に及び、大橋の長さ約二七三米、小橋約五二米、橋幅約七米、橋柱二十、脚は新式の鐵筋混凝土であるが、大小三十四本の擬寶珠を着けた欄干、鐵筋を覆うた橋板等總て古式に則り、外觀は依然たる唐橋風を示して居る。大正十一年七月起工、同十三年六月竣工、工費四十七萬圓を要した。橋上から南に石山、北に琵琶湖を望み、風色秀麗、その夕照は近江八景の一である。橋の東端南に入った所に、海津見神社があり龍神を祀る。承平の昔依藤太はこの龍神の請により三上山の蜈蚣を射殺したと云ふ傳説がある。この橋は古來西軍の防禦線となつたことが少くない。中島は大正十三年荒蕪の地を拓いて遊園地とされ、釣堀、ボート、ヨット等の設備を有し、また明治天皇御東幸の際の聖蹟鳥居川御小休所〔指定史蹟〕がある。

【建部神社】〔官幣大社〕石山驛の東南一軒八、瀬田町神

領にある。祭神は日本武尊で、延喜の制名神大社に列し、近江國一宮である。神紋三本杉、例祭四月十五日。神社に藏する女神坐像は別に小女神坐像二軀を附屬し、何れも木造淡彩垂髪の姿で、藤原時代末期の作にかゝり國寶に指定されて居る。

★【石山寺】〔眞言宗〕石山驛の南二軒四、京阪電車石山線石山寺下車、石山の山腹景勝の地にある。

石山寺の創立は奈良の東大寺造立に際して、良辨僧正が石山院を設けしに始り、孝謙天皇の天平寶字五年から六年にかけて建立されたのである。當時堂塔佛像佛具等善美を盡したものであつたと云ふ。藤原時代には當寺の風光とその觀音の信仰ほど都人をひきつけたものは恐らく他になかつたであらう。宇多法皇を初めとして東三條院の如きは五度まで御輦を運ばせられ、和泉式部、赤染衛門の如き歌人も、參籠してその文藻をのべ、また紫式部が源氏物語述作の祈願をなしたことも古くから人口に膾炙され、幾多の風流韻事を残して居る。一條天皇の正曆二年に一度焼失したが、その

築である。それで屋根全體の形が複雑となり、老大な堂宇になつて居る。禮堂を除いた本堂は藤原初期の建築であるが奈良時代の面影を存し、構築單純細部雄健の趣に富んで居る。前面一間を廂とし、内五間二面を内々陣とし、厨子内に本尊如意輪觀音を安置して居る。堂内に寺寶の一部が陳列されて居る。堂の東南隅の源氏の間はその構造裝飾より見て、禮堂と同時代即ち慶長年間に添加されたものである。

鐘樓〔國寶〕本堂の東方一段高き山腹にあり、三間二面、重層、屋根入母屋造、檜皮葺の建築である。東大門と同様源賴朝の建立と傳へ、建久當時の形式手法を傳へて居る。

多寶塔婆〔國寶〕鐘樓より一段高き所に建つて居る。

この塔婆も建久年間に賴朝の寄進建立せしものと傳へ、現存の多寶塔婆中最古のもので、且つ最も美はしい遺構である。下層は方三間廻縁をめぐらし、上層は圓形で、屋根は檜皮葺になつて居る。輕快な形態を有し細部の手法もよく整つて居る。外部は丹土を塗るに

後八十餘年を経て承暦三年にその一部を再建した。その後建久年間に至り、源賴朝によつて復興され、更に慶長年間秀頼の寄進によつて堂塔を修理したのである。即ち現存の諸堂は藤原時代に再建された本堂を除き、何れも建久以後の再建である。

東大門〔國寶〕三間一戸の仁王門で、屋根は入母屋造、本瓦葺の建築である。建久元年源賴朝によつて建立されたものと傳へて居る。後世修理に際し古式を滅却せる所もあるが、大體の形態は依然として、鎌倉時代の雄健な風格を存して居る。

仁王門を入り參道の盡きる所から石段を登ると山腹の平地に毘沙門堂、蓮如上人堂、御影堂があり、尙天然記念物の礎灰石の一群が露出して居る。こゝから更に一段高い山腹に本堂が南面して建つて居る。

本堂〔國寶〕藤原時代の建築にかゝり、七間四面單層屋根四注造檜皮葺の建築である。本堂の前面に附接されて居る禮堂は慶長年間に建てられたもので九間四面、單層舞臺造正面千鳥破風、檜皮葺、四注屋根の建

過ぎないが、内部の裝飾は頗る豊麗で、四天柱に佛菩薩を、長押及び天井には寶相華文を何れも漆塗の上に極彩色を以て描き、藤原末期の優美な裝飾を施したとがよく残つてゐる。中央須彌壇の上には大日如來の坐像が安置されて居る。

月見亭 多寶塔婆の傍にあり、眼下に瀬田川を望み、北方には唐橋が見え、眺望に富んで居る。

寶物には左記のものがある。

- 一 毘沙門天像〔國寶〕(毘沙門堂安置) 一 軀
- 木造、高さ約五尺五寸、全身極彩色、甲冑に唐草、毘沙門龜甲の模様があり、藤原時代の優秀な作である。
- 左記の寶物は本堂内に陳列されて居る。
- 一 觀世音菩薩立像〔國寶〕 一 軀
- 金銅製、高さ約二尺三寸、姿態優美、瓔珞珠纒を以て裝飾せる白鳳時代の作である。
- 一 大日如來坐像〔國寶〕 一 軀
- 木造、高さ約三尺、相好の端麗な鎌倉初期の作である。
- 一 伎樂面 木造、鎌倉時代 三面
- 一 毘沙門天、持國天、增長天立像〔國寶〕 三 軀

京都米原間

木造、毘沙門天は高さ一丈餘の雄大な作で、その他の像は高さ約五尺何れも藤原時代の作である。

一不動明王坐像〔國寶〕

木造、肉身彩色、平安時代の優秀な作である。

一銅鐸

青銅製、我が國金石併用時代の遺物。

左記寶物は京都及び奈良博物館へ出陳

一石山寺縁起〔國寶〕

紙本著色、繪五卷傳隆光等筆 二卷文晁筆

一史記

〔國寶〕 紙本墨書 殘闕

一佛說淨業障經

〔國寶〕 紙本墨書 吉備由利筆

一佛涅槃圖

〔國寶〕 絹本著色 傳兆殿司筆

一不動明王二童子像

〔國寶〕 絹本著色

一源氏物語末摘花卷

〔國寶〕 紙本著色 傳光起筆

一釋迦如來坐像

〔國寶〕 銅造

一越中國官倉納穀交替記〔國寶〕紙本墨書

一延曆交替式

〔國寶〕 紙本墨書

一周防國延喜八年戶籍〔國寶〕紙本墨書

一漢書

〔國寶〕 紙本墨書 殘闕

一左傳

〔國寶〕 紙本墨書 殘闕

一玉篇

〔國寶〕 紙本墨書 殘闕

一說一切有部俱舍論〔國寶〕紙本墨書 仙釋筆 一卷

一行歷抄〔國寶〕 一卷

紙本墨書、天安三年圓珍記

一建久年中檢田帳〔國寶〕紙本墨書 二卷

【石山寺砦灰石】〔指定天然記念物〕石山寺はその名の示す

如く、境内に大岩石が多く露出して居る。この岩石は花崗岩と石灰岩の觸接によつて出來た砦灰岩である。

【田上山】瀬田川沿岸黒津の東南に聳え、茶褐色に禿

げた山で太神山(六〇米)、矢筈岳(五二米)、笹間岳(四三米)等を含む。太神山は登り五糎半、不動明王を祀る

太神山成就院あり、田上の不動と云はれ、春秋二季の彼岸に賽客が多く、七曲りの嶮、泣不動、梅雨池、影

向岩等がある。矢筈岳は太神山から一糎半、水晶、黄玉等の産地である。笹間岳は矢筈岳から一糎半、瀬田

川左岸にある關津の上關から登ると約二糎である。頂上に祈雨の神として知られた白山權現を祀り、山中に

喜雨の踊場、八疊敷岩、石雨壺等もある。八疊敷岩は展望によい。

造、鎌倉時代初期の作である。

【春日神社本殿】〔國寶〕石山驛の南約二三糎、大石村富

川にある。本殿は文保三年の建立と傳へ、二間社入母屋造、檜皮葺、その様式手法に鎌倉時代末期の特徴を示して居る。

【立木觀音(安養寺)】〔淨土宗〕石山驛の南七糎半、南郷

からは南三糎、大津市石山町立木の瀬田川に臨んだ山腹にある。俗に厄除觀音と呼び立木の等身の觀音を本

尊とし、四十二歳の厄除けのため參詣する者が多い。初縁日の一月十七日、二月節分及び九月五日の千日

會、十二月十七日の終ひ立木には殊に雜沓する。

【法樂寺】〔天台宗〕石山驛の南約八糎、大石村東にあり、

延命院と云ふ。本尊は木造の藥師如來坐像〔國寶〕で藤原時代の木彫佛である。

【若王寺】〔淨土宗〕石山驛の南約九糎、大石村中にある。

本堂安置の木造佛立像〔國寶〕は、寺傳に彌勒菩薩像と云ひ、高さ二尺、右手は垂下して天衣を握り、左手は

屈臂し、平安朝初期の手法を存して居る。

京都米原間

三三三

【不動寺本堂】〔國寶〕太神山にある。不動寺は貞觀年中

智證大師の開基と云ひ、その本堂は三間三面、單層、

屋根四注造、檜皮葺で、前面の向拜に大なる唐破風を

附し、内陣柱に永正三年云々の墨書銘を有する室町時

代の遺構である。

【安樂寺】〔淨土宗〕石山驛の東南約五糎、下田上村枝に

ある。藥師堂安置の藥師如來坐像〔國寶〕は木造高さ一

尺七寸、藤原時代の作である。

【正法寺】〔臨濟宗妙心寺派〕石山驛の東南約四糎、下田上

村黒津にあり、俗に大日寺と云ふ。本堂安置の帝釋天

立像〔國寶〕は木造で鎌倉時代の作である。

【正法寺】〔眞言宗醍醐寺派〕石山驛の東南六糎半、大津市

石山町内畑にあり、岩間寺と呼ばれ、西國巡禮第十一

番札所である。山城、近江兩國境に當り僻遠閑寂な地

を占め、本堂、不動堂、觀音堂、五社權現堂等がある。

本尊千手觀音は俗に汗かき觀音、雷除觀音と稱する。

寺寶の地藏菩薩立像〔國寶〕は木造、藤原末期の作、ま

た境内不動堂の本尊不動明王、二童子像〔國寶〕は木

【正願寺】〔淨土宗〕石山驛の南約九軒半、大石村龍門にある。本堂安置の地藏菩薩坐像〔國寶〕は木造、高さ一尺七寸餘、鎌倉時代の作である。

【宇治川探勝(宇治川ライン)】この探勝には宇治から遡るか琵琶湖から下るかの二途あり、琵琶湖から下るには石山驛から自動車によつて南郷を経て外畑まで行くか、または太湖汽船で南郷まで行くがよい。外畑から約六軒の間(三十分間)モーターボートによりて深山幽谷の景勝を探り、それから自動車によつて宇治に出るのである。琵琶湖唯一の排水河たる瀬田川は、瀬田から石山寺の東側を過ぎ、南流して南郷を經、大石村の鹿跳橋のすぐ下流から西轉して笠置山麓を横斷する。このあたりから峡谷を造つて宇治川となるもので、いはゆる宇治ラインの沿岸には紅葉ヶ淵、瀬穴等の奇勝がある。

南郷から外畑までの沿道には、立木觀音、銚子の口、鹿跳、米かし等の急瀬深淵の景勝があり、また下流宇治に至る途中には天ヶ瀬の瀧が見られる。

防は櫻樹多く、驛は河北にあつて、その西半軒に競馬場がある、河南には玉川公園があり、驛から南一軒を隔て、居る。

【うばもち家】草津驛前にある。廣重の名所圖會にも描かれ、今に残る古びた屋宇、招牌など東海道中賑やかなりし頃の俤を偲ばせる。

【明治天皇草津行在所】〔指定史蹟〕草津驛の西南約半軒、草津町草津字一丁目中弘一邸内で、明治元年、明治天皇が東京行幸の際九月二十一日、同年十二月還幸の際二十一日に御晝餐を召され、明治二年再度東京行幸の際三月七日御駐泊あらせられ、明治十一年北陸東海巡幸の際十月十二日、同月還幸の際二十日に御駐泊あらせられた處である。行在所に充てられた宅は草津川畔に在つて東海道に面し、草津驛の舊本陣で、よく本陣當時の舊規模を保存して居る。主要建築物は享保三年膳所藩瓦の濱御殿を移築したものであるが、その上段向きのみは天保十年に建替られたものである。御座所は上段八疊の間で、附屬室あり、北西面に小庭園

石山を出ると列車は琵琶湖の水の溢れ口、瀬田川の排水口に架する鐵橋を渡る。左窓には太湖の碧水が遠く霞み、右窓には近く瀬田の唐橋が見え、石山寺の邊も指點される。橋を渡れば線路は漸次東北に向ひ、河床の高い狼川と草津川を過ぎてやがて草津七軒七に著く。草津は草津線、省營自動車龜草本線の分岐點である。

草津驛 滋賀縣栗太郡草津町大路井

▽草津線 草津 柘植間 三六軒四

△省營自動車龜草本線 草津 龜山間 五九軒

▽乘合自動車 守山行

【草津町】草津驛所在地。東海道と中山道、東海道線と關西線の支線の分岐點で、交通の要地に當る。往時の東海道、中山道の追分は現在道標のある所よりも南であつた。農産物、林産物を集散し、綿帆布の製造行はれ、名産に竹根鞭、姥ヶ餅、瓢箪がある。八月、十月の大雨は頗る賑ふ。町の北部を流る、草津川の堤

があり、また正門、玄關並に御湯沸用の御竈、御除ケ門等當時の儘で、御下賜の御調度品なども保存されて居る。なほ舊本陣時代には常に參觀交代の大名や公卿の宿泊があつたために、それ等に關する古記録や掛札が多く存して居る。

【常善寺】〔淨土宗〕草津驛の南約半軒、草津町草津にある。良辨の開基にかゝると云ひ、延徳年中、足利義尙が鈎村にあつた館を移して當寺を再興した。關ヶ原役後、徳川家康大阪に至る途次當寺を館とし、勅使をここに迎へ、ついで秀忠またここに泊した。庭は細川幽齋の築造であると云ふ、近時荒廢甚しく、名刹の名残を存するのみである。本尊阿彌陀如來、兩脇侍像三軀〔國寶〕あり、中尊は半丈六、漆箔を施し飛天光を負へる木彫佛である。寺傳に安阿彌快慶作と云ひ、鎌倉時代の作風を示して居る。

【光傳寺】〔淨土宗〕草津驛の西南約一軒半、草津町矢倉にある。本尊阿彌陀如來坐像〔國寶〕は木造高さ約二尺六寸、藤原時代の作である。

【薬師堂薬師坐像】「國寶」草津驛の西約三軒、山田村木川の薬師堂の本尊である。木造高さ二尺八寸八分、鎌倉時代初期の作と思はれる。この他藤原時代の木造毘沙門天立像「國寶」がある。

【老杉神社】「國寶」草津驛の西北約三軒、笠縫村下笠にある。社殿「國寶」は享祿三年の再造の儘を存すと云ひ、三間社流造、屋根檜皮葺で、前方に五間の向拜を附して居る。

【新宮神社】草津驛の西南約四軒、老上村野路にある。その本殿「國寶」は一間社流造、屋根檜皮葺で、大永三年黒川宗次の造営にかゝり、屋根の前方流れ長くして、正面に唐破風を附し、幕股に桐の葉の彫刻を存して居る。

【野路の玉川】草津驛の南三軒、老上村野路の東端、十禪寺川に沿うて一小池がある。和歌に多く詠ぜられた六玉川の一つ野路の玉川の名残である。

【鞭崎神社】草津驛の西南約四軒半、老上村にある。社の表門「國寶」は舊藩所城の城門で、明治三年城郭を

當初のまゝの材料を保存して居る。

【浄光寺】「眞言宗佛光寺派」草津驛の東北約三軒半、治田村下鉤にある。その本尊阿彌陀如来立像「國寶」は、木造で寺傳に安阿彌の作と稱して居るが、室町末期のものであらう。

【蓮臺寺】「天台宗」草津驛の東北約三軒半、治田村下鉤にある。その本尊薬師如来坐像「國寶」は平安朝初期の作、兩脇侍立像「國寶」は鎌倉時代の作、何れも木彫佛である。

【大寶神社】草津驛の東北約三軒、大寶村糺にあり、自動車の便がある。境内の追來神社（一に若宮また意布伎神社とも云ふ）の本殿「國寶」は一間社、流造、屋根檜皮葺、棟札は弘安六年七月廿七日棟上云々の銘があり、形式手法も略々これに相當せる鎌倉時代の遺構である。屋根の流れ頗る長く莊重である。また本社の本尊に木造狛犬一對「國寶」あり、恩賜京都博物館に出陳中である。

毀却した時、各神社へ移建した城門の一である。その構造は高麗門に屬し、屋根本瓦葺、慶長年間に創築された膳所城の遺構と認められて居る。

【矢橋浦】草津驛の西南五軒、老上村矢橋にあり、湖上六軒を隔て、大津市と相對する。古は兩地間船の往來が頻繁で、矢橋の歸帆は近江八景の一つに數へられた程であつたが、鐵道が敷設され、山田港から汽船の定期航路が開けたため、今は昔時の面影を失つた。埠頭を中心として遊園を開いてある。名産に法印柿がある。

【石津寺】「新義眞言宗智山派」草津驛の西南四軒、老上村矢橋にある。その本堂「國寶」は、桁行五間梁間四間、四注造、本瓦葺の建築である。延文四年足利義詮の建立にかゝり、簡素で木割や大きく手法雄健である。

【伊砂砂神社】草津驛の東北約半軒、治田村澁川にあり、寒川比古命、寒川比女命を祀り、もと天大將軍社と云つた。その舊本殿「國寶」は應仁二年の建立で、覆堂中に納められて居る。一間社流造、屋根は檜皮葺、

草津線

草津 柘植間 三六軒四

この線は東海道本線と關西本線とを接續させる仲介線で關西線の支線である。草津を出ると東に向ひ、左窓行手に三上山を望みつゝ手原三軒七、横田川左岸の石部五軒一を過ぎ、東南に折れて走り三雲七軒一を経て貴生川五軒二に著く、こゝでは西に信樂線（貴生川信樂間一四軒八）を岐ち、近江鐵道はこゝから彦根、米原に至る（近江鐵道沿線記事参照）。
貴生川からも東南に向つて走り、深川二軒八、大原市場五軒一を過ぎて漸く山間に入り、やがて柘植七軒四に至りて關西本線に接する。

【宇和宮神社社殿】「國寶」手原驛の北約一軒、大寶村蜂屋にある。永正二年の建立で三間社流造、屋根檜皮葺である。

【安養寺】「眞言宗大覺寺派」手原驛の南約一軒、治田村安養寺にある。天平年間に建立された大伽藍であつたと

云ふが長享元年兵火に遭つて焼亡した。本尊薬師如來坐像〔國寶〕は木造で、總身に漆箔を施し玉眼嵌入、鎌倉時代の作である。

【地藏院】手原驛の東約一軒半、葉山村六地藏にあり、省營自動車善光寺道停留場から近い。その本尊地藏菩薩立像〔國寶〕は木造、寺傳に行基作と稱して居るが藤原時代の作である。初め天台宗禰正寺の本尊であつたが、寛政年間改宗の折今の堂を建て、安置された。

【新善光寺】〔淨土宗〕手原驛の東約二軒、葉山村林にあり、省營自動車善光寺道停留場の北五〇米。寺寶の阿彌陀如來立像〔國寶〕は木造で、寺傳に慈覺大師作と云ふが室町時代の作である。

【吉御子神社】石部驛の東南半軒、石部町石部にある。式内の古社で本殿〔國寶〕は三間社流造、屋根檜皮葺、舊山城上賀茂神社の本殿であつたのを、元治元年こゝに移建したもので、江戸時代の建築である。また祭神吉彦命坐像は木造、高さ二尺五寸、藤原時代初期の優秀な作で、隨身坐像二軀と共に國寶に指定されて居る。

一 常樂寺勸進狀〔國寶〕 紙本墨書 三卷
延慶元年六月、延文五年七月及び應永五年二月の奥書のあるものである。

一 銅佛餉器〔國寶〕 銅造 一箇

一 佛涅槃圖〔國寶〕 絹本着色 鎌倉時代末期 一幅

一 淨土曼荼羅圖〔國寶〕 絹本着色 一幅

傳惠心僧都筆

【長壽寺(東寺)】〔天台宗〕西寺の東南一軒、省營自動車東西寺口からは二軒、石部町東寺にある。聖武天皇天平年間に良辨僧正の創建にかゝる寺で、本堂〔國寶〕は方五間、單層、屋根四注造、檜皮葺で、俗に地藏堂と呼ばれ、形態の趣輕快優美、鎌倉時代の建築である。寶物には左記のものがある。

一 阿彌陀如來坐像〔國寶〕 一 軀

木造、高さ四尺六寸八分、藤原時代末期の作である。

一 阿彌陀如來坐像〔國寶〕 一 軀

木造漆箔、高さ一丈、彌陀の定印を結べる大像で、雄大な興趣を具する藤原時代初期の作である。

る。

【常樂寺(西寺)】〔天台宗〕石部驛の南三軒、石部町西寺にあり、東寺と共に金勝寺の別院で良辨僧正の開基行胤上人の再興にかゝる寺である。本尊は千手觀音坐像〔國寶〕で木造、鎌倉時代の作にかゝる。

本堂〔國寶〕觀音堂で桁行七間梁間六間、單層、屋根入母屋造、本瓦葺、今の建築は延文五年建造のもので、宮殿風の面影を存して居る。

塔婆〔國寶〕三重塔で三間三層塔婆、屋根本瓦葺、應永五年二月僧慶禪の再建である。二重繁種、和様三手先、内部には極彩色の文様を描いて居る。

寶物には左記のものがある。

一 釋迦如來坐像〔國寶〕 木造 藤原時代 一幅

一 廿八部衆立像〔國寶〕 木造 二十八軀

本尊千手觀音像の脇侍で、そのうちの一軀の胎内文書に徳治三年八月廿二日法橋永賢の作とあり、また延慶元年六月十八日の奥書ある勸進狀には、これ等の像を造立して本尊の脇侍となさんとする旨の記事がある。何れも彩色玉眼嵌入の像で、姿態に活躍變化の狀がある。

一 釋迦如來坐像〔國寶〕 木造 藤原時代 一幅

一 十六羅漢圖〔國寶〕 板装 絹本着色 十六幅

傳顔輝筆

【善勝寺】〔淨土宗〕石部驛の西南約五軒、金勝村御園にある。寺の本尊薬師如來坐像〔國寶〕は、鎌倉時代の木彫であるが像身の破損が甚だしい。

【金體寺】〔淨土宗〕石部驛の西南約五軒、金勝村荒張にある。寺の本尊阿彌陀三尊像〔國寶〕は、木造、寄木造、漆箔、様式よく整ひ裳懸座を具備し、中尊の胎内に永治二年五月造立の銘がある。

【大野神社】石部驛の西南約六軒、金勝村荒張にあり、俗に大宮と呼ばれる。神社の樓門〔國寶〕は、三間一戸、屋根入母屋造、檜皮葺、鎌倉時代の遺構で、臺殿の形態雄麗且つ莊重である。寛政十年に柱を入替へた時の棟札がある。

【春日神社表門】〔國寶〕大野神社の若宮春日神社の表門である。屋根切妻造、檜皮葺の四脚門で、室町時代中期の遺構である。

【山口寺】〔天台宗〕石部驛の西南六軒、金勝村荒張にある。寺の本尊地藏菩薩坐像〔國寶〕は、木造高さ二尺七寸八分、光背の周圍に十王を附屬した珍らしい様式に屬し、藤原時代末期の精巧なる作である。

【正徳寺】石部驛の西南約六軒、金勝村荒張にある。寺の本尊阿彌陀如來立像〔國寶〕は木造、玉眼嵌入、室町時代初期の作である。

【金勝寺】〔天台宗〕石部驛の西南約八軒、金勝村荒張、金勝山の山頂にある。天平五年金肅菩薩良辨の草創にかゝり、聖武天皇の勅願寺として規模頗る大であつたが、後世衰頽した。本尊は釋迦如來で別に狛坂寺からその退轉した後移した狛坂觀音がある。寺に藏する虚空藏菩薩半跏像〔國寶〕は木造高さ四尺、總身彩色、様式技巧より見て、奈良時代の作と察せられる。また木造毘沙門天立像は平安時代初期の作でこれも國寶である。なほ狛坂寺の舊址と傳ふる地に摩崖佛大小二群を存し、一は三尊を中心に諸佛を配し、一は來迎佛を表はして居る。平安時代中期を下らぬ作と思はれる。

三軀、左右、臺座に四軀の像ある閻魔王像一軀あり、何れも花崗岩の半肉彫で、閻魔王像には「林□□□」
「□□□阿彌陀佛權大僧都宗□法印」等の文字が刻されてあり、室町時代の製作である。

【正福寺】〔淨土宗〕石部驛の東北約三軒、岩根村正福寺にある。聖武天皇の御宇、良辨僧正の開基で、寺觀廣大、塔頭三、僧坊十八を有して居たと云ふ。後兵火に罹り、承應の頃舜譽上人再興して一字の草堂を營みて以來念佛道場となつた。今「お大日さん」の名を以て知られ、本尊大日如來坐像〔國寶〕は良辨即ち金肅菩薩の作と傳へ、木造高さ三尺、漆箔像で胎藏界の定印を結び、腕に釧をつけ、天冠臺、共木彫出の高い寶冠を頂いた平安初期の作である。

【永嚴寺】〔淨土宗〕石部驛の東北三軒、岩根村正福寺にある。觀音堂安置の木造十一面觀音立像〔國寶〕は高さ七尺九寸、平安時代初期の作である。この他左の佛像がある。

十一面觀音立像〔國寶〕

【菩提禪寺】〔黃檗宗〕石部驛の東北約二軒、岩根村菩提寺にある。始め蓮華庵と云ひ一小庵であつたが、享保九年今の地に移り寺名を改めた、單に「禪寺」とも呼ばれる。本尊の阿彌陀如來立像〔國寶〕は木造高さ三尺六寸三分、藤原時代末期の作である。

【廢小菩提寺】石造多寶塔及石佛〔指定史蹟〕石部驛の東北約二軒、岩根村菩提寺西端の岡山小字西出の山林竹藪中にある。南都興福寺の別院であつた小菩提寺の伽藍址で、寺は元龜年間兵火に罹りてのち再興せず、遺址に石塔、石佛を遺存して居る。塔は花崗岩製で高さ四米半、現存の石造重層多寶塔婆中の最高のもので、東南面して建てられ、背面の初層軸部と基石面に「仁治二年辛丑七月日願主僧良全施主日置氏女」の銘文がある。

仁治は四條天皇の御代の年號である。この塔は從來普會塔と呼ばれ、即ち海會塔で衆僧の納骨塔として造られ、塔背面の礎石に茶毘せる遺骨を投入するため穿たれた孔を存して居る。石佛は光背を有する地藏像

木造、觀音堂安置、藤原時代末期
一 藥師如來坐像〔國寶〕

木造、觀音堂安置、平安時代初期、高さ四尺六寸六分
一 地蔵菩薩半跏像〔國寶〕

木造、高さ二尺八寸七分、藤原時代
一 軀

【天保義民碑】三雲驛の東南に近き傳芳山上にある。碑の高さ一〇米、幅一米半、水口町出身の巖谷一六居士筆の「天保義民之碑」の六大字を刻してある。天保十三年十月幕府勘定役市野氏來りて天領地を丈量し、苛酷甚しかつたので、野洲川流域の農民大舉こゝに集り、三上陣屋に市野氏を襲撃した。首謀者は多く死刑に處せられたが、十萬日の日延で減税の目的は達することが出来た。この碑はその義民に對する記念として、明治三十一年建てられたものである。

【三雲村美松自生地】〔指定天然記念物〕石部驛の東南三軒、省營自動車龜草線近江平松驛下車、三雲村大字平松の美松山にある。山は古生層の角岩から成る小山で、美松は西北面から東北面に亘る部分を除き、東南

側から西南側にかけて山腹約百アールに亘つて發生し、樹高六米乃至一米、更に矮小なものもある。何れも傘形をなして庭園に見る單葉松と一致し、葉針は長短一ならず松實は概して小さく、赤松の變形と考へられて居る。

【永照院】〔淨土宗〕三雲驛の西約一軒、三雲村三雲にある。本尊の十一面觀音立像〔國寶〕は木造高さ三尺四寸五分、藤原時代の作である。

【上乘寺】〔臨濟宗妙心寺派〕三雲驛の南約一軒半、三雲村三雲にある。本尊十一面觀音立像〔國寶〕は木造高さ三尺三寸七分、頭上の化佛を共木で彫出した藤原時代初期の作である。

【妙感寺】〔臨濟宗妙心寺派〕三雲驛の西南三軒、省營自動車車籠草線妙感寺口下車、三雲村妙感寺にある。開祖授翁即ち妙心寺第二世圓鑑國師は建武中興の功臣藤原藤房のことである。終焉地と傳へて居る。寺には藤原自作と稱する法體の木造と五輪塔の墳墓があり、萬里小路家は菩提所として居る。

木造、高さ二尺七寸九分、頭上に八葉を頂き、左肩に髪を垂れ、右手に劍左手に索を持ち、面貌怪偉で平安朝初期の作である。

一 僧形文殊坐像〔國寶〕

一 軀

木造、形相から見て寧ろ高僧の肖像かと思はれる。面相の表現殊に巧妙にして平安朝初期の作である。

一 誕生釋迦佛立像〔國寶〕

一 軀

金銅製、高さ七寸五分、面相快活、誕生佛の遺品少なき中に東大寺のそれに次いで、小像ながら奈良朝藝術の精彩を發揮するものである。

一金剛力士立像〔國寶〕

二 軀

木造、總身彩色の大像で全體の鈎合よく面貌殊に巧である。鎌倉初期の作。

【智禪院】〔天台宗〕三雲驛の東北約三軒半、伴谷村伴中山にあり、宮寺と稱せらる。本尊地藏菩薩像〔國寶〕は木造の半跏像、鎌倉時代初期の作である。

【泉福寺】〔天台宗〕三雲驛の東約一軒、柏木村泉にある。寶珠山延命院とも稱し、本尊の地藏菩薩半跏像〔國寶〕は木造で總身漆箔を有し、左足を踏下げて蓮華座上に安んじて居る。寺傳に定朝作と稱しその流れを汲ん

【善水寺】〔天台宗〕三雲驛の北約四軒、省營自動車八幡線岩根東口驛下車、岩根村岩根十二坊崗にある。醫王院と稱し、元明天皇和銅年中の草創と傳へ、延曆寺の末寺で本堂を藥師堂〔國寶〕と稱し、桁行七間梁間五間單層、屋根入母屋造、檜皮葺、貞治三年五月院主僧延海の再建する所で二重檼出組、内部分陣入側は化粧屋根裏、内陣は小組格天井で時代の特色を表はして居る。本尊藥師如來、兩脇侍像は木造、三軀とも藤原時代初期の作で國寶に指定されて居る。本尊の藥壺に蓮瓣を彫り、その蓋の紐が花形となつて居るのは頗る稀有の形である。

寶物には左記のものがある。

一 兜跋毘沙門天立像〔國寶〕

一 軀

木造、高さ五尺四寸異様な寶冠を戴き、總身極彩色を施した藤原時代初期の作である。

一 持國天增長天立像〔國寶〕 木造

二 軀

一 四天王立像〔國寶〕

四 軀

木造、藤原時代末期の作である。

一 不動明王坐像〔國寶〕

一 軀

だ作である。この他に不動明王及び毘沙門天木像あり、運慶作と傳へて居る。

【持寶寺】〔天台宗眞盛派〕三雲驛の東約一軒半、柏木村酒人にある。本尊如意輪觀音坐像〔國寶〕は木造總身漆箔、鎌倉初期の佳作である。

【福照寺】〔臨濟宗妙心寺派〕貴生川驛の北約八〇米、貴生川村内貴にあり、大日山と稱す。本尊大日如來坐像〔國寶〕は木造漆箔、智拳印を結び、藤原時代の作であらうと思はれる。

【永昌寺】〔天台宗〕貴生川驛の西北約二軒、甲賀郡貴生川村宇川にある。本尊地藏菩薩立像〔國寶〕は木造、後世の俗悪な彩色のため當初の趣致を損して居るが、平安初期の作である。

【飯道寺】〔天台宗〕貴生川驛の西南約一軒半、北杣村三

大寺にある。もと宮町の飯道神社の別當寺で良辨の開基、慈覺大師の弟子光定これを再興した。本尊阿彌陀如來坐像〔國寶〕は木造高さ二尺八寸五分、藤原時代末期の作である。寺寶に十一面觀音像〔國寶〕及び地藏菩薩

薩像〔國寶〕あり、何れも木造立像で鎌倉時代の作にか
かる。

【飯道神社】 貴生川から分岐する信樂線雲井驛の東北
約六軒、雲井村宮町飯道山の西側にある。延喜式内の
古社で熊野權現の影向と稱し伊弉冉尊、速玉男命及び
事解男命を祭神として居る。社殿は峻嶮なる山嶺に立
ち、本殿〔國寶〕は三間三面、單層屋根入母屋造、正面
千鳥破風、軒唐破風附檜皮葺、様式は桃山時代の特色
を示して居るが天井、扉、金具、勾欄、擬寶珠及び厨
子等の細部は社殿の如く長享元年のものである。

【紫香樂宮址】 〔指定史蹟〕 同雲井驛の北八〇米、雲井村
黄瀬にある。部落の東方大戸川を隔てた對岸の丘陵地
で俗稱内裏野と呼ばれ、内裏野神社のある地點を中心
として南北に亘り、礎石が二百餘箇遺存し、古瓦等も
發見されて居る。神社のある場所は土壇があり、大形
の礎石が残存し、またその北約一八米には四十箇に近
い礎石が並び存し、八間五面の建造物のあつたことが
推測される。この二つの遺址は宮殿の主要建物であつ

【信樂燒】 創業の年代は詳でないが、弘安、嘉曆の頃
長野村に起つたものである。窯は登窯、燃料は松材、
陶土は附近に於ける花崗岩の分解せるものを用ゐる。
製品は火鉢、植木鉢、花器、便器、ステッキ指、榻、
罌子、耐酸耐熱器等で、概して大容積品が多く、價格
低廉にして實用に適する。

【鹽野、宮乃鑛泉】 深川驛の西南約一軒半、岩尾山麓
にあり、自動車の便がある。ラヂウム含有の弱食鹽泉
で加熱して居る。リウマチス、脚氣、婦人病、呼吸器
病等に效くと云ふ。旅館 鹽野鑛泉辻旅館、宮乃溫泉
旅館。

【淨福寺】 〔天台宗〕 深川驛の東約三〇〇米、寺庄村深川に
あり峯の堂と云ふ。本尊十一面觀音坐像〔國寶〕は木造、
藤原時代末期の作である。

【新宮神社表門】 〔國寶〕 深川驛の西南約一軒半、南柚村
新治新宮神社の表門である。三間一戸、屋根四注造、
茅葺で、もと樓門であつたが、今上層を失ひ下層のみ

たと思はれ、更にこれを繞つて四周に外廓の礎石群が
斷續して遺存し、また神社の東南隅に四間三面の建物
址の礎石群がある。その他の個所にも礎石が發見せら
れ、遺瓦は神社附近及びその東方の地點から最も多數
に發見されて居る。紫香樂宮は聖武天皇の皇居で甲可
宮とも云ふ。はじめ天皇、天平十四年山城國恭仁京か
ら道を拓いてこの地に通ぜしめられ、次いで同年秋、
造營卿智努王等をして造營に着手せしめ給ひ、天平十
七年に至る四箇年間屢々行幸あり、その間この地に大
佛鑛造を試みさせ給うたが故ありて中止し給ひ、宮ま
た完成に至らずして廢せられた。宮址は狭小であるが
四神相應の高爽の地に位して居る。宮址發見の古瓦、
燒物、釘、金具等や北方隼人川畔で發見された大佛鑛
造の銅屑等の遺物が、雲井村小學校に保管されて居
る。

【信樂町】 信樂線信樂驛の所在地。舊稱を長野と云ひ、
信樂燒の本場で、縣立窯業試驗場、組合の陳列所があ
る。東の入口には新宮神社、山の手には古代陶窯址が

を存して居る。腰組三手先で、桁組間及び内部虹梁上
に、優麗な透彫を有する臺股があり、室町時代の遺構
である。

【正福寺】 〔臨濟宗妙心寺派〕 深川驛の西南約二軒、南柚村
杉谷にある。寺の本尊十一面觀音立像〔國寶〕は木造、
平安初期の作である。また釋迦如來坐像〔國寶〕は木造、
藤原時代の作である。

【嶺南寺】 〔天台宗〕 深川驛の南約二軒、龍池村龍法師に
ある。本尊地藏菩薩坐像〔國寶〕は木造高さ三尺六寸二
分、右手に錫杖を携へ、左手に寶珠を持つた古風な姿
態を示し、錫杖は今失はれて居る。室町時代初期の作
である。

【伊勢廻寺】 〔眞言宗泉涌寺派〕 深川驛の東南約六軒、宮村
野川にある。本尊十一面觀音は、木造立像で室町時代
初期の製作にかゝり、脇侍の毘沙門天木像は頭部だけ
は藤原時代の作であるが、胴部は鎌倉時代、兩手は江戸
時代の後補である。また同じく脇侍の不動明王木像は
鎌倉時代の特色を有し、本尊兩脇侍とも國寶である。

【福龍寺】〔淨土宗〕伊勢廻寺の東南一軒、宮村下馬杉にある。本尊十一面觀音立像〔國寶〕は高さ五尺五寸、藤原初期の木彫である。

【誓蓮寺】〔淨土宗〕伊勢廻寺の東南二軒、宮村上馬杉にある。寺寶の藥師如來坐像〔國寶〕は木造、高さ三尺六寸六分、藤原時代の作である。

【藥師堂】〔淨土宗〕深川驛の東約三軒、佐山村隱岐にある。本尊藥師如來坐像〔國寶〕は木造、藤原時代初期の作である。

【妙音寺】〔淨土宗〕深川驛の東約四軒、佐山村小佐治にある。寺寶の聖觀音立像〔國寶〕は木造で古い様式を襲つて居るが、面相その他に寫實的な風を示した鎌倉時代初期の作である。

【安樂寺】〔淨土宗〕深川驛の東約四軒、佐山村小佐治安樂寺にある。寺寶の地藏菩薩立像〔國寶〕は木造、高さ三尺、藤原時代末期の作である。

【大福寺】〔淨土宗〕深川驛の東約七軒、佐山村岩室にある。寺寶の聖觀音立像〔國寶〕は木造、藤原時代末期の

樓門〔國寶〕は三間一戸、屋根入母屋造、檜皮葺軒二重繁樑で、組物は和樣三手先を用ひ、これに附屬する廻廊〔國寶〕は桁行左九間右十間、梁間一間、單層、屋根切妻造、檜皮葺、本殿と同時に移建されたもので、樓門廻廊共に本殿と同時の造營である。

【大鳥神社】大原市場驛の北約二軒、大原村鳥居野にある。大原祇園と稱し素盞鳴尊を祀る。神像〔國寶〕は坐像で高さ一尺五寸七分、共木彫出の寶冠を頂き、鬚髯は墨書きで、顔面に胡粉彩色を施し、拱手把笏、藤原時代初期の作である。

【長福寺】〔淨土宗〕大原市場驛の東北約二軒、大原村大原中にある。本尊の阿彌陀如來坐像〔國寶〕は高さ五尺三寸二分、木造漆箔藤原時代の作にかゝり、また寺寶の佛頭〔國寶〕は、如來部に屬する木像の頭部で高さ一尺九寸七分、螺髮木眼で胡粉彩色を施し口唇は朱を以て彩つてあり、藤原初期の作である。

【常光寺】〔臨濟宗妙心寺派〕大原市場驛の東北約三軒、大原村大原上田にある。本尊十一面觀音立像〔國寶〕は木

作である。

【龍福寺】〔天台宗〕大原市場驛の南約半軒、油日村瀧にある。本尊藥師如來坐像〔國寶〕は木造、高さ四尺五寸七分、顔面幅廣くして面相に奇なる處あるが、藤原時代末期の作である。

【長福寺】〔淨土宗〕大原市場驛の東約一軒、油日村田堵野にある。本尊聖觀音坐像〔國寶〕は木造、高さ三尺五寸、總身漆箔を施し寶冠は共木で彫出し、面相雄邁、奈良時代の作風を存する平安初期の優秀な作である。

【光明寺】〔淨土宗〕大原市場驛の東南約四軒、油日村五反田にある。寺寶の十一面觀音立像〔國寶〕は木造、高さ三尺四寸三分、面相豐滿姿態優麗、藤原時代初期の佳作である。

【油日神社】〔縣社〕大原市場驛の東約三軒、油日村油日にある。天忍日命、道臣命及び櫛取女の三神を祀り、古來油日大明神と稱した。本殿〔國寶〕は三間社流造、屋根檜皮葺、明應二年八月富田景政がもと川枯神社の本殿とし造營したのを近年こゝに移して本殿とした。

造、高さ三尺六寸四分、藤原時代末期の作である。
【櫛野寺】〔天台宗〕大原市場驛の東四軒、大原村櫛野にあり、自動車の便がある。傳教大師大同年間の草創と傳へる古寺で、本尊の十一面觀音坐像〔國寶〕は木造、傳教大師の作と傳へ、高さ一丈六尺餘、藤原時代初期の大作である。

寶物には左記のものがある。

- 一 聖觀音立像〔國寶〕 一 軀
 - 木造、共木彫の寶冠を頂き、高さ五尺六寸餘、面相威嚴あり。
 - 影法精鏡、平安朝時代初期の作である。
 - 一 藥師如來坐像〔國寶〕 一 軀
 - 漆箔箔押、高さ七尺二寸餘、藤原時代初期の作である。
 - 一 毘沙門天立像〔國寶〕 一 軀
 - 木造、高さ五尺五寸、藤原時代末期の作である。
 - 一 十一面觀音立像〔國寶〕 三 軀
 - 木造
 - 一 聖觀音立像〔國寶〕 七 軀
 - 木造
 - 一 吉祥天立像〔國寶〕 三 軀
 - 木造
 - 一 地藏菩薩立像〔國寶〕 二 軀
 - 木造
- 何れも平安朝初期から藤原時代に至る間に作られた佳作である。
- 【阿彌陀寺】〔淨土宗〕大原市場驛の東約四軒、大原村櫛

野にある。本尊阿彌陀如來坐像〔國寶〕は、高さ三尺六寸、木造漆箔、彌陀の定印を結び、平安時代初期の作である。また寺寶の聖觀音立像〔國寶〕は同じく漆箔の木像で寶髻を頂上で兩分して垂下し、面貌温雅、藤原時代の作である。

龜草線

草津 龜山間 五九軒

省營自動車龜草線は草津龜山間を本線とし、途中三雲から分岐して近江八幡に至つて東海道本線に接し、八幡に至る八幡線（三雲元八幡間二〇軒）があり、近江山内から岐れて黒川に至る小支線（近江山内黒川間一軒）がある。

草津龜山間の本線は古の東海道五十三次の宿場々々を縫うて近江と伊勢を連繫させる線で、往時は伊勢參宮と參觀交代の爲め行人の往來頻繁を極めたところ、廣重の道中繪圖を偲ばせる松並木も長く續いて居り、宿場の本陣も昔ながらに残つて居り、旅行者を懐古の

鹿隧道に入る。この隧道の中に滋賀三重兩縣の縣界標が建てられてある。

隧道を出ると前面には右手高く鏡岩の奇岩が仰がれ、左手に展ける谿谷美、遙に俯瞰される坂下の聚落、直下にそれと指點される鈴鹿權現の社頭など眺觀秀絶である。こゝから下りとなり、多津加美坂に開鑿された新道を過ぎて伊勢坂下に至り、杵掛辨天を經、鈴鹿川の溪流に沿うて走れば、右窓に狩野探幽の筆捨山が仰がれる。市瀬を過ぐればやがて關に入りて關西本線に接し、それより關町の本道に入り伊勢別街道の分岐點に出で、小野橋を過ぎて大岡寺嶽を走る、路傍には松樹と櫻楓が點綴して美觀を現する。それより伊勢布氣、野村一里塚を過ぎて龜山に著き關西本線、參宮線に接する。

【水口町】本水口驛下車、東海道五十三次の宿場で、加藤氏の城下であつた。甲賀郡の首邑で人口八千五百名産藤細工、干瓢。

【大岡寺】〔天台宗〕本水口驛下車、水口町水口にある。

境に牽き入れるものがある。

草津驛を出た自動車は草津名物として知られた姥餅家を右折して進むこと暫くにして草津の新道分即ち東海道と中山道の分岐點に出で、そこから左折して古の街道筋に入る。目川あたりから草津線と並行し、治田を經て手原驛へ、葉山、善光寺道、伊勢落を經て、石部驛へ、本石部、柑子袋、近江平松、針、夏水、甲賀吉永を經て三雲驛へと草津線の各驛と接續する。

三雲から草津線と岐れ、車窓遙に鈴鹿の連嶺を望み、野洲川に沿うて進む。水口に近づくと八丁噺として知られた松並木街道を通る、水口は東西四軒に亘る街道町で、町を通り抜けると佐山口を經て昔の間の宿の大野を通る、このあたり沿道に茶園が多い。白川橋を渡るとやがて土山、自動車は縣社田村神社の神域を通り、田村川を渡つて新道を前進し、近江山内を過ぎ、路線の中央に蟠居する山中城址の一本松を見、緩かな勾配路を進みて鈴鹿山中に入る。熊の前、若宮口を過ぎると右手に程近く峠越の舊道を見、やがて開鑿された鈴

行基の開創と傳へ、その作と傳ふる千手觀音を本尊とし、俗に岡の觀音と稱せられて居る。藩主加藤氏の菩提寺であつた。境内櫻樹が多い。八月十七、八兩日の千日會には賽客が多い。

寺寶には左記のものがある。

一 千手觀音立像〔國寶〕木造

一 編

高さ三尺八寸四分、六重の臺座上に立ち、腰部着衣に極彩色を施してある。寺傳に行基作と傳ふるもその様式上鎌倉初期の作と推知され、刀法頗る精巧である。

一 阿彌陀如來立像〔國寶〕木造

一 編

高さ三尺二寸二分、總身漆箔、寺傳惠心作と云ひ、作風古拙である。藤原末期の作であらう。

【水口神社】〔縣社〕本水口驛下車、水口町にある。延喜式内の古社で水口大宮と稱し、大岡寺の鎮守である。神寶の女神坐像〔國寶〕は高さ七寸八分の小木像、被髪を背後に垂下した形相で、彩色は剝脱して居るが、藤原時代の作である。

【願隆寺】〔天台宗〕本水口驛下車、水口町松尾にある。寺傳に最澄の草創と云ひ、本尊藥師如來はその作と傳

へ、厄除薬師と稱して居る。寺域尾坂山嶺上に位置し風趣頗る佳。寺寶に木造の阿彌陀如來坐像〔國寶〕、日光月光兩菩薩立像〔國寶〕があり、何れも藤原末期の作である。

【千光寺】〔天台宗〕佐山口驛下車、佐山村巖岨にある。

天平勝寶元年行基の開創と傳へ、往昔は十坊あり、甲賀六大寺の一であつたが、天正の兵燹に堂宇悉く烏有に歸して衰頽したと云ふ。本尊の十一面千手觀音像〔國寶〕は木造、藤原時代初期の佳作である。

【八坂神社】佐山口驛下車、佐山村巖岨にあり、俗に巖岨の大宮と稱する。本殿〔國寶〕は一間社流造、屋根檜皮葺で室町時代の遺構に屬し、永享十一年の再建と傳へ、その後數度の修理を経たものである。

【土山町】近江土山驛下車、鈴鹿峠の西麓に位し、「坂は照る／＼」の馬子唄に名を知られた五十三次宿場の一で、土山茶の本場である。馬子唄に歌はれた坂は町の西端今は廢道になつた松尾坂を云つたものである。

【清涼寺】〔曹洞宗〕近江土山驛の北約四料、土山町青土にあり、法燈國師の開基で大寺であつたが、屢々兵火に罹り衰微したと云ふ。

本尊は釋迦如來坐像〔國寶〕で木造高さ二尺九寸、總身塗箔、玉眼嵌入、法界定印を結び、鎌倉時代末期を下らぬ作である。

【田村神社】〔縣社〕田村前驛下車、土山町北土山にあり、坂上田村麻呂を祀る。田村麻呂がこゝから程遠からぬ鈴鹿山の山賊を追討した緣故によつて奉祀したもので田村草紙や謠曲田村で知られて居る。社地は田村川の清流に臨み、鬱蒼たる森林に圍まれた幽邃境で秋季紅葉の美觀がある。

【長松寺】〔臨濟宗永源寺派〕近江山内驛から支線乗換黒川驛下車、山内村黒川にある。寺寶の大日如來坐像〔國寶〕は木造で胎藏界大日を表はし、高さ五尺三寸五分、漆箔像で胎内に「奉□藤原□□奉造立 爲祐□□生造 延慶三年十一月 □氏」の銘がある。中尊寺の一字金輪像に似て藤原時代末期の婉麗な様式を傳へた鎌

【明治天皇土山行在所】〔指定史蹟〕土山町の中央、舊本陣であつた土山氏宅内にあり、明治元年東京行幸の際九月二十二日御駐泊、同年京都還幸の際十二月二十日及び明治二年東京行幸の際三月九日御晝餐を召された八疊敷上段の間で、よく舊規模を保存して居る。ことに明治元年御駐輦の當日（九月廿二日太陽曆十一月三日）は恰も御誕辰に當らせ給うたので、供奉一同に酒饌を賜はれる外土山驛住民一統へ酒三石、鰯千五百枚を下賜せられたと云ふ。

【賀茂神社】近江土山驛下車、土山町青土にあり、天津彦火瓊杵尊を祀る。その本殿〔國寶〕は一間社流造、屋根檜皮葺で、大永六年の造營である。

【常明寺】〔臨濟宗東福寺派〕近江土山驛下車、土山町南土山にある。寺寶に紙本墨書大般若經〔國寶〕二十七册があり、奥書に和銅五年云々とある。同甲賀郡鮎河村太平寺所藏の百四十二册及び見性庵所藏の四十三册も同一の奥書があり、これ等も同一所にあつたのが後世散佚したものと思はれる。

倉時代の作である。

【太平寺】〔臨濟宗東福寺派〕黒川驛の北約六料、鮎河村鮎川にある。寺寶の大般若經百四十二册〔國寶〕は紙本墨書で、和銅五年の奥書あり、同鮎河にある見性庵に所藏する四十三册、前記常明寺所藏のものと共に同一場所にあつたものが散逸したものと思はれる。

【鈴鹿峠】土山町から東南八料で絶頂に達する。近江、伊勢に跨り、海拔三六米、東海道の嶮で傾斜は江州側に緩、伊勢側に急である。今中腹に隧道を開鑿して自動車を通じて居る。

【鈴鹿舊街道】鈴鹿驛下車、隧道の入口から岐れて峠上に至り、それより鈴鹿權現の社側を経て自動車路線第二鈴鹿橋附近に出る。峠の上には昔の繁榮を物語る茶屋址が散在して居る。省營自動車開通以來廢道同様となつたが、夏は老松並木の間に天幕生活を營むものが多い。

【坂下不斷櫻】伊勢坂下驛下車。往時の旅宿大竹屋址にあり、樹齡二百年を経て居る。英照皇太后伊勢御參

拜の途次大竹屋に御一泊あらせられ、折から咲き誇るこの櫻を賞で給ひ、翌朝御出立の時一枝を御蓋に移させ給うたと傳へる。坂下は五十三次の宿場で本陣の遺址の古石垣その他昔の繁榮を偲ぶものが残つて居る。

東海道本線の列車は草津から東北に向ひ守山、四軒四を過ぎ、野洲川を渡りて野洲三軒一に至り、夫より右窓に近江富士の稱ある三上山を仰ぎつゝ進み、篠原五軒六に近づく頃右窓に鏡山を見、日野川を渡りて近江八幡四軒に著く。近江八幡は省營自動車八幡線及び八日市鐵道の接續點である。

【福林寺】〔天台宗〕守山驛の西北約八軒、速野村木の濱にあり、最澄の開創と傳ふ。寺寶に木造の十一面觀音立像〔國寶〕がある。高さ五尺九寸、藤原末期の作である。

【源氏螢發生地】〔指定天然記念物〕守山驛所在地、物部村から守山町に跨り、古來有名な源氏螢が蕃殖する。

【一里塚】守山驛の西半軒、物部村役場の敷地内にあるものを保存して脱落少なく、藤原時代の典型的の遺作である。

【藥師堂佛頭】〔國寶〕守山驛の西二軒半、小津村三宅藥師堂の寺寶で藥師如來の頭部と傳へ、高さ二尺四寸の巨大の木像の頭部で、優麗なる藤原時代の特色が認められる。

【觀音寺】〔天台宗〕守山驛の西約六軒、常盤村蘆浦にある。聖德太子の本願で秦川勝の開基にかゝり、白鳳二年法隆寺沙門覺盛法師これを中興し、天平三年再建なり、更に後に榮生氏の再興と云ふ。その阿彌陀堂〔國寶〕は方三間、單層、屋根入母屋造、柿葺で様式唐様の性質を帯び、寢殿造風の建築に幾分佛殿式を折衷したもので、室町時代の佳作である。書院〔國寶〕は阿彌陀堂の側にあり、五間三面、單層屋根入母屋造、柿葺で、俗に徳川家康の陣屋と稱し、もと野洲郡永原の殿舎であつたのを、貞享年中この地に移建したもので、元和寛永頃の建築である。

寶物には左記のものがある。

り、中山道の東側に當る。塚の上に榎の古木を存し、江州内に於ける殆ど唯一のものである。西側のものは既に破壊されて形を止めない。

【東福寺】〔天台宗眞盛派〕守山驛の東約一軒、守山町立入にある。本尊の藥師如來坐像〔國寶〕は木造高さ四尺八寸、藤原末期の作である。

【東門院】〔天台宗眞盛派〕守山驛の北約半軒、守山町守山にある。守山寺または守山觀音堂と云ふ。本尊十一面觀音立像〔國寶〕は高さ五尺七寸餘、平安朝初期の作にかゝる。また護摩堂の本尊不動明王坐像〔國寶〕は寺傳興教大師作と稱し、高さ四尺六寸九分、藤原時代の作である。他に木造毘沙門天立像〔國寶〕があるが、高さ四尺八寸藤原時代末期の作である。

【勝部神社】守山驛の西約半軒、物部村勝部にある。俗に本地勝軍地藏と稱して居る。社殿〔國寶〕は應永六年の建築で三間社流造、屋根檜皮葺である。

【安樂寺】〔黃檗宗〕守山驛の西約半軒、物部村勝部にある。本尊千手觀音立像〔國寶〕は木造で持物等よく當初

- 一 阿彌陀如來立像〔國寶〕 木造 一 軀
- 一 阿彌陀堂の本尊で高さ三尺二寸、室町時代の作である。
- 一 地藏菩薩立像〔國寶〕 木造 鎌倉時代 一 軀
- 一 十六羅漢圖〔國寶〕 絹本着色 鎌倉時代末期 二 幅
- 一 黃不動尊像〔國寶〕 絹本着色 恩賜京都博物館 出陳 一 幅

左記寶物は奈良帝室博物館出陳

- 一 山王本地佛像〔國寶〕 絹本着色 一 幅
- 一 藥師三尊像〔國寶〕 絹本着色 一 幅
- 一 四大尊像〔國寶〕 絹本着色 四 幅
- 一 聖德太子像〔國寶〕 絹本着色 一 幅

【常教寺】〔眞宗佛光寺派〕守山驛の西約六軒、常盤村下寺にある。その觀音堂の本尊聖觀音立像〔國寶〕は木造高さ三尺餘、奈良時代の作で、白毫に眞珠を嵌し、總身に施された彩色は剝落して居る。

【蓮海寺】〔淨土宗〕守山驛の西約八軒、常盤村志那にある。本尊は地藏菩薩立像〔國寶〕で、木造高さ五尺四寸三分、俗に志那地藏と稱するが、鎌倉末期の作である。

【寶光寺】〔天台宗〕守山驛の西約五軒、常盤村北大堂に

ある。その本尊薬師如來立像〔國寶〕は、木彫佛で様式手法等に奈良時代の作風を存して居る。

【懸所寶塔】〔國寶〕守山驛の西約四軒、小津村にある。石造の寶塔で、かつてこれより三〇米を距つる寺屋敷または石の戸と稱する廢寺址から發見したものであると云ふ。臺壇の四面に二區の格狭間を作り、内に孔雀の浮彫があり、鎌倉時代初期の作である。

【小津神社】〔縣社〕守山驛の西約四軒半、小津村杉江にある。延喜式内の古社であるが、應仁、永正の頃社殿再々炎上したので、大永六年山門の僧實觀明舜坊首唱して再建し、別當智泉院を開基となした。本殿〔國寶〕即ち大宮は三間社流造、屋根檜皮葺、大永年間の建築であるが、永祿十二年の修補を経たものである。本殿の祭神宇迦之御魂命と稱する坐像〔國寶〕は、木造で彩色は剝脱して居るが、姿態面貌に一種の威嚴を具へ、神像として傑作の一であつて、貞觀時代末期の作と認められる。

【觀音堂聖觀音坐像】〔國寶〕守山驛の西北約五軒、玉年六月二十五日お田植式あり、當時と同じ服装で笛太鼓の囃により縣下の優良青年少女會のものによつて行はれる。

【御上神社】〔官幣中社〕野洲驛の南二軒、三上山の西麓にある。祭神は天御影命、式内の名神大社である。神紋釘抜、例祭五月十四日。

本殿〔國寶〕三間四方、單層、屋根入母屋造、檜皮葺で全體の形態は佛堂の如く、且つ廻縁支柱の杵石に何れも蓮座の彫刻があるのは特異である。木割並に手法から見て鎌倉時代初期の建築と認められる。形態整美入母屋造の模範的神社建築の遺構である。

拜殿〔國寶〕三間四方、屋根入母屋造、檜皮葺で様式略々本殿と同じく、内部天井の手法頗る珍奇にして、中央方一間を竿縁天井とし、天井縁を起點として化粧種が放射狀に流れ穹隆狀を呈して居る。鎌倉時代初期の建築である。

樓門〔國寶〕三間一戸で腰屋根なく、屋根入母屋造、檜皮葺で、本殿及び拜殿と比して木割幾分細く、鎌倉

津村矢島の觀音堂(眞光寺または普門院觀音とも云ふ)の本尊である。總身漆箔、高さ三尺、普通の聖觀音と變つた形相の木像で藤原時代初期の作である。

【野洲町】野洲驛所在地。野洲川の東、中山道に沿ふ街道町で、古來晒布の産出を以て名高い。こゝから分岐して東北に通ずる朝鮮人街道は織田信長安土在城の時、朝鮮人が來往した道だと云ふ。驛の東二軒の小字山の脇、櫻生附近には古墳が多く、中に淡海三船及び毛野の塚と云ふものがある。

【宗泉寺】〔淨土宗〕野洲驛の東南約一軒半、三上村妙光寺にある。薬師堂と呼び、本尊薬師如來坐像〔國寶〕は木造、藤原時代末期の作である。同じく堂内に安置される毘沙門天立像〔國寶〕は、木造、鎌倉初期の作、不動明王、兩童子立像三軀〔國寶〕の木像は鎌倉時代末期の作である。

【悠紀齋田】野洲驛の南三軒、三上山の西麓にある。三上村大字三上桑川春治所有の田一町二十一歩で、昭和御大典に際して勅定せられた光榮を有する。以來毎時代中期の建築と認められる。

【三上山】野洲驛の南に聳え、御上神社より登路一軒二、海拔四六米に過ぎないが、平野の間に屹立して人目を惹き、形狀富士に似たるを以て近江富士とも云ひ、藤原秀郷の傳説は蜈蚣山としてその名を擅にせしめた。山腹に妙見堂がある、晩春これに登れば田圃一帯菜花の金波を打ち、遙に琵琶湖の青藍と相映じて、眺觀秀絶である。

【聖應寺阿彌陀坐像】〔國寶〕野洲驛の東南約三軒、三上村南櫻にある。寺寶の阿彌陀如來坐像〔國寶〕は、木造で藤原時代末期の作である。

【報恩寺】〔淨土宗〕野洲驛の東南約三軒、三上村南櫻にある。寺寶の觀音立像〔國寶〕は、銅造で高さ一尺一寸四分、奈良朝時代初期の作である。

【眞福寺】〔天台宗眞盛派〕野洲驛の東約半軒、野洲町小篠

原にある。寺寶の地藏菩薩立像〔國寶〕は、木造で高さ二尺五寸、衣皺の彫法頗る簡素にして鎌倉時代の作である。

【稻荷神社舊本殿】〔國寶〕野洲驛の東約一軒半、野洲町小篠原稻荷神社の舊本殿である。古宮神社と呼び、一間社流造、屋根柿葺、構造手法室町時代の建築である。大破せる爲韃堂に入れ、前面に竹柵を設けて居る。

【生和神社社殿】〔國寶〕野洲驛の東北約二軒、祇王村富波にある。本殿は一間社流造、屋根檜皮葺の小建築で、社傳によれば長和元年の造營と云ひ、構造手法鎌倉時代の特徴を發揮して居る。

【常念寺】〔淨土宗〕野洲驛の東北約二軒半、祇王村永原にある。今極樂院と呼ばれ、應永年中眞嚴上人中興して常念佛の道場となした。領主永原氏の菩提寺で織田豊臣、徳川諸氏の歸依ありて寺領を寄せた。本尊は阿彌陀如來立像〔國寶〕で木造高さ二尺六寸、衣に盛上蔓草模様を描き、室町時代末期の作である。

【安樂寺】〔淨土宗〕野洲驛の西約七〇米、野洲町市三宅後親鸞上人こゝに阿彌陀像を安置し念佛道場となした。境内に阿彌陀堂、大師堂、天安堂及び東山天皇から賜はつたと云ふ宮御殿と呼ばれる建物等が並び、また親鸞上人袈裟掛松がある。

【觀音堂十一面觀音立像】〔國寶〕野洲驛の北約六軒、中里村比留田の觀音堂の本尊である。一木彫、高さ五尺、總身塗箔を施し、臺座は三重座三遍切着蓮瓣で、藤原時代初期の作である。

【法藏寺】〔淨土宗〕野洲驛の北約六軒、兵主村六條にある。寺寶の毘沙門天立像〔國寶〕は木造、もと彩色のあった高さ一尺三寸の小像で、藤原時代末期の作である。

【佛法寺】〔淨土宗〕法藏寺の西約半軒、兵主村井口にある。寺寶の聖觀音立像〔國寶〕は高さ五尺、藤原時代初期の一木彫であるが、臺座、光背及び天衣の一部は後補である。

【兵主神社】〔縣社〕野洲驛の北約六軒半、兵主村五條にある。八千矛神を祭り、式内の名神大社である。兵主

にある。安土淨嚴院の仙譽上人の開基で、はじめ天台宗に屬した。本尊阿彌陀如來坐像〔國寶〕は木造で藤原時代の作、また不動堂に安置せる聖觀音立像〔國寶〕も同じく木造で藤原時代末期の作である。

【圓光寺】天台宗眞盛派、野洲驛の北約一軒、野洲町久野部にある。本尊阿彌陀如來坐像〔國寶〕は木造、高さ一尺八寸七分、藤原時代の作である。境内に石造の九重塔がある。

【蓮乘寺】天台宗眞盛派、野洲驛の西北約三軒、中里村比江にある。寺寶の木造毘沙門天立像〔國寶〕は高さ一尺七寸二分、藤原末期の木彫佛である。形相は毘沙門天でなく他の天部と思はれる。

【佛性寺】天台宗眞盛派、野洲驛の西北約四軒、中里村乙窪にある。本尊阿彌陀如來坐像〔國寶〕は木造、高さ九尺五寸の巨像で、面相温雅、彌陀の定印を結べる藤原時代の作である。

【錦織寺】眞宗末邊派本山、野洲驛の北四軒二、中里村木部にある。天安年間慈覺大師の創建にかゝると云ひ、

神社の鎮座は諸國に十八箇所あれど、大社に列せられたのは大和國の穴師兵主神社とこの社のみであつた。源頼朝武運長久を祈り、文治二年社殿を造營し神領を寄せ多くの武具を奉納したが、文永中兵火に燒盡し、その後足利氏、徳川氏また社殿を興し神領を寄進した。神社に藏する所の神寶のうち銅製鍍金の華鬘六面〔國寶〕は鎌倉時代末期の作である。

【藥師堂藥師坐像】〔國寶〕野洲驛の北約七軒、兵主村須原西徳院境内藥師堂の本尊で、木造、高さ二尺九寸餘、破損は甚だしいが、藤原時代末期の特色を示して居る。

【莊嚴寺】〔淨土宗〕篠原驛の東約三〇〇米、桐原村安養寺にある。安養寺の釋迦如來と呼ばれ、本尊の釋迦如來坐像〔國寶〕は木造で、京都嵯峨清涼寺の釋迦像と同じ様式であるが、鎌倉時代末期の作である。聖觀音像〔國寶〕は木造で腰部までを作り、衣皺は彫刻せず、口唇、眉目、及び髻などを木地の上から彩つて居る。藤原時代末期の作にかゝり、厨子内に安置し、下部は山形を

以て蔽ひ、山越の觀音と稱して居るが、これは破損佛に兩手や持物を補修したものである。この他に空也上人木造立像〔國寶〕あり、上人巡錫の旅姿を表はし、方形の禮盤形に格狭間のある黒漆塗の臺座の上に立ち、鎌倉時代末期を下らぬ製作と思はれる。

【上野神社神像】〔國寶〕篠原驛の東三〇〇米、桐原村安養寺上野神社の神體で、素盞鳴尊、大己貴命及び菅原道眞三軀がある。何れも木造で、素盞鳴尊像は高さ一尺九寸、闕腋を着し拱手把笏の坐像、大己貴命像は高さ一尺五寸、闕腋に杵を穿ち腰を屈せる立像、菅原道眞像は木造、高さ二尺、闕腋を着し拱手把笏の坐像である。何れも鎌倉時代初期の製作にかゝり、神像彫刻の佳作である。

【光照寺】〔天台宗眞盛派〕篠原驛の東北約二料、桐原村森尻にある。寺寶の藥師如來坐像〔國寶〕は木造、高さ二尺八寸、藤原時代末期の作である。

【來迎寺】〔淨土宗〕篠原驛の西約二料、篠原村小南にある。寺寶の聖觀音立像〔國寶〕はもとこの寺が天台宗に

【鏡神社社殿】〔國寶〕篠原驛の東南約二料、鏡山村古宮の中山道西側にある。韃屋に覆はれ三間社流造、屋根柿葺、軒二重繁種、枘組は出三ツ斗、圓柱を建て、中備は正面三間何れも唐草透彫の臺股を配し、腰三方に廻縁を繞らして臺股の彫刻優れ、懸魚の繪様と共に、室町時代初期の特徴を具へて居る。

【鏡山窯址及古墳】篠原驛の東南約三料、鏡山村山面部落の西南方に數叉に岐れて延びた丘陵の間に、土代の窯址が數箇所ある。齋瓮、坏等の破片、作り損じ等が発見される。丘陵の上には古墳が散在し、その一個は封土全く脱落して、石室の架構が全部露出して奇觀を呈する。この地は古く鏡谷と稱せられ、天日槍の從者がこゝにあつて陶器を製作して居たと云ふ傳説が垂仁紀に見ゆる。尙こゝから東三〇〇米の地點に於いて會て銅鐸が二口発見せられ、東京帝室博物館に藏せられる。この地から西方にあたり、野洲驛の東北約二料野洲町小篠原の甲山及びその東南三〇〇米の丸山には何れも石室があり石棺を藏して居る。銅鐸はこの附近か

屬し惠心院と云つた頃の本尊であつたと傳へ、木造で平安時代初期の一佳作である。

【大日堂大日坐像】〔國寶〕篠原驛の西北約二料、北里村十王町、大日堂の本尊である。木造で胎藏界大日如來の印を結び、面貌雄偉、衣の緞に一種の特色があり、平安時代初期の作である。

【藥師堂藥師坐像】〔國寶〕篠原驛の北約二料、岡山村田中江藥師堂の本尊で、木造高さ二尺餘、藤原時代の優美温麗な作品であるが、後世消の塗替のためにやゝ趣を損じて居る。

【小田神社】篠原驛の西北約三料、北里村小田にある。その樓門〔國寶〕は三間一戸、屋根入母屋造、茅葺で建立年代は詳かでないが、手法穩健で室町時代中期の特色を有して居る。

【西願寺】〔天台宗眞盛派〕篠原驛の西北約五料、北里村野にある。寺寶の阿彌陀如來坐像〔國寶〕は、木造高さ約三尺二寸、彌陀の定印を結び、面相豐麗、鎌倉時代の優秀な作である。

らも曾て発見せられ、一箇所から十四口を出土したこともある。

【鏡山】篠原驛の南に聳え、山麓の鏡山村大字鏡まで驛から四料、山は海拔三四米、高くないが登つて湖水を望むと、宛然明鏡に對するが如く、古歌に多くその勝を歌はれて居る。山は上代天日槍が住んだ所と傳へられ、山の北に源義經の元服池と云ふものがある。

【大篠原神社】篠原驛の西南約二料半、篠原村大篠原にある。神速須佐男命、櫛稻田姫命及び山田大蛇を祀り、應永二十一年四月、領主馬淵廣足が吉備國より奉遷した所で、その後荒廢したのを、文龜元年永原重秀が再興したと云ふ。本殿〔國寶〕は三間社屋根入母屋造檜皮葺、その様式手法比較的堅實で、細部の繪様彫刻等に何れも室町末期の特徴を示して居る。また境内社篠原神社の本殿〔國寶〕は一間社春日造屋根檜皮葺で、規模は小さいが木割大にして、様式手法よく室町初期の特色を示し、大棟の鬼板、唐草瓦、巴瓦等當初のものを具備して居る。尙社殿内部に打付けてある木板に應

永卅二年云云の墨書が残つて居る。

【岩藏寺】〔天台宗〕篠原驛の西南約三軒、篠原村大篠原にある、俗に篠原薬師と呼ばれ、文和五年六角氏の建立にかゝり、もと感藏寺と云ひ、岩倉城下にあつたが天正元年織田氏の兵火に罹り、本尊薬師如来像〔國寶〕を岩穴に安置したと傳へ、再建後現時の寺號に改めたと云ふ。この本尊は木造の立像で、佛身は極彩色を施し、衣には金泥を以て寶相華模様を描いた室町時代の作である。

近江八幡驛 滋賀縣蒲生郡金田村鷹飼

▽省營自動車八幡線 元八幡、近江八幡、三雲間 二〇軒

▽八日市鐵道 近江八幡、新八日市、御園間 一一軒五

▽乗合自動車 新八日市行、永源寺行

【長樂寺】〔臨濟宗妙心寺派〕八日市鐵道平田驛の西約三〇〇米、平田村下平木にある。寺の本尊薬師如来坐像〔國寶〕は木造、藤原時代末期の作である。

【光明寺】〔淨土宗〕八日市鐵道平田驛の南約二軒半、平田村下羽田にある。普寂國師の開基と傳へ、寺寶の藥

村であつたが、天正十四年豊臣秀次が八幡山に城を築いてから、繁華な一市街となつた。街衢は近代的地盤の目の如く、細江と稱する幅一八米の運河によつて琵琶湖と通じ、小船が往來する。八幡山は鶴翼山とも呼ばれ、市中を脚下に見る舊城址である。町内第一の巨利本願寺別院は、朝鮮人來聘使一行の宿泊した所である。この地は近江商人の根據地で、近江商人は古來湖東の諸郡から出るが、八幡の人が最も早くから活動した。産物に疊表、綿帆布、蚊帳、近江牛、メンソレ一タム等がある。

【八幡神社(日觸八幡宮)】〔縣社〕元八幡驛附近、八幡町宮内鶴翼山山麓にある。文治三年源頼朝佐々木定綱に命じて社殿を造營し、その後醍醐天皇勅して社殿を修理し給うたが、明應より永正年間に至る間再度の兵燹に遭ひ、次いで永祿十一年佐々木氏滅ぶるに及んで社運も衰頽したが、慶長五年に至つて社殿の造營を見るに至つた。祭神の譽田別尊、比賣神、息長足姫尊像は三軀とも木造坐像で衣服に彩色があり、他に木造の男

師如来坐像〔國寶〕は木造高さ二尺八寸五分、平安朝初期の作である。また大黒天立像〔國寶〕は木造高さ五寸四分、室町時代の作である。

【太郎坊(阿賀神社)】八日市鐵道太郎坊驛の北半軒、近江鐵道八日市驛からは西北一軒、箕作山の南側山腹にあり、天忍穗耳命を祀る。山は全山巨巖怪石多く、山麓から本殿に至るまで磴道が續き、諸堂その途に散在して居る。厄除幸運の神として參拜者甚だ多く、殊に六月二十三、四日の千日會は雑沓を極める。

八幡線

この線は省營自動車龜草線の支線で草津線三雲驛から岐れて北に向ひて蒲生平野を走り、下田、川守、岩倉を経て東海道線近江八幡驛に至り、更に西北元八幡に至つて居る。記事は元八幡から初め次いで近江八幡から南に移つて居る。

【八幡町】近江八幡驛の西北二軒、八幡線元八幡驛所在地、往古は宇津呂郷の内馬場村と稱する寂寥な一寒神坐像がある。四軀とも鎌倉時代末期の作で國寶に指定されて居る。三月十四日、十五日の例祭は左義長祭として有名である。

寶物には左記のものがある。
一 安南渡海船額 〔國寶〕 一面

この額は正保四年即ち寛永十六年に鎖國令が下つてから八年後に、當時安南國に居住して居た西村太郎右衛門が寄進したものである。額に描かれた船の圖は當時の貿易船の構造や状況を知らるに足るばかりでなく、當時の風俗を見る上にも參考になる。尙圖の傍には墨書で「奉掛御寶前正保四年丁三月吉日安南國居住西村太郎右衛門菱川孫兵衛筆」とある。

【圓滿寺】〔臨濟宗永源寺派〕元八幡驛下車、八幡町多賀にある。本尊十一面觀音立像〔國寶〕は高さ二尺七寸五分、一木彫の粗作であるが、面部の表現優れ、平安朝初期の風趣を有して居る。

【寶珠寺】〔天台宗〕元八幡驛の北約三軒、島村圓山にある。寺寶の毘沙門天立像〔國寶〕は、木造高さ三尺三寸八分、藤原時代の作である。

【專稱寺】〔淨土宗〕元八幡驛の北約四軒、島村北津田に

ある。寺の本尊阿彌陀如來立像〔國寶〕は、木造高さ三尺五寸四分、平安初期の作である。

【大嶋神社、奥津嶋神社】一縣社。元八幡驛の北約四料、島村北津田にある。島の大島様と呼ばれ、同社域に兩社相接して營まれて居る。兩社ともに延喜式内の古社で、奥津嶋神社は名神大社、祭神は大國主命及び奥津島姫命である。神體の大國主命坐像〔國寶〕は木造で高さ三尺三寸八分、總身彩色を施し、闕腋を着し、拱手把笏安坐して居る。藤原時代末期を下らぬ作で、大きくもありまた優れた神像である。尙社寶として古文書を多く所藏して居る。奥島山中に自生して居る郁子は木通科に屬する蔓草で、その果實は不老長壽の靈果として知られ、古は禁中の上つたと云ふ。

【長命寺】〔天台宗〕元八幡驛の西北六料、島村長命寺山の湖水に臨んだ山腹にあつて、湖山の勝景を占め、西國巡禮三十一番の札所として有名である。大津から出航する島めぐり遊覧船は竹生島からこゝに寄航する。聖徳太子の開基願智法橋の再興と傳へ、後鎌倉時

木造、高さ三尺一寸八分、極彩色を施し玉眼嵌入、衣に精巧なる細金模様があり、光背の支柱には蓮葉、蓮花を彫刻して居る。寺傳定朝作と云ふが鎌倉時代の作である。

一毘沙門天立像〔國寶〕

一 軀

木造、高さ五尺六寸五分、胎内に徳治二年三月の修理銘がある。製作温雅彫法精銳なる鎌倉時代の作である。

一聖觀音立像〔國寶〕

一 軀

木造、高さ二尺二寸二分、藤原時代初期の作である。

一十一面觀音立像〔國寶〕

一 軀

木造、高さ一尺七寸五分、平安朝時代の作である。

一寶冠阿彌陀如來像〔國寶〕

一 幅

一勢至菩薩像〔國寶〕

一 幅

一釋迦三尊像〔國寶〕

一 幅

一涅槃像〔國寶〕

一 幅

【伊崎寺(伊崎不動)】元八幡驛の北八料、伊庭内湖を抱いて湖中に突出する伊崎の北部突端にあり、石英斑岩の岩角上にある天台宗の古刹である。名高い竿飛びは八月一日に行はれる。長さ數間の巨材を岩角に挟んで湖上に突出し、裸體の青年が交々竿上を走つて水中に飛び下る行事である。當日は船を浮べて觀覽するも

代に及び守護佐々木氏の崇敬篤く、泰綱以降代々武運長久を祈り、時信の時に塔婆供養をなし、文永七年蒙古の難に當り院宣を奉じて祈禱をした。

永正十三年の兵火に堂塔燒盡し、元龜四年また兵燹にかゝり、天正十年一山僧侶の勸進により同十八年に至つて再建の功成つたものである。

本堂〔國寶〕桁行七間、梁間六間、單層、屋根入母屋造、檜皮葺で、内部は内外兩陣に分たれ、内陣は嚴に凸字形に區劃され、兩陣の境界には葎戸を立て、外觀や、低きに似たれど、造營當時の天台宗佛殿の形式を傳へたもので近年修築を經た。

三重塔婆〔國寶〕三間三層塔婆で、屋根は檜皮葺、擬寶珠に慶長二年の銘があり桃山時代の遺構である。本尊は千手觀音の立像で木造高さ三尺餘、衣に截金で精緻な模様を現し九重座上に立つて居る精巧優麗な像で、藤原時代の作である。

一地藏菩薩立像〔國寶〕

一 軀

のが多い。

【沖島】伊崎の西に近く湖中に浮ぶ孤島で、長命寺渡から船便がある。周回四料餘、石英斑岩より成り、海拔三〇米に及ぶ。男子は漁業を主とし、女子は耕作に従事し、冬は鴨等が獵獲される。本島の東北に當る湖底に累々たる鯉岩は褐鐵鑛で、その邊り鯉が群集するので鯉岩の名がある。

【願成就寺】〔天台宗〕元八幡驛の西約三料、岡山村小船木にある。本尊は十一面觀音立像〔國寶〕で木造、高さ三尺五寸五分、彫法簡素古樸、頭上の十一面は共木彫出して平安朝初期の作にかゝり、本堂に安置されて居る。太子堂に安置する地藏菩薩立像〔國寶〕は木造、高さ五尺三寸二分、總身漆箔、玉眼嵌入、鎌倉時代の優秀な作である。

【願福寺】〔天台宗〕元八幡驛の西南二料、岡山村加茂にある。本尊藥師如來坐像〔國寶〕は藥師堂に安置され、木造高さ四尺五寸七分、藤原時代初期の作である。

【生蓮寺】〔天台宗眞盛派〕元八幡驛の西南二料、岡山村

加茂にある。本尊阿彌陀如來坐像〔國寶〕は蓮の大佛と云ひ、木造高さ約五尺、面貌雄偉、彌陀の定印を結び、平安朝初期の佳作である。

【水莖岡】元八幡驛の西五料、岡山村にある。一に岡山と云ひ、標高三〇米未滿であるが、湖岸に近く平野の中に屹立して居るので、篠原驛邊からよく見える。中世の歌枕として知られ、藤ヶ崎明神の邊は長命寺山、松ヶ崎を望んで、風景がよい、戦國時代には城があつて足利義澄が死んだ所である。湖邊は水泳に適する。

【西光寺】〔淨土宗〕近江八幡驛の西北約一料、八幡町中にある。貞安上人の開基にかゝり、織田信長の信敬厚く、はじめ天正七年安土城大手の前に建立され、同十四年豊臣秀次八幡城下に安土町を移すに及び今の地に轉じた。本尊の木造地藏菩薩坐像〔國寶〕は藤原時代の優秀な作で、膝以下及び裳懸座、光背は何れも後補のものである。尙寺寶として貞安上人の遺物を存して居る。貞安は安土宗論の際一方の對論者である。

【馬見岡神社】近江上田停留場下車、馬淵村馬淵にあ

【冷泉寺】〔曹洞宗〕近江上田停留場下車、馬淵村千僧供にある。本尊千手觀音立像〔國寶〕は木造高さ三尺一寸八分、藤原時代初期の作である。寶物には左記のものがある。

- 一 四天王立像 〔國寶〕 木造 藤原時代初期 四 軀
- 一 藥師如來坐像 〔國寶〕 木造 同 上 一 軀
- 一 地藏菩薩立像 〔國寶〕 木造 同 上 一 軀

【西來寺】〔天台宗眞盛派〕近江上田停留場下車、馬淵村千僧供にある。寺の本尊阿彌陀如來立像〔國寶〕は木造高さ三尺一寸八分、藤原時代の作である。

【正光寺】〔天台宗眞盛派〕近江岩倉驛の西、鏡山村西川にある。寺の本尊阿彌陀如來坐像〔國寶〕は木造高さ三尺二寸八分、鎌倉時代の作である。

る。祭神天津日子根命及び天戸間見命の坐像は、木造闕腋を着け拱手した彩色像である。外に女神及び僧形神坐像等六軀あり、何れも拱手安座した彩色の小木像で、前二者と共に何れも藤原時代の作として國寶になつて居る。

【八幡社社殿】〔國寶〕近江上田停留場下車、馬淵村馬淵にある。三間社流造屋根銅板葺で、當地の人大岡長廣が文祿征韓の軍に従つて凱旋の後、同五年造營したものであると云ふ。

【觀音堂聖觀音立像】〔國寶〕近江上田停留場下車、馬淵村馬淵觀音堂の本尊で、木造高さ三尺一寸八分、彫法精巧、鎌倉時代初期の作にかゝる。

【福壽寺】〔黃檗宗〕近江上田停留場下車、馬淵村馬淵にある。寺の本尊千手觀音立像〔國寶〕は、木造高さ三尺五寸三分、彩色を施し、胎内に嘉應二年佛師僧長順、願主中原貞俊造立の墨書銘あり、尙別に胎内大悲心陀羅尼を墨書し、銅鏡一面、千手觀音像印畫、緞五合を收めてある。

【苗村神社】〔縣社〕川守驛の西南一料苗村綾戸にある。

長寸神社と云ひ式内の古社で、本殿東西に分れ、東本殿〔國寶〕は一間社流造屋根檜皮葺、規模大に木割壯大特に向拜その他の繪様線形頗る美しく、室町時代の特質を發揮して居る。西本殿〔國寶〕は三間社流造屋根檜皮葺、社傳に冷泉天皇安和二年の創建で、建保五年十月再建と云ひ、建築様式これと一致して鎌倉時代の特質を有して居る。また境内社の八幡社本殿〔國寶〕は一間社流造屋根檜皮葺で、墓股の彫刻優れ、構造手法室町時代中期の特色を有して居る。八幡社附屬の樓門〔國寶〕は三間一戸、屋根入母屋造茅葺で手法雄大、應永前後の建築である。尙神社に藏する不動明王立像〔國寶〕は木造高さ三尺一寸三分、鎌倉時代初期の作である。

【正覺院】〔淨土宗〕苗村神社の南に接してある。本尊阿彌陀如來坐像〔國寶〕は木造高さ二尺八寸、藤原時代の作である。尙地藏堂に安置する地藏菩薩立像〔國寶〕は木造高さ四尺七寸。藤原時代初期の作である。

【毘沙門堂藥師坐像】〔國寶〕川守驛の南半料、苗村田中

の毘沙門堂の本尊で、木造高さ三尺四寸、藤原時代の作である。

【阿彌陀堂天部形立像】〔國寶〕川守驛の西二軒、鏡山村薬師、阿彌陀堂の寺寶である。兩手及び兩足首摩滅し、その天部の何に屬するものであるか不明であるが、藤原時代を下らぬ作である。

【勝手神社】山之上驛の西二軒、鏡山村岡屋にあり、古來子守勝手明神として知らる。本殿〔國寶〕は三間社流造、屋根はもと檜皮葺であつたが、今假銅板葺となつて居る。社傳明應年間の創建と云ひ、正面に一間の向拜あり、形態雄大で、細部の手法ことに幕股手挟の繪様等頗る美しく、よく室町時代中期の特徴を發揮して居る。

【吉祥寺】〔淨土宗〕山之上驛の西二軒、鏡山村岡屋にある。寺の本尊阿彌陀如來坐像〔國寶〕は、木造高さ二尺七寸五分、藤原時代の作である。

【西榮寺】〔淨土宗〕近江下田驛の西南約二軒、伴谷村八田にある。本尊阿彌陀如來坐像〔國寶〕及び薬師如來坐像に慶長九年家康寄進の額口あり、境内にある石燈籠には室町時代の年號銘あるものがある。故乃木大將も屢屢參拜し、その記念殿が建てられてある。

【淨嚴院】〔淨土宗〕安土驛の西南八〇米、安土村慈恩寺にある。織田信長の建立で、明感上人の開創である。天正七年淨土、法華兩宗の論議がこの寺で行はれ、世にこれを安土宗論と稱する。本堂〔國寶〕は阿彌陀堂で七間六面、單層、屋根入母屋造、本瓦葺、もと多賀村の興流寺の彌勒堂を移建したもので、様式上よく室町時代末期から桃山時代の先驅をなす構造手法を現して居る。本尊の阿彌陀如來坐像〔國寶〕は木造高さ九尺、定印の巨像で藤原時代末期の作である。寶物には左記のものがある。

- 一 山王權現像 〔國寶〕 絹本着色 一幅
風貌の描法精緻、衣紋の彩色優雅、鎌倉様式を踏襲せる室町時代の優れた作である。
- 一 阿彌陀如來立像 〔國寶〕 一 軀
厨子入、銀造高さ二寸三分の小像で、その銀製なるは珍稀である。鎌倉時代初期。

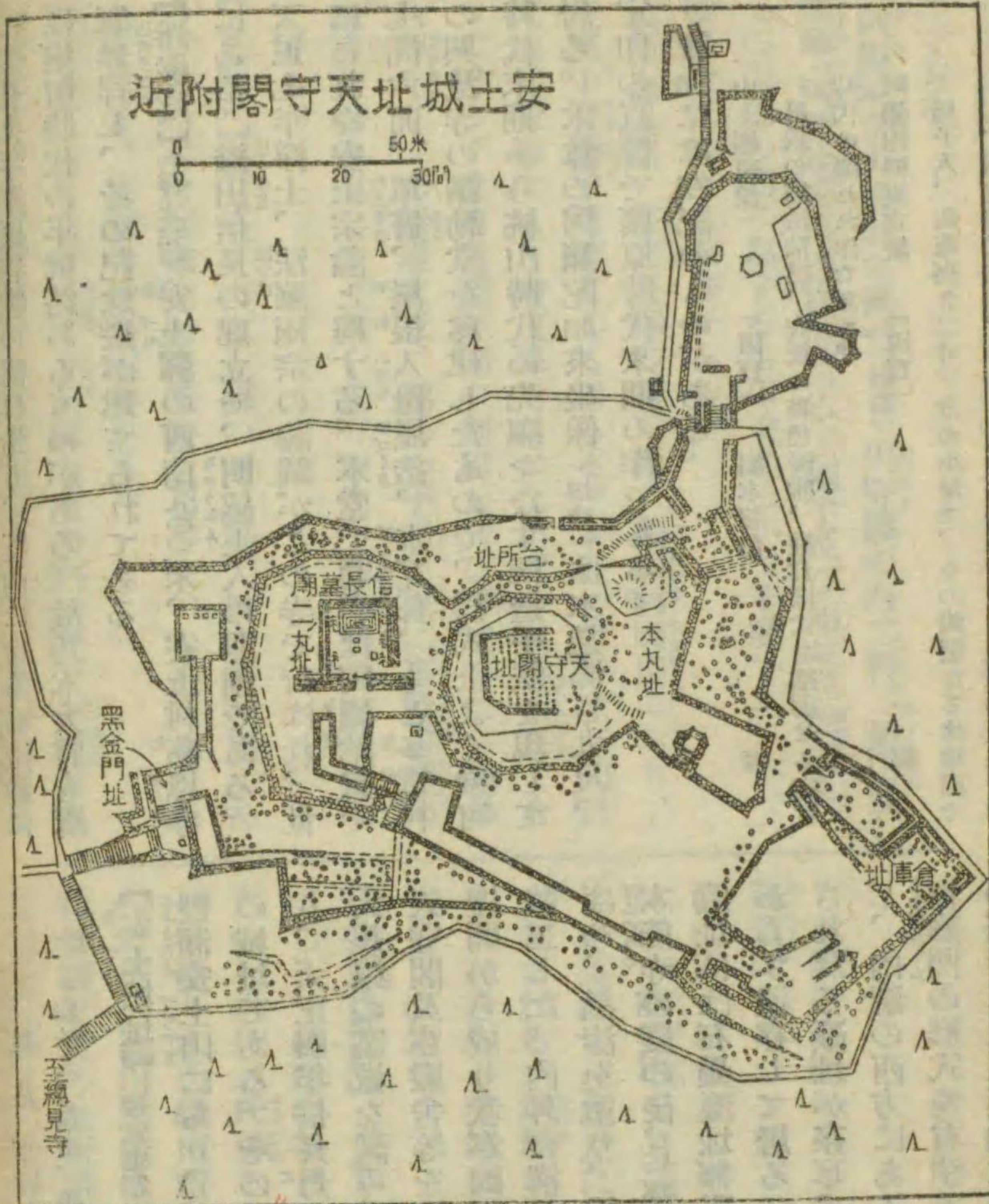
像〔國寶〕を有し、何れも木造、寺傳に共に惠心僧都作と稱するが、藤原時代末期の作である。

東海道本線の列車は近江八幡から尙東北に向ひ左に鶴翼山を見つゝ進み、安土三軒五を過ぎるとやがて左には安土城址と太湖の入江が見え、右には織山が仰がれる。能登川五軒一を過ぎ、愛知川を渡り、稻枝三軒七を後にすれば左に櫻の名所宇曾川堤が見え、荒神山が望まれる。河瀬三軒七を過ぎるとやがて犬上川を渡り、右方から次第に近づき来る近江鐵道と並んで彦根六軒四に著く。

【沙沙貴神社】〔縣社〕安土驛の南約半軒、安土村常樂寺にある。創建の年月は明かでないが式内の古社で、のち佐々木氏が氏神として世々これを崇敬した。永祿十一年佐々木氏織田信長のため敗られて後は社運やゝ衰へたが、徳川家康はいたく當社を崇敬し、慶長五年上杉景勝を攻めた折戦勝を祈願し、關ヶ原戦役の際もまた當社に祈り、戦勝の後社領一萬石を寄進した。神社

- 一 舍利塔 〔國寶〕 一 基
厨子入、銅造、鎌倉時代末期の精巧な作である。

【安土城址】〔指定史蹟〕安土驛の北一軒三、安土村下豊浦安土山にあり、琵琶湖に突出した丘陵で織田信長の城址である。その地は東海、東山兩道の要衝にあたり、天正四年信長丹羽長秀を總奉行とし、この丘陵に大規模の築城を試み、四方石壘を以て築成し、中央に天守閣及び殿舎等を築造したもので、天守閣は七層の樓閣から成り我が國最初の城郭と稱せられ、天正七年竣工した。内外の構造時代の好尚を表はし、金碧を鏤ばめ、黒漆を塗り、雄大壯觀を極めたが、同十年信長本能寺の變の後、兵燹のため一炬にして廢墟となつた。遺址には石壘濠址等現存し、舊規を徵すべきもの尙尠からず遺存して居る。先づ城壘址の南方に二重に廻らされた濠址が存し、内外二重の城郭の石壘また遺存し、内廓の西方にある入口は黒金門〔鐵門〕址と傳へ、柵形門の形式を有するもので石階の幅約五米、壁壘中の石材には長徑約二米に及ぶものあり、雄大なる遺構



を示して居る。この東に二の丸址あり、信長の廟墓が設けられて居る。續いてその東に續く本丸址は東西約二〇〇米、南北最長約五〇米あり、天守閣址はその西部に存し、二重の障壁を以て築かれ、その外郭は略々不等邊多角形を呈して居るが、その中央には約三〇米四方の低き壘壁ありて、その内部に礎石六十餘箇を現存し、八間八面の建造物の存した事を示して居る。天守閣址の東部は搦手口で東門址あり、附近に中條將監邸址がある。城址にはこの外に織田信忠、武井夕庵等の邸址、秀吉、家康邸址等が存し、總見寺本

城址もある。天守閣址から東北約六〇米を隔てる八角平と呼ぶ約五〇米四方の平坦なる地は琵琶湖に臨んで眺望極めて宜く、前面湖水を隔て、高島郡の諸地方を望み、近くは内湖を隔て、圓山、奥島、長命寺山等より比叡の諸峯が見られる。

【總見寺】〔臨濟宗妙心寺派〕安土城址にある。織田信長の本願により、正仲剛下禪師の開創にかゝり、本堂は嘉永末に罹災し、今安土城大手口址に假堂がある。

三重塔〔國寶〕三間一戸の塔婆で屋根本瓦葺、享徳二年甲賀郡柏木の地に建立されたのを、天正年間こゝに移建したもので、和様三手先を用ひ、小形ではあるが輕快なる三重塔である。

仁王門〔國寶〕三間一戸樓門、屋根入母屋造本瓦葺で元龜二年七月の建立にかゝり、和様三手先を用ひ、室町時代末期の建築である。左右の金剛力士は頭部内側に應仁元年因幡院朝作の銘がある。寶物には左記のものがある。

一 鐵 鐸

一個

京都米原間

永樂鏡銀象眼で無銘。箱書によれば織田能登守信門の密附にかゝり、織田信長所用と傳へて居る。

一 延 金

二個

大、長徑二寸四分、幅一寸一分、重量八匁五分、一面に三ツ星の刻印あり、小、四匁七分、長徑一寸九分。

一 安土城古瓦

數個

巴文、金箔押。

一 鐵 兜

一個

俗にオランダ形と稱し、龍の金象眼がある。

【會勝寺觀音堂】安土城址にあり、安土の觀音と呼ばれて居る。本尊千手觀音立像〔國寶〕は木造で藤原時代の作である。

【東光寺】〔天台宗〕安土驛の西約二軒、金田村淺小井にある。本尊藥師如來立像〔國寶〕は木造高さ五尺一寸、鎌倉時代の作である。

【桑實寺】〔天台宗〕安土驛の東北約二軒半、安土村桑實寺にある。桑峯の藥師と云ひ、白鳳六年十一月天武天皇の建立で、定惠和尚が唐土將來の桑實をこの山に植ゑたと傳ふ。後將軍足利義晴戰亂を避けて、天文元年

から三年へかけてこの寺に假寓し、天正四年信長安土城築城の際に廢頽した當寺を再興した。本堂〔國寶〕は天正四年の建立、桁行五間、梁間六間、單層、入母屋造、繪皮葺で二重繁樑、出三ツ斗を用ゐる、室町時代から桃山時代に至る過渡時代の特徴を示した建築である。寺寶の紙本着色系寶寺緣起二卷〔國寶〕は義晴が當寺に滞留中に寄進したもので、上卷奥書に繪は藤原光茂筆、外題は宸筆とあり、下卷に詞書青蓮院宮入道、前内大臣、繪土佐刑部大輔光茂筆とあり、且つ上卷奥に天文元年八月十七日征夷大將軍權大納言源朝臣（花押）が本尊帳中に奉納の旨が記されて居る。即ち繪は兩卷共土佐光信の子光茂の筆で、外題竝に上卷第一段の詞は後奈良天皇の宸筆、自餘の詞は青蓮院尊鎮法親王と三條西實隆の筆である。この繪卷は當時土佐派の傾向を代表する好箇の作例で特に將軍家の寄進にかゝり、詞には高貴の執筆を煩はし、製作因由の確實なる至寶である。今緣起には後奈良天皇宸筆題籤二枚と消息一卷が副へられてあり、緣起と共に國寶に指定されて居る。

屋根繪皮葺で、天正九年の建立にかゝる。

【老蘇森】安土驛の東南約四軒、老蘇村にある。紅葉新緑の名所であるが、近時鎌宮神社境内に隣接して公園を設け、多くの櫻樹を植栽したから、花の名所となつた。

【伊庭内湖】湖の東岸伊庭まで能登川驛から西二軒。單に内湖とも云ひ、中の湖の名もある。蒲生神崎二郡に跨り、東西、南北各五軒半、周圍二〇軒、面積一方料畝、琵琶湖の内湖中最も大きいものである。愛知川三角洲の發達により、琵琶湖の一部が閉塞したものと考へられ、湖口に奥島、伊崎島等が横たはつて居る。水深は小で、最大三米三に過ぎない。湖は琵琶湖に棲む多くの魚族の産卵場だと云ふ。

【伊庭村遊園地】能登川驛の西二軒、自動車の便がある。伊庭村の西端金刀比羅宮の境内で、伊庭内湖に臨み、春から秋にかけて魚釣の客が集まる。春は花見の人が多く、夏は水泳場の設備もある。

【寄須ヶ濱】能登川驛の西北八軒、栗見村栗見出在家

寺の東方の坂道を上れば觀音寺城址で石壘が殘存して居る。

【觀音正寺】〔天台宗〕安土驛の東三軒、近江鐵道五箇莊驛からは西南六軒半、老蘇村石寺、觀音寺山（織山）の頂上にあり、西國三十三所第三十二番の札所である。寺は觀音寺とも呼ばれ、聖德太子の創建と傳へ、織山五古刹の一である。寺域は佐々木（六角）氏の館址で、觀音寺城と稱し、累代こゝに據つたが、永祿十一年織田信長に攻められて寺もまた兵燹に遭ひ、後漸く舊規を復して現時に及んだ。本尊の千手觀音立像〔國寶〕は木造で高さ三尺七寸八分、室町時代の作である。

【慈恩寺】〔黃蘗宗〕安土驛の東南三軒、老蘇村清水鼻にある。本尊十一面觀音立像〔國寶〕は木造、高さ五尺七寸三分、藤原時代の作である。

【奥石神社（鎌宮神社）】〔縣社〕安土驛の東南約三軒、老蘇村東老蘇にあり、式内の古社である。佐々木氏の崇敬厚く近郷の鎮守であつた。本殿〔國寶〕は三間社流造、

の湖岸で、長さ一軒餘、白沙青松の遠淺で、沖の島、伊崎島を望み、風光がよい、理想的の水泳場である。

【石馬寺】〔臨濟宗妙心寺派〕能登川驛の南三軒、南五箇莊村、織山の中腹にある。聖德太子の草創と傳へ、永正年間近江國守護佐々木高頼篤く歸依し、盛に堂塔を興したが、永祿年間兵燹に遭つて燒失した。江戸時代に及び寛永十一年徳川家光上洛の折、能登川村に設けられた御茶屋を寄附せられ移して方丈とし、正保元年仙臺松島瑞巖寺中興の雲居國師來つて留錫し、爾來臨濟宗に改宗した。山麓に三門あり、大佛寶殿（本堂）、方丈、太子堂、行者堂、閻魔堂等の諸堂宇がある。本尊の木造阿彌陀如來坐像〔國寶〕は寺傳惠心僧都作と傳へ、法界定印を結んだ丈六の彌陀で、藤原時代の作である。

寶物には左記のものがある。

一 天王立像 〔國寶〕 木造 二 驅持國天、增長天像で何れも高さ約六尺五寸、藤原時代の作である。

京都米原間

二天立像

〔國寶〕

木造

二 軀

持國天と多聞天の像で高さ約五尺二寸、藤原時代の作である。

十一面觀音立像

〔國寶〕

木造

二 軀

一は高さ五尺五寸、一は高さ五尺六寸餘、何れも平安朝時代の作である。

一 大威徳明王像

〔國寶〕

木造

一 軀

頭上に三面の化佛を戴き、三面六臂六足、左肩から斜に袈裟を懸けて水牛に乗れる姿である。藤原時代の作。

【觀道寺】〔臨濟宗妙心寺派〕稻枝驛の西約三軒、愛知郡葉

枝見村本庄にある。寺寶の日光月光立像〔國寶〕は二軀とも木造、寫生風の技巧に成る鎌倉時代初期の優秀な作である。

【宇曾川堤の櫻】河瀬驛の西北二軒、櫻は今から三十餘年前築堤の時植ゑられたもので、宇曾川天満橋邊から下流兩岸約四軒に互り、總數五百餘株に達し、花のトンネルをなして居る。唐崎橋附近、唐崎神社境内等は花と湖水を望むによい所である。

に建設したもので、高さ約二米半、衣冠束帯の正装をなして居る。

【護國神社】彦根驛の西半軒、井伊大老銅像の西に隣る。明治九年の創建で井伊直憲、戊辰維新殉難者、神風、竹橋、西南、日清、日露、上海、日支、支那事變に於ける縣下殉難忠死者の靈を合祀して居る。祠前の城壕に臨んだ松並木はもと四十七株あり、いろは松と云はれ、慶長築城の時、土佐から移植したものだと言ふ。根が地上に出ないのが特徴である。

【彦根城址(彦根公園)】彦根驛の西一軒、バス銅像前下車、藤原時代に觀音の靈驗を以て聞えた彦根西寺のあつた所で、關ヶ原戰役後慶長八年井伊直孝が幕府の命により寺を山下に移してこゝに築城し、二十箇年を経て完成した。周圍約四軒に及ぶ大城で、井伊氏三十萬石を領し累世こゝに居城し明治維新に至つた。城は西北方湖水に臨み濠三重に繞り、西南の高宮八幡口を大手、東南の澤山切通を搦手口となし、東北に船手松原口あり、本丸の天守閣は三層樓で、京極高次の築

京都米原間

▽近江鐵道 米原、彦根、高宮、貴生川間、四七軒七

▽乗合自動車 彦根市内

▽湖東汽船 彦根港、竹生島間

【彦根市】井伊氏三十五萬石の舊城下である。この地は琵琶湖の東岸に位し、芹川に沿ひ、街衢整然、商家を列べて、繁華湖東第一と稱せられ土橋町、川原町邊は最も殷賑である。物産には生絲、紡績、絹絲、ステープルファイバー、佛壇、箆筒、漆器、足袋、塗下駄、ポンプ及びバルブコック、藤細工等がある。市の北部にある彦根港は長さ數百米に及ぶ運河によつて琵琶湖と通じ、湖東汽船會社の汽船はこゝから竹生島に往來する。人口四萬。

▽旅館 樂々園 八景亭 松屋ホテル 井筒屋 つるや 米屋

▽名産 紅蕪 湖東餛飩 鮎ずし 湯葉 ししま

【井伊大老銅像】彦根驛の西半軒、バス銅像前下車、彦根城の入口尾末町にある。櫻田門外の雪と散つた幕末の偉人彦根藩主井伊直弼を偲ぶため、明治四十三年城にかゝる大津城の天守を移建したものである。この西に西丸の三層樓ならび、北端の土佐廓はもとの長濱城の天守である。本丸の南に鐘丸あり、その途中にある天秤樓門は羽柴秀吉の創築したと云ふ長濱城の城門を移建したもので外に太鼓樓門がある。而して本丸を挟んで南北に米倉を配し、本丸の東表門に接して城主の居館が設けられた。内濠幅約四〇米あり、二の丸、三の丸は湖水を引いた濠を以て界せられ、三の丸には侍屋敷の外、町家、寺院等相交雜し、南は芹川を外濠として、廓内には主として侍屋敷が置かれた。城は明治維新後破却を免がれ、のち井伊家の有となつたが、今公開せられ、天守閣上に登れば琵琶湖、彦根全市を一眸に見渡されて眺望絶佳である。

で地震の間を有し、建築敷奇を凝して居る。今は共に市有に歸し、料理、旅館を營んで居る。

【來迎寺】「淨土宗」彦根驛の西約一軒、市内五番町にある。本尊阿彌陀如來坐像「國寶」は木造で、胎内に記された永正四年の修理銘によつて、この像が建久七年の造立にかゝるものである事が知られる。

【水産試験場】彦根驛の南三軒餘、市内平田町にある。明治三十三年創設、面積約三ヘクタールを有し、事務室、炊事室、物置の外は全部これを池面とし、親鯉飼育池、鯉孵化池、その他淡水魚族各種の試験池に供用し、附屬の彦根養魚場、南小松養魚場、知内孵化場等と共に淡水魚に關する試験を行ふ。試験中特殊なものは姫鱈、公魚及び米國産紅鱈並に河鱈移殖試験、鰻魚、鱒、養蛙の試験などである。試験場が一年に琵琶湖へ放流する数は鯉六百五十萬、鱈七百三十五萬、鰻百萬と云ふ。

【松原内湖】彦根の北方にある入江で、一に大洞内湖

直政と直孝はもと佐和山の西麓に佐和山神社として祀られて居たが、近年こゝに合祀せられた。直政は遠江の人で今川氏の家臣であつたが、天正三年徳川家康に仕へ戦功あり、慶長六年上野箕輪より近江國に轉封し、同十年卒した。直孝は直政の庶子で慶長十年徳川秀忠に仕へ、同十九年大阪陣に戦功をたてた。兄直勝病身の故を以て直孝兄に代りて家を繼ぎ、爾來江戸幕府の要路に居り、三代に歴仕して頗る重ぜられ、江州の他上州佐野、武州世田ヶ谷併せて三十五萬石を領し、萬治二年七十一を以て卒去した。神寶に太刀一口あり、銘國宗(二代)、井伊直忠の寄進狀一通を添へ、國寶に指定されて居るが東京遊就館に出陳中である。

【天寧寺】「曹洞宗」彦根驛の東南半軒、井伊直中の創立で五百羅漢を安置し、寺内に井伊直弼の遺品を藏して居る。境内には瀧あり老楓あり、湖上を一眸に收められる。

【許六五老庵址】彦根驛の東北約二軒、坂田郡鳥居本村原の八幡神社附近にある。俳人森川許六は井伊家の

或は界の入江と云ふ、長さ八軒、最大幅一軒餘、磯山崎、松原崎の兩切口によつて大湖と連る。湖中魚類、水草を産すること多く、眺望がよい。

【佐和山城址】彦根市の東方佐和山の山頂にあり、石田三成の居城址である。三成は近江坂田郡の人で豊臣秀吉の知遇を受け、秀吉の薨後、慶長五年關ヶ原に徳川家康と戦ひ、敗れて捕虜となり京都に斬られた。居城は井伊直政に賜はつたが、水利の便よからざりしに

より彦根に移つたため廢城となつた。

【大洞辨財天】彦根驛の北一軒半、佐和山の西麓松原内湖の東岸大洞山にある。日本三辨天の一と稱し、賽者多く、境内からの眺望がよい。

【井伊神社】「縣社」大洞辨財天の南にあり、彦根藩主井伊氏の祖先井伊供保と直政及び直孝を祀つて居る。供保は共資の子、遠江引佐郡井伊谷に居してはじめて井伊氏を稱した。神社は天保十三年、井伊直亮の創建に成り、朱塗の社殿で内部の彫刻は長濱の彫工早瀬守次の作である。

家臣で、明暦二年彦根城下に生れ、舊門十哲の一人として名高い。こゝは晩年隱棲した五老庵の址と傳へ、正徳五年九月廿六日享年六十でこゝに歿した。古井戸と芭蕉の句碑がある。

【少林寺】「臨濟宗妙心寺派」彦根驛の東約五軒、鳥居本村笹尾にある。聖徳太子の開基と傳ふる寺で、天正年間兵火に罹り焼失したが、その後正保三年に至り再建した。本尊の觀世音菩薩立像「國寶」は木造で藤原時代の作である。

【上品寺】近江鐵道鳥居本驛の北三〇〇米、鳥居本村にある。戯曲で名高い法界坊の鐘があるので知られて居る。その鐘には明和六己丑四月四日法界坊了海、施主妹花里、姉花扇その他大勢の名が刻まれて居る。

【摺針峠】近江鐵道鳥居本驛の東北一軒、鳥居本村下矢倉の中山道筋にある峠で海拔一畝米餘、湖國の山容水態を一眸に收むる絶勝の地で、嶺上に茶店望湖亭がある。

賀村多賀にあり、自動車の便がある。

天照皇大神の御親神伊弉那岐尊、伊弉那美尊を祀る。鎮座は遠い上代にあり、伊勢と並び稱せられて歴朝の尊信厚く、古來延壽延命の靈驗ありとして信仰され、崇敬者全國に汎く講社の參拜が多い。社殿は昭和七年竣功結構莊嚴である。境内には老幹巨樹の綠濃く、四月二十二日例祭の日に行はれる古式の渡御式は盛大で名高い。

神紋は菊花、別に榊葉に莛の字。

【多賀神社奥書院庭園】〔指定名勝〕庭園は建築物より甚だ低く設けられ、椽と池の水面との距離は約十尺あり、自然石の石橋を架し、池の東北隅に石を組んで瀑口となした幽邃な庭園で、築造の年代は詳かでないが、石組に室町時代作庭の面影を残して居る。

【眞如寺】〔淨土宗〕多賀神社の東に接して居る。寺寶の阿彌陀如來坐像〔國寶〕は木造、もと多賀神社の本地佛と傳へられ、彫法優麗、藤原時代の作である。

【胡宮神社】〔縣社〕近江鐵道多賀驛の南約一軒半、多賀

蓮臺の皿一口、加比一丈、織物打敷一帳を奉納したもので、五輪塔及び寄進状とも國寶に指定せられて居る。

重源は鎌倉時代の初頭、治承の兵亂に炎上した東大寺大佛殿の再興に大勸進に補せられ、獻身努力して大事業を完成し、これに伴ひ諸所に堂塔の建立、修理をなし、また佛像を安置し、佛舍利、一切經等を奉納した。彼が各地に遺した金銅塔で現存するものは、この五輪塔の外に播磨淨土寺のものが知られて居る。また境内打籠馬場と稱するあたりの敏滿寺諸堂址では廢瓦が發掘せられる。

【胡宮神社社務所庭園】〔指定名勝〕舊福壽院書院の庭園と傳へられるが、丘陵上に自然の傾斜地を巧に利用して築山となした優秀な庭園である。築造の年代は詳かでない。

【河内の風穴】近江鐵道多賀驛の東六軒、日本有数の風穴で、入口は漸く身を入れるに足る程なれど、中は數百疊の廣さあり、昔から伊勢に通じて居ると稱せられて居る。

村敏滿寺にある。もと敏滿寺の鎮守であつた。敏滿寺は鎌倉時代に隆盛を極めた寺院であつて延慶二年花園天皇の勅願所となり、四十餘宇の堂塔を有し、元弘二年の兵亂に衆徒東軍に屬したため、寺を擧げて一炬に附したが、衆徒早く足利氏の保護を仰ぎ武家方の天皇屢々行幸あり、寺運再び興隆した。永祿年間淺井長政の兵火に罹りてのち廢頽したから、神社また寺と運命を共にし戰國以後衰微したが、その後降りて寛永十五年社殿を再建し、延命長壽祈願の神社として知られて居る。社寶に銅造五輪塔一基あり、内部空洞をなし、銅製鍍金蓮華座上に安置せられた佛舍利を納めて居る。五輪塔の底面には

奉施入近江國敏滿寺本堂金銅五輪寶塔壹基於其中奉安置佛舍利貳粒之狀如件建久九年戊子十二月 日造東大寺大和尚南無阿彌陀佛記

の銘文が刻されて居り、別に建久九年十二月十九日僧重源の寄進状が添うて居る。これは弘法大師請來にかかる東寺の佛舍利を、金銅一尺三寸の五輪塔内方二寸の水精玉中に納め、兩面赤地の錦にこれを裹み、金銅

【多賀スキー場】近江鐵道多賀驛の東四軒、京阪神または名古屋方面から日歸りの出来るスキー場である。スロープの大部分が北面せる爲雪の溶解も少なく、雪質も好い。

【甲良神社】近江鐵道尼子驛の東南約一軒、西甲良村尼子にある。本殿の西に權殿即ち舊本殿〔國寶〕あり、南面し今套堂にはいつて居る。一間社流造屋根檜皮葺、小規模であるが全體の權衡整ひ、一間社としてやや完備した建築である。室町時代末期の手法様式を具へ、ことに墓股の草花透彫、よく室町時代の特徴を示して居る。

【勝樂寺】〔臨濟宗建仁寺派〕近江鐵道尼子驛の東南約四軒、犬上郡東甲良村正樂寺にある。曆應四年佐々木高秀、その父道譽追福のため、東福寺雲海和尚を請じて開山として建立した寺である。大日堂に安置する本尊木造大日如來坐像〔國寶〕は、容姿端嚴毛筋や天冠臺に巧緻な手法を示したもので、藤原時代の作である。尙寺には道譽の自贊畫像があり、境内にその墓がある。

【西明寺】「天台宗」近江鐵道尼子驛の東南約四軒半、東甲良村池寺にある。池寺本坊と云ひ、仁明天皇の勅願所で、承和年中三修阿闍梨の開基、諸堂十七僧房を備へた大伽藍であつたが、天正中兵火のために本堂、山門以外の諸宇は焼失した。

本堂「國寶」七間四方、屋根入母屋造、檜皮葺で、三間の向拜を附し、軒二重檼、桝組は出三斗を用ゐ、桝組間に優美なる墓股を用ゐ、内部は格子戸を以て内陣に別ち共に板敷となし、内陣の柱は卷柱で佛像を描き、天井の構造は内、外陣、廂等何れも各々手法を異にして居るのが特異な點である。細部の手法、鎌倉時代の特徴を現して居る。

三重塔婆「國寶」方三間、屋根檜皮葺で、和様三手先を用ゐ、内部の四天柱は卷柱で佛體を圖し、四面中央の扉には各々天部の像を描き、脇間の壁には法華經普門品等の佛畫を彩繪し、畫面の一隅に詞書あり、長押及び内陣折上格天井の支輪板等には寶相華文、獨鈷文等を作り、側柱には走龍、幣軸には鳳凰等を彩繪して

料、秦川村岩倉にある。本尊地藏菩薩立像「國寶」は、木造着色の像で高さ三尺二寸、左手に寶珠を持ち、右手には錫杖の代りに征矢を携へ、通常の地藏像と様式を異にして居るが、袈裟には左の墨書銘がある。

願主 藤原吉景 法名西忍
貞應三年十一月 日

佛工

また右足枳外側には「子息安穩 月口」、左足には「離苦得樂 證大菩提」の各墨書銘があり、鎌倉時代の製作にかゝる。尙この地藏像に附隨した縁起一卷あり、享徳二年の複寫本で同所安孫子家に保管されて居る。平安時代から室町時代に及んで絶えなかつた愛智郡安孫子庄と押立庄との間の用水争の際に、奇瑞を現じた説話がその内に書かれてある。

【金剛輪寺】「天台宗」近江鐵道豊郷驛の東南約六軒、秦川村松尾寺にあり、松尾寺の俗稱で通つて居る。天平十三年行基菩薩の開基にかゝり、聖武天皇の勅願所で、慈覺大師登山以來、三密瑜伽の道場となつたと云ふ。鎌倉時代には守護佐々木氏の歸依を得、本堂弘安在銘

居る。塔婆の權衡頗る宜しく安定の姿態を保ち、鎌倉時代三重塔婆中の傑作である。

二天門「國寶」八脚門、屋根入母屋造茅葺で、單軒の本檼を用ゐ、和様二手先、支輪小天井を有し、木割雄大、梁上に板墓股を置く。本堂と殆ど同時代の建築にかゝるものである。

寶物には左記のものがある。

一 十二天像 「國寶」 絹本着色

奈良帝室博物館出陳

一 軀

一 藥師如來立像 「國寶」 木造
高さ五尺三寸二分、衣紋の彫法に一本彫の遺風を存して居る。藤原時代の作で、端麗なる面貌と從容たる姿態を有する。

二 天王立像 「國寶」 寄木造

克明な彫法により形態の整つた藤原時代の作である。

一 釋迦如來立像 「國寶」

寄木造、彩色清涼寺式を模した鎌倉時代の作である。

一 不動明王及二童子像 「國寶」

寄木造、彫法整正統一の美を現した藤原時代の作である。

【矢取地藏堂（金臺寺）】近江鐵道豊郷驛の東南約五

の大須彌壇には、その紋所が鏤められてその崇信を思はしめる。また寛元四年三重塔婆建立勸進文や、正應三年の一切經書寫願文の如き、何れも當代互刹としての佛を示すものである。

本堂「國寶」天平大悲閣と稱し七間四方、單層入母屋造屋根檜皮葺で、天台宗特有な佛堂の様式を具し、木割雄大、外觀莊重、須彌壇楯間の金具銘によつて弘安十一年の建立にかゝることが知られ、鎌倉時代に於ける代表的遺構である。

寶物には左記のものがある。

一 阿彌陀如來坐像 「國寶」 木造

木造、高さ四尺六寸三分、來迎形の彌陀で、胎内に「貞應元年十月日始之 嘉祿二年歲次五月卅日奉就座之 大佛師 近江國講師經圓」の墨書銘あり、鎌倉時代の作にかゝる。藤原風の様式を傳へて居る。この像に鎌倉初期製作の銘文の存するのは注意すべき一例である。

一 阿彌陀如來坐像 「國寶」

木造、高さ四尺六寸五分、定印の彌陀で形式の酷似する點から來迎像と同時の作である。

一 軀

一十一面觀音立像 〔國寶〕 一 軀
木造、高さ五尺、藤原時代の特色を示して居る作である。

一不動明王及毘沙門天立像 〔國寶〕 二 軀
二軀ともに右足の柄内側に「建暦元年大藏辛未十一月日願主僧良眞造立之」、左足柄には「嘉暦四年修理」の各墨書銘あり、また不動明王像に「佛師講師五郎阿」、毘沙門天像には「佛師源守永」なる作者銘がある。

一四天王立像 〔國寶〕 木造 四 軀
持國天の足柄に「敬白奉造立四天王内二天右志者爲願主僧頼圓之父母師長當寺最初立建聖靈結緣助成羣法界衆生各々佛果圓滿也故建暦二年大藏壬申八月六日造立始」の墨書銘があり、多聞天にも略々同文の銘がある。他の二天も様式的一致により同時の作であることは疑ない、共に鎌倉初期の貴重な遺作である。

一慈恵大師坐像 〔國寶〕 木造 一 軀
胎内に「弘安元年卯月八日始之同五月造立之志者爲慈父理靈性生極樂一切衆生平等利益奉造立也蓮妙作□」の墨書銘ある鎌倉時代の作である。

一慈恵大師坐像 〔國寶〕 木造 一 軀
顔面内部には「弘安十年正月三日始之 正應元年六月十八日造立之 蓮妙作」の墨書銘があり、且つ胎内膝裏に「慈恵大師六十六體内每卦法花經卷六十六部勸進石志者爲父母法界衆生性

特異の刀法で、一木を以て好く神王の雄姿とその金囊から小牀までの複雑な形態を表出して居る稀有の妙作である。境内は林泉の美があり、晩春石楠花の盛りの折がよい。

【常照庵】 金剛輪寺に屬す、本尊阿彌陀如來坐像〔國寶〕は、木造漆箔高さ四尺五寸、金剛輪寺に藏する貞應元年の墨書銘ある阿彌陀如來坐像と同一作家であると思はれる程極めてよく類似して居る同型の像である。恐らく同一時代の製作に成るものであらう。

【大行社社殿】〔國寶〕金剛輪寺の西に接してあり、本殿は三間社流造、屋根檜皮葺、前面に一間の向拜を附し、幕股の彫刻精巧である。寛正四年の造營と云ひ、室町時代の遺構である。

【豊満神社】〔縣社〕近江鐵道愛知川驛の東南約三軒、豊國村豊満にある。もと小倉源氏平井氏の氏神で、安和二年高野郷豊満岡から現地に遷座し、歴世の尊信が厚かつた。源頼朝がこの社地の竹を採つて旗竿としたと云ひ、その縁故よりして武門の信仰あつく、彦根藩主

生極樂也正應元年九月三日造立之 蓮妙自作(花押)の墨書銘を有して居り、技巧に素人臭い所のある作であるが時代の特色をよく窺はれるものである。

以上の諸像を通じて特に傑出したものはないが、その多数が銘と作と相俟つて一團の興味ある研究材料を提示して居るのは流石にこの古刹の名に反かぬものである。

一不動明王及二童子像 〔國寶〕 木造 三 軀
境内佛堂常照庵安置の本尊で前の諸像と面目を異にし鎌倉彫刻の特色である寫實的な技巧を示した作品である。その裝身具の透彫金物の精妙な技巧は嘆賞すべきものであつて、更にその文様に奈良朝の遺風を傳へて居るのは鎌倉彫刻の他の一面である復古的傾向の一表現である。

一銅磬 〔國寶〕 一面
各部の曲線緊張して最も好き比例を示し、此も鈍重な處がない。浮彫の蓮花孔雀文様の彫法も、古雅愛すべき味がある。貞應元年四月の針書銘は製作銘とも断定し難いが大凡その頃の作品である。

【明壽院】〔天台宗〕俗に松尾の甘茶寺と云ひ、金剛輪寺の本坊である。寺寶の木造大黒天半跏像〔國寶〕は、現存の最も古風なる大黒天像の一遺品で、平安朝初期の

井伊氏は世子繼承に際し當社より旗竿を受け、維新前までこの風が繼續したと云ふ。本殿の前面にある四脚門〔國寶〕は永享三年の建立で屋根入母屋造柿葺、構造手法南二軒にある押立神社大門と同じく、形態や、特殊の趣があるが頗る優美で、室町時代の特色を發揮して居る。

【押立神社】〔縣社〕近江鐵道愛知川驛の東南約五軒、西押立村北菩提寺にある。本殿〔國寶〕は三間社流造、屋根檜皮葺で、前面に一間の向拜を附け、屋根の勾配緩かにして極めて輕妙の趣がある。幕股の彫刻巧妙で建保三年の造營ではあるが後世數度の修理を経て居る。

また本殿の前面に建つて居る大門〔國寶〕は、四脚門で屋根入母屋造檜皮葺、社傳延文二年の造營と云ひ様式略々年代と一致して居る。姿態や、安定を缺いて居るが木割雄健、鎌倉時代末期から室町時代初期の特徴を表はして居る。

【善明寺】〔臨濟宗永源寺派〕押立神社の南半軒、阿彌陀堂の本尊阿彌陀如來坐像〔國寶〕は、木造漆箔高さ九尺、

圓滿な相好に悲愍の情を籠めた藤原時代の作で、江州に於ける如來像中の優品である。また寺には釋迦如來坐像〔國寶〕を有し木造漆箔高さ四尺六寸三分、胎内に長承二年歲次癸丑十月一日御衣木山入佛師河内講師快俊を始め、結縁衆の交名の墨書銘あり、その交名の中に依智秦氏の多いのは本寺所在の土地に鑑み、造立の場所が想像せられ、藤原時代末期の作として時代の特徴を最も顯著に示し、技巧の洗練された作品である。

【春日神社本殿】〔國寶〕近江鐵道愛知川驛の東南約七料、東押立村小八木春日神社の本殿である。三間社流造、屋根檜皮葺前面に一間の向拜を附け、墓股の彫刻優秀で草花、動物を巧みに配して居る。文安元年五月六日の棟札を存し、室町時代中期の建築である。

【百濟寺】〔天台宗〕近江鐵道愛知川驛の東南約九料、角井村百濟寺にある。聖德太子の建立にかゝる古寺で、百濟僧惠聰、道欣、觀勒等住持し、勅願寺となりて七堂伽藍備はり、比叡山延曆寺に屬して寺坊三百を數へたが、明應七年回祿の厄に遭ひ次いで文龜三年兵燹に

延命寺公園は松樹、櫻樹が多い。

【生蓮寺】〔臨濟宗永源寺派〕近江鐵道八日市驛の東南約三〇米、八日市町新地にある。本尊地藏菩薩立像〔國寶〕は藤原時代の様式を具へた優秀な木像である。

【瓦屋寺】〔臨濟宗妙心寺派〕近江鐵道八日市驛の西北約一料半、箕作山の東側山頂の近くにある。聖德太子の開基と傳へ、本尊千手觀音立像〔國寶〕は木造、藤原時代初期の佳作である。俗稱芋觀音と云ひ、痘瘡除けとして古來芋を佛前に供へることが行はれて居る。

【興福寺】〔臨濟宗永源寺派〕近江鐵道八日市驛の東約四料、御園村上にある、近江五智寺と俗稱する。本尊大日如來坐像〔國寶〕は木造藤原時代末期の作にかゝり、また觀音堂に安置する木造聖觀音立像〔國寶〕は造像當時の臺座を完全に具備して居り同じく藤原時代末期の作である。

★【永源寺】〔臨濟宗永源寺派大木山〕近江鐵道八日市驛または八日市鐵道新八日市驛の東約一二料、愛知郡高野村瑞石山の中腹にあり、自動車の便がある。康安元年

罹り大いに衰微した。秀吉の時になつて漸く再興せられ、慶安三年に至り本堂、書院、鐘樓、仁王門等を再建した。東谷に藥師堂、南谷に阿彌陀堂、閻魔堂、西谷に阿彌陀堂、北谷に地藏堂あり、東大門の前に八幡、白鬚及び不動堂あり、西大門の前には日吉劍宮がある。寺寶に絹本着色日吉山王神像〔國寶〕、紺紙金泥妙法蓮華經入黑漆時繪函一合〔國寶〕がある。

【南花澤及北花澤花の木自生地】〔指定天然記念物〕近江鐵道愛知川驛または五箇莊驛から各々東七料、東押立村大字北花澤の島地には、一株の雄木があり、根元の周圍五米、高さ一七米半、目通周圍二米半。約三米の高處にて六本の太い枝に分かれて居る。また附近南花澤の村社八幡神社境内にも一株の雄木があり、目通周圍三米半、上部は二本の太い枝に分かれて居る。

【八日市町】近江鐵道八日市驛、八日市鐵道新八日市驛所在地。古くは小脇の八日市と呼ばれ、毎月八日の日に市を開いたが、今は八の日の外二、五の日にも市が立つ。主なる工産物は絹紬である。町の西端にある

近江國守佐々木氏頼、入元求法の僧寂室（元光）禪師を深く尊信し、林壑幽邃のこの地に伽藍を建て、禪師を請じて開山とした。禪師は公武の歸依を得、鎌倉管領足利基氏の如きも、遙にその提撕を受けた。貞治六年七十八歳を以て示寂し、應安二年勅して圓應禪師の諡號を賜はり、昭和三年正燈國師の徽號を賜はつた。寺は明應元年及び永祿六年兩度の兵燹に遭つて以來衰微したが、その後寛永年間、一絲和尚（佛頂國師）入山して法燈再び輝き、後水尾天皇の叡信し給ふこと厚く、中宮東福門院諸堂を再營し、また彦根藩主井伊直澄をして當寺の外護たらしめ、山門その他の造營寄進あり、昔時の寺運を挽回した。總門を入りて山門を潜れば大方丈あり、本尊世繼觀音菩薩、釋迦如來、佛頂國師の眞像を安置し、方丈の右手に法堂、開山堂、（大寂塔）あり、開山堂には塑造寂室和尚坐像〔國寶〕を安置してある。その他禪堂、圓應禪師の塔庵合空臺、經堂等がある。寺寶に紙本墨書の寂室和尚遺誡一幅〔國寶〕、紙本墨書寂室元光消息一幅〔國寶〕、紙本墨書寂室元

光墨蹟一幅〔國寶〕その他がある。

寺は愛知川の上流右岸にある斷崖上の高地に位し、象鼻山を負ひ、山中に自生せる多數のやまもみぢの外種々の紅葉樹があつて、秋季錦繡を織り、山麓に多い赤松の濃綠色と相映じて彩色更に鮮美、紅葉の勝地として夙に世に知られて居る。その全景を賞するには、境内の入口、愛知川に架せる且渡橋を渡りて川の左岸即ち南方の山上村大字相谷に至り、川を隔て、望むがよい。河岸及び山門前にも楓樹が多い、觀賞の好季は十一月中旬。

【慈眼寺】〔曹洞宗〕近江鐵道長谷野驛の東約六杆半、玉緒村瓜生津にある。本尊聖觀世音立像〔國寶〕は銅造、高さ一尺三寸三分、羯磨作と傳へ、臺座も共に鑄出した三枚葺蓮花、反花は胡桃形をなし、様式手法奈良時代の特色を示して居る。その銅造であるのはこの地方に珍らしい。

【石塔寺三層塔婆】〔國寶〕近江鐵道櫻川驛の東約三杆、櫻川村石塔にある。寺は聖德太子の建立と傳へ、後廢

村合戸にある。本尊阿彌陀如來坐像〔國寶〕は木造、高さ二尺八寸八分、藤原時代の作である。

【竹田神社神像】〔國寶〕近江鐵道朝日野驛の西北約半杆、朝日野村鑄物師竹田神社の神像で男神坐像二軀あり、何れも木造である。そのうちの一軀は社傳蒲生稻寸三鷹像と云ひ、唐冠を戴き、廣袖の衣服を着し、兩手を膝の側に置いて居る。他の一軀は方形の壺冠を戴き詰襟の下着を着し、拱手して居る。二軀ともに藤原時代末期から鎌倉時代初期の製作である。

【高木神社】近江鐵道朝日野驛の西北約一杆、朝日野村岡本にある。本殿〔國寶〕は三間社流造、屋根檜皮葺で永正九年の建立である。境内の日吉神社社殿〔國寶〕は同じく三間社流造、檜皮葺、本殿と同じく永正の建築である。

【梵釋寺】〔黃葉宗〕近江鐵道朝日野驛の北約一杆、朝日野村岡本にある。本尊觀世音坐像〔國寶〕は木造、高さ三尺八寸、寶髻は螺形をなし高く天冠臺をつけ、天衣は兩肩を蔽ひ定印を結び、頗る異相のもので、製作年

類したのを江戸時代に及んで比叡山行賢僧正これを再興し、徳川家光が寺領を寄せた事がある。塔は本堂裏手の丘陵上に建ち、古來阿育王塔と稱せられて有名である。石造三重の塔婆で、徑二米餘の扁平なる自然石の基礎上に建ち、總高約八米、基礎から最上屋蓋の頂まで約六米あり、相輪の部分は後補にかゝる。塔は一條天皇の寛弘三年上中から發見したと傳へ、寺名もこれから起つたものと云ふ。形式支那六朝頃の塔婆の様式を備へ、屋根の軒の出多く、軒の端縁の反り等飛鳥時代の木造塔婆のそれと類似し、また朝鮮扶餘の大唐平百濟塔に髣髴たるものがある。この塔は蓋し飛鳥時代の建立にかゝり、我が國に於ける最古の塔の一式を示すものであらう。

【法光寺】〔曹洞宗〕近江鐵道櫻川驛の東約五杆、西櫻谷村北脇にある。本寺藥師如來立像〔國寶〕は木造で體軀肥滿し、面貌豐滿、眼の切れ特に長く、藤原時代の作であらう。

【誓安寺】〔淨土宗〕近江鐵道櫻川驛の西一杆半、朝日野

代は彫法などから見て貞觀時代末期のものであらう。

【法雲寺】〔天台宗〕近江鐵道朝日野驛の西北約一杆、朝日野村上麻生にある。本尊帝釋天立像〔國寶〕は木造、高さ五尺二寸八分、平安朝初期の特色を有して居る。

【金剛定寺】〔天台宗〕近江鐵道朝日野驛の西南約二杆、北比都佐村中山にある。寺寶の聖觀音立像〔國寶〕は木造、高さ四尺七寸三分、面相雄偉の趣あり、平安時代初期の作、不動明王及び二童子立像〔國寶〕は木造で、中尊は高さ五尺五寸五分、三軀とも藤原時代の作である。

【光明院】〔淨土宗〕近江鐵道朝日野驛の西南約三杆、北比都佐村中山にある。本尊の阿彌陀如來坐像〔國寶〕は木造、高さ二尺二寸、玉眼嵌入、總身本金梨地蒔繪を施した像で、袈裟には蓮花唐草、七寶、蜀紅花、菱雷紋、沙綾形、散雲模様等を蒔繪で描いてあり、室町時代の作である。

【日野町】近江鐵道日野驛の西二杆、近江商人の出身地として知られ、眞宗の巨刹多く、感應丸、實母散、

日野榮等の特産がある。町の西部雲雀野に蒲生氏郷の銅像があり、隣村西大路村に蒲生氏居城の址がある。

【比都佐神社石造寶篋印塔】「國寶」近江鐵道日野驛の東南約一料、北比都佐村十禪寺にある。神社は延喜式内の古社である。石造寶篋印塔は高さ二米、臺座、塔身、蓋寶珠及び露盤を悉く完存し、塔身の四面に胎藏界の四佛の種子を刻し、各々下に蓮花座形等を陰刻し、臺座は四面各々格狭間のうちに双孔雀、蓮花形等を陽刻して居る。塔身には左記の銘文がある。

奉造立寶篋印石塔一基 奉造立水精塔婆二基也 奉書寫如法如說 妙法蓮華經三部石塔內納之 右志者爲奉訪慈父十三週之忌辰也 然則以弟子等作業之善苗偏資先考得脫之福田 比豆佐里村大權現 仍奉造如件 嘉元二年甲辰十二月二日

臺座には願主「一 道弘法 正六位上」一 久云云の銘文があり、また天和三年氏子建立の追記銘もある。この塔は嘉永二年の造立にかゝり、更に天和三年に補修再興を経たものである。

【金剛寺】「臨濟宗永源寺派」近江鐵道日野驛の東北約二にかゝり國寶に指定されて居る。

【毘沙門堂十一面觀音立像】「國寶」近江鐵道日野驛の東北約三料、日野町松尾毘沙門堂内の觀音堂に安置して居る本尊である。木造、高さ三尺五寸、藤原時代の作である。

【西明寺】「臨濟宗永源寺派」近江鐵道日野驛の東約一〇料、西大路村にある。本尊十一面觀音立像「國寶」は木造、高さ三尺九寸五分、藤原時代の様式を示したものである。

【西大路の左巻榎】「指定天然記念物」近江鐵道日野驛の東九料、西大路村大字熊野にある。種子の外殻は長楕圓形を呈し、長さ四厘五、約五十本の縦線を現し、總べて左巻をなすものと、悉く右巻をなすものとあつて、各々個體によつて方向を異にする。左巻、右巻は一體の主軸より見た巻方を云ふ植物學上の用語で、普通の場合に於ける左巻、右巻とはその方向が相反する。

【綿向神社】近江鐵道日野驛の東三料、自動車の便がある。天徳日命外二神を祀り、開運の神、蠶業の祖神

料、日野町大谷にある。本尊聖觀音立像「國寶」は木造、高さ三尺五寸、鎌倉時代初期の作である。

【正明寺】「黃檗宗」近江鐵道日野驛の東北約三料、日野町松尾にある。聖德太子の開基と云ひ、天台宗の大寺であつたが、織田信長の頃廢頽した。その後土豪頼宮氏再興、一絲和尚これを助けて朝廷に奏し、正保二年後水尾天皇より仙洞の御殿を賜はりて本堂を再建せしめ、黄檗山の龍溪禪師中興開山となつた。本堂「國寶」は桁行五間、梁間五間、單層屋根寄棟造、檜皮葺で、その材料はよく精選せられ、構造様式竝に各處に裝した金具の文様から見れば、慶長御造營當時の宮闕の一殿舎を移したもので、移建の際に佛殿に適する様平面を變更して材料を補加したものである。本尊千手觀音及び脇侍不動明王、毘沙門天立像三軀は何れも木造で、本尊は高さ三尺九寸二分、不動明王像は高さ二尺二寸八分、鳥形の光背を負ひ、毘沙門天像は高さ二尺一寸三分、何れも玉眼を嵌入し、單に眉目鬚髯を描くのみで、木地を露出して居る、三軀とも室町時代初期の作

として尊信せられて居る。

【綿向山】近江鐵道日野驛から山麓西大路まで東五料、自動車の便がある。海拔二、二〇米、登攀五料。山頂に綿向神社の奥宮があり、天徳日命を祀る。山頂から遠く伊勢海が望まれる。山腹は藥草珍樹に富み伊吹山とともに植物研究家の寶庫とせられて居る。

【鎌掛谷石楠花群落地】「指定天然記念物」近江鐵道日野驛の東南約六料、蒲生郡鎌掛村鎌掛谷にあり、山麓まで自動車の便がある。恥斧岨川の上流一帯海拔三〇米から四〇米に及ぶ懸崖に繁茂し、その數五萬株に及ぶと云ふ。樹幹の高さは普通二米内外であるが、中には高さ四米に及び、基幹から十數本の小幹を出し、基幹の直徑一六厘餘、株張八疊敷にも擴がつて居るものもあり、四月下旬から五月中旬にかけて、満山の石楠花妍を競りて美觀を呈する。

【安樂寺】「古義真言宗」近江鐵道日野驛の南約五料、南比都佐村下駒月にあり、自動車の便がある。寺寶の藥師如來坐像「國寶」は本尊で木造高さ三尺、面相優麗、

京都米原間

彫法精巧な藤原時代の佳作。阿彌陀如來坐像〔國寶〕は木造極彩色を施し、高さ四尺七寸五分、臺座また極彩色を施し、光背は飛天光に薄肉彫化佛を彫出して居り、臺座、光背を具備した藤原時代の優秀な作で、その光背には「□□阿彌陀如來御修理 永仁四年參月上旬」なる墨書の修理銘がある。増長天立像〔國寶〕は木造で藤原時代の作である。

彦根に戻つて尙本線を進めばやがて右窓には佐和山麓の大洞辨天堂や井伊神社が見え、左窓には大洞内湖が間近に眺められる。右窓にはやがて摺針峠が見え、北陸本線の分岐點なる米原六軒に着く。

京都烏取間

山陰本線により京都驛を出れば、間もなく東海道本道を西に見送つて北に折れ、市街地を走り丹波口二軒、二條二軒二を過ぎる。二條は京都驛を起點とする省營自動車京鶴線の連絡驛である。

京鶴線

京都 二條 周山 鶴ヶ岡間 六八軒九
周山 井戸間 八軒四

省營自動車京鶴線は京都驛を始發驛として四條大宮を経て二條で山陰本線に連絡し、北野天満宮前を過ぎて洛西の地に入り、等持院、龍安寺、妙心寺、仁和寺等の名刹の間を縫ひ、平岡八幡を経て三尾地方を過ぐ。神護寺の朱の伽藍は翠の森に隠れて見えぬが、西明寺、高山寺の物寂びた姿は車窓から見られる。清瀧川の清流を右に左に眺めつゝ、磨丸太で名高い中川村を經、杉坂、小野郷を過ぎ、山城丹波の界なる笠峠を

京都烏取間

四方より花吹き入れて鴉の湖
芭蕉
春風や湖を隔て、比良の雪
子規
三井寺の鐘より霞む湖水かな
蓼太
春寒き南近江や鮎なます
子規
行く春を近江の人とをしみける
芭蕉
稻妻や鼻の先なる竹生島
普安
三井寺や日は午にせまる若楓
蕪村
石山の石にも蔦のうら表
乙洲
涼しや我が舟一つ鴉の湖
子規
八景の中吹きぬくや秋の風
惟然
雁啼くや舟に魚焼く琵琶湖上
蕪村
幾人か時雨かけぬく瀧田の橋
丈草

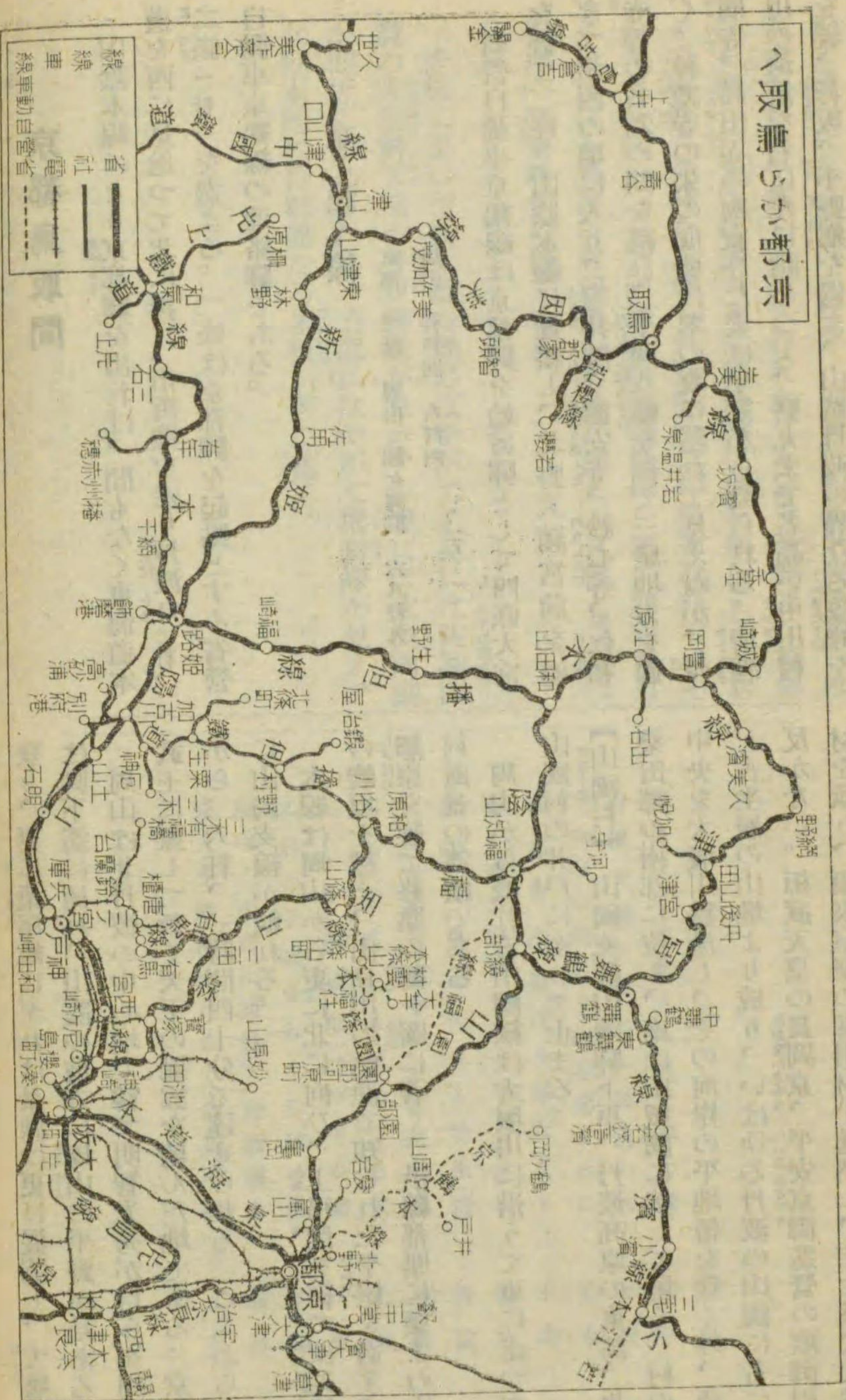
登り、更に栗尾峠に至れば景観は更に展開し、大堰川は脚下遙に流れ、山霞の彼方に周山の平野が見える。

周山は北丹波の中心地で嘗て明智光秀が自らを周の武王に擬して暫く天下の風雲を望んだ地である。京都から三六軒、一時間四十分で達せられる。こゝから右に山國支線が岐れる。

本線は周山から更に北に向ひ、上弓削を経て深見峠の峻坂を越え、由良川の鮎漁で知られた平屋を過ぎ、静原を経て終點の鶴ヶ岡に著く。沿線都塵に染まぬ山村風景の連続である。

周山から岐れる山國線は大堰川に沿うて東に走つて山國村の井戸に至つて止まる。

【山國村】山國支線山國驛下車、丹波高原の東部、北桑田郡の南部に位し、南は山城國に接して居る。村の中央を大堰川貫流し、その河岸の平地帯を除く外、殆ど古生層の山地より成り、いはゆる丹波の山國に名に反かない。桓武天皇の長岡京、平安京御造營の際御用材を承り、爾來皇室の御用材を進納し、また歴代大嘗



祭に際し、その悠紀、主基兩殿御造營の用材を上納、時には主基の齋田となり、毎歳大堰川の鮎を献上するなど、古來皇室との關係が深かつた。明治維新に際し山國勤王隊を組織し、遠く奥羽地方まで忠戦の功を樹てたことは世に知られ、その勇士の英靈を分祀する山國護國神社が辻薬師山の中腹にある。

この山國隊の行装は京都平安神宮の時代祭の維新勤王隊にその面影を偲ぶべく、陣羽織を著、烏毛を被り、脚絆草鞋がけにて、一種特徴ある笛太鼓の軍樂隊を先頭とし、その勇ましい軍樂の調律に歩調を合せて、凜然行進する状は一般の耳目に著しく感ぜらる。

【山國神社】〔府社〕山國支線山國驛下車、山國村鳥居にあり、大己貴命を祀る。平安奠都の際山國郷を御柚御御料地と定められ、次いで木工寮修理職の官人を當社に遣はして本殿を造營せられたと云ふ。今の社殿は江戸時代のものである。

【常照寺の九重櫻】〔指定天然記念物〕 山國支線井戸驛下車、山國村井戸にある常照寺境内開山堂前の廣庭にあり。

る。紅枝垂櫻で根廻り約四米四、垂枝長く東西に延び、特に西方の枝は殆ど水平に伸び、その先端地に接して樹形の美を成して居る。花序は三乃至四花より成りて繖形を呈し、花瓣は殆ど圓形紅色で花時は葉が殆ど出ない。紅枝垂櫻の名木として見るべきものである。また本樹の北の方近くに左近の櫻、西の方庫裡前に車返と稱する老櫻がある。

寺は光嚴上皇の御創建で、またこゝに崩御あらせられ、後丘に山國陵があり、また後花園天皇の後山國陵もある。

【福德寺】〔曹洞宗〕京鶴本線福德寺前下車、弓削村下中にある。和銅年中行基の開基と傳ふ。本尊薬師如来坐像は木造で薬師堂に安置せられ、同じく木彫の持國天及び增長天の立像と共に國寶に指定されて居る。境内に霞櫻と云ふ枝垂の老櫻があり、花時美觀を呈す。

【中道寺】〔眞言宗大覺寺派〕京鶴本線弓削村役場前下車、弓削村上中にある。木造の增長天立像〔國寶〕を有する。

二條を出るとやがて西に折れて花園二軒七、嵯峨三軒四を経て、保津川の左岸に出で、左窓嵐峽の勝景を眺めながら小倉山麓を繞つて走る。川を渡りて保津峽四軒を過ぎて尙右岸を進めば、右窓近く保津川の絶勝急湍に棹さす川下りの遊船が見下され、また眼を轉じて天を仰げば北山の西涯愛宕山が突兀として咫尺の近きに聳えて居る。嵐峽遊船の乗船場山本濱を望むあたりからは水田の間を走り、馬堀五軒六を経て龜岡一軒九に至る。龜岡からは西北に向ひ田園の中を進み並河三軒、千代川二軒三、八木二軒七、吉富四軒三を過ぎて園部一軒七に著く。園部は省營自動車園篠線、同園福線の分岐點である。

★【保津川下り】 龜岡驛の東北五〇米、保津橋の南側橋畔に乗船場がある。いはゆる保津川下りはこゝからするのが普通であるが、別にこゝから約二軒の下流右岸篠村山本濱にも發船場がある。山本濱へは龜岡驛からは東三軒、京都から自動車の便もある。何れによる

も所要時間は約一時間半、料金は貸切十八圓（定員十人）乗合一人壹圓七十錢であるが、増水雨天の際は相當増賃金を要する。

保津濱乗船場から嵐山の麓千鳥ヶ淵まで約一二軒の間、保津川は老の坂山脈を横断し、古生層の堅固な角岩や粘板岩を切斷するのであるから、水流は阻まれて瀬となり淵と化し、且つV字形の兩岸絶壁削立し、稀に見る峽谷の奇勝をなして居る。河底の傾斜が急なるため水勢速きこと矢の如く壯絶快絶、わけても新緑の候、躑躅の花の沿岸を紅に染める時、または秋季紅葉の折の美観は、一層この川下りに興を添へるものがある。保津橋際から下ると約二軒の間は平地を下り、右岸に山本濱、左岸に請田神社を望むあたりから溪間に入る。宮の下は最初の急湍で、水流は急に左折し、扁舟は忽ち幽邃の峽谷に落ち、やがて金岐の瀬にかゝる。こゝは溪中第一の難所とされ、水底の岩盤に舟脚を磨つて急轉直下する。小鮎ヶ瀧の激湍を通れば、河床廣き大坪の緩流に出で、南に進み、間もなく獅子ヶ口の

大曲流を経て北に向ふ。更に廻り淵に至つて水流やゝ緩やかとなり、こゝに始めて水聲靜に櫓の音が耳にされる。尙煮ヶ淵、清水瀬、がりが瀬、朝日瀬等の急湍去來して徳住の瀬を過ぎると、右岸のかもめ谷から落ちる潺湲たる細流が見える。それが丹波山城の國境で、舟はこれから山城國に入り東北に向うて下る。行手は愛宕の峯を仰いで進み、黒瀬を通る頃右岸には護岸壁の聳立する上に松尾山信號場が見え、出合に至ると左岸北より流下して本流に注ぐ清瀧川と合ふ。書物岩はその合流する所にあり、この邊を猿飛の瀬と云ふ。それより蓮花岩を見、山陰線線路の橋下を潜り、南に向うて下れば即ち嵐峽の勝地に入るのである。武士ヶ淵、大瀬を最後の急湍として、舟は大悲閣の下嵐山温泉旅館横の著船場に停る。

【穴太寺】 「天台宗」 龜岡驛の西南四軒、曾我部村穴太にあり、曆應年中佛國師の草創に係る。圓山派の祖圓山應舉は享保十八年五月一日この地に生れ、九歳の時その父この寺の住持盤山に託して僧としたが、畫に親しみ經卷を習はぬので、盤山、父母を説きて畫道に入らしめた。天明八年故郷に歸り、祖先及び兩親菩提の爲にこの寺本堂の襖等に描いた。これがこの寺の應舉寺と呼ばれる所以である。

應舉が描いた紙本淡彩波濤圖（二曲屏一雙廿八幅）、同群仙圖（十二幅）、紙本墨畫山水圖（十三幅）は何れも國寶に指定せられ、今裝幀掛幅として東京帝室博物館に寄託中である。

【神藏寺】 「臨濟宗妙心寺派」 龜岡驛の西南四軒、藤田野村

佐伯院の芝にあり、自動車の便がある。本尊薬師如來坐像〔國寶〕は藤原末期の木像である。

【葛田野村董青石假品】〔指定天然記念物〕龜岡驛の西約五軒、葛田野村篠山街道に沿ふ櫻天神社附近にあり、花崗岩と古生層の粘板岩が觸接して形成されたもので、六角柱状の三連品をなし、櫻石の名を與へられて居る。

【國分寺】〔淨土宗〕龜岡驛の北三軒、千歳村國分〔あり〕自動車の便がある。天平時代に草創された國分寺の後身で、本堂、庫裡、鐘樓がある。本尊の薬師如來坐像〔國寶〕は木造で高さ二尺八寸五分、後世の拙悪な修理のため原形を損して居るが、藤原時代の作である。

【丹波國分寺址】〔指定史蹟〕國分寺境内にある。山門を入りて右方に土壇が遺存して礎石を存し、これと相對して左方にも土壇が遺つて居て、東塔及び西塔址と推せられる。この北にある本堂、庫裡、鐘樓の附近に二、三の礎石が残存して居るのは塔址及び金堂址の礎石の一部である。附近に土壘址があり、また遺瓦が多く堆積して居る。寺址の東北方に當つて舊國分寺の鎮守で

【寶林寺】〔臨濟宗〕八木驛の西南約五軒、宮前村神前にある。

九重石塔婆〔國寶〕寺傳によると、もと同村寶積寺にあつたのを同寺廢滅後當寺に移したものである。全形よく整ひ權衡美はしく、初層の四頭に佛像を刻し、基壇に左の銘刻がある。

敬白奉造立供養石塔一基 右志者爲過去二親成
等正覺乃至法界平等利益 正應五年壬辰三月十六日
願主比丘尼信智比丘尼妙信 沙彌佛念阿闍梨信應

寶物には左記のものがある。

一 薬師如來坐像

〔國寶〕 木造、高さ四尺藤原末期の作であるが、手は後補である。

一 阿彌陀如來坐像

〔國寶〕 木造、高さ四尺四寸三分。藤原末期の作である。

一 釋迦如來坐像

〔國寶〕 木造、高さ四尺六寸五分

園部驛

京都府船井郡園部町小山

△省營自動車園篠線

園部 篠山間 三六軒

△省營自動車園福線

園部 福知山間 五一軒

京都鳥取間

あつたと思はれる八幡神社址がある。

【出雲神社】〔國幣神社〕龜岡驛の北五軒八、千歳村千歳にある。延喜式には名神大社に列せられた古社で、丹波國一の宮と稱し、大國主命と三穗津姫命が祀られて居る。神紋は龜甲に劍花菱。例祭は十二月二十一日。

本殿〔國寶〕三間社流造、屋根檜皮葺で、社傳によると貞和二年足利尊氏が修造したものと云ふ。その構造形式よくこの時代に相當し、手法雄大にして内部の彫刻等頗る見るべきものがあるが、後世の修理あるは惜しむべきである。

【極樂寺】〔淨土宗〕出雲神社に接してある。當寺は出雲神社の神宮寺で、十一面觀音立像〔國寶〕一軀を藏する。檜材の一木彫で高さ約五尺、平安時代の作である。

【普濟寺】〔曹洞宗〕龜岡驛の西一五軒、東本梅村若森にある。佛殿〔國寶〕即ち觀音堂は寺傳に延文二年足利尊氏の建立と云ふ。方三間單層、入母屋造、茅葺で、規模大ならざれども純然たる禪宗建築に屬し、細部の構造手法よく室町時代の特色を發揮して居る。

▽乗合自動車 琉璃溪行 佐切行 園部町内行

【園部天満宮】〔府社〕園部驛の西北一軒半、園部町大字園部區天神山にあり、菅原道真を祀る。拜殿は瓦葺の舞殿風の造、本殿は檜皮葺流造で古雅である、社殿の正面に鳥居を隔て、社司武部氏の社宅がある。園部は世々菅原氏の知行所、菅公左遷後は武部治定が道眞の子慶能を養育し、自ら公の木像を刻み邸内に小祠を建て、奉仕したのがこの社の起りと傳へ、附近に治定を祀つた小祠並に治定の墓などがある。

【春日神社】園部驛の東北四軒、川邊村字高屋にあり、自動車の便がある。祭神は健甕豆智命、伊波比主命、天之子八根命及び比賣神の四神で、大同二年の創立と傳ふ。本殿〔國寶〕は吉野朝時代末頃の建築と推定され、一間社流造、檜皮葺瓦棟、斗拱和様出三斗組、軒二重檼、正面に木階あり、三方に縁あり、組勾欄を巡らしてあるが、現在鞘堂を以て建物全部を蔽うて居る。

園 篠 線

園部 篠山間 三六軒

省營自動車園篠線は園部から西に向ひ篠山に至りて山陰本線と福知山線とを連絡させて居る。

園部驛を出て園部町内を通り、船坂、摩氣神社前、本梅口、琉瑠溪口を過ぎ、天引峠を越えて兵庫縣多紀郡に入り、一路西に向つて福住、丹波日置を経て篠山に達する。所要時間一時間半。(篠山驛参照)

【九品寺】「眞言宗御室派」船坂驛下車、摩氣村船坂にある。寺傳に弘法大師の開基と云ひ、後白河天皇の勅願寺となつた寺であるが、享祿永正の間に屢々火災の厄に遭ひ、現存の古建築は仁王門「國寶」あるのみである。三間一戸の樓門にして屋根四注造、葺葺、軒は一重、繁樺、上層の桁組は二手先で腰に三斗出組を用ゐ、室町時代の特徴を示せる建築である。

【摩氣神社】「府社」摩氣神社前驛下車、摩氣村竹井にある。嵯峨天皇の弘仁二年僧空海の勸請にかゝると云ひ、

交りて風致を添へ、幽邃清雅の趣を加へて居る。旅館待仙亭。

園 福 線

園部町 福知山間 五一軒

省營自動車園福線は園部から西北に向ふ山陰道を走り福知山に至りて更に山陰本線、福知山線に連絡する線である。この街道は古のいはゆる京街道で、その沿道一帯は往古丹波道主命によつて統治され、夙く文化の開けた地方である。

園部を出るとやがて觀音峠を越え、水戸、須知、琴瀧口、豊田、九手神社前、常照寺下、檜山、阪井、梅田、菟原、細見千束、生野ノ里、上長田、養老水公園、土師、一宮神社前などを経て福知山に達する。沿道には湧出觀音、琴瀧、玉雲寺、蒲生野の躑躅、子安權現、和泉式部の臺、來光院、鹿子の木、養老水公園、孝子蘆田爲之助碑などがある。

【九手神社】九手神社前驛下車、高原村豊田にある。

大饌氣津彦神を祀り、摩氣郷の總社であつた。白河天皇行幸あり、船井第一摩氣大社の社號を賜はつた。元和五年小出氏封を園部に移してから領主代々の祈願所となり、社殿の再建修造が行はれた。例祭十月十四日。

【琉瑠溪】「指定名勝」琉瑠溪口驛下口、船井郡西本梅村大河内にある。龜岡驛からは溪口まで西約二〇軒、自動車の方がある。丹波高原の一隅に聳える深山(海拔九二米)の山麓に源を發する新江川が大河内の平野に出んとして高原の斜面を急激に奔下するに因りて成れる浸蝕谷で、溪中は急湍、飛瀑多く勝景八軒餘に互つて居る。地質は古生層に屬し、溪の最上頭に巨大な花崗岩の岩磐が溪間に露出して居るものは會仙巖と呼ばれ、その下數百米には水晶簾と呼ばれる小瀑あり、この瀑を境として下流は石英粗面岩の溪谷で、双龍淵、滯凍泉、滑斜淵、玉走盤の絶景を作り、溪谷は一旦榎の沖積地によつて中斷せられるが地藏岩の岩峰に至つて千秋潭、鳴瀧の勝境をなし、溪谷には潤葉樹に松樹

大山咋命を祭神とし、京都松尾神社の分社で、長元二年九月はじめて造立せられた。

本殿「國寶」三間社流造、明應七年の再建で屋根は檜皮葺、棟札に明應七年三月三日上棟大工波々泊部左衛門宗次の銘がある。細部の彫刻、桁組、高欄等に至るまで、すべて室町時代の特徴を示して居る。

【生野の里】生野の里驛下車、上六人部村歌野附近を云ふ。古の山陰街道に當り、延喜式には驛名は見えないが、古驛のあつた處だと云ふ。式内生野神社は同村下三俣驛附近に鎮座、老樹鬱蒼と茂つて居る。小式部内侍に「大江山いくの、道の遠ければまだふみも見ず天の橋立」と歌はれたのはこの地である。

園部から北に向ひ曲折して流る、大堰川を四度渡つて殿田七軒七を經、西北に折れて胡麻五軒二に至る。この附近は胡麻原と云ひ、胡麻驛の西一軒半餘の地は、太平洋と日本海の分水界をなして居る。高屋川を渡つて下山四軒八を過ぎ、高屋川の下流和知川を渡りて和

知六軒七に着く。このあたりから和知川(由良川)の左岸に沿うて西進し山家一〇軒四を経て綾部七軒二に至る。綾部は舞鶴線の分岐点である。

【大福光寺】(眞言宗御室派)下山驛の東北一軒、高原村下山、蔵にある。俗に「蔵毘沙門様」と云ひ、山城鞍馬寺の開基鑑禎上人が延暦年間に草創した寺と傳へ、もと後方の丘上にあつたのを、嘉暦年間足利尊氏大檀越となりて今の地に堂塔を再建した。

本堂(國寶)毘沙門堂とも云ふ。方五間、單層、屋根入母屋造、檜皮葺で、軒は二重繁樺、枘組は和様三斗出組、内陣の隨所に極彩色を施し、嘉暦二年十月四日再建の棟札がある。

多寶塔婆(國寶)方三間、屋根檜皮葺軒二重繁樺、枘組は初層は三斗出組であるが、上層は和様四手先の詰組を用ひ、幕股に花卉、鳳凰の彫刻がある。屋頂に青銅製の相輪を冠し、内部は鏡天井で、中央の須彌壇は製作優秀にして、胎藏界大日如來の坐像を安置して居る。細部の様式手法から見ても、本堂と共に鎌倉時代の

【養蠶神社】綾部町一本木にあり、熊野神社と合祀されて居る。例祭は七月二十八日、水無月祭と云ひ、由良川に多数の色燈を流し美觀を現す。

【並松遊船場】綾部驛の東一軒三、自動車の便がある和知川の流水清く鮎多きところ、漁船、遊船、貸ボート、料亭の設あり、京阪神方面から鮎漁に出かける人が多い。

【楞嚴寺】(眞言宗高野派)綾部驛の西北五軒、以久田村館にある。天平勝寶八年行基の開創と傳へられ、現時の堂宇は寛文中領主九鬼氏の建立である。寺寶中に絹本著色不動明王像(國寶)がある。中央不動の立像左方三童子を配し、右方上部俱利伽羅龍劍及び瀧を描き、不動下部に波濤を示す、鎌倉末期の製作と推定される。

【質志鍾乳洞】綾部驛の東南一二軒、三宮村質志にある。洞は四洞に分れ延長三〇米、鍾乳石及び石筍多く、黄金柱と稱さるゝは最大周二米、高さ五米に及んで居る。

遺構に屬して居る。尙本寺には建武四年の制札、應安永和、永正等の年號銘ある懸佛等を存し、また寺寶に方丈記(國寶)一卷がある。

【光明寺】(眞言宗醍醐派)山家驛の東北約二二軒、奥上林村にある。仁王門(國寶)は三間一戸の樓門で、屋根入母屋造、枋板葺、軒は二重繁樺、斗拱は三手先、支輪付、内部は小組天井で内外共丹塗、構造形式より判ずると鎌倉時代後期の建築である。

綾部驛 京都府何鹿郡綾部町

▽舞鶴線 綾部、東舞鶴間 二六軒四

▽乗合自動車 福知山行 山家經由河原行 大原行 上杉行 志賀郷行 有路行 吉美經由物部行

【綾部町】九鬼氏の舊城下、由良川に沿ふ。交通の要衝である。養蠶製絲の業が行はれ、農林省蠶絲試驗場支場、京都府繭檢定所、京都府蠶業試驗場、京都府蠶業取締所支部、府立蠶業學校、製絲會社等あり、蠶都の稱がある。若宮神社は仁德天皇を祀り、九鬼氏の崇敬を受けた。人口一萬五千。

舞鶴線

綾部 東舞鶴間 二六軒四

この線は山陰本線綾部から分岐して北に向ひ、舞鶴に至つて宮津線を左に岐ち、東舞鶴に至つて小濱線と接續する。京都からはこの線を通じて敦賀及び城崎に至る直通列車があり、大阪からもこの線を通じて敦賀への直通列車がある。

綾部を出るとやがて由良川を渡りて北に折れ、上り勾配を進みて梅迫八軒を過ぎ、丹波丹後兩國の境をなして東西に長く蟠る彌仙山塊を縦斷する。梅迫を出ると間もなく下り勾配となり丹後に入り、中筋信號場を経て舞鶴一二軒三に著く。舞鶴は宮津線の分岐点であり、また海舞鶴に至る一軒八の支線がある。

【安國寺】(臨濟宗東福寺派)梅迫驛の西一軒、東八田村安國寺にある。初め光福寺と云ひ、上杉氏の菩提寺で、足利尊氏の生母上杉氏はこの寺の子安地藏に祈りて尊氏を生んだと云ふ。曆應年中足利直義が諸國に安國寺

を設くるやこの寺を當國のそれに充てた。鎌倉建長寺の天庵が開基である。境内に尊氏初湯の井、遺髪を埋めた墓石がある。

寶物には上杉氏關係の文書及び左記のものがある。

一 天庵和尚入寺山門録 「國寶」 絹本着色 一卷

傳覽峯筆

地藏菩薩半跏像 「國寶」 木 造 一 軀

高さ約六尺、右足を踏み下げ右手に錫杖左手に寶珠を持つて居る。藤原末期。

【岩王寺】「眞言宗高野派」梅迫驛の西北二軒、西八田村七百石にある。寺寶に髹漆卓「國寶」一脚があり、裏面に永享四天王子卯月吉日奉施入の銘がある。

舞鶴驛 京都府舞鶴市伊佐津

▽宮 津 線 舞鶴、豐岡間 八四軒

▽乗合自動車 東舞鶴行、宮津行、河守行

【舞鶴市】舞鶴灣の西南岸に位し、伊佐津川は東部を高野川は中部を流れる。この地はもと田邊と云ひ、牧野氏の城下であつたが、明治二年その城名に基づいて

まれ、鳥丸光廣を御使として城に向はしめられた。かくて幽齋は古今相傳の筐に歌一首を添へ、源氏物語抄と共に皇弟智仁親王に獻じた。後牧野氏城主となつて幽齋の添歌

古も今もかはらぬ世の中に心の種をのこす言の葉に因んで心種園と名づけて保存することとした。今の松は當時のものではないが、その邊が古今傳授の址だと云ふ。近年別に心種園碑も建てられた。

【圓隆寺】「眞言宗」舞鶴驛の西約半軒、舞鶴市引土にある。本堂は五間五面入母屋造、椽瓦葺、天明年間の建築である。本尊阿彌陀如來坐像「國寶」は高さ約七尺、藤原末期の作である。

尚須彌壇上には藥師如來坐像、釋迦如來坐像、不動明王立像及び毘沙門天立像が安置されて居る、何れも國寶で藤原時代の作であるが、毘沙門天像はその作雄大にして胎内に「佛師法眼 幸祐永仁第六戊戌月元三日 圓隆寺」の墨書銘がある。

【朝代神社】「府社」舞鶴驛の西一軒、舞鶴山の中腹にあ

舞鶴と改めた。舞鶴港は内地航路の船舶が自由に碇泊するを得、日本海諸港中、京阪神へ最近距離に位するものである。町の東北部伊佐津川の右岸にある吉原は江戸時代から漁業を以て聞え、水産物が盛に集散される。人口三萬五千。附近一帯は要塞地帯に屬するか、撮影その他に注意を要する。

▽旅 館 清和樓、霞月樓、茶又、吐月樓、山喜

▽名 産 鯉、鰻、和良、袋烏賊

【舞鶴公園】舞鶴驛の北三〇米餘、天正年間細川忠興の築いた舞鶴城址の一部を占め櫻樹が多い。園の東部はもとの心種園の地で、池邊の小丘に心種園碑及び古今傳授の松がある。慶長五年關ヶ原役の當時、城主忠興は東軍に加はつて美濃へ出陣の留守、その父細川幽齋は石田三成の遣兵に圍まれてこゝに籠城した。幽齋は弓矢の道はさらなり和漢の學に通じ、殊に歌の道に堪能で、三條西實枝から古今集の秘訣を傳へられ、その時他にこれを知るものがなかつた。爲に幽齋の危急朝聞に達するや、後陽成天皇は歌道の亡びんことを惜る。市の産土神で伊弉諾尊を祀り、十月二十二日の大祭には神輿渡御などあり、市を擧げて賑ふ。

舞鶴を出て東に折れ、山間を進んで東舞鶴六軒九に著く。小濱線（八四軒三）はこゝから岐れて水田の間を東進して松尾寺六軒一を過ぎ間もなく吉坂峠を越えて若狭國（福井縣）に入り、小濱を経て敦賀に至つて北陸線に接する。東舞鶴からは別に東門を経て中舞鶴に至る三軒四の支線と東舞鶴港に至る一軒三の小支線がある。

東舞鶴驛 京都府東舞鶴市

▽中舞鶴支線 東舞鶴、中舞鶴間 三軒四

▽東舞鶴港支線 東舞鶴、東舞鶴港間 一軒三

【東舞鶴市】舞鶴鎮守府所在地。舞鶴灣の東灣に沿ひ、古來白糸濱の別名を有する。もと一寒村に過ぎなかつたが、明治三十四年十月舞鶴鎮守府の開設以來次第に繁榮に赴き、明治三十九年附近村落の分村併合を行つて、新舞鶴町制を施行した。大正十一年鎮守府廢止に

つれて、少なからざる影響を受けたが、昭和十三年八月隣接せる中舞鶴町及び倉橋、興保呂、志樂の三村を合併して東舞鶴市となり、昭和十四年十二月鎮守府復活し、市況隆盛である。港は内地、朝鮮航路の船舶の碇泊が自由である。共樂公園は櫻樹に富み、和田海岸の遠浅では海水浴が行はれる。人口五萬。

【毘沙門堂】東舞鶴驛の東方約四軒、東舞鶴市多門院にあり自動車の便がある。興禪寺と云ひ、本尊毘沙門天の立像「國寶」は藤原末期の木彫佛である。

【おほみづなぎどり蕃殖地】指定天然記念物「舞鶴灣の東北約三三軒、東大浦、西大浦の二村に跨り、丹後の内灣から日本海に出でんとするところ大小二島相並びながら苑池の配石の如き觀を呈し、その大なるものを冠島と呼ぶ。無人島で、おほみづなぎどりの日本海方面の蕃殖地として世に知られる。おほみづなぎどりは海燕の類で、海上に棲み、形状鷗に類し、體の上面は褐色、羽毛の縁は灰色、頭と顔は白く、褐色の斑點があり、體の下面は純白である。好んで無人島に集り産

- 一金剛力士立像 「國寶」 木造 一 驅
- 一執金剛神立像 「國寶」 木造 一 驅
- 一深沙大將立像 「國寶」 木造 一 驅

【松尾寺】「眞言宗醍醐派」小濱線松尾寺驛の東北三軒、東舞鶴市内松尾にあり、西國三十三所第廿九番の札所である。若狭富士の稱ある青葉山の中腹を占め、その山頂奥の院のあるあたりからは、舞鶴灣を俯瞰して眺望がよい。本堂大悲殿は慶長年間の再建である。寺寶中佛畫普賢延命像「國寶」、孔雀明王像「國寶」の二幅は東京帝室博物館に出陳中で前者は純然たる藤原式佛畫の典型的なもの、後者は鎌倉時代の作であるが、藤原期手法踏襲の傾向を示す作例とされて居る。

宮津線

舞鶴 豐岡間 八四軒

この線は舞鶴から岐れて西北に向ひ、豐岡に至りて舞鶴線と山陰本線とを連絡させる線である。舞鶴を南に出て、西北に向ひて大曲折して進み、四

卵を行ひ、平素は外洋に群集し、魚類を捕へて生活する。三月上旬頃冠島に集合し六月下旬乃至七月上旬頃産卵し、八月中旬に至れば孵化し、十一月中旬雛鳥の成長するを待ちて親鳥先づ島を去り、下旬頃雛鳥は離島して海洋に赴き獨立の生活を營むを習性とする。

【金剛院(慈恩寺)】「眞言宗東寺派」小濱線松尾寺驛の西南一軒半、東舞鶴市内鹿原にあり、天長年間眞如親王の創建と傳へて居る。

三重塔婆「國寶」三間三層、檜皮葺で、その年代は室町時代に屬するものゝやうである。屋頂に相輪を缺いて居るのは惜しいが、手法雄大にして形態莊重、内部佛壇格狹間の彫刻等特に美麗である。寶物には左記のものがある。

- 一藥師十二神將像 「國寶」 一 幅
- 一絹本著色、寺傳に顔輝の筆と云ふが鎌倉時代の邦畫であらう。
- 一阿彌陀如來坐像 「國寶」 一 驅
- 一木造高き五尺六寸、藤原初期の佳作である。
- 一增長天立像 「國寶」 木造 一 驅
- 一多聞天立像 「國寶」 木造 一 驅

所 五軒五、東雲三軒六を過ぎ由良川右岸に沿ひて北に走り、由良川の日本海に注ぐ河口近くを渡り、丹後由良五軒五を過ぎ、栗田灣岸に出て尙西に向うて走る、右窓日本海の蒼波と遠く波間に浮ぶ大島が望まれる。栗田五軒七を過ぎるとやがて宮津灣岸に出で、遠く天橋立を望みつゝ、宮津四軒四に入る。宮津からは市街の南方を繞つて北に折れて天橋立四軒四に著く。宮津及び天橋立驛は天橋觀賞者の下車驛である。

【由良海水浴場】丹後由良驛の東北五〇〇米、由良川河口附近から由良の戸遊園地に至る一軒餘、遠淺の海で水清く、四圍の山水秀麗である。由良の湊千軒長者、安壽對王丸に關する傳説が旅行者の興味をひく。旅館丹後屋、まじめ屋、田村亭外數軒。

【宮津町】宮津驛所在地。宮津灣の南岸に位し、波見崎と黒崎と相對して港口を扼し、周邊に山岳があつて諸風を蔽障して居る。大正十三年宮津線開通と同時に朝鮮總督府の命令航路たる日本海橫斷航路を、次いで大正十五年四月から大連、朝鮮、北海道を運航する日

本海横断航路を開始され、貨物の陸揚げが増加した。文殊、岩籠、須津の間を航海する定期汽船、文殊、府中に通ふ天橋立廻遊の定期汽船等はこの地に入出入る。貿易港ではあるが、取引は未だ多くない。町を貫流する大手川河口左岸島ヶ崎公園下、宮津の町外れ文殊に至る道に沿うて海水浴場がある。人口一萬五千。

旅館 山嘉樓(五圓)、精輝樓(五圓)、荒木別荘(五圓)、吉岡家(五圓)、北野屋別館(五圓)、茶六別館。

【智恩寺(切戸の文殊)】「臨濟宗」天橋立驛の北約三〇〇米、吉津村文殊にあり、天橋立に接近せる景勝の地を占め、三門、文殊堂、多寶塔婆などが松林の間に隠見して居る。

文殊堂 五間六面寶形造、尾根檜皮葺の建築で、古來有名な文殊菩薩の像が脇土善財童子及び優闍國王の像と共に安置されて居る。何れも國寶で鎌倉時代の作になり、文殊は獅子の背上に坐し、優闍王はその手綱をとり、善財童子は梵網經を捧げて居る。かくの如き文殊渡海圖を彫像に現したのは類例が少ない。三尊共に

切つて對岸吉津村文殊に接する大砂嘴である。長さ約三軒幅三〇〇米、面積約五平方軒あり。國有林に屬し京都府經營の公園となつて居る。

天橋立驛の東三〇〇米餘、智恩寺山門前に文殊汽船發著所がある。宮津を起點とする定期船はこゝを經て一の宮(府中)へ行く。發著所の傍に廻旋橋(小天橋)があり、砂嘴の先端へ通ずる。こゝはもと切戸の渡しと稱して渡船によつたが、大正十二年この橋を架設して汽船通航の際は中央部を廻旋する構造とした。その北に尙一つの橋がある、唐橋風で大天橋と稱する。もつこの部分は地續きであつたが、明治五年洪水の爲に切断され、その結果天橋立の南端約一軒がこゝに一小島として分離したものである、今この部分を小天橋、北

部約二軒の長さを大天橋と稱して居る。
この大天橋地内は成相山腹傘松公園地と共に、名勝として指定された區域で、磯清水、橋立明神等がある。あたりには濱茄子、濱豌豆なども生ひ繁り、眞白き砂に磯浪靜かに戯れ、松樹林をなして居る。その中央部

製作精緻、玉眼を嵌め、總身極彩色盛上げ文様を施してある。この文殊は奥州名取の文殊、大和安倍の文殊と並んで日本三文殊と稱せられるもので、總身極彩色盛上文様を施した頗る精巧な作である。

一湯 船 一個
鐵製。文殊堂の前にあり、直徑約五尺高さ約二尺、正應三年の鑄出銘がある。

一金 鼓 一口
至治二年十月十六日海州首陽山藥師寺云々の銘がある。

多寶塔「國寶」方三間二層の塔婆で室町時代の建築にかゝり、上層の榊組は例の如く四手先、詰組に尾樺を加へ、極めて複雑して居るが、下層は出組を用ゐ、頗る簡單である。來迎柱、板壁裏等に「明應九年三月吉日手斧始大工彌七郎」云々の墨書銘が発見されたと云ふ。

★天橋立「指定名勝」天橋立は宮津灣の西岸府中村江尻から南西に向ひ突出して、宮津灣の支灣阿蘇海を區にある特に枝振り面白き老松を千貫松と名づけ、樹下の一聲塚には「ひと聲の江に横たふやほととぎす 芭蕉」と讀まれる。

天橋立の觀賞はこの松林を逍遙する外に、府中村成相山傘松からの眺望即ち天橋立股のそきが興かられて居る。傘松にある臺石に上り股間からこの天橋立を窺へば、一條の松翠波光に映じ、天上水あるが如く、海中天あるが如く、上なるが海か下なるが天か、自らの眼を疑ふと云ふ程の奇觀を現するのである。

一聲塚から成相山麓の天橋立鋼索鐵道府中驛まで約二軒、大半は青松白沙を縫うて進み歩行に適する。旅館は橋立に、なかや別館(七圓)、なかや本館(四圓)、對橋樓(四圓)、松吟樓(四圓)、松影樓、千歲館外數軒、府中に、一の家、神風、日の丸などがある。

【籠神社】「國幣中社」天橋立驛の北約四軒、府中村大垣成相山の南麓にある、文殊から一の宮まで阿蘇海上の船便があるが、天橋立の白沙青松を一路北進してもよい。天水分神を祀る古の丹後一の宮で、四月二十四

日の例祭には神事奉仕者、藤花を冠に挿して行ふと云ふ。社寶の扁額「國寶」一面は室町時代のものである。

神紋三頭右巴、例祭四月二十四日。

【傘松公園】籠神社脇から新傘松遊園まで天橋立鋼索鐵道により、そこから西へ磴道による急坂を登る。成相山の中腹を占め、天橋立と共に名勝として指定されて居る。最適の天橋立俯瞰地でここに遊ぶ人は皆股眼鏡に興ずるのである。股のぞきの臺石は數基あり、臺に上り裾をかゝげて股の下から天橋を望めば、光景一轉してまたなき奇觀を現す。

【成相寺】「古義眞言宗」傘松から三軒、成相山腹幽邃の地にあり、自動車の便がある。觀音を本尊とし、寺寶中丹後諸庄郷保總田數帳目録「國寶」一冊、紅玻璃阿彌陀像「國寶」一幅がある。目録は紙本墨書で正應元年八月のものであり、阿彌陀像は絹本着色で天文九年の銘がある。全幅の周圍に五銚を金泥で畫いてあり、寶冠の彌陀が中央に跏趺し、蓮座は五銚で支へられて居る。寺の西南方に隆起して一峯頂となつて居る辨天山は、

く、最も代表的な山野滑走の練習場である、こゝへは宮津驛から、橋北汽船で日置に上陸する。それから上世屋まで約六軒、それから奥駒倉、木子、松尾、淺谷等の部落に互つて廣大なる地域のスキー場である、部落は設備はないが何れもスキーヤーに對して頗る親切に世話して呉れる。

【金剛心院】「眞言宗高野派」天橋立驛の東北約九軒、日置村上寺腰にあり、モーターボート及び自動車の便がある。本尊愛染明王坐像「國寶」は木造で厨子内に安置され、鎌倉時代末期の作である。尙寺には元亨四年兩六波羅、元弘三年足利尊氏、その他建武以降累代領主の制札及び懸佛數面を藏して居る。

【禪海寺】「臨濟宗妙心寺派」天橋立驛の東北約九軒、日置村上にあり、江悟禪師の開基にかゝり日置氏の菩提所である。本尊阿彌陀如來兩脇侍像「國寶」三軀、千手觀音立像「國寶」は何れも木造である。

【妙立寺】「日蓮宗」天橋立驛の北四軒、府中村中野にあり、遊覧船及びモーターボート等の便がある。嘉吉三年

傘松附近よりも更に廣闊なる展望美を有する地で、こゝもまた天橋立股のぞきの一勝地となつた。

【成相山スキー場】スキー場は成相寺から一軒を隔てた仙臺ヶ原附近を中心とする一帯から、その附近の仁王門、國分山、白山等を包含して居る。割合に雄大な斜面に乏しい。仙臺ヶ原も山頂附近の小丘陵に過ぎない。主に京阪地方の人々の週末スキーに適して居るので開拓された所である。こゝは寧ろその奥地鼓ヶ岳、五入道、舟のたわ、おくぢ、日の尾の連嶺からなるいはゆる奥成相から世屋方面へ互る縦走路として、將來山岳スキーの練習場として興味ある所である。仙臺ヶ原には小規模なジャンプ臺や賣店小屋等の設備があり、相當スキー家が集る。スキー季節は十二月末から三月上旬までであるが、仙臺ヶ原から奥地以外は雪のないことも相當多い。概して奥成相から世屋にかけては積雪も一米近く、雪質もよく、地形もはるかに優れて居る。世屋は丹後半島の中央に當る高原地帯で、積雪も多く、多少不便ではあるが、關西地方としては雪質もよ

日養上人の創建にかゝる寺で、寺寶に髹漆の大形厨子「國寶」がある。高さ一丈二寸、室町時代の作である。

【丹後國分寺址】「指定史蹟」天橋立驛の北五軒、府中村國分、寺大門東にあり、汽船の便がある。天橋立對岸の山麓に現時の國分寺があつて、その境内の本堂屋敷と稱せられる地點に金堂址及び塔址の土壇がある。金堂の土壇は方形で上に三十餘個の礎石が遺存し、うちには圓形繰出を有するものがあり、塔址はこゝから西南約五〇米を隔て、存し、十六個の礎石が遺つて居る。この寺は後醍醐天皇の御代に、住僧圓源その衰微を歎き繪旨を蒙つて再興を計り、建武元年四月功成り、勅使參向して盛大なる落慶供養の法會を營んだ。時恰も建武中興の大業成つて朝政一新の秋にあつてこのこゝとがあつたので、深く御冥感あり、同年五月八日朝廷制を下して諸國國分寺の再興を決せられた。

【與謝内海】天橋立の西に湛へて居る鹹湖で、阿蘇海、岩瀧灣とも呼ばれる。砂嘴によつて堰止られた斷層湖盆で、五方軒一八の面積を占め、北から西にかけては

沖積地が多く、西岸に於ける野田川の三角洲は、湖面の縮小に少からざる關係を有する。湖は東南隅の文殊切戸によつて外海に通じ、切戸は古今移動があると云ふ。湖中に金樽鱸(金太郎鱸)を産する。

天橋立を出づれば西に向ひ、右窓阿蘇海の静波が眺められる、岩瀧口三軒六を經、丹後山田二軒に至れば加悦鐵道五軒七が岐れて加悦まで通じて居る。その沿線には丹後縮緬工場が多い。山田を出て急勾配を上り清水谷の溪間を越ゆれば、興謝半島の頸部を占むる峰山盆地に出で北走して口大野七軒一を通過つて峰山五軒六に著く。こゝからは北西に向ひ、網野七軒二から折れ丹後木津五軒六に至る。木津からは日本海に沿うて西に進み、砂丘と松林の間を縫うて進む。丹後神野五軒三を過ぎて、久美濱海岸に出れば、やがて久美濱五軒五に著く。久美濱を出ると京都府から兵庫縣に進み但馬三江八軒七を經て、豊岡三軒二に至り山陰本線に接続する。

深さ一米餘の墳穴があつて組合石棺が置かれ、棺の内側は隔石によつて大小二區に分たれ、遺骸は大區に斂められ、鏡、玉、装身具と共に發見され、小區には鐵利器が收められて居た。

【銚子山古墳】「指定史蹟」網野驛の南一軒、網野町網野にあり、自動車の便がある。網野町の南方に連なる丘阜の上にあつて長軸約三〇米、前方後圓墳で三段に築かれ、後圓部の背後に埴土あり、幅二〇米、墳上に礫の葺石が遺存し、埴輪圓筒が繞らされて居る。また後圓部の南六五米に小銚子塚と呼ぶ小墳があり、長さ六〇米、葺石及び埴輪圓筒を繞らして居る。前方部の北二〇米にも一墳あり、墳上に石室を露出し、寛平堂と呼ぶ小祠がある。附近の本覺寺に墳附近にて拾得せられた石枕がある。

【神明山古墳】「指定史蹟」網野驛の東北一三軒、峰山驛の東北一八軒、竹野村宮、府社竹野神社の傍にあり、途中まで自動車の便がある。東北から延びた丘陵の尾の部分で切斷して營まれた宏大な前方後圓墳で長さ二五

【大内峠(樗峠)】岩瀧口驛の西北三軒、天の橋立觀望地として名あり、古來詩歌に知られて居る。この峠から見る天橋立は長く一文字を劃して傘松からの展望と趣が變つて面白い。この附近一帯は櫻樹多く春は花の霞を曳く、冬はスキーに適する。

【板列八幡神社】岩瀧口驛の北四軒、岩瀧町男山にある。式内の古社で女神坐像(國寶)二軀を藏する。何れも木彫である。尙神社には經筒、鏡等を所藏して居る。

【蛭子山古墳】「指定史蹟」加悦鐵道三河内驛の東北一軒二、桑飼村明石にある。長さ一〇米、前方後圓墳で三段に築かれ、後圓部の頂上には深さ二米の墓壙中に花崗岩で造られた劔拔石棺があり、壙の周りを圍んで埴輪が長方形に樹て廻らされて居る。石棺は身と蓋とから成りて石枕が造附けられて居るのが珍らしく、内部から長宜子孫内行花紋鏡が出た。

【作山古墳】「指定史蹟」加悦鐵道三河内驛の東にある。四基の連接古墳で、その最北のものは帆立貝式墳丘から埴輪圓筒、家形、鳥獸形が出土し、後圓部の頂上に

〇米、三段に築かれ、中央くびれ部に圓形造出を備へ、葺石が一面にあり、埴輪圓筒は前方部の上端、兩側、後圓の周圍に埋没し笠形、楕形、家形等の各種の形象埴輪破片が發見せられ、一圓筒破片には舟をやる様を篋書したものであるは興味あるものである。出土品に石製模造品、土器等がある。

【郷村斷層】「指定天然記念物」網野驛から一軒、峰山驛から六軒、峰山網野兩驛の間にあり、兩驛間を往來する自動車の便がある。昭和二年三月七日奥丹後大地震の際、府道福知山網野線の沿線に生じたもので、北十度西に走り、郷村(一)字郷小字樋口、(二)字郷小字小池の公庄道路、(三)字生野内小字柱ヶ谷の三所に於いて、指定の天然記念物となつて居る、

(一)は網野驛から約一軒に當り、垂直轉位〇米六、水平轉位七五米、花崗岩に滑面及び線條を生じた。(二)は(一)から約五〇米にあつて、垂直轉位〇米六、水平轉位二米六(三)は(二)から約一軒で府道から分岐する村道を西南約一〇〇米進んだ所にある。垂直轉位〇

米六二、水平轉位一米八五、花崗岩に滑面及び條線を生じた。こゝから峰山驛までは約四料である。

從來地震に際し斷層を生じたことはその例が稀ではない。しかし明かに花崗岩を切斷して滑面を生じ、且つ地層運動のため生じた條線を印したことは未だないから、天然記念物として指定されたのである。(一)と(二)は保存のため、家屋を設けてこれを覆ひ、(三)は石柱を建て、滑面、條線、轉位を明かにしてある。

【木津温泉】丹後木津驛附近、無色透明の單純泉で創傷、リウマチス、神經諸病、婦人病などに効くと云ふ、京都府下唯一の温泉場である。附近には賣布神社、桃山、濱語海水浴場などがあり、靜御前の出生地と傳ふる靜神社は八料を隔て、居る。旅館 蛭子屋、木津館 外數軒。

【函石濱遺物包含地】(指定史蹟) 丹後木津驛の西一料半、湊村湊宮、高山にあり、自動車の便がある。函石濱と呼ぶ日本海に面した砂濱で、延長二料に亘り、そのうちには貝塚あり、また古墳もあつて、多く箱式棺

質鹹味を帯び、水色はフオレルの第十號、最深點は四三米半である。湖畔一帶風色に富み、海の内外を劃する日間の松原は小天橋とも云ひ、海水浴が行はれる。

【神谷神社】久美濱驛附近にあり、式内の古社で一つに太刀宮とも呼ばれる。境内にある考古館は明治三年にも久美濱縣廳々舎とした建物の一部で、古文書古器物等を陳列して居る。

【宗雲寺】(臨濟宗南禪寺派) 久美濱の西南半料餘、もと常喜院と云ひ、愚中周及の弟子周竹の開基であるが、後世寺運衰へたのを、天正年中久美濱松倉城主松井佐渡守康之、丹波國主細川藤孝と謀つて再興した。境内に康之の父山城守正之の墓がある。寺號の宗雲は即ち正之の法號を採つたものと云ふ。寺後の宗雲山の洗心亭は久美濱湖一帶を俯瞰する勝境である。

【本願寺】(淨土宗) 久美濱驛の東約一料、久美濱町古神谷にある。寺傳に天平年間の創建、後、藤原時代には惠心僧都の中興、建久年間には法然上人の留錫したこともあつたと云ひ、祖師堂には法然上人の木像が安置

に屬し、函石と呼ぶ地名もこれより起つたと云ふ。土中から出土する遺物には石鏃、石劍、彌生式土器、銅鏃、硬玉勾玉、貝製品、齋瓮、鐵刀等あり、また支那王莽代の貨泉が出土し、その他貞觀永寶、富壽神寶等の如き我が平安時代の古錢あり、開元通寶、大觀通寶等支那唐宋の古錢も發見せられ、また明代の永樂錢も混在し、その種類多種多様で、石器時代から金石併用時代及び原史時代を経て室町時代に及んで居て、早くから人類の來り住し朝鮮、支那との接觸交通の跡を示した考古學上貴重な遺跡である。

【濱語海岸】丹後木津驛の北一料半、自動車の便があり、海水浴に適する。

【久美濱湖】久美濱驛から湖岸まで北約半料、砂嘴によつて日本海と隔る斷層湖で、砂洲は東から西に突出し、幅凡そ七〇米、長さ二五〇米の水道によつて外海と通じて居るが、水道は殆ど閉鎖されて居るので、その中部から丘地を貫いて人工的水道が開鑿され、汽船が出入する。湖岸線の長さ約二四料、面積約七方料、水

されて居る。

【小天桥海水浴場】久美濱の北四料、丹後神野驛からは北西三料、久美濱湖の北岸、海の内外を劃する青松白砂の半島で日間の松原と云ひ、その風景によつて小天橋とも稱せられ、日本海に面した部分が海水浴の適地とされて居り、夏期には久美濱から發動機船、丹後神野から自動車、發動機船の便がある。また久美濱驛近くの濱公園下にも海水浴が行はれ、湖畔の名勝探勝をかねて來遊する人が多い。旅館 久美濱町に古谷屋、濱茶屋、せざき、小天橋に松月。

【文常寺】(古義眞言宗) 但馬三江驛下車、三江村鎌田にある。本尊聖觀音立像(國寶)は、木造高さ二尺一寸餘、藤原風の繊細な彫法を用ゐて居る。

山陰本線の列車は綾部から由良川左岸の平野を流れに沿うて西走し石原六軒六を經、由良川に注ぐ土師川を渡り、右窓朝日丘公園の小丘陵を見つゝ市街地に入り、福知山五軒七に至つて大阪から來る福知山線と接續する。

福知山驛 京都府福知山市天田

▽福知山線 福知山、神崎間 一〇八軒三

▽北丹鐵道 福知山、河守間 一二軒四

▽乗合自動車 猪崎行、佐治行、物部行、綾部行

【福知山市】 由良川即ち音無瀬川に沿ふ交通の要地、往昔朽木氏の居城のあつた所で、丹波高地第一の都會である。産物に生絲、蠶種、清酒、鑄物、農蠶具等がある。人口三萬二千。旅館 平佐、加壽儀、成松屋、松代屋。

【福知山城址】 福知山驛の東一軒半、市の東南部にある。城は明智光秀が居つたことがあつた。城山の大部は既に切崩され、東端の天主閣址と伯耆の丸址のみ存し、天主閣址には朽木氏の祖靈を祀る朝暉神社鎮座し、

と傳へ、外宮内宮共に景勝の地を占め、樹木鬱蒼森嚴の氣が漂うて居る。内宮のある所は河守上村大字内宮字宮山と云ひ、參道の途中に、用明天皇の御代に皇子麻呂子親王が凶賊征討の時植ゑられたと傳ふる老杉二本、天を突いて聳えて居る。その他五十鈴川、宇治橋、天の岩戸、眞名井ヶ池など古を偲ばせるものがある。

【才の神の藤】 「指定天然記念物」 北丹鐵道河守驛の東四軒、加佐郡有路上村南有路にあり、才の神即ち道祖神を祀つた櫻の巨樹に藤の纏繞したものである。櫻は樹幹高さ一三尺七寸、樹冠徑八〇尺内外を算し、樹幹の下部は大半腐朽して洞穴状をなしたうちに入衢比古命、入衢比賣命、久名戸神三柱の道祖神を祀つて居る。藤は莖大小六本あつて櫻の幹枝に蔓延して全樹冠を覆うて居るが、その最も大なるものは根元に於いて周圍六尺六寸に及ぶ。五月中旬の開花の節には頗る美觀を呈する。

【大江山】 北丹鐵道河守驛の西北にあり、頂上まで一

境内櫻楓が多い。

【御靈神社】 福知山驛の北約一軒、廣小路の西端福知山公園にある。祭神は宇氣母智神と云ふが實は明智光秀を祀つたものだと云ふ。毎年十月二日の大祭は、古來御靈祭と呼ばれ、市内が最も雜鬧する日である。

【一宮神社】 「府社」福知山驛の東南約一軒、市内堀にあり、省營自動車の便がある。市の産土神で大己貴神を祀り、十月二十一日の大祭には神輿の渡御があり、全市を擧げて賑ふ。

【天寧寺】 「臨濟宗妙心寺派」北丹鐵道下志津驛の西約三軒上川口村大呂にある。貞治四年大通禪師（愚中周及）の開創と傳へ、足利義持の祈願寺となつた事もある名刹である。

寶物には左記のものがある。

一十六羅漢像 「國寶」 絹本着色 室町初期 十六幅

【元伊勢皇大神社】 北丹鐵道河守驛から外宮まで北約二軒、内宮まで北五軒、共に自動車の便がある。古記の徴すべきものはないが、古くから丹波吉佐宮の舊蹟

二軒、途中内宮まで自動車の便がある。宮津線丹後山田驛から岐れる加悦鐵道加悦驛からは東南頂上まで入料。昔酒呑童子がこゝに山寨を構へ、附近に出没して良民を苦しめたが、源頼光に依つて征服せられたと傳へ、鬼ヶ茶屋、宮女の洗濯石、酒呑童子屋敷址、金時池、頼光腰掛石、鬼の岩窟など傳説に因んだ遺蹟が散在して居る。山の中腹には鬼ヶ嶽稻荷神社があり、その參拜をかねて傳説の蹟を探るため登山するものが多い。

福知山を出て暫く北進し、東に流れて由良川に入る。牧川右岸に出で、その流域を西走して上川口 六軒七、下夜久野 七軒二、上夜久野 七軒四を経て京都府から兵庫縣に入る。それより梁瀬 五軒八を通り西北に折れて進み、南より來る播但線（和田山、姫路、飾磨港間七二軒三）と並んで和田山 三軒四に着く。

【夜久野スキー場】 上夜久野驛のすぐ裏がそれである。驛に近い便利な處として初心者に歓迎され、第一

第二、第三と二つの練習場がある。旅館 中野屋、佐々屋、氷上屋。

和田山を出て西北に進み養父五軒二を經、八鹿七軒を過ぎるあたりから朝來川に沿うて北上し、出石鐵道(江原出石間一二軒)の分岐する江原七軒五を通つて豊岡九軒七に着く。豊岡は宮津線の接續點である。

【名草神社】(縣社)八鹿驛の西一三軒、八鹿町石原妙見山の山腹にあり、名草彦命を祀る。境内の三層塔婆(國寶)は屋根柿葺、俗に妙見さんの塔と呼び、社傳に大永五年出雲大社境内に造營せられたものであるが、寛文五年こゝに移建せられたと云ふ。室町時代中期の特徴を有する建築である。妙見山及びその嶺續きの蘇夫岳は冬期スキー場となる。

【妙見の大杉】(指定天然記念物)名草神社三重塔婆前の參道左側に、木柵を繞らし注連をつけて居る大杉樹がそれである。幹は地上約七米の高さから二分して並立し目通幹圍約一〇米ある。この邊は海拔八〇米餘、北方遙甲冑を着せる十六善神が左右に分列し、左に玄井三藏、右に深沙大將が描いてある。

【東樂寺】(古義眞言宗)江原驛から分岐する出石鐵道中筋驛の北一軒、中筋村清冷寺にある。寺寶に四天王立像(國寶)四軀あり、何れも木彫で高さ各々約五尺、藤原時代末期の作である。

【出石神社】(國幣中社)同出石鐵道鳥居驛から一軒、神美村宮内にある。新羅王子天日槍來朝の折、携へ齋らしたと傳へる八種神寶を祭神として居る。延喜式名神大社で但馬一の宮として知られた。社寶の脇指(國寶)は但州住國光の銘があり、外に梵字が刻書されてある。神紋桐三頭左巴、例祭は十月二十日。

【鶴山(鶴蕃殖地)】(指定天然記念物)同出石鐵道出石驛の西八〇米、室埴村細見にある小丘である。蕃殖する鳥は鶴と稱する種類で、遠く安政年間に初めて渡來したが、農作物を荒すため土民の危害をうけ、一時全く姿を見せなかつたのが、明治三十七年頃から再び渡來し初めてついで天然記念物に指定された。鶴山の松は梢が平

に久美瀆の海頭が望まれる。尙妙見山頂までは南へ登路一軒半ある。山頂は海拔一、四三米に及ぶ高地で、十一月中旬から四月下旬まで積雪深く二米前後に及ぶため山中には寒性草木が多い。ほうちはかへで、やまぼうし、とちのき、ほほのき、かつら、たらのき、さるなし、またたび、みつばあけび等は普通で、尙山頂近くには更に北方寒地の草木が生へて居る。

【鉢伏山スキー場】八鹿驛の西、葛畑、別宮經由二九軒、鹿倉、大久保經由三一軒、葛畑、鹿倉まで約二三軒間自動車の便がある。鉢伏山附近には須賀の山、瀨川、兎和野ヶ原などいづれもスキーに適する。

【神鍋山スキー場】江原驛の西一二軒、途中栃本まで九軒三、自動車の便がある。附近には大岡山、三川山、白菅山、蘇夫岳があり、いづれもスキーに適する。

【黒野神社】(縣社)江原驛の西約二〇軒、村岡町村岡にあり、彦火瓊杵尊を祀る。寶物に釋迦十六神像(國寶)一幅がある。絹本著色室町時代の作で、中尊釋迦如來は截金文様で全身を飾り、左に文殊右に維摩が侍立し、

らで巢をつくるのに適し、巢は見透しのよい松の梢に木の葉や枝を集めて、直徑約一米半の大きな椀形に造られてある。大抵二、三年目毎に他の梢に移つて行くので、處々に古巢が残つて居る。年々飛來する鶴は二三十羽で、巢籠りするのは二三箇所である。その觀覽の時は五月下旬から六月中、午後は餘り活動しないから午前中がよい。四月中旬産卵し、五月中旬孵り、六月に入ると親鳥が巢の中で七、八十廻飛び上り、雛に飛ぶ稽古をなし、月末には巢立ちして飛び去る。近年隣村小坂村鶴山及び豊岡驛近くの田鶴野村帶雲寺の裏山にも巢籠りする様になつた。

【中島神社】出石神社の北約二軒、神美村三宅にある。その本殿(國寶)は三間社流造、屋根檜皮葺、大破せるため草葺の鞘堂に這入つて居るが、細部の手法に室町時代中期の様式を備へ、複雑な繪様彫刻が巧に施されて居る。

豊岡驛 兵庫縣城崎郡豊岡町

▽宮津線 豊岡 舞鶴間 八四軒

▽乗合自動車 出石行、江原行、城崎行、町内行

【豊岡町】朝來川（圓山川）の左岸に突出した第三層紀の山脚の下に位置し、古くは京極氏の城下町であつた。柳行李、バスケット、ファイバー靴の産地として

名高く、大正十四年の地震に大禍を受けたが漸次復興し、但馬地方の中心地となつて居る。人口一萬五千。

【大石良雄夫人墓】豊岡驛の東約三軒、三江村日無正福寺の境内にある。夫人は豊岡藩士石東源五衛門の女

で、大石良雄の室である。元祿快擧の時一男二女を伴なつて當寺に寓居し、元文十一年十一月六十九歳で歿

した。近年義士會が組織され、義擧を追念したまた夫人母子をも弔ふ。墓碑は中央に理玖子夫人、左右に空子

と吉之進の碑が建てられて居る。

【柳の宮】豊岡驛の東約一軒三、豊岡町小田井にある小田井縣神社（縣社）の攝社で、祭神は八王子權現である。杞柳業者の崇敬厚く、七月十八、九日盛大な柳祭

が行はれ、神輿の渡御がある。

【雅成親王御墓】豊岡驛の西一軒、五莊村高屋にある。

る。親王は後鳥羽天皇の第三皇子、承久の變に當國に遷りこの地の光妙寺に入り、建長二年御齡四十七歳で薨去し給うた。寺はその後豊岡に移りて光行寺と云ふ。

豊岡から尙も北進し、朝來川の清流を瞰下し、その左岸を走つて玄武洞五軒三を經、城崎四軒三に至る、こゝから西に向ひ竹野八軒を過ぎて佐津七軒四に著く。それより日本海を望見しつゝ西進し、香住六軒六、鎧五軒四を過ぎ、久谷六軒四を經て濱坂六軒一に至る。濱坂から尙西進し諸寄一軒九、居組四軒四を過ぐると兵庫縣から鳥取縣に進み岩美七軒七、鹽見七軒二を經て鳥取一軒二に著く。

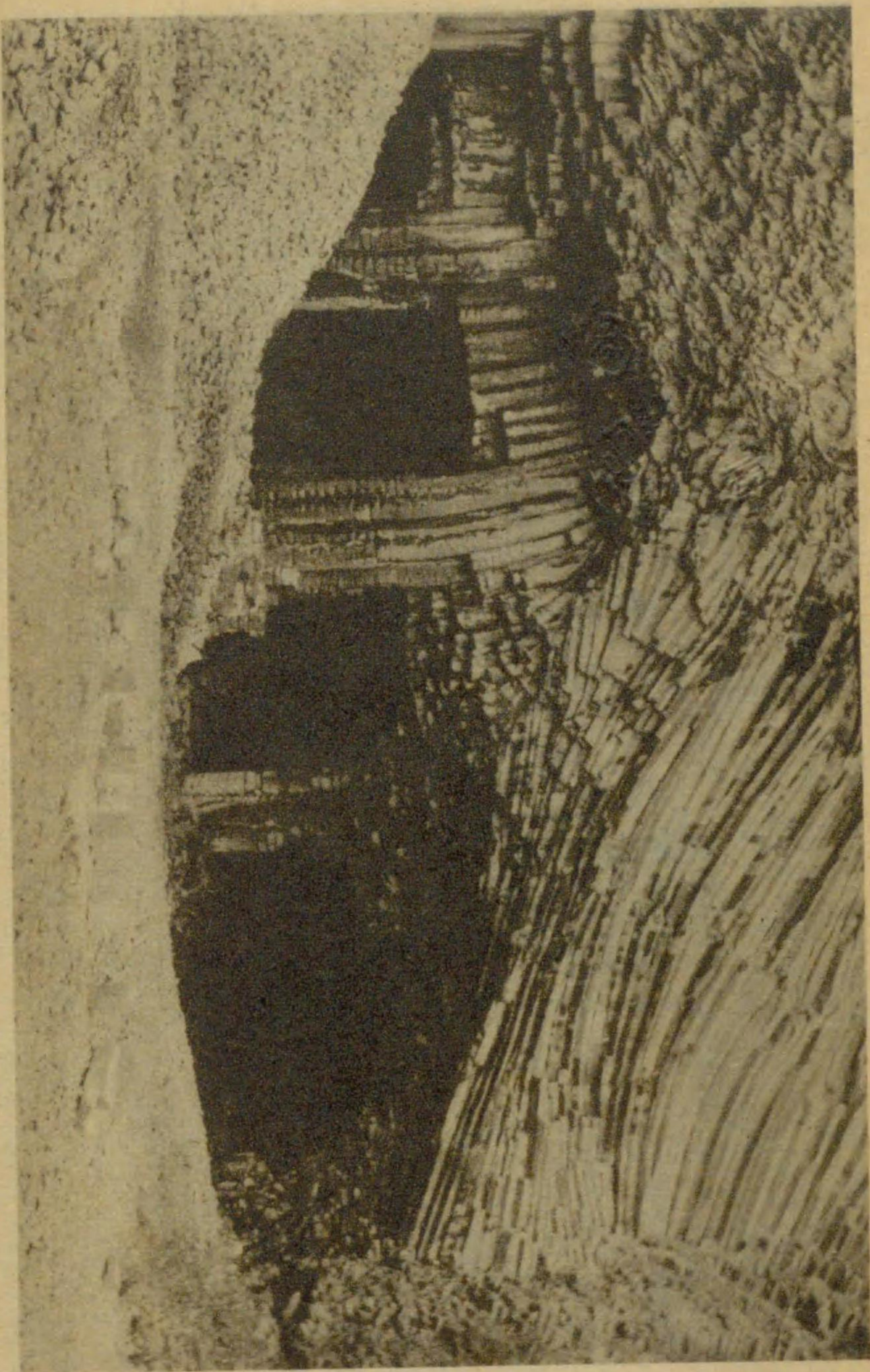
【玄武洞】（指定天然記念物）玄武洞驛の東、朝來川を隔てて對岸の山の中腹にあり、渡船の便がある。間口約七二米七で左、中、右の三室に分れ、柱狀節理見事な玄武岩から成り、その形が蜂窠に似てゐるので蜂窠窟とも呼ばれて居る。洞の東南百米餘の地點にも青龍洞と



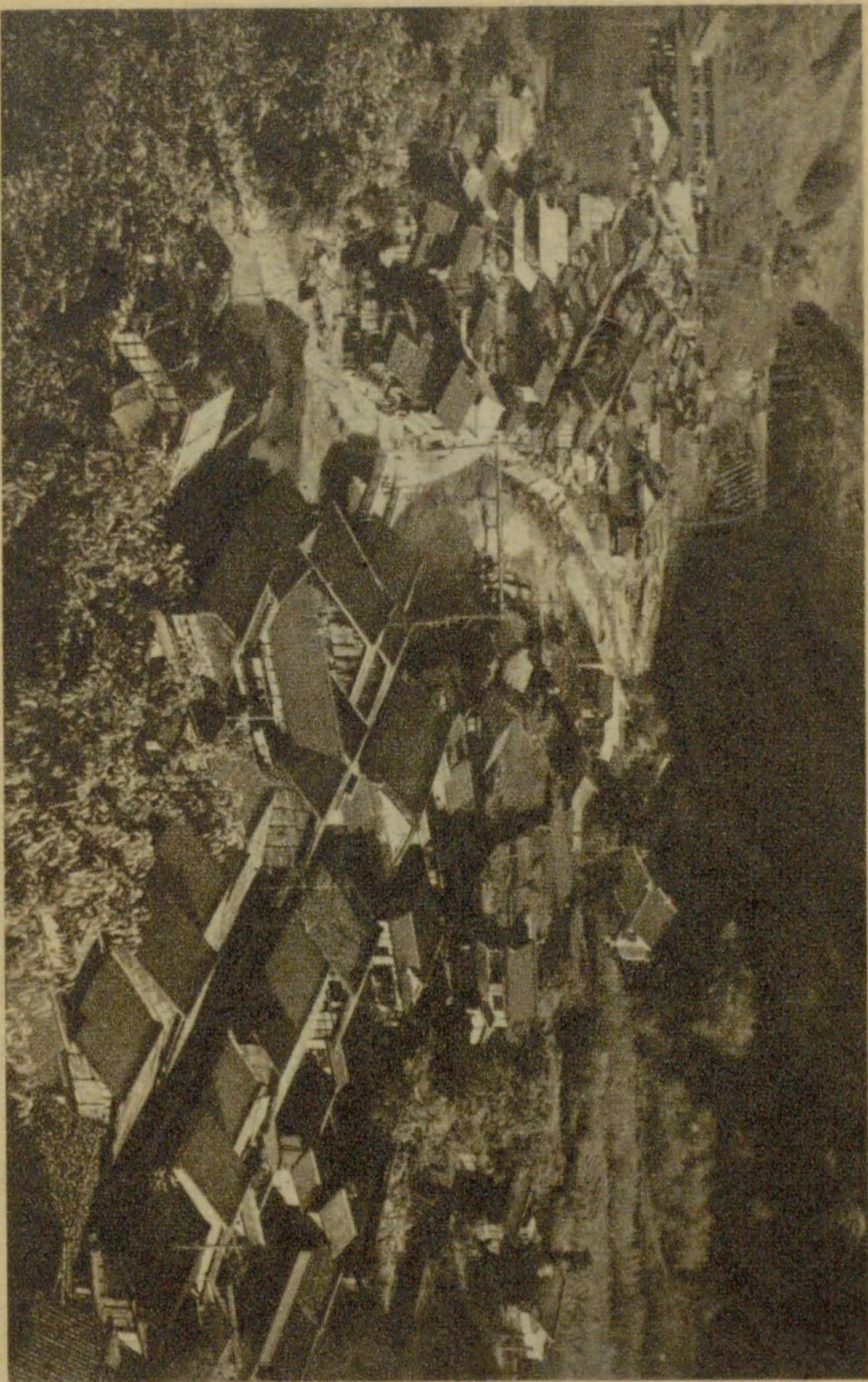
三 鶴石出七七



泉 温 崎 城 九 七



洞 武 玄 八 七



城崎温泉

呼ばれる洞窟がある。これ等の洞は凡ても石材として玄武岩を採掘せる人工洞穴であるが、その岩石の産出状態は人工の及ばぬ神工鬼斧の跡が残されて居る。
 ★【城崎温泉】 城崎驛所在地、關西地方に於ける代表的温泉の一である。大正十四年但馬地方大震災の際殆ど灰燼に歸したが、今や面目一新舊時にまさる繁榮を來した。

この地は但馬の北端に位し、三面山を繞して翠綠滴るばかり、東は朝來川を隔て、鞍掛、太白の秀嶺を望み、舟を朝來川に下せば約四料にして津居山港に至り、日本海の蒼波に接し、瀬戸の日和山の眺観、氣比の濱の風光美が見られる。

温泉は無色透明弱アルカリ性反應を呈する弱食鹽泉で凝灰岩の裂隙から湧出し、溫度攝氏五三度乃至五八度、リウマチス、神經痛、胃腸病、貧血病などに效くと云ひ、一の湯は瘡傷に、御所の湯は婦人病に特效があると云はれて居る。浴場は皆町營で、御所の湯、曼陀羅湯、一の湯、鴻の湯、柳湯、地藏湯の六ヶ所あり。

京都鳥取間

り、建物の或ものは純日本式に、或ものは洋式に、諸種の建築様式を採つて居るが、鐵筋コンクリート建耐震耐火の構造である。近年旅館にも内湯の設備のある家がある。

附近には國寶を有する温泉寺、春花秋葉の美を有する東山公園、眺望美を有する瀬戸の日和山、氣比海水浴場、舟遊に適する朝來川、玄武洞などの勝地があり、裏山には町營のスキー場がある。

旅館は百軒あまりもあり、内主なるものは、ゆとうや(六圓)、西村屋(六圓)、三木屋、たけの井(四圓五十錢)、橋本屋、小林屋(四圓五十錢)、信濃屋(四圓)、兒島屋、西彦(四圓)、伊勢屋、常磐(四圓)、大谷屋、若狭屋、龜屋、柿屋、魚屋(四圓)、山本屋、大和屋、まんだらや(四圓)、古まんだらや。

【温泉寺】(眞言宗高野派) 城崎驛の西一料半、城崎町湯島にある。元正天皇の養老元年城崎温泉の發見者と傳ふる道智上人の開基で、聖武天皇天平十年詔して末代山温泉寺の號を賜はつたと稱せられて居る。本堂(國寶)

は大悲殿または圓通閣と稱し、桁行五間梁間五間、單層屋根は入母屋造、茅葺で、外部は後代の修補も多いが、内部は鎌倉時代初期の様式を遺存して居る。本尊十一面觀音像〔國寶〕は木造高さ六尺九寸、平安時代初期の刀法鋭利な作である。

寶物には左記のものがある。

〔一 軀〕

一千手觀音立像 〔國寶〕

〔一 軀〕

木造藤原時代の作高さ四尺八寸餘。

〔一 幅〕

一十六善神像 〔國寶〕 絹本着色、堅八尺 〔一 幅〕
圖樣普通のもの上異なり釋迦三尊、十六善神、玄奘三藏、梵天、帝釋天、阿難、目連連、深沙大將その他を描き、短冊形に各々名稱を記してある。鎌倉時代中期を下らぬ作である。

【竹野海水浴場】 竹野驛の東北一軒、自動車の便がある、賀島山に抱かれ、白砂敷料に及ぶ。脱衣場、飛込臺、貸ボートの設備がある。附近に詩人柴野栗山の遺跡がある。旅館 今田屋、山下、竹濤館外數軒。

【香住海岸】(指定名勝) 香住驛の北、城崎郡香住町の海岸で夏期は觀光船便がある。種々の火山岩と、火山源

された。安永年中密藏上人伽藍を修築し、更に天明年間密英上人によつて完成された。本堂、藥師堂、鎮守、庫裡、客殿、三門等がある。本堂の本尊聖觀音立像は木造、高さ三尺三寸餘、藤原時代の作で國寶になつて居る。密英上人は圓山應舉を助けて名をなさしめた人で、應舉またその舊誼に報ぜんため、門人等を伴ひ來つて長く滞留し、襖、屏風、軸物等數十點を描いた。これ等の作は今尙多く遺存して居るので世に應舉寺の名で著聞する。

寶物中主なるもの左記の通りである。

一山水圖 〔國寶〕 紙本墨書

七 枚

本堂上段の間貼付と襖、應舉筆、山水の間と云ひ、上段の間床棚の壁、帳臺、襖等の貼付一切金箔地に水墨を以て山水を描き、最右端の襖の一隅に天明丁未暮冬寫平安源應舉の落款があり、天明七年應舉五十五歳作のである。

一郭子儀圖襖 〔國寶〕

八 枚

紙本着色、應舉筆、芭蕉の間の襖繪である。金地に濃彩を以て、芭蕉の傍に戯れて居る六人の童子と、それ等を眺める白髮の郭子儀及び侍童を描いたもので、最右端の襖に應舉畫の三字

京都鳥取間

の水成岩に富んだ第三紀層とから成れる日本海式の海岸風景地で、中央に香住灣があり、東西二區に分つことが出来る。東區には黒島、白島などの島嶼があり、西區は鎧の袖の大絶壁とその前面に横はつてゐる蜂の巣島、鷹の巣島等を中心としてやゝ東に離れて但馬松島の一島嶼群があり、西には數寄の洞窟を有する松ヶ崎、さだり鼻間の絶壁海岸がある。

香住海岸金比羅濱は海水浴に適する。

【鎧の袖】(指定天然記念物) 香住驛下車、城崎郡香住町の海岸の西部にある。環日本アルカリ岩石區に特有なるアルカリ粗面岩が堅に走れる柱狀節理を呈し、これを横ぎつて生じた幾多の平行裂罅を充填して母岩と同質の岩漿が小岩脈をなして居るものである。その外觀は鎧の緘に類し、火成岩の構造として稀有のものに屬する。

【大乘寺(應舉寺)】(眞言宗高野派) 香住驛の南一軒七、香住町森にある。天平年間行基菩薩の開基と傳ふる古寺であるが、寛政年間森の下に再建し、後今の地に移建

が記されて居る。

一孔雀圖襖 〔國寶〕

十六枚

紙本墨書、應舉筆、孔雀の間の襖繪である。金箔地に水墨を以て三羽の孔雀と松樹岩石が描かれて居る。寛政乙卯初夏寫平安源應舉と記され、寛政七年六十三歳の作である。

一四季耕作圖

十二枚

紙本着色、吳春筆、孔雀の間の隣室で、農業の間と稱した室の襖繪である。

一池中鯉魚游泳圖

七枚

一老梅下狗子圖

十一枚

一十六羅漢圖

一雙

一柳下狗子圖

一雙

一鯉魚瀧登圖

雙幅

寛政五年の作である。

一龍虎王義之圖

三幅

一鍾馗圖

一幅

寛政七年の作である。

一十一面觀音立像 〔國寶〕

一幅

木造藤原時代末期の作、高さ四尺六寸。

一觀音立像 〔國寶〕

一幅

木造高さ三尺二寸、藤原時代初期の作。

一聖觀音立像 〔國寶〕

木造高さ三尺二寸、藤原時代末期の作。

一 驅

【帝釋寺】〔古義眞言宗〕香住驛の西北約二軒、香住町下濱にあり、上寺と稱す。寺寶の聖觀音立像〔國寶〕は杉材の一木彫で藤原時代初期の作である。

【射添スキー場】香住驛の南二二軒、山麓高津まで二〇軒半、自動車の便がある。

【小代スキー場】香住驛の南二九軒、山麓大谷まで二七軒、自動車の便がある。

【平家村】鐘驛の西北五軒、餘部村大字御崎は俗に平家村と云ふ、但馬御火浦の勝景を俯瞰され、その釣鐘洞門が眼近に見える。

【但馬御火浦】〔指定名勝・天然記念物〕濱坂驛の東北方、美方郡濱坂町から城崎郡餘部村に亘る一帯の海岸で、日本海の波濤によつて浸蝕された集塊岩、凝灰岩、花崗岩等の火成岩から成り、景勝の變化に富んだ海岸を構成して居る。色彩の異なつた斷崖が高く連つて居るが、その最も雄大なものは、屏風岩と呼ばれるものである。

皮膚病、婦人病、胃腸などに效くと云ふ。

湯村の偉觀は荒湯噴騰の光景で、町營浴場の前に咫尺を辨せぬ位に水蒸氣をあげて居る。そこには二つの湯の溜りを設け、土地の人は温泉の高熱を利用して、魚類野菜その他を浸して自由に煮沸して居る。湯村名物の荒湯豆腐もこの湯で茹でたものである。また温室、温池なども設け鶏の孵卵や養鯉などが行はれて居る。

附近には清正公山、八幡神社、正福寺、藥師堂などがあり、冬はこの温泉を足溜りとして鐘尾、高山、扇の山などへのスキー行が行はれる。旅館 井筒屋（三圓）、柳屋、三好屋、富屋（三圓）。

【扇の山】濱坂驛の南三〇軒、スキーに適する。途中鐘尾スキー場を経て千谷まで一四軒半の間自動車の便がある。

る。數多の岩脈が帯の如くに基盤を貫いて、隨所にこれ等の岩脈や斷層に沿うて生じた洞門や洞窟が開口し、舟を入れ得るものも少くない。釣鐘洞門、十字洞門はその主要なものに屬する。岩礁島嶼は點々として波間に相應して、トラキ安山岩の柱狀節理を成せる大嶋と朝陽夕暉を腹背に迎へて景致を添へる北走巖岬の朝日洞門とは奇勝中の尤なるものである。夏期は濱坂香住から觀光船便がある。

【相應峯寺】濱坂驛の北約二軒、濱坂町にあり、大峰寺とも云ふ。山上院奥の院に安置されて居る十一面觀音立像〔國寶〕は木造高さ七尺餘、相好雄邁平安時代の作にかゝるが寶冠、瓔珞、持物、光背、蓮座は總て後補である。

【湯村温泉】濱坂驛の南一〇軒、自動車の便がある。湯町は春來川を中に挟んで軒を列ね、東西南の三面に翠巒を繞せる幽境である。温泉は無色透明の弱アルカリ泉で攝氏九十八度に及ぶ高熱を有して居るので、冷却装置を施して入浴に用ゐることゝして居る。神経痛、

いざやせむ都のつとに丹波栗
山ざくら丹波の風はまだ寒し
橋立や松に魚のせて月遊ぶ
みじか夜や六里の松に更たらず
大江山若菜の禮に女筆かな

ト 養
雅 因
三 千 風
蕪 村
序 令

改版

日本案内記

近畿篇 上 終

京都鳥取間

元 元 元 元 元 元 元 乾 建 建 建 建 建 建
弘 慶 亨 久 龜 應 永 元 曆 保 武 仁 德 長

三一 八一 三一 二一 三一 二一 二一 一 二一 六一 二一 三一 二一 七一
九九 五五 九九 八八 二二 九九 七七 九九 八八 二二 九九 九九 九九
九九 四三 八八 六六 二二 九九 七七 九九 八八 二二 九九 九九 九九
三三 八八 三三 二二 五五 三三 一一 三三 二二 三三 二二 三三 二二
三三 八八 三三 二二 五五 三三 一一 三三 二二 三三 二二 三三 二二
六六 〇〇 六六 七七 三三 六六 八八 六六 七七 七七 五五 六六
〇〇 五六 一八 三三 六六 二二 二二 三三 三三 〇〇 三三 〇〇 六六
八〇 七四 八〇 六六 九九 九九 九九 九九 九九 九九 九九 九九 九九

コ

康 康 康 康 康 康 元 元 元 元 元 元 元 元
平 治 正 元 應 永 安 和 祿 曆 文 仁 德 中 治

七一 二一 二一 一 一 三一 一 九一 六一 一 五一 一 二一 九一 一
一七 一八 二二 一九 二〇 二〇 二二 二二 二二 一八 二二 一一 二二 二二
二四 〇三 六五 一六 四九 四二 二一 二二 二二 四四 〇六 八四 九九 〇九
〇〇 一四 四四 二五 三八 三三 三三 一六 一七 一八 二二 三三 三三 一八
六四 四三 五五 六六 八九 四二 六一 七三 八四 一八 二二 三三 三三 二四
八八 七七 四四 六八 五五 五五 五五 三三 二二 七五 二二 六六 五五 七七

寬 寬 寬 寬 寬 寬 寬 寬 寬 寬 寬 寬 寬 寬
和 保 平 文 仁 德 治 政 正 弘 元 喜 延 永

二一 三一 九一 二一 四一 二一 七一 二一 六一 八一 四一 三一 三一 〇一
六六 二二 五五 二二 六六 七七 七七 二二 二二 六六 九九 八八 二二 二二
四四 〇〇 五四 三二 八七 〇〇 七五 四四 二二 二二 六六 九九 八八 二二 二二
六五 三一 七九 二一 〇七 五四 三七 〇九 五〇 二二 二二 六六 九九 八八 二二 二二
九九 七七 八八 六六 〇〇 〇〇 〇八 八八 〇八 四四 〇〇 二二 二二 二二 二二
八八 四三 七四 七九 〇九 〇九 〇八 〇九 四四 〇〇 一四 二二 二二 二二 二二
九九 一二 〇〇 二二 九九 八八 八八 一一 四四 九九 六六 七七 一一 二二 二二
五五 八〇 四二 九〇 一四 六六 六七 八四 四四 一四 七六 〇七 五八 〇二 九九 二二 二二
九一 二二 六一 二二 九一 三三 四一 四一 三三 四一 〇一 三一 二一 六一 二一

ケ

キ

建 建 建 慶 慶 慶 慶 享 享 享 享 久 久 * 觀
治 久 永 長 應 雲 安 和 祿 保 德 壽 安 應

三一 九一 一 九一 三一 四一 四一 三一 四一 〇一 三一 二一 六一 二一
一九 一八 一八 二二 二二 一一 二二 二二 二二 二二 二二 一八 一八 二二 二二
三三 八五 八〇 六六 二二 二二 二二 二二 二二 二二 二二 二二 二二 二二 二二
七五 八〇 四六 四六 二二 二二 二二 二二 二二 二二 二二 二二 二二 二二 二二
二二 一一 二〇 六五 八八 七七 六六 八八 五五 七七 四四 一一 一一 一一 一一
七七 九〇 〇六 九六 六六 〇〇 五五 〇〇 三三 三三 三三 三三 三三 三三 三三 三三
六六 七七 七三 三三 七七 二二 二二 一一 四四 二二 四四 七七 七七 五五 五五
六六 四三 三五 七四 七四 〇三 〇三 〇三 〇三 〇三 〇三 〇三 〇三 〇三 〇三 〇三

貞應	貞永	壽永	朱鳥	昭和	承和	承曆	承保	承平	承德	承元	承久	承應	承安
二一	一	四一	一	一	四一	四一	三一	七一	二一	四一	三一	三一	四一
八八 八八 三二	八八 九二	八八 四四 五二	一三 四六	二五 八六	五四 〇九 七四	七七 四三 〇七	七七 三三 六四	五五 九九 七一	七七 五五 八七	八八 七六 〇七	八八 八七 一九	三三 一一 四二	八八 三三 四一
一一 二二 三二	一一 二二 三二	一一 二二 三二	六八 八六	一九 二六	八八 四三 七四	〇〇 八七 〇七	〇〇 七七 六四	九九 三三 七一	〇〇 九九 八七	一一 〇〇 〇七	一一 二二 一九	六六 五五 四二	一一 七七 四一
七七 一八 九	七〇 九	七七 五五 六九	一二 五五	〇一 九〇 五	八八 六六 一四	八八 六六 五七	〇〇 〇一 四〇	八八 四四 三四	七七 三三 一四	七七 二二 〇二	二二 八八 七九	七七 六六 七〇	

子

夕

治曆	治承	治安	大寶	大同	大治	大正	大化	大永	* 貞和	* 貞治	貞元	貞觀	貞享
四一	四一	三一	三一	四一	五一	五一	五一	七一	五一	六一	二一	八一	四一
七七 二二 八五	八八 四三 〇七	六六 八八 三一	三三 六六 三一	四四 六六 九六	七七 九八 〇六	二二 五五 八七	三三 〇〇 九五	一一 八八 七一	二二 〇〇 九五	二二 〇〇 七二	一一 六六 三三	一一 五五 三三	二二 三三 四四
〇〇 六六 八五	一一 八七 〇七	〇〇 二二 三一	七七 〇〇 三一	八八 〇〇 九六	一一 三三 〇六	九九 二二 六二	六六 四四 九五	五五 二二 七一	三三 四四 九五	三三 六六 七二	九九 七七 七六	八八 七五 六九	一一 六六 八八
八八 七七 三六	七七 六六 一四	九九 一一 八〇	二二 三三 八〇	一一 三三 二五	八八 一一 一五	二二 九九 二六	四四 一一 四〇	五五 九九 二六	五五 七七 三九	九九 六六 四五	〇〇 六八 五二	二二 五五 四七	

シサ

神護景雲	神龜	* 至德	齊衡	弘和	弘仁	弘長	弘治	弘化	弘安	興國	康和	* 康曆	康保
三一	五一	三一	三一	三一	四一	三一	三一	四一	〇一	六一	五一	二一	四一
四四 二二 九七	三三 八八 八四	二二 〇〇 四四 六四	一一 五五 一六 四	二二 〇〇 四四 三一	一一 四四 八七 三〇	一一 九九 二二 三一	二二 五五 〇〇 七四	一一 九九 四三 七八	二二 〇〇 〇〇 五〇	一一 七七 六五 三九	二二 〇〇 四三 〇九	一一 六六 二二 七四	
七七 六六 九七	七七 二二 八四	一一 三三 八八 六四	八八 五五 六四	一一 三三 八八 三一	八八 一一 三〇	一一 二二 六六 三一	一一 五五 五五 七五	一一 八八 四四 七四	一一 二二 八七 七八	一一 三三 四四 五〇	一一 〇〇 九三 〇九	一一 三三 七七 〇九	九九 六六 七七 四
一一 七七 二四	一一 二二 三三 七	五五 五五 五七	〇〇 八八 五七	五五 五五 八〇	一一 一三 八一	六六 七八 八〇	三三 八八 四六	九九 四七	六六 六六 四三	五六 九〇 六一	八八 三三 八二	五五 六六 一一	九九 七七 四七

*

昌泰	正和	正曆	正保	正平	正德	正長	正中	正治	正元	* 正慶	正嘉	正應	正安
三一	五一	五一	四一	二一	四一	五一	一	二一	二一	一	二一	二一	五一
一一 五五 〇八	一一 九九 七六	一一 六六 五五 四〇	二二 三三 〇〇 七四	二二 〇〇 二〇 九六	二二 三三 七七 五一	二〇 八八	一一 九九 八八 五四	一一 八八 六五 〇九	一一 九九 九九	一一 九九 九九	一一 九九 九九	一一 九九 九九	一一 九九 九九
九八 〇九 〇八	一一 三三 一一 六二	九九 九九 四〇	一一 六六 四四 七四	一一 三三 六六 九六	一一 七七 一一 五一	一一 四三 八	一一 三三 二二 五四	一一 二一 〇九	一一 三三 三三	一一 二二 五五 八七	一一 二二 九九 二八	一一 二二 九九 二八	一一 三三 〇九 一
〇〇 四四 一三	六六 六二 五九	九九 四七 七一	二二 九九 四七	五五 七七 二五	二二 二二 六〇	五 一三	六六 六一 六七	七七 四四 一	六六 八二	六六 〇〇 八九	六六 八八 三四	六六 四九 三	六六 四四 〇三

ニ 卜

仁治	仁壽	仁安	德治	天和	天祿	天曆	天養	天明	天保	天文	天福	天平寶字	天平勝寶
三一	三一	三一	二一	三一	三一	〇一	一	八一	四一	三一	一	八一	八一
九九〇〇二〇	五五三一	八八二六八	九九六六七	三三四三一	六六三二〇	六六一〇七	一八〇四	二四四八一	二四〇三〇	二一九四二	一八九三	四四二七	四四〇六九
二二四二〇	八八五三一	一一六六八	三三〇〇七六	六六八三一	九九七二〇	九九四六七	一一四四	七七八八一	八八四三〇	五五三二	二二三三	七六五四七	七五四六九
六七九〇九一	〇〇八九〇	七七七三五	六六三四五	二二五八〇	九九七九一	九九九五四	七九七	一一五三〇	一一九八一	三四八七九	七〇八	一一七八七	一一八九五

フ ハ

文中	文治	文政	文正	文化	文久	文龜	文應	文永	文安	白鳳	白雉	仁平	仁和
三一	五一	二一	一	四一	三一	三一	一	一一	五一	三一	五一	三一	四一
二〇三三四二	一一八四九五	二二四八七八	二二二二六	二二四七七四	二二五二二	二二一六三	一九二〇	一一九三四	二二〇〇八四	一一三三四五	一一三三四〇	一一八八三一	一一五四八五
三三七七四二	一一八八九五	一一八二八九	一四六六	一一八〇七四	一一八六六三	一一五〇〇三	一一二六〇	一一二七四四	一一四四八四	六六八七五	六六五五〇	一一一五五三	一一八八八五
五五六七九	七七五二六	一一二二三	四七五	一一三二四七	七八〇	四四三八〇	六八一	六六七七	四四九三七	一一二五六八	一一二八九七	七七七八〇	一一〇五五六

テ

天延	天永	天安	長和	長祿	長曆	長保	長德	長治	長承	長元	長寬	長享	長久
三一	三一	二一	五一	三一	三一	五一	四一	二一	三一	九一	二一	二一	四一
六六三三三	七七七二〇	五五八七	六六七六二	一一九七	六六九七	六六五三九	六六五八五	七七六五四	七七九四二	六六九六八	八八二四三	一一四八七	一一七〇三〇
九九七七五三	一一一八七	八八五八七	〇〇一六二	四四五九七	〇〇三三九	〇〇九九九	九九九八五	一一〇〇五四	一一三三四二	一一〇〇三六八	一一六六四三	一一四八八七	一一〇〇四三〇
九九六六八	八八三九一	〇〇八三四	九九二五九	四八八二四	九九〇二四	九九三九八	九九四三六	八八三六七	八八〇七九	九九〇五三	七七七七八	四四五三四	八九〇八一

天平神護	天平感寶	天平	天仁	天德	天長	天治	天授	天承	天正	天元	天慶	天喜	天應
二一	一	〇一	二一	四一	〇一	二一	六一	一	九一	五一	九一	五一	一
一四四二六五	一四〇九	一四〇八九	一七六六八	一六二〇七	一四九八三	一七八八五	二〇〇四三〇五	一七九一	二二二五三	二六四二八	一六〇九八	一一七一一三	一四四一
七六六五	七四九	七七二八九	一一〇〇九八	九九五〇七	八八三三四	一一二二五四	一一三三七〇五	一一三一	一一五九七三	九九八二八	九九三六八	一一〇五七三	七八一
一一一七五	一一九二	一一九三	八八三三	九九八一	一一〇八七	八八一六七	五五六六	八一〇	三三六〇八	九九五九三	一一〇九三	八八八四	一一一六〇

文保	二一	一九七七	三三二七	六二三四
文明	一八一	二二四六	四四六九	四四七二
文曆	一八一	一八九四	二二三四	七〇七
文祿	四一	二二五二	一五九二	三四九
*文和	四一	二〇一五	一三五五	五八六九
へ平治	一	一八一	一一五九	七八二
ホ保安	四一	一七八三	一一二〇	八八一
保延	六一	一七九五	一一三五	八〇六
保元	三一	一八一六	一一五八	七八五
寶永	七一	二二七〇	一七〇四	二二二七
寶龜	一一	一四三〇	七七〇〇	一一七一
寶治	二一	一九〇八	二二四七	六九三
寶徳	三一	二二〇九	一四四九	四九二
寶曆	三一	二二四一	一七六一	一九八〇

参考語彙

一、この語彙は日本案内記を讀まるゝ人々の參考に供するため、各篇に記述せられた美術、建築、社寺、宗教、武事、遺蹟その他に關する主なる用語に就いて簡單なる説明を加へたものである。

一、五十音順に配列し、發音通りの假名を用ゐてある。

一、近畿篇上卷の附録としたが、實は日本案内記各篇の參考用として編修したものである。

ア 愛染明王像 愛の神で、身の色赤く、三眼六臂、獅子の冠を頂き、頭髮逆立ち忿怒の相をなし、赤蓮華上に結跏趺坐する貌が普通である。密教の盛に行はれた平安時代から鎌倉時代にかけて多く作られた。

あかりど 明床 附書院とも云ひ、床の間の脇に、縁側に突き出して取附けた床。現代住宅では單に書院と云ふ。

あひつち 上土門 最初は勾配の小さい門の上に土を載せたものを云つたが、後には土を載せず、左右の丸柱の上に冠木を載せた緩勾配の屋根を有するものを云ふ様になつた。揚土門とも書く。

釐手繪 假名文字を景色畫中に書き込み、これに依つて水石、鳥等の形を現せる繪。

参考語彙

マ 萬延	一	二五二〇	一八六〇	八一
萬壽	四一	一六八七	〇〇二七	九一七
萬治	三一	二二〇八	一六五八	二八三
明應	九一	二二五二	一五〇〇	二八三
*明德	四一	二〇五三	一三九〇	二七三
明曆	三一	二二一五	一六五五	二八六
明和	八一	二四二四	一七六四	一七〇
ヨ 養老	七一	一三三七	七七二七	二二四
養和	一	一八四一	一一八一	七六〇
*曆應	四一	一九九八	一三三八	六〇三
曆仁	一	一八九八	一一三八	七〇三
レ 靈龜	二一	一三七五	七七一五	二二五
ワ 和銅	七一	一三六八	七〇八	二二三

飛鳥式伽藍 飛鳥時代に行はれた佛寺に於ける堂塔の配置は四天王寺式と法隆寺式との二種がある。百濟式とも云ふ。

飛鳥時代 推古時代を見よ。

四阿造 四注造を見よ。

校倉 木材を横に積み上げて構架する一種の倉庫建築で、奈良の正倉院はその適例である。

花瓦 唐草瓦を見よ。

鏡瓦 唐草瓦を見よ。

阿彌陀如來像 淨土宗の本尊で、淨土教隆興の藤原時代に多く造られた。阿彌陀三尊は觀音、勢至の二菩薩を左右に配したものである。阿彌陀は無量壽、無量光明と譯され、略して彌陀とも稱される。

イ 生玉造 社殿の形式中異例のものである。千木、鯉木はある。石落 城の建物から石を落して、攻め寄せる敵を死傷させる様になつて居る裝置。

石の間 神社の拜殿と本殿との間にある中殿を云ふ。石を敷いたからこの名が起つたもの。後には合の間、幣殿、渡殿とも云つた。

泉殿 寢殿造に於いて、釣殿と相對して、それと東西對屋から前方に突き出した廊の先端にある小さな建物。池または流水の中に立ち、四方吹き放しとなり、壁がない。

伊勢鳥居 神明鳥居の一。丸柱、楔を打つた角貫で、笠木の断面は

五角形である。例、伊勢神宮の鳥居。内宮の分は柱の下方が小石根巻となつて居る。内宮源鳥居は伊勢鳥居に類して柱が八角形で、その實例は京都吉田神社太元宮にある。

板臺股 板で作り、最も簡単な蛙股である。

板唐戸 板の上下に端喰を付けて表裏同様にした戸。端喰は板の離れることを防ぐ幅の狭い横木。

板碑 石塔婆の一。細長くて比較的薄く、上端三角形をなし、表面に佛像、佛名、建立の年月、趣旨、氏名等を刻し、追善のために建てたもの。關東地方に多く、概ね鎌倉、室町時代のものである。

一字金輪佛 大日如來が説ける咒文を人格化せる圖像で、咒文中の一字即ち勃嚙を唱へると、癪、狂、癡、聾がなほると云ふ。

一宮 國司が管轄する一國の中で、最も由緒ある神社。國司が毎年巡拜奉幣する制度が行はれぬ様になつて、管内の極少數の神社を撰んで奉幣したから、一宮、二宮、三宮等の名が起つたと云ふ。

一本彫 一本の木で作つた彫刻。

一恵 浮田氏、土佐派の畫家(二四五五—二五一九)

一問社 正面、側面何れも柱間が一つある社殿。

一切經 大藏經を見よ。

一蝶 英派の祖(二二二二—二二三八四)

一刀三禮 佛像を彫刻する時、一度刀を入れる毎に三度禮拜すること。

浮世繪 通例「浮世繪」とは、江戸初期岩佐又兵衛に始まると云はれる町民藝術として生れた一種の風俗畫である。官僚畫派と目される狩野、土佐派に對し別系統をなす畫派で、浮世主として演劇、遊女等を題材とし専ら浮世繪版畫として發展し町民階級に非常に歡迎された。師宣、歌麿、豊國、北齋等は、その大家である。

受花 上方を向いて居る花形。塔の九輪の下にもある。請花とも記す。

氏神 氏族の祖神を云ふ。後に至り祖神でなくとも、その氏に由緒ある神をも稱する様になり、更に産土神をも云ふ様になつた。

氏子 もと氏神の子孫を云つたが、今は産土神即ちいはゆる氏神鎮座地に住む人を云ふ。

薄肉彫 低い浮彫。

埋門 城の石垣などの下方に設けられた小門、或は裏口の小門。

産土神 産土即ち人が生れた土地を守護する神で、うぶすな、うぶ神、鎮守とも云ひ、轉じて氏神とも稱する。産土神に對しその土地の住民は産子であるが、轉じて氏子と云ふ。

運慶 鎌倉初期の有名な彫刻家。

縹網彩色 同色で淡、中、濃の三段に彩色し、これを繰返したものの。また同色の濃淡及び異色を三重以上に重ね、だんだらばかした彩色と説いたものもある。縹網彩色、雲限彩色とも書く。

雲谷派 室町時代に僧雪舟の創めた水墨畫の一派。

参考語彙

一刀彫 木彫刻の一。一刀で簡単に彫刻すること、またその彫刻物。稻荷鳥居 臺輪鳥居を見よ。

鑿抜門 扉が青銅で出来て居る門。

家扱首 家の妻の構造に關する名。三角形をなし、山形(合掌形)になつた二本の斜材は扱首竿と云ひ、頂點から底邊へ達して居る直材は扱首束と稱する。

遺物包含地 土中から石器時代の土器、石器類が発見され、貝殻のない場所。

入側座敷と縁側との間にある通路で、その疊敷なるを縁座敷と云ふ。

入母屋 上部は切妻、下部は勾配を有する屋根。即ち切妻造と四注造とを組み合せたもの。かくの如き様式の屋根を入母屋造と云ふ。母屋は眞屋の轉訛だと云ふ。

色色感 鏡の小札一枚／＼を種々の色をした糸、革等で綴ること。岩佐又兵衛 浮世繪の祖と稱されて居る(一一三三—一一三三〇)

印 佛、菩薩、天部等の悟、本願を表はす動作である。器物、蓮等の持物でも表示されるが、手印と稱して、兩手掌を種々の形にすることに依つても表示される。これを行ふことを指して印を結ぶ、印を作ると云ふ。印の種類は胎藏界、金剛界、大日、不動等種々ある。

ウ 浮彫 圖形を表面より高く浮かせた彫り方。

エ 影堂 影像を祀る堂。御影堂を見よ。

永徳 桃山時代に於ける狩野派の大家で、古永徳と稱する(一一二〇—一一二五〇)

惠心僧都 源信。叡山の慈惠大師に事へ、顯密の教を究め、後横川に屏居して専ら佛書を著述した。また多くの彌陀來迎圖を描いたと傳へる(一一六〇—一一六七七)

江戸時代 本書五一頁参照。

繪様 建築の細部に於ける模様或は彫刻を云ひ、繪様肘木は模様または彫刻を施した肘木である。

縁座敷 入側を見よ。

エンタシス (Entasis) 柱の膨らみ、胴張。

閩浮提 須彌山の南方海中にある陸地。閩浮洲、閩浮、南瞻部洲とも云ふ。

閩浮檀金 印度の河中に産する良質の砂金。「えんぶだんごん」とも云ふ。

演法堂 法堂を見よ。

オ 扇種 種が平行せず放射状になつて居るもの。

應舉 圓山氏。圓山派の始祖(一一三九—一一四五五)

皇子造 春日造を見よ。

大種 尾種を見よ。

追手 追手はもと敵の前面を攻撃してこれを追ひ拂ふ軍隊を云ひ、

参考語彙

轉じて城の正面、表門を指す様になつた。手は隊の意。大手とも書く。搦手の對。

大手 追手を見よ。

大天守 一城に天守が二基以上ある時、最高部に建つ最大のもの云ふ。

大鳥造 神社建築形式の一。大社造の變形で、四方に廻縁がなく、入口は中央に設けられ、内部は心の柱がなく、内陣の中央に神座を設けてある。この式は奈良時代以前からある。例、大阪府の大鳥神社。

黄檗宗 禪宗の一派。江戸時代隠元が傳へ、建築が支那風である。

大棟 水平な主棟を云ふ。

大鏡 他の鏡に比して威容が壮大であるからこの名がある。袖、胴、草摺の三要部から成り、檜板、鳩尾板等もある。袖は左右に一つづつ、草摺は胴の下方にあつて、前後、左右合計四つ（四間）ある。胴の前面最上部は胸板、その下方染革で包んだ所は鼓走と呼ばれ、胸板よりは上、肩の上に障子板がある。胸板の上方からこれを蔽うて前面に垂れて居るものが二つあつて、著用者の右前面のが檜板、左前面のが鳩尾板である。また胴の右脇の隙間を保護するものに脇板があり、背面の隙間を保護するものには逆板と云ふものがある。大鏡は源平争鬪の頃完成し、蒙古來襲の頃まで全盛であつたと云ふ。

戒壇石 禪宗、律宗の寺院の門前に建てた石柱。不許葦酒入山門、攝僧大界等と彫刻してある。一名結界石。

垣内 聚落の形式の名。數戸乃至十數戸が集合して居るもの。一名かいち。

廻遊式庭園 廣い庭園内に統一ある廻遊苑路を造り、要所に小建築物などを設け、茶趣味に仕上げた庭園で、江戸時代の初期に大成された。

廻廊 社寺の主要建築物を圍む廻り廊下。

鏡天井 板を平に張つて一平面にした天井で、棧がない。

丸桁 軒の近くで種を受ける桁。その断面今は方形、矩形のものが多い。「がんぎよう」、「がんこう」とも云ふ。

額束 東及び鳥居を見よ。

懸佛 平面上に佛像を浮き出させ、壁に吊り得る様にしたもの。多くは圓形で、直径四五寸乃至一尺内外で、内部は木質、表面は銅である。一に御正體と云ふ。

掛物 書畫を表装して平時は巻き置き、觀賞時には展開して床の間、壁間などに懸垂し得る様にした室内裝飾品。掛字、掛繪、軸物、軸、幅物等とも云ふ。形態に依つて縦物、横物、全紙、半紙、聯落、大軸、小軸、柱隠し等の名があり、書畫描寫部の地質に依つて紙本、絹本、紙本と稱される。表装の種類は日支の二大別があつて各眞、行、草に分かれるとも云ひ、また大和、明朝、眞、

参考語彙

拜 破風板、種等の相會する所。

置千木 千木を見よ。

織田豊臣時代 桃山時代を見よ。

尾極 斗組から突出して居る化粧木。大種、天狗種とも記す。

威 鏡の小札を縁、革、絹等で連続すること、或はその色。

鬼板 大棟の兩端へ取付ける鬼面の附いた飾板。鬼面のないものもある。

鬼瓦 瓦製の鬼板。

帶曲輪 城砦の外方にある帶狀の郭。

親柱 手摺の端または隅にある太い柱。

折上天井 天井の面を支輪に依つて、廻縁より一段高くしたものを。

力 開山 寺院の創建者を云ふ。禪宗の創建開山は實際の創建者、

勸請開山は師僧を推尊して開山とした名譽開山である。また眞宗

では宗祖を開山、末寺創建者を開基と稱すると云ふ。開山堂は寺

院、宗派の開始者の像や位牌を祀つた所で、影堂、祖師堂とも云

ふ。

貝塚 石器時代の住民が食用に供した貝の殻の堆積して居る所。

街村 聚落の一形式。人家が街道に沿うて並列するもの。

戒壇 僧侶に罪惡の防止の禁戒を授けるために築いた壇。戒には三

戒、五戒、八戒等がある。奈良時代戒壇は奈良の東大寺、太宰府

の觀音寺、下野の藥師寺にあつた。

袋、唐、神聖の六があるとも云ふ。掛物各部の名稱に就いては大和表具を参照。尙掛物は二幅對（對幅、双幅）、三幅對等のものが

あり、三幅對の時は中を中尊、左右を脇繪と稱する。

華山 渡邊氏。文人畫の大家（二四五三—二五〇一）

香椎造 神社建築形式の一。平面は凸字形をなし、突出部の前に向

拜、外陣の左右に車寄があり、屋根が複雑で、千木、鯉木がない。

福岡縣の香椎宮本宮にのみ見られる。この様式發生の時代は不

明。

鹿島鳥居 神明鳥居の一。丸柱、丸笠木で、柱が直立し、角貫の先

端が柱の外側に出て切り方が垂直なもの。例、鹿島神宮の鳥居。

靖國鳥居は類似の式であるが、角貫は柱の外側に出て居ない。鹿

島鳥居の柱を内方に傾斜させ、額束を掲げ、貫を楔打にしたもの

を宗忠鳥居と云ふ。

頭貫 柱と柱との上部を連ねる横木。

春日造 神社建築の一形式で、弘仁時代から始まり、一見住吉造の

前に向拜を附けた様なもの。更に詳説すれば、正面、背面とも破

風造、棟上に千木、鯉木、縁側に勾欄があり、向拜の屋根と木家

とは幅が同じである。一名皇子造。

春日燈籠 石燈籠の一。奈良の春日神社境内祓堂の社頭にあるもの

に倣つた型で、火袋は六角形をなし、その二面に牝牡の鹿を、二

面に雲形、日月を刻つてあるが、殘の二面は空である。春日型の

参考語彙

名がある。

春日鳥居 島木鳥居の一。柱は圓形で直立し(後世に至り傾斜)笠木、島木、貫は反がなく、各の先端が垂直に切られ、笠木は五角形、島木は四角形をなし、島木と貫との間に額束があり、貫は柱の外方に伸んで楔を打つてある。この造方を皇子造と云ふ。奈良の春日神社の一の鳥居は頗る後世の手法が加はり、笠木は反笠木で両端を斜に切り、添卷木の柱に傾斜があり、これ等は朱を塗られ、添卷木の根巻及び薄い臺輪等がある。

春日派 藤原時代の末、春日繪所を預つた畫派。

刀 片刃の切れ物。長さ概ね二尺以上で、刃を上方にして腰に差すもの。大小の大で、打刀とも云ひ、太刀と共に刀と稱することがある。打は刺すの對。刀劍の條參照。

片流造 一方へ傾斜して居る屋根。

鯉木 神社、宮殿の大棟の上に、間隔を置いて幾本も横に並べて裝飾とする圓形の木材。形状鯉節に類似するから云ふ。勝男木、鯉魚木、葛緒木とも書く。

合掌 母屋を受ける小屋組中の斜材を云ひ、木材を山形に交叉すること並びにその木材をも云ふ。

合掌鳥居 山王鳥居を見よ。

甲冑 鎧、兜の合稱で、甲は「よろひ」、冑は「かぶと」である。國訓冑を「よろひ」と云ふのは誤つて甲冑を轉倒したものだと云ふ。

葛石 基壇の上縁に据えた石。

華頭窓 上方が曲線形をなす窓。火燈窓とも書く。

金岡 巨勢氏。巨勢派の祖で、平安時代佛畫の代表的畫家(一五六〇年代)

狩野派 狩野正信の創めた一派で、正信の子元信以後代々室町幕府に仕へて、その繪所預となつた。永徳の子光信が徳川家康に用ゐられてから、累世徳川幕府の繪所に任じた。後に中橋、鍛冶橋、木挽町、駿河臺、濱町の五家に分かれ、住吉家と共に、幕府の畫局を掌つた。

冠木 門の木柱の上方に置かれた太い横木。

冠木門 左右二本の角柱の上部を冠木(貫)で連貫させた門。

兜 頭を防護する武具。頭を入れる所は形状が似て居るので鉢と呼び、その下方に垂れて頸を被ふ所を鐙(鍔、鞆)と云ふ。鉢は鐵製である。兜は冑とも記されるが、甲の字を書くのは誤である。

多の乳状突起あるものは星兜、筋が澤山あるものは筋兜と稱される。筋と筋との間は間と云ふ。三枚兜、五枚兜は鐙の枚數に基づく名である。

廣がり、内部には裝飾的彫刻が嵌装されて居るものが多い。

鎌倉時代 本書五一頁參照。

伽藍 僧園、精舎と譯され、寺の意。
詞梨帝母 鬼子母神を見よ。
枯山水 水を利用せず、石と砂とを主とした象徴的庭園。
歡喜天 俗に聖天と云ひ、人身象頭の形像に作られる。
岸駒 岸派の祖(二四〇九—二四九八)
寒山拾得圖 畫題。寒山は唐の高僧で詩に長じ、天台山國清寺の豐干禪師及びその弟子拾得と親しくした。畫には通常寒山が筆を執つて石上に詩を書き、拾得が箒で地上を掃く所が描かれる。
乾漆 主に奈良時代に出來た内腔の塑像。先づ粘土で原型となる像を作り、漆を塗つた荒い麻布をその上に五六回巻く。次にこれを割つて内部の土を除き、木を入れて支へる。更に糞ぎ合せて、その上に漆を塗り、裝飾を加へるのであると云ふ。木像を作つてその上に乾漆法を施す方法も行はれた。
官社 社格を見よ。

環状石籬 先史時代の遺蹟。大小の自然石を輪狀に繞らし、籬の如くしたるもの。歐洲にもある。洋名ストーンサークル (Stone circle)。
關東十八檀林 關東に於ける淨土宗十八箇所の講談所を云つたもの。左記括弧内は江戸時代の所在地。
光明寺(相模鎌倉)、傳通院(江戸小石川)、増上寺(江戸芝)、幡隨院(江戸下谷)、靈巖寺(江戸深川)、勝願寺(武藏鴻巣)、常福

蝦蟇鐵粉圖

畫題、二人の仙人。蝦蟇は同名の動物を使用して妖術を行つたと云ふ。鐵粉は自己の魂を吐き出して、餓死した乞食の屍に宿らせ、跛になつたと云ふ。

龜腹 建造物の最下部にある饅頭形の部分即ち漆喰塗の土壇。また鳥居の柱の根元にある饅頭形のもの。

唐草瓦 唐草模様ある軒先瓦。鏡瓦、花瓦とも云ふ。今は無地のものが多い。

唐戸 開戸で、縦にも横にも棧があつて交叉し、その間に板即ち入子板を張つたもの。

唐破風 左右が凹形(反破風)、中央が凸形(起破風)をなす曲線形の破風。かくの如き屋根が唐破風造。

空濠 水を湛へて居ない堀。

搦手 追手に追はれて逃げる敵を後方にあつて搦め捕る軍隊を云ひ、轉じて城の背面、裏門を云つた。追手の對。

唐門 唐破風附の門。唐破風は正面にあることも(向唐門)、兩脇にあることもある(平唐門)

唐様 禪宗に伴なつて傳來した支那宋代建築法の一。天竺様と異なり、木割が一般に細く洒脱である。而して杵組に於いて木端の輪廓が全く弧線から成り、繪様、鏤形を施され、その形が特別であることの外、詰組、勾欄の組織、親柱の逆蓮頭、棧唐戸、火頭窓、海老虹梁等數多の特徴があると云はれて居る。

参考語彙

寺(常陸瓜連)、弘經寺(下總飯沼)、大巖寺(上總生實)、連馨寺(武藏川越)、弘經寺(下總結城)、東漸寺(下總小金)、淨國寺(武藏岩槻)、大善寺(武藏瀧山)、大念寺(常陸江戸崎)、大光寺(上野新田)、善導寺(上野館林)、靈山寺(江戸本所) 觀音 廣く崇拜されて居る菩薩で、觀世音菩薩(阿婆盧吉帝濕伐羅の譯)の略。世間の苦惱の音聲を觀する意とも、觀自在即ち觀力自在なる義とも云はれて居る。阿彌陀三尊の中、左方の脇侍で、慈悲心深く、三十三身に化現して衆生を濟度すると云ふ。三十三箇所の觀音札所、京の三十三間堂の名は何れも三十三身に因縁がある。

官幣社 社格の最上級で、大、中、小の三等に分かれて居る。昔中央政府の神祇官から主要な神社に幣帛を供へたことがあるから幣の名が起つた。今は例祭、本殿遷座祭等に皇室(宮内省)から幣帛神饌料を供進される。

キ 祇園 祇樹給孤獨園の略。祇樹は祇陀太子の苑林の意で、中印度舍衛城の南にあつた。これを給孤獨即ち須達長者が買つたから祇樹給孤獨園と云ふ。給孤獨こゝに廣大な祇陀林寺(祇園精舎)を建て、釋迦に獻じ、釋迦は多く當寺で説教した。京都の八坂神社は世に祇園とも云はれる。もと祇園感神院と稱する寺に神社を建て、祇園の神を祀つたからである。祇園の神は牛頭天王(素戔嗚尊)、八王子ノ宮(天照大神の五男三女)、少將井

脇侍 佛を夾んでその左右に侍するもの。阿彌陀の脇侍は觀音、勢至の二菩薩である。夾侍とも書き、脇立とも云ふ。 玉眼 珠玉を嵌入した眼。

曲線式鳥居 島木鳥居を見よ。 魚籃觀音 魚を入れた籃を提げて居る觀音。大魚に乗つて居るものもある。

截金彩色 金箔を切つて繊麗な模様を表したものの。 切妻 切妻屋根の端。妻は端の意。

切妻造 切妻屋根を有する家屋。棟に平行な方を平、直角な方を妻と云ふ。

切妻屋根 兩流即ち二斜面を有する屋根で、隅棟がなく、棟と軒と長さの等しいもの。切棟或は眞屋とも云ふ。

木割 木材の大きさの割合。木取。 金棺出現圖 畫題。釋迦が再生し、金棺から出現して説法をする圖。

金石文 釣鐘、銅像、石碑等金屬或は非金屬で造つたものにある文字。

ク 官殿 佛、菩薩等の居住所を云ひ、轉じて佛像等を安置する厨子などを云ふ。

俱舍宗 南都六宗の一。世親の俱舍論に依る小乗教で、法相宗に附屬して居た。

参考語彙

ノ宮(稻田媛)を合せ祀つたものだと云ふ。

祇園造 神社建築の一形式。左右と後とに廂屋、前方に向拜があり、屋根は入母屋で、千木、鯉木がなく、紫宸殿制或は豐殿制の應用である。京都の八坂神社にのみ見られるもので、鎌倉時代から始まつたと云ふ。

鬼子母神 訶梨帝母の別稱で、子安觀音とも云はれる。兒女擁護の女神で、その形相は左手に愛子を抱き、右手に吉祥果を持つて居る。

吉祥天 訶梨帝母の子、毘沙門天の婦と稱され、福德を司る女神。形像は多く左手に如意珠を持ち、右手は施無畏印の如くして居る。

狐格子 破風の背後にある格子。

軌道 交通機關の一。行政的には軌道法に據つて敷設されるもので、構造、外觀等は地方鐵道と異ならず、原則として線路が道路上に敷設される。また軌道は工學的には、鐵道線路の施工基面上の構造物を指す。

木鼻 柱を貫いて居る貫の先端部である。こゝに彫刻を施したものがあつた。別に造つて柱に取附けることもある。

吉備津造 神社建築の一形式。神社建築と寺院建築との折衷と稱され、屋根比翼造、平面工字形をなす大建築で、千木、鯉木がある。この式は桃山時代以後に起つたと云ふ。

具足 甲冑の異名でもあり、後世の簡単な鎧でもある。

百濟式伽藍 飛鳥式伽藍を見よ。

下棟 大棟から屋根の勾配に沿うて、軒の方へ下降する棟。

九品往生 極樂淨土に往生すると云ふ。即ち上品、中品、下品の三等に各々上生、中生、下生の三級があり、合計九種となる。

クーボン旅館 クーボン式旅行券で、宿泊、食事させる旅館を云ふ。日本旅行協會は鐵道省の規定に依り、旅客の定める経路に従ひ、旅行前に所要の鐵道券、自動車券、渡船券、汽船券等乗物一切の切符や旅館券を作製し、一冊に綴り合せて渡すのである。旅館への茶代は絶対不用である。クーボン(Coupon)は切り取つて使ふ切符、利札、鐵道の數線路連帶乗車證等と譯される。

組入天井 格天井よりは細い格縁で、細に組んだ天井。組入は「くみいり」とも「くみれ」とも云ふ。

組物 柱の上部にあつて軒を支へる装置を云ひ、斗組、斗拱とも稱する。

雲斗 肘木の上にあつて桁の受となる雲形の彫刻物。

剝形 凹凸ある輪廓に依つて材面に施した裝飾。また擬寶珠の上部に於けるが如きえぐれた所を云ふ。

九輪 塔の露盤の上方にある九つの輪。

郭 郭は城内の區劃で、普通本丸、二の丸、三の丸の三部に分れて

居るが、丸と云つても必ずしも圓形ではなく、また同心圓に限つて居ない。大規模のものは郭數十を越える。

黒木鳥居 神明鳥居を見よ。

黒住教 神道の一派。黒住宗忠が教祖で、天照大神を主神とし、日の神を拜し、神の靈感を得ることを第一義として居る。明治十五年現名に改稱する前には黒住講社、黒住教派と稱へた。岡山縣御津郡今村大元に本廳を置いて居る。

軍機保護區域 要塞地帯法と並んで軍機保護法があり、その施行規則もあり、これ等に依つて航空、氣象、水陸形状の測量、高さ二十米以上の高所からの寫眞撮影等を禁止されて居る處を云ふ。

軍港 海軍のために特に防備を施してある重要な港灣。

慶恩 住吉氏。土佐派の畫家(一八六〇年代)。

懸魚 破風の拜下、棟木の先端または破風の桁に接する所に附する裝飾。拜下は最高部の直下の意。懸魚に似た桁際と稱する裝飾もある。

華嚴宗 南部六宗の一。華嚴經に依つた大乘教で、本尊は盧遮那佛。袈裟條 釣鐘の撞座を連ねる帶條と直角をなす帶條を云ふ。一名袈裟形或は袈裟帶。

化粧種 軒下に現れて居る種。

化粧屋根裏 天井がなくて屋根裏が露れて居るもの。

外陣 社寺の内陣より外にある屋内。内陣の對。

神籠石 方形或は長方形に近い巨大な切石を一行に密接並列して、

高地の一部を區劃した古代の遺蹟。用途不明。城郭説、靈域説、寺址説などがある。

格狭間 格間即ち格縁に依つて區劃された中にある裝飾である。唐戸、露盤等に附屬する飾の孔をも云ふ。

郷社 社格の一。府縣社の下に位し、府縣内のやゝ廣い範圍で祀る神社。等級はない。

格天井 太い格縁で數多の粗い方形に組んだ天井。

弘仁時代 平安時代を見よ。

光背 佛、菩薩の背面にある光明。後光、圓光、光相とも云ふ。

廣目天 四天王の一で、西方の守護神である。

高麗門 方形の門柱、控柱が各々二本あつて、門柱にも控柱にも屋根があるもの。

虹梁 反を有する梁。

光琳 尾形氏、光琳派を開いた畫家(二三一五—二三七六)。

航路標識 船舶航行の安全を圖るため、特に設けた標識。燈標、晝標、霧信號、信號所、無線方位信號所の總稱で、燈標即ち夜標には燈臺、燈竿、導燈、挂立燈標、挂燈浮標の別がある。

小具足 鎧、腹巻等の下に著ける小道具を云ふ。鎧に於ける脇當、腕當、籠手、喉輪等、後世の具足に於ける脇引、籠手、頬當、脇當、個柄等である。個柄は股膝邊を防護する草摺の様なもの。

月溪 松村氏。四條派を開いた畫家(二四一二—二四七一)。

華瓶 佛前に花を供へる時に使用する佛具。

化佛 觀音などの寶冠の前に著けた小阿彌陀像。

華鬘 堂内の長押などに懸け、佛前を莊嚴にするに用ゐる裝飾具。

ケールン 積石塚を見よ。

間 柱と柱との間を云ひ、六尺即ち一米八とは異なる。柱が四本あつて一つの建物となつて居る時は三間一戸。筋兜の筋と筋との間を數へるにも、鎧の草摺の數を數へるにも間と云ふ語が使用される。

劍 刀劍を見よ。

桁行 家の桁の長さ即ち棟の長さ。梁間の對。

結界石 戒壇石を見よ。

結跏趺坐 左の足は右の股の上へ、右の足は左の股の上へ載せ、兩足を組み違へて坐すること。

羅索 正しくは「けんじやく」と讀む。不動明王、不空羅索觀音、千手觀音等の持物で、五色の綱の先端に錘を附けてある。古代印度で敵を捕へる武器だと云ふ。

玄室 古墳の石槨の内部にあつて棺を納める室。

ユ 光悦 木阿彌氏。著名な刀劍鑑定家で書畫にも亦秀で、詩繪の技にも長じて居た(二二一八—二二九七)。

緋綱 古代染色法の一で、正倉院御物に見られる。

石高 江戸時代領地、扶持米等に關して云つた石高は粗米の量である。百石高は米としては大抵その三割五分即ち三十五石であつたと云ふ。

國道 最要の道路。(一)東京市から神宮、府縣廳所在地、師團司令部所在地、鎮守府所在地または樞要の開港に達するもの、(二)主として軍事の目的を有する路線につき主務大臣の認定したものである。その有效幅員は四間以上、勾配は三十分の一以下のものを原則とし、路面の構造が車輪の輪帶幅一寸につき百貫の荷重に耐へねばならない。

國幣社 社格の一。官幣社に次ぎ、大、中、小の三等級ある。昔祈年祭に當り、國司即ち地方長官が管内の主要な神社に幣帛を供へたので、國幣の名が起つた。現今國幣社の幣帛神饌料は國庫から供進される。

國寶 國寶保存法に據つて政府が歴史上、藝術上特に重要なものとして指定した製作品。別に政府は重要美術品の認定を行ふ。

國有鐵道 國家が所有して、管理經營して居る鐵道である。その中国有鐵道に屬するものは省線と通稱される。

虎溪三笑圖 畫題。支那江西省廬山に隱遁した惠遠法師を陶淵明、陸修靜の二人が訪問した。法師は歸る二人を送り、かねて渡るまいと考へて居た山中の虎溪を思はず過ぎ、虎の嘯を聞いて、三人大笑したと云ふ傳説がある。

柿葺 薄い板で屋根を葺くこと、葺いた屋根。
護國神社 護國の英靈を祀つた神社。舊名を招魂社と云ひ、諸社に類し、社格はない。護國神社中、村社相當に取扱はれるものと内務大臣の指定に依つて府縣社と同様に待遇されるものがある。
五山 禪宗に於ける最高格の寺院五箇の意味。京都と鎌倉とにあつた。

京都五山 天龍寺、相國寺、建仁寺、東福寺、萬壽寺（別に南禪寺を第一、大徳寺を第二とする）

鎌倉五山 建長寺、圓覺寺、壽福寺、淨智寺、淨明寺

京都尼五山 景愛寺、護念寺、檀林寺、惠林寺、通玄寺

鎌倉尼五山 太平寺、東慶寺、國恩寺、護法寺、禪明寺

腰長押 中程より少し下方即ち腰にある長押。

吳春 松村月溪の雅號。

五清圖 松、竹、梅、蘭及び石を現はした畫。梅の代りに芭蕉を描くこともある。

五大虚空藏 法界、金剛、蓮華、寶光、蒙用の五虚空藏を云ふ。虚空藏は智慧慈悲の廣大な菩薩である。

五大尊 五大明王を見よ。

五大明王 密教で尊信する不動（中央）、降三世（東方）、軍荼利夜叉（南方）、大威徳（西方）、金剛夜叉（北方）の五大忿怒尊を云ふ。

一名五大尊。

權現造 神社建築の一。拜殿と本殿との間に石の間があり、三者は連続した屋根で覆はれる。組物、彫刻を用ひ、彩色を施し華麗である。千木、鯉木はない。家康を祀れる東照宮の社殿は大抵權現造である。この式は桃山時代以後に起つたと云ふ。一名堂社造。

權現鳥居 兩部鳥居を見よ。

金剛界 密教兩部の一。大日如來を智徳即ち精神的に開示したものの。如來は智徳堅固で、凡ての煩惱を摧破すると云ふ。胎藏界の對。

金光教 神道の一派。安政年間川手文治郎（金光大神）開始。日、月、天、地、金の五大神を祀り、忠君愛國、死生安心を要旨とする。明治九年以來布教をして居たが、同三十六年六月獨立の一派となつた。本部は岡山縣淺口郡金光町にある。

金剛柵 仁王門等に金剛力士を圍む柵。

金剛杵 眞言密教で用ゐる法具。獨鈷、三鈷、五鈷等の別がある。

金堂 金箔を塗り或は金銀を鏤めた佛堂。法相宗、眞言宗では本堂を云ふ。

金銅佛 銅に鍍金して造つた佛像。

サ 座 神、神社を敷へる時に用ゐる敬語。造出を座と云ふことがある。尙八幡座に就いては兜の項參照。

西國三十三箇所觀音 當省編纂旅行手帖參照。

竿縁天井 天井の板を支へる棹即ち木材の断面が縦に長い長方形で

古刀 平安時代から室町時代にかけて製作されたもの。新刀の對。
向拜 神社の正面に出張つて居る部分で、參詣人はこゝで禮拜する。「こうはい」とも云ふ。向拜の後方の壇は濱床或は濱縁と稱する。

五百羅漢 釋迦の弟子である數多の羅漢。五百は文字通に考へずともよいと云ふ。

拳鼻 木鼻の一種。彫刻を施してある。

古墳 邦人が古代に造つた墳墓。圓形墳、前方後圓墳、方形墳の三に大別される。

小堀遠州 名は政一、茶道遠州流の開祖。豊臣氏、徳川氏に仕へ、遠江守に任ぜられ、最も作庭に秀いで、書畫、和歌、活花、建築等にも長じた（二三九―三〇七）。

御陵 天皇、皇后等の御墓所で、「に」「みささぎ」とも云ふ。「み」

は御、「ささぎ」は狭狭（細小）、「き」は奥津城の城で、「みささぎ」

は御小陵の意であらうと云ふ。

御陵鳥居 神明鳥居を見よ。

五輪塔 五箇の石を積み重ねた墓碑。その形は下から上へ方形、圓形、三角形、半月形、如意珠形で、地、水、火、風、空に象どる。

また密教で大日如來の三麻耶形として立てるものを云ふ。三麻耶形は一切の衆生をして平等の理に入らしめようとの本誓を發し、その形相上に現示した持物である。

あるもの。横に長いのは平縁天井。

逆蓮 蓮華を逆にした飾。勾欄の親柱や雙盤に施される。雙盤は禪柱の下の杵石を支へる礎石である。逆蓮柱は柱の上に逆蓮を戴くもの。

挿肘木 柱に肘木を挿込んだもの。差肘木とも書く。

擦 塔の中心となる柱。

鞘堂 堂の外被となつて居る建物。覆堂、套堂とも云ふ。

棧唐戸 縦横に組んだ樞や棧で骨格を造り、その間に薄板を入れたもの。主として鎌倉時代から用ゐられた。

棧瓦 横断面が波状の瓦で、普通の家に用ゐるもの。

棧瓦葺 棧瓦で葺いた屋根。

三具 佛具である花瓶、燭臺、香爐の一揃を云ひ、三具足とも稱する。

三間三面 建物の前面にも側面にも柱間が三つあるもの。

三光鳥居 三輪鳥居を見よ。

三國傳來 印度から支那を経て我が國に傳來した意。

三酸圖 畫題。黃魯直と蘇東坡とが相携へて、金山寺の住持佛印を訪うた。佛印は桃花酸を出し、三人これを嘗めて眉を蹙めたと云ふ故事を描いたもの。

三十三觀音 法華經普門品に説く觀音の三十三身に基づいたものと云ふ。その名稱は左の通である。

あるもの。横に長いのは平縁天井。

逆蓮 蓮華を逆にした飾。勾欄の親柱や雙盤に施される。雙盤は禪柱の下の杵石を支へる礎石である。逆蓮柱は柱の上に逆蓮を戴くもの。

挿肘木 柱に肘木を挿込んだもの。差肘木とも書く。

擦 塔の中心となる柱。

鞘堂 堂の外被となつて居る建物。覆堂、套堂とも云ふ。

棧唐戸 縦横に組んだ樞や棧で骨格を造り、その間に薄板を入れたもの。主として鎌倉時代から用ゐられた。

棧瓦 横断面が波状の瓦で、普通の家に用ゐるもの。

棧瓦葺 棧瓦で葺いた屋根。

三具 佛具である花瓶、燭臺、香爐の一揃を云ひ、三具足とも稱する。

三間三面 建物の前面にも側面にも柱間が三つあるもの。

三光鳥居 三輪鳥居を見よ。

三國傳來 印度から支那を経て我が國に傳來した意。

楊柳、龍頭、持經、圓光、遊戯、白衣、蓮臥、瀧見、施藥、魚籃、徳王、水月、一葉、青頸、威徳、延命、衆寶、岩戸、能靜、阿耨、阿摩提、葉衣、瑠璃、多羅尊、蛤蜊、六時、普慈、馬郎婦、合掌、一如、不二、持蓮、瀧水

三十番神 一箇月三十日間交代して人を保護する善神。十種あるが、天台宗及び日蓮宗で祀る法華經守護の神が普通である。その名は左の通。

熱田、諏訪、廣田、氣比、氣多、鹿島、北野、江文、貴船、伊勢、八幡、賀茂、松尾、大原野、春日、平野、大比叡、小比叡、聖眞子、客人、八王子、稻荷、住吉、祇園、赤山、建部、三上、兵主、苗鹿、吉備津

三十六歌仙 和歌に長じた三十六人で、その名は左の通である。撰定者は藤原公任だと云ふ。

柿本人麿、大伴家持、猿丸太夫、紀貫之、壬生忠岑、在原業平、素性法師、阪上是則、藤原興風、源重之、大中臣頼基、源公忠、藤原朝忠、源順、平兼盛、小大君、中務、藤原元眞、山部赤人、僧正遍昭、小野小町、紀友則、凡河内躬恒、伊勢、藤原敏行、藤原兼輔、源宗子、齋宮女御、藤原敦忠、藤原高光、源信明、清原元輔、大中臣能宣、藤原仲文、藤原清正、壬生忠見

散村 聚落の一形式。人家が散在して居るもの。集村の對。

ものもある。

山樂 狩野永徳の門下で、桃山時代裝飾畫の大家(二二一九―二二九五)

山陵 御陵に同じい。帝王の墳墓は山の如く陵の如くであるから云ふ。

三論宗 南都六宗の一。龍樹の著中論、十二門論、提婆の著百論の三論を所依とする。

式内 平安時代特別に尊崇され、延喜式の神名帳に載せてある神社。その数は全國で三千百餘座あつた。式外の對。

四君子圖 畫題。蘭、竹、梅、菊の四者。

繁種 平行して居る種と種との間隔が密なもの。

四間三面 柱間が前面に四つ、側面に三つあること。

持國天 四天王の一。東方の守護神。

四國遍路八十八箇所 當省編纂旅行手帖參照。

鍔屋根 屋根の下に片流の庇があるもの。鍔屋根とも書く。

獅子口 大棟の兩端に於ける棟飾の一種。三箇の經の卷を戴いて居る。經の卷は巻いた經文を横から見た様に圓形である。

時宗 我が國で興つた念佛敎の一。開祖は一過、本尊は阿彌陀佛。

淨土の三部經中最も阿彌陀經を重んじ、臨終の時念佛で極樂往生が出来ると説く。

四聖 阿彌陀佛、觀音、勢至及び大海衆を云ひ、また佛、菩薩、緣

參考語彙

三大佛 奈良縣東大寺、大阪府太平寺、滋賀縣關寺の大佛。

三如来 善光寺の阿彌陀如来、京都清涼寺の釋迦如来、京都平等寺の藥師如来。

山王鳥居 明神鳥居の一。根卷鳥居の笠木の上に棟束を立て、破風を合掌させ、雨覆(裏甲)をかけ鳥頭を置いたもので、柱の下部は木で巻いて黒塗とし、他は朱塗である。兩部鳥居と同様に神佛兩部合體のために出来たものだと云ふ。別名合掌鳥居、總合鳥居。例、滋賀縣日吉神社の鳥居。

三の丸 城郭中、二の丸の外に接する部分。

三辯天 安藝の嚴島、近江の竹生島、相模の江島に祀つた辯才天を云つたもの。

三名鐘 宇治の平等院、京都の神護寺、奈良縣吉野郡宇智村の榮山寺にある釣鐘。

三門 寺院の本堂の前にある樞門。三解脱門(空門、無相門、無作門)の意であるが、後には寺の正門の通稱となつた。山門とも書く。

山門 寺院が山上に建てられ、山號を稱する様になつてから、三門を山門と書く様になつたと云ふ。

三文殊 三箇所の文殊(文殊)を云ふのであるが、大和の安倍、丹後の切戸、羽前長井とするもの、大和の安倍、丹後の切戸、陸前

の名取とするもの、京都の黒谷、大和の安倍、丹後の切戸とする

覺、聲聞を云ふ。また鳩摩羅什の弟子の四聖、東大寺の四聖もある。

四條派 江戸時代の末に松村月溪が創めた一派。その宅が京都四條にあつたのでこの名がある。

四睡圖 畫題。二童子即ち寒山、拾得、國清寺の僧豐干、豐干が常に乗つたと云ふ虎、この四者が何れも睡つて居る圖。

地藏菩薩像 右手に錫杖を、左手に寶珠を持つ形像が多い。

時代區分 美術史上我が國の年代は明治維新前を上古、推古、奈良、平安、藤原、鎌倉、室町、桃山、江戸の九時代に區分される。

地種 丸桁の上方、木質の下にある種で、主種とも云ふ。

七堂伽藍 典型的の建物を具備して居る寺の意で、七堂に限らない。七は悉であると云ふ。飛鳥時代に於ける建築は四天王寺に於いて見る如く、南門、中門、塔、金堂、講堂が南から北へ一直線上に位し、塔と金堂とを廻廊で圍み、中門がその南端となつて居る。寺院の中には塔を一基増加して東西に對立させたもの(藥師寺式)、兩基の塔が中門と南門との間に進出したもの(東大寺式)、塔(西)と金堂(東)が中門内で對立して居るもの(法隆寺式)もある。

禪宗寺院では三門、佛殿、法堂、方丈が中軸線上前後に位置し、これ等の左右に禪堂、經堂、鐘樓、浴室、東司等がある。

七福神 七人の福徳神で、大黒天、蛭子、毘沙門天、辨才天、福祿

参考語彙

壽、壽老人、布袋和尚を云ふ。

七面造 日蓮宗の守護神七面大明神を安置する祠堂の建築様式。向拜は唐破風、妻は入母屋で、屋上に樓を設ける。その正面は千鳥破風である。

四注造 軒よりも短い大棟が二つ、大棟の両端から軒の四隅へ向ふ隅棟が四つある造り方。即ち屋根は梯形、三角形が各二つ、合計四流れある。寄棟造、四阿造とも云ふ。

市町村道 市道は市内の路線中市長が認定したもので、有效幅員は三間以上を標準とする。町村道は町村内の路線中町村長が認定したもので、有效幅員は二間以上が原則としてある。

實行教 神道一派。明治の國學者柴田花守が従來あつた富士講の一派を興隆ならしめたもので、造化三神を主とし、富士山を崇祀し、國體の無窮を祈り、惟神の宣明等を教旨として、實踐躬行を尙ぶ。本廳は東京市牛込區東五軒町にある。

漆箔 漆を使用して金銀等の箔を物に貼付すること。漆箔押の略。四天王 毘沙門天、持國天、增長天、廣目天の總稱で、東西南北四方守護の善神。

四天柱 塔の中心柱の周りにある四本の柱。落戸 數多の棧を碁盤目に取り付けた戸。鳩尾 大棟の両端に載せる杵形の飾。鴉尾、蚩尾とも記す。地覆石 出入口の下にある石。地覆は勾欄などの最下の木を云ふこともある。

社線 私設會社が經營する軌道、地方鐵道を云ふ。主に省線に對する語。

蛇足 曾我氏。有名な水墨の大家(二一四三年亡)。鰻 城郭の棟に載せて火災除の咒とし、また威嚴を増すもので、瓦製或は青銅製が普通である。鱧とも書く。

舍利 佛陀、聖者の遺骨を云ひ、火葬にした死體の遺骨をも云ふ。十一面觀音 觀音の頭上に大小十箇の顔があつて、合計十一面となる。

十三佛 その名稱は左の通。不動、釋迦、文殊、普賢、地藏、彌勒、藥師、觀音、勢至、彌陀、阿闍、大日、虛空藏

修成派 神道一派。新田邦光が教祖で、造化の三神を尊信し、心魂の修理固成、光華明彩を要義とする。明治六年修成講社を結び、明治九年一派獨立を公許された。教務局は東京市本郷區西片町にある。

重層 二階造。單層の對。集村 聚落の一形式。家屋が密集して居るもの。散村の對。

十大寺 桓武天皇の延暦十七年に定められた官寺十箇は左の通だと云ふ。

- 大安寺、元興寺、弘福寺、藥師寺、四天王寺、興福寺、法隆寺、崇福寺、東大寺、西大寺

参考語彙

ともある。

紙本 紙に描いた繪畫。絹本、統本の對。島木鳥居 佛教渡來後、大陸建築の影響を受けて鳥居製作の方法が進歩し、曲線式となつたもの、總稱である。これに屬するものは明神鳥居を始とし、左記の如く十數種ある。

春日、八幡、明神、中山、根卷、臺輪、奴彌、山王、兩部、三輪、三柱、唐破風

社格 神社に對する行政上の格式、階級である。官幣社、別格官幣社、國幣社、府縣社、郷社、村社に大別され、無格社もある。伊勢の神宮は最も貴い神社で、社格を超越して居る。

官國幣社は官幣社、別格官幣社、國幣社の總稱、官社は官幣社、國幣社の合稱、諸社(民社)は府縣社以下無格社までの汎稱である。

官國幣社に對しては祈年祭、新嘗祭、例祭、本殿遷座祭等に對し、皇室或は國庫から神饌幣帛料が供進されるが、府縣社以下の神社には祈年祭、新嘗祭、例祭等に府縣、市町村等から供進する。

釋迦牟尼(釋迦如來) 佛教の始祖、佛陀即ち釋尊の稱である。その形像には誕生佛、苦行像、說法像、涅槃像等がある。釋迦三尊は普通文殊、普賢の二菩薩を配する。

借景庭園 庭園外の景色をその庭園に利用したもの。若冲 伊藤氏。花鳥殊に雞の繪で名高い(二三七六―二四六〇)

十大弟子 釋迦の高弟十人は次の通。摩訶迦葉、阿難陀、舍利弗、須菩提、富樓那、大目犍連、摩訶迦施延、阿那律、優婆離、羅睺羅

十二神將 藥師十二神將の略。藥師如來功德本願經を信奉するものを守護する神々で、同如來の眷屬である。その本名を左に記す。官助羅、伐折羅、迷企羅、安底羅、娑婆羅、珊底羅、因達羅、波夷羅、摩虎羅、眞達羅、招杜羅、毗羯羅

十二天 十二の護世天部で、十二衆天とも云ふ。その名稱を左に掲げる。帝釋天、焰摩天、水天、毘沙門天、火天、羅刹天、風天、伊舍那天、梵天、地天、日天、月天

十八羅漢 十六羅漢に慶友、賓頭盧の二尊者或は迦葉、軍徒鉢歎の二尊者を加へたもの。

十六善神 般若經誦持者を保護する神々で、その名稱は左の通二説ある。

(甲) 達哩底囉瑟吒(持國)、禁毘嚩、縛日嚩、迦毘羅、彌觀嚩、哆怒毘、阿彌嚩、婆嚩嚩、印捺嚩、婆夷嚩、摩虎嚩、嬌尾嚩、眞特嚩、嚩吒徒嚩、尾迦嚩、俱吠嚩

(乙) 提頭攞宅(持國)、毘盧勒叉(增長)、摧伏毒害、增益、歡喜、除一切障難、拔除罪垢、能忍、吠室羅摩拏(多聞)、毘盧博叉(廣目)、離一切怖畏、救護一切、攝伏諸魔、能救諸有、師子威猛、勇

参考語彙

猛心地

十六大菩薩 金剛界の左記の諸菩薩を云ふ。

金剛薩埵、金剛王、金剛愛、金剛喜、金剛寶、金剛光、金剛幢、金剛咲、金剛法、金剛利、金剛因、金剛語、金剛業、金剛護、金剛牙、金剛拳

十六羅漢 名稱は左の通。

賓度羅跋提、迦諾迦跋提、迦諾迦跋提、蘇頌陀、諸羅、跋陀羅、迦哩迦、伐闍維多羅、成博迦、半託迦、羅怛羅、那伽犀那、因揭陀、伐那婆斯、阿氏多、注荼半託迦

修驗道 佛教の一派。開祖は役小角。山岳に起伏して修行するを目的とし、この道のもの修驗者、山伏と云ふ。宇多天皇の時聖寶

これを再興して三寶院流(富山派)即ち眞言修驗を開き、堀河天皇の時増譽は聖護院流(本山派)即ち天台修驗を開いた、その後修驗道次第に榮え、金峰山、吉野、熊野、白山、羽黒等は山伏が多かつた。江戸時代全國の山伏は三寶院、聖護院に分屬して居た。明治五年修驗道一旦禁止されたが、同二十五年天台修驗のみ再興

獨立し、金峰山寺がその本寺となつて居る。

種子 佛或は妙理となる深秘な梵字。

出山釋迦圖 畫題。釋迦が悟道して雪山を出る光景。

須彌壇 佛像、厨子を安置する壇。世界の中心にある高山と稱される須彌山に象つたものと云ふ。

雨、煙寺院鐘、漁村夕照

省線 鐵道省が管理經營する國有鐵道。

上段の間 武家の書院造の家の中で最上等の間。床は一段高く、天井は二重折上格天井で、床の間、附書院が必ずあつて、中段の間、下段の間よりも設備がよい。

定朝 藤原時代佛像彫刻の大家。

淨土宗 我が國で興つた念佛の一派。開祖は法然、本尊は阿彌陀佛。淨土の三部經即ち無量壽經、觀無量壽經、阿彌陀經を正依とし、觀無量壽經に云ふ三心(至誠心、深信、回向發願心)具足の念佛に依つて成佛すると説く。

上品下生 九品往生を見よ。

繩紋土器 石器時代の住民が作つた繩に似た紋様ある土器。

丈六 高さ一丈六尺ある佛が跏趺して居る像。

如拙 京都相國寺の僧、水墨の大家(二〇八〇年頃)。

支輪 軒下または折天井の場合、垂直面及び水平面を異にせる横木を連絡させるために、一定の間隔に縦に打つた細い木。

白丸太鳥居 神明鳥居を見よ。

神宮寺 神社に附屬した寺院。

眞言宗 支那から輸入された佛教の一派。空海が入唐してこれを傳へた。大日經、金剛頂經の二部を根據とし、大日如來の教説を開顯するのである。種々口傳などがあるので、密教の名がある。

参考語彙

書院造 家作法の一派。寢殿造、武家造等から變化したもので、玄關、床の間、杉戸、雨戸、上段の間、附書院等のある造。書院はもと

僧家の學問所で、後には武家の對面所を指す様になつた。

定印 靜思熟考する時に結ぶ印。

城下町 城郭を中心として、その周圍に成立して居る市街である。山城の麓にある市街は山下、根小屋と云つたことがあるが、これ等も城下町である。

貞觀時代 平安時代を見よ。

聖觀音 寶冠中に無量壽佛があり、左手に未開の蓮華を持つて居る。諸觀音の根本で、正觀音とも書く。普通に觀音と云ふのはこの觀音である。

上古時代 本書五〇頁參照。

商山四皓圖 畫題。東園公、夏黃公、角里先生及び綺里季の四人が秦の亂を避けて陝西省の商山に入り、四人共白髮の老人なので、四皓と云ふのである。四人は張良の謀に依つて後に山を出で、漢の惠帝に仕へたと云ふ。

成實宗 南部六宗の一派。大乘教に屬し、訶梨跋摩の成實論を依據として居り、三論宗のものが附屬的に研究した。

瀟湘八景 支那湖南省の瀟水、湘水附近にある左記八箇所の好景を云ひ、近江八景はこれに倣つて撰定したものと云ふ。

平沙落雁、遠浦歸帆、山市晴嵐、江天暮雪、洞庭秋月、瀟湘夜

神社 一定の地域即ち境内に、社殿、鳥居等を設けて神を祀り、國民が參拜する所である。但稀に社殿のない神社もある。祭神の數

へ方は一神を一座とすることもあり、四神を一座とすることもある。社殿はもと素木造直線式であつたが、弘仁時代以後神佛混合

が行はれてから、曲線式のものもある様になり、更に宮殿、寢殿等の制も取り入れられて、建築が複雑となつた。社殿建築の主な形式は左記の通で、始めの四者は奈良時代以前から存するものである。

大社造、大鳥造、住吉造、神明造、春日造、流造、八幡造、人母屋造、日吉造、祇園造、吉備津造、香椎造、權現造、八棟造

眞宗 淨土宗から分れた念佛の一派。開祖は親鸞、本尊は阿彌陀佛。淨土の三部經を所依とし、殊にその中の大無量壽經を重んじて居

る。従つて淨土に生れることが出来るのは念佛ではなく、無量壽經第十八の願即ち他力回向の信心であつて、念佛は佛恩報謝のため

にすべきだと説く。一に淨土眞宗或は一向宗と云ふ。この宗旨で稱する六字の名號即ち御名號は南無阿彌陀佛のことである。

神智教 神道の一派。開祖は芳村正乘。明治十三年十二月獨立許可。教名は惟神の道の不言の教に神智と云ふ意味だと稱され、祀る

神は多い。大教廳を東京市世田谷區新町二丁目置いて居る。

寢殿造 平安時代緒神の間に流行した邸宅建築。寢殿、對屋、釣

殿、泉殿等から成り、身舎には廣縁、落縁を設け、廂の四方に格

子及び部を用ゐる造。
新刀 桃山時代から現代までに製作されたもの。古刀の對。
神道 敬神の風に係る我が國特有の宗教。現今左の十三派に分れて居る。

神道大教、黒住教、修成派、大社教、扶桑教、實任教、大成教、神習教、御嶽教、神理教、禊教、金光教、天理教

神道大教 神道十三派の一。舊名を神道と云ひ、昭和十五年三月二十八日改稱した。惟神の大道を擴張し、皇國固有の神道を宇内に宣揚することを教旨として居る。子爵稻葉正邦等の創始にかゝり、明治十九年一派獨立の公許を得た。本局所在地は東京市麻布區筈町である。

神明造 神社建築の一形式。正面は平入、破風は千木と同直線をなし、破風の上部に鞭掛、棟下に「おさばしら」がある。鞭掛おさこま（小狭小舞、ひれい）は破風の兩側から外方へ突き出て、居る八本の小木である。千木の外、鯉木もある。神明造は奈良朝以前から行はれ、伊勢神宮はこの形式の最も純粹なもの即ち唯一神明造である。唯一は純粹の意だと云ふ。

神明鳥居 神明鳥居即ち直線式鳥居は最も古い形式のもので、本邦固有の製作法に依り、曲線を使用せず、構造が簡單で、柱は概して断面丸く（稀には八角形）、貫は圓形或は長方形、笠木は多くは圓形（稀に五角形）である。これに屬するものに左の七種がある。

たもの。

敷寄屋 茶の湯の會を行ふための獨立建物。一棟の内に茶席、勝手、水屋、廣間等が備はり、附屬するものに待合、露地、腰掛、飾便所がある。

透櫓 壁なく風の吹き抜く櫓。

厨子 佛像を容れる扉付きの立箱。扉は前後二面（兩面厨子）のこと、前と左右の三面（三面厨子）のこともあり、箱の上端にも扁平（平厨子）、正圓（丸厨子）、帽額もつち（帽額厨子）がある。厨子とも書く。一名佛龕。

ストーンサークル 環状石籬を見よ。

簀子縁 竹または板の間隔を少し明けて、横に打つた縁。

隅木 種の上端を支へるために、隅棟の下に取付けた木。

隅棟 方形造或は寄棟造の屋根に於ける兩流の會する所で、大棟と異なり傾斜して居る。

住吉造 神社建築の一形式。大鳥居の奥行が延びた様なもの。この形式は奈良朝以前からある。例、大阪の住吉神社。

住吉鳥居 神明鳥居を見よ。

聖帝造 日吉造を見よ。

清涼寺式 京都市右京區清涼寺本堂安置の釋迦像の形式。
青緑山水 山石、樹木等に綠青、群青等が用ゐられ、やゝ濃厚な山水畫を云ふ。

参考語彙

黒木、白丸太、靖國、伊勢、内宮源、鹿島、宗忠
狹義の神明鳥居は柱が直立せる掘立で、笠木、貫と共に皮剝の丸太即ち白丸太であり、笠木が水平で直線であり、貫は柱の外側に
出でず、額東がない。例、榎原神宮の鳥居。一名白丸太鳥居、御
陵鳥居。白丸太の代りに皮付丸太を用ひたものは黒木鳥居と云
ふ。

神紋 神社で用ゐる紋章。
陣屋 武將出陣中に於ける簡單な臨時の居館。城を持たない大名の居る所をも云ふ。

神理教 神道一派。明治十三年佐野經彦創始。その高祖饒速日命の遺教を奉じ、神理の教義を明かにすることが本旨で、主神が多数ある。福岡縣小倉市大字徳力に大教廳を置いてある。

水煙 塔の九輪の上部にある火焰狀の裝飾。

推古時代 本書五〇頁參照。

推古佛 推古時代に製作された佛像の總稱。本書五四頁參照。
隨身門 神社の外郭の門。左右に隨從警護する俗稱矢大神、左大神の二神像がある。この二神は豐磐間戸命、奇磐間戸命で、門を守る神であると云ふ。

水墨 墨繪の意。

縦破風 本家の軒先から突き出て居る片流の破風。

透塀 屋根を附け、連子などを用ゐて、腰長押より上を透く様にし

施願印

衆生の願に應じて、財物を施與する印。右手を垂れて掌を仰ぐ、與願印、滿願印とも云ふ。

石椁 棺を入れるため、古墳内に石で築造された室。

石棺 石造の棺。

攝社 本社と縁故の深い神を祀つた神社。

雪舟 雲谷派の祖。僧侶にして水墨畫の大家。周防山口の雲谷寺に住したことがある。（二〇八〇—二二六六）

說法堂 法堂を見よ。

施無畏印 徳を施し怖畏を離れしめる印で、右手を舉げて掌を外に

向け、五指を伸べたもの。

禪宗 支那から傳來した輸入佛教の一。禪は靜かに思念して煩惱を

離れ、悟を開くことを云ひ、教育は以心傳心である。

千手觀音 手は四十あつて、一手で二十五有界、合計一千有界を救

ふから千手と云ふ。

羨道 古墳内石椁の入口から奥の玄室に達する通路。

塚佛 正方形或は長方形の土板（徑一寸乃至一尺）に佛、菩薩の像

を浮彫にして焼いたもの。瓢佛とも書く。

前方後圓墳 古墳の一。前方が丸く、後方が角張り、前後に高所が

二箇所あつて、棺は後部に納めてある。周圍に埴、埴輪を繞らし

たものがある。一名瓢形古墳。

相阿彌 三阿彌の一人で、名を真相と稱し、足利義政に仕へ、

参考語彙

書畫、造庭、詩歌をよくし、また書畫骨董の鑑定に長じた(二二八

○年代)

惣構 城郭等の外郭。一名總曲輪。

總合鳥居 山王鳥居を見よ。

總社 諸所にある神社を一箇所に合祀したもの。また一宮を云ふこともある。

宗達 野々村氏。世に依屋宗達と稱し、江戸時代初期裝飾畫の大家(二三〇三)

宗湛 小栗氏。特に水墨の山水畫に長じた(二〇六〇年代)

増長天 四天王の一。南方の守護神。

曹洞宗 禪宗の一派。道元が支那から傳へた。教育の方法が臨濟宗

程峻烈でなく、禪と日常生活とを結び付けることに力める。

惣門 構築全部に對する正面の第一門。

相輪様 九輪を取り付けた一本の柱で、經文を刻し或はこれを藏するもの。相輪様、相輪幢とも書く。

祖師堂 一宗を開いた人を祀つてある堂。

塑像 彫像の一。粘土を主材料とし、これに藁や雲母等を混じり、木

骨の上を覆うて作る。

袖鳥居 兩部鳥居を見よ。

村社 社格の最下級。町村で祀る神社で、段階はない。

夕 大雅 池野氏。文人畫の大家で大雅堂とも稱した(二三八三)

大斗 柱の上にある斗組の中で最も大きな斗。

大斗肘木 組物の一。大斗の上に肘木を載せ、丸桁を受けるもの。

大日如來 眞言密教に於ける兩部大經即ち金剛頂經と大日經の教

主、金剛、胎藏の兩部曼荼羅の中尊である。その形像は金剛界曼

荼羅では多く智拳印を、胎藏界曼荼羅では多く法界定印を結ぶ。

梵名は摩訶毘盧遮那と云ひ、これを義譯して大日如來、遍照如來、

最高顯廣眼藏如來と稱する。

大佛 普通一丈六尺即ち丈六以上の佛像を云ふ。

大瓶束 上部太く下部細く、瓶の如き形状の束。

當麻曼荼羅 大和當麻寺に秘藏する天平勝寶七年中將姫が蓮糸で織

つたと傳へる淨土圖を模したもので、圖様は何れも同様である。

大門 大寺などの總門。外郭の大なる門。

臺輪 物の上或は下にある平たい木で、上のものを受け、或は下の

ものを覆ふもの。

臺輪鳥居 鳥木鳥居の一。明神鳥居に似て居るが、柱の上に臺輪が

あり、下に龜腹がある。一名稻荷鳥居。例、常陸の笠間稻荷の鳥

居。この鳥居の額束に扱首束を附けたものは奴彌鳥居とも云ふ。

拓本 碑面を油墨などで紙に摺り寫したもの。淡色なのは蠟寫拓、

濃色なのは烏金拓と稱する。

太刀 長さ概ね二尺以上あつて、刃を下方に向けて腰に吊る様に作

つたもの。大刀、横刀に同じい。

参考語彙

二四三六)

大社教 神道一派。千家尊福が明治六年に首唱したもので、大國

主神を主神とし、その經國治世の神意を奉戴して、國恩に報い、

各自その分を盡すことを要旨として居る。本院は島根縣簸川郡大

社町にある。

大社造 神社建築形式の一。妻が正面であり、階段が中央より右に

偏し、四方に廻縁を備へ、内部は中央に心の御柱(大黒柱)があ

り、この柱より右に間仕切を設け、その奥に神靈を安置し、神座

は正面に向はず、横向だと云ふ。屋上に千木、鯉木がある。本殿

と拜殿とは離れて居る。この造法は奈良以前から存する。例、出

雲大社。

大成教 神道一派。明治十五年平山省齋の開いたもの。禊教を基

礎として洵宮術、心學の長所を取り入れ、敬神愛國を要旨とす

る。教務廳は東京市小石川區原町にある。

胎藏界 密教兩部の一。大日如來の肉體方面の反映である。胎藏は

一切を含藏する意で、佛が衆生を愛育すること母胎が子に於ける

が如きを顯はす部門である。金剛界の對。

胎藏界曼荼羅 胎藏界を現せる圖繪。

大藏經 佛敎の敎、律、論の三藏を網羅した叢書で、七千餘卷ある。

藏經、一切藏經或は一切經とも云ふ。教藏は釋迦の説敎、律藏は

釋迦が定めた戒律、論藏は釋迦の弟子や後人の論説である。

塔頭 禪宗で師僧の墓を守護するため、弟子が建立居住して居る

一院。一山子院中の大なるものを云ふ。

堅穴 石器時代などの住民が地面を掘り窪めて住んだ所。

手挾 水平の木と勾配材の木と相會する所に取り付ける化粧板であ

る。向拜を支へる向拜柱の内側にあつて、上方の種に沿ひ、略々

三角形をなす彫刻物はこれに屬する。

多寶塔 方形の屋根を有する二層の塔で、上層は圓形、下層は方形

をなし、中に多寶如來を安置してある。

玉垣 神社の周圍の垣である。瑞垣、荒垣とも云ふ。

多聞天 四天王の一、北方の守護神。

多門扉 長い扉を倉庫その他に兼用したもの。扉の正面に狭間があ

る。一名多門長屋。

多門櫓 長い櫓で、一重のことも數重のこともあり、多聞櫓とも書

く。また走り櫓、多門長屋、長屋とも云ふ。

蓮磨 禪宗の始祖。

地車 祭禮の引車で、山車、屋臺とも云ひ、樂車、壇尻等と書くこ

ともある。

單層 平家造。重層の對。

壇像佛 白檀を用ひて製作した佛像。

短刀 長さ一尺以下の片刃の切物である。江戸時代以前には小刀、

腰刀等と呼ばれた。

探幽 狩野派中興の畫家(二二六二—二三四四)

千木 社殿の屋根を貫いて屋上に突き出し、交叉して居る破風板。

後世は破風板と無關係に、屋上に取り付ける。これは置千木と云ふ。

千木は鎮木、知木、知疑とも書き、「ひぎ」とも呼ばれる。

竹林七賢圖 畫題。支那晋代の隱者七人即ち阮籍、嵇康、阮咸、山濤、王戎、向秀、劉伶を描いたもの。彼等は竹林に遊び、清談を

談じ、酒を酌み、琴を弾じて居た。

智拳印 佛智に入るを得る拳印の意。金剛界大日如來の結ぶ印。兩

手各々金剛拳を結び、左手の頭指を伸べて右手に入れたもの。

稚兒柱鳥居 兩部鳥居を見よ。

稚兒棟 下棟や隅棟の下端にある裝飾的小棟。

千鳥破風 屋根の流れ即ち斜面に作られた三角形の破風。

地方鐵道 地方鐵道法に據り、一地方の交通を目的として敷設される民營鐵道である。

柵形 柱の上下が弧形に細くなつて居る部分。略して柵とも云ふ。

皆 アイヌの防禦設備。自然の丘陵端、斷崖、丘陵の頂部等を利用して、これに濠を造り、土壘を築き、平時は一種の集會所の用を兼ねた場合もあつたと云ふ。

茶室 茶會を行ふための特別の室を云ひ、また特別の建物(數寄屋)をも云ふ。前者は圍ひと呼ばれることがある。

柱孔 礎石の表面に柱を入れるために造つた凹部。

名はケールン (Cairn)

詰組 斗組を密に並べること。

劍 刀劍を見よ。

テ 泥塑 泥土を以つて作つた像。

出組 一組の肘木、斗を壁面よりも外方に出して丸桁を受けるもの。

鐵線描 幅に不同のない線で繪畫を描くこと。

出丸 主城から郭外に張り出した郭。出城、附城等とも云ふ。

反破風 凹字形の破風。

天衣 天に棲む天人が着る衣服。「てんね」とも讀む。

天蓋 本尊、導師等の上を蔽ふ寶蓋である。虛無僧の被り物もこの名で呼ばれて居る。

天狗種 尾種を見よ。

天竺様 鎌倉時代に輸入された支那宋代の建築法の一で、印度風の意ではない。特色は指肘木を用ゐること、繪様彫刻に特別の意匠があることである。

天守閣 城郭中の最も高い建物。その位置必ずしも城郭の中央部と限らない。城主の權威を表はし、城主の住所、展望臺、司令塔、倉庫、最後の據點等となる。閣の字を省いて天守と云ふことがあり、天守は天主、殿守、殿主と記すこともある。天守は一城一基と限らず、二基以上のことがある。天守外觀上の重と内部の層と

中尊 中央の尊像。三尊の阿彌陀、五佛の大日如來、五大明王の不動明王は何れも中尊である。三幅對の掛物にも中尊と云ふ語があつて、その仕立方は脇繪よりもよい。

帳臺飾 上段の間にある飾付の引戸を云ひ、俗に武者隠と云ふ。

勅願寺 勅願に依つて建立された寺。勅願に依つて供養される寺をも云ふ。

直線式鳥居 明神鳥居を見よ。

直刀 刀身が彎曲せず眞直であるもの。主として上代から奈良時代まで製造された。彎刀の對。

東 短柱の意で、束柱の略稱。額とも書く。額を懸ける束は額東。

撞座 釣鐘を撞く時撞木があたる所で、反對側とも二箇所ある。

造出 礎石、古墳等に於ける主要部の附屬部。即ち礎石で云へば、柱を受けるため造つた表面一部の凸出である。これを座と云ふことがある。

附書院 床の間脇にある窓附きの所。出府机とも云ふ。

壺袖 鎧の袖で、下部が廣く上部が細いもの。

妻入 屋根の妻の方に出入口があるもの。切妻造參照。

積石塚 古い墳墓の一種。普通の古墳は主に土砂を盛つて構成するが、積石塚は石塊を積んで造つてある。墳型は圓形も前方後圓形もある。我が國では主として四國方面に存し、歐洲にもある。洋

は必ずしもその數が同じくない。

天壽國曼荼羅 聖德太子及びその御母の薨去を悼みて造れる刺繡。天壽國は極樂國の意。

天台宗 一宗の大成者智者大師が住んで居た支那の山名に據つた名で、桓武天皇の延暦二十四年最澄が傳來した。支那の天台宗は法華經を根本經典として居るが、我が國の天台宗は少しく趣を異にして、これに密教、禪宗及び圓頓戒を加へたもので、四宗一致である。

天平時代 奈良時代を見よ。

天部 佛、菩薩、明王以外の佛像を云ひ、梵天帝釋、四天王、十二天、八部衆、十二神將等がそれである。

天理教 神道の一派。天保九年中山みき女の開始。明治十八年以來神道本局に屬した教會であつたが、同四十一年獨立した。天理王命を信仰し、悪しきを去り、至誠一貫、眞の平和の天地を現世に建設することを要旨とする。教廳は奈良縣山邊郡丹波市町三島にある。

土居 城、町等の周圍にある土堤。上部を石垣にした土居は鉢巻土居と云ふ。

東海道五十三次 江戸時代江戸日本橋、京都三條大橋間に位し、東海道と稱する街道にあつた五十三次の宿驛。當省編纂旅行手帖參照。

刀劍 刀は「かたな」と讀まれ、片刃の意であるらしく、太刀は「斷ち」の義であると云はれ、劍(劍)は「つりはき」は「垂佩」である。刃は上代に凡べて兩刃(諸刃)であつたが、後に片刃となつた。刀劍は兩刃、片刃の總稱である。

刀は大小長短がある。分けて二大部とする。刃がなく手に持つ部分分は莖(中心)と云ひ、こゝに目釘穴、銘等がある。刃と莖との界を刃區、反對の方の界を棟區と云ふ。兩區から先に棟、鐮、刃、銚子(切先)等の名がある。棟は刃の反對即ち棟區から先の方。鐮は刃の斜面を限る一線が高く、激圓の形容に使はれる鐮を削るとはこゝが低くなることである。また刃の長さは區から銚子の先端に至る直線距離である。造形、莖の鑿目、刃文等に關しても種々の稱呼がある。

燈臺 權現造を見よ。
燈臺 航路標識の一。折射器の内徑の長さで一等乃至六等の等級に分たれ、その下に等外がある。また燈臺の一燭光は一時間に蠟燭製蠟燭の重量七瓦七八即ち百二十ゲレインを消費する光力である。銅鐸 青銅で鑄造した鐸(大鈴の意)である。扁平な圓筒形をなし、上部狭く下部廣く、大き二〇釐乃至一米半、厚さ薄く、鐸身の兩側數箇所に鑿狀の部分があり、上端は鈕をなして居る。また表面に紋様や繪畫がある。中部、近邊等の地中から出で、我が國上代の遺品である。

兜率天 欲界六天の第四。内外二院あつて、内院に彌勒菩薩が居る。都卒天とも記す。

斗東 斗を具へた東。

兜跋毘沙門 毘沙門天王が兜跋國に出現した形だと云ふ。

巴瓦 最も軒に近い丸瓦で、その先端に巴の紋様あるもの。今は巴紋のないものをも云ふ。

鳥居 神社の門。柱、笠木、貫等から成り、中には鳥木を有するものがある。材料は木、石、金屬等である。着色はこれを施すものと否らざるものとある。様式は約二十種あつて直線式(神明鳥居)、曲線式(鳥木鳥居)に大別されるが、兩式に屬しない特異のものもある。鳥居と社殿とは建築様式上關係があるらしい。

柱は直立のもの、傾斜(轉び)のものがあり、掘立のものも、基礎工事を有するものもあり、断面は概ね圓形であるが、四角形、八角形のものもある。また控柱を設けることがある。

笠木は鳥居の最上部にある横材で、水平のものも彎曲のものもあつて、断面は圓形、四角形、五角形等である。

鳥木は笠木の下に接する横材である。貫は鳥木の下にある横材で、圓形のものも長方形のものもあり、その先端が柱の外の方に突出するものと否らざるものとあり、貫が柱に嵌入して居る所に楔を打ち込んだのと打ち込んでないものがある。額束は笠木の下の方、貫の上方にある垂直材で、神社名を示す額をこれに掲げるか

套堂 鞘堂を見よ。

唐渡天神圖 道服を着て梅の枝を一本持つて居る菅公の像。菅公は嵯後支那の徑山無準佛鑿禪師に見學したと云ふ。

塔婆 率塔婆(卒塔婆)の略。更に略して塔とも云ふ。後に至り率

塔婆は墓背に建てる上部を塔形にした細長い板の名となつた。

等伯 長谷川氏。雲谷派の畫家で、長谷川流の祖(二一九九—一二

七〇)

遠山袈裟 衲袈裟の一種で、布片を山の形にして綴つたもの。衲袈

婆は種々の古布片を集めて作つたもの。

圓丸 鏡の一種。胴を丸く圍んで右脇下で合はせる。弦走、脇楯、

逆板なく、草摺の数は大鏡の倍即ち八間ある。

燈籠 燈火用具の一。材料、形狀等種類がある。中には六部から成

るものがある。六部は上から云へば、寶珠、笠(傘、屋根)、火袋

(火舎)、中臺、竿(胴筒)、香臺(香石、地輪)の順である。

斗拱 斗組を見よ。

獨結文 獨結は先端が一本で分派しない金剛杵である。これに似て

居る模様を獨結文と云ふ。

獨立天守閣 天守閣が一つあつて、他の建築物と全然分離して居るもの。

土佐派 藤原基光、同隆能を祖とし、藤原、鎌倉時代に歴史風俗畫

を以て著れた大和繪の一派。

ら云つたものである。官國幣社で鳥居のないのは石川縣の白山比咩神社だと云ふ。

止利式 鞍作止利即ち鳥佛師が製作した佛像の様式。

砦 本城以外に設けた小規模の城。

ナ 内宮源鳥居 伊勢鳥居を見よ。

内陣 社殿、本堂の奥の間。外陣の對。

中山道六十九驛 江戸時代東山道經由京都、江戸を連ねる中山道にあつた六十九の宿驛。當省編纂旅行手帖參照。

中山鳥居 明神鳥居に類して額束を有し、角貫であるが、その木鼻

が柱の外方に伸びて居ない。岡山縣の中山神社に實例がある。一

名伴氏鳥居。

長屋門 門の左右兩側に長屋があるもの。武家などの屋敷に見られ

る。

流 屋根の棟から軒までを云ひ、雨水の流下することから云つたもの。片流、兩流、前流、後流の名がある。

流造 長方形の平面或は曲面から成つて居る屋根。片流、切妻、方

形、入母屋等の造法がある。

神社の流造は神明造に向拜を加へ、屋根を曲線にしたもので、前

流が長く、向拜をも覆うて居る。妻は破風造。千木はあるものな

いものもある。一名流破風造。起源は平安時代にある。神社の大部

は流造である。

長押 柱の表面に附加した化粧横木。承塵とも書き、普通鴨居の上にある。

奈良時代 本書五〇頁参照。

縄張 守備防禦にように様に城地を区劃し、建築物の位置などの計画を定め、これに従つて縄を張り、實際の位置、大きさを定めること。

南海 祇園氏。南畫派畫家(二三三七—二四一一)

南瞻部洲 閻浮提を見よ。

南大門 南方に位する大きい門。四天王寺、藥師寺、法隆寺等は何れも南大門がある。

南都七大寺 南都即ち今の奈良市内外に於ける東大寺、興福寺、元興寺、大安寺、藥師寺、西大寺、法隆寺を云ふ。

南都六宗 奈良時代の佛教六宗即ち華嚴、法相、三論、俱舍、成實、律を云ふ。

二 二王門 寺にある樓門。伽藍守護の二神を安置し、左が密迹金剛(口を開く)、右が那羅延金剛(口を閉づ)である。仁王門とも書く。

二十五菩薩 念佛の衆生を擁護する二十五の菩薩、名は左の通。

觀世音、大勢至、藥王、藥上、普賢、法自在、獅子吼、陀羅尼、虛空藏、德藏、寶藏、金藏、金剛藏、山海慧、光明王、華嚴王、衆寶王、月光王、日照王、三昧王、定自在王、大自在王、白象王、大威徳王、無邊身

法、慈善、唯佛、唯信、唯信、唯圓

日蓮宗 我が國で興つた佛教の一。開祖は日蓮。法華經を所依とし、これを體讀して、南無妙法蓮華經の七字(題目)を唱へて成佛することを説く。

二の丸 城郭中本丸の外に接する部分。

乳郭 釣鐘の上部で乳狀突起がある部分。乳の間とも云ふ。

如意輪觀音 意の如く教法を説いて衆生を濟度する觀音で、その像は金色を呈し、冠に自在王が坐して居る。

仁清 野々村氏。陶工(二二一〇年代)

又 貫 柱を連繫する薄くて狭い横木。

布目瓦 布文ある瓦。布文は概ね裏面にある。

濡佛 屋外に安置してある佛像。露佛とも云ふ。

ネ 根巻鳥居 明神鳥居に似て居るが、柱の根元を板で巻いて黒塗とし、その他は朱塗としたもの。一名藁座鳥居。京都伏見稻荷神社の鳥居はその例である。

練扉 瓦と練土を交互に積み重ねて造つた扉。

念持佛 常に我が居室に安置し、或は身に附けて信仰禮拜する佛。

持佛、護佛とも云ふ。

軒 屋根の最下部。

野種 鉤削しない種。

野天井 天井板を二重張にした時、上の方の分を云ふ。

参考語彙

二十二社 白河天皇の永保元年奉幣の便宜上定められた左記二十二箇所の神社である。

伊勢大神宮、石清水八幡(山城)、賀茂(山城)、松尾(山城)、平野(山城)、稻荷(山城)、春日(大和)、大原野(山城)、大神(大和)、石上(大和)、大和(大和)、廣瀬(大和)、龍田(大和)、住吉(攝津)、日吉(近江)、梅宮(山城)、吉田(山城)、廣田(攝津)、祇園(山城)、北野(山城)、丹生(大和)、貴布禰(山城)

二十八部衆 眞言陀羅尼を誦持するものを保護する神。名稱を左に記す。

密跡金剛士、烏羽君茶央俱尸、魔薩那羅達、金毘羅陀迦毘羅、婆駛婆樓那、滿善車鉢眞陀羅、薩遮摩和羅、鳩蘭單吒半祇羅、畢婆伽羅、應徳毘多薩和羅、梵摩三鉢羅、炎摩羅、帝釋天、大辨功德天、提頭賴吒、神母女、毘樓勒叉、毘樓博叉、毘沙門、金色孔雀王、伊舍那天、摩尼跋陀羅、弗羅婆、難陀跋難陀、大身阿修羅、雷電神、鳩嚙茶、毘舍闍

二十四輩 親鸞の弟子二十四人を云つたものであるが、轉じてこれ等二十四人の舊跡地及び舊跡を巡拜する人を云ふ。二十四輩の名稱は左の通で、各々終の房の字が省いてある。入信、唯信は何れも二人ある。

登窯 陶磁器製造用の窯で、階段狀に設け、下方から次第に上方へ焼く。

昇勾欄 中階段または斜面に沿うて傾斜せる欄干。

ハ 陪塚 大古墳に從屬する小古墳。

拜殿 神社禮拜用の建物。本殿その他のものと連接して居ることもあり、獨立して居ることもある。

馬遠 支那宋代の畫家。

袴腰 袴の腰板の如く梯形のもの。

箔押 金銀箔を紙、絹等の上に押す法即ち附著させる法。

白鳳時代 奈良時代を見よ。

狭間 扉、矢倉等建築物の内から外へ、矢、銃丸、石等を發出させるために設けられた小窓。矢狭間(箭眼)、鐵砲狭間(銃眼)、大砲狭間、石狭間等の名があり、その形も圓形、半圓形、三角形、四角形等種々ある。

柱間 柱の中心間の距離。

八幡造 神社建築形式の一。神明造と流造とを合せたもので、内陣と外陣とを別棟とし、兩者の軒を接する所に共用の樋がある。千木、鯉木はない。例、宇佐神宮。この様式は平安時代に起つたと云ふ。

八幡鳥居 島木鳥居の一。春日鳥居と異なる點は笠木及び島木の先端が斜に切り落してあることである。石清水八幡宮の現在の鳥居

は後期のもので石鳥居に變じ、笠木に多少反りがある。
 八宗 平安時代我が國に行はれた佛教の八宗、俱舍、成實、律、法相、三論、華嚴(南都六宗)と天台、眞言とである。
 八注造 屋根の斜面が四注造の倍即ち八箇ある造り方。
 法堂 禪宗で法門の教義を講説する堂。説法堂、演法堂とも云ふ。
 馬頭觀音 寶冠に馬の頭を戴いて居る。
 埴輪 埴即ち緻密な粘土を以て作り、古代埴墓の周圍に立てたるもの。形状は人、馬等色々ある。一名樹物。
 破風 切妻或は入母屋の妻の三角形の所に、合掌即ち山形になつて附いて居る板(破風板)。轉じて破風板を附ける所をも云ふ。博風とも書く。破風に直線式と曲線式とあつて、曲線式にも反破風(ひり)起破風、唐破風等の別がある。
 破風板 破風を見よ。
 破墨山水 破墨法に依つて描いた山水畫。この法は淡墨で描いた上に、直ちに濃墨で描くので、複雑な趣が出る。
 濱縁 向拜を見よ。
 濱床 向拜を見よ。
 腹巻 鎧の一種。腹部に巻き、背で合せ、背板で背の透間を塞ぐ。袖籠手などはない。
 梁間 梁の長さ、家の幅。桁行の對。
 半跏像 片足を他の足の股の上に組んで居る像。跏は兩足を組み合

平唐門 唐破風が兩側に附いて居る門。
 平瓦 平面は矩形、横断面は弧状をなし、少し反つて居る瓦。
 平城 平低の地に築城した城。
 平庭 平な土地に造つた庭。築山の對。
 平山城 平城と山城とを兼ねた城。江戸時代の大名の城は平山城が多かつた。
 廣縁 身舎の外側にある一段低く幅廣い縁側の様な所。この外方に更に一段低く落縁がある。
 フ 風鐸 軒の四隅や塔上に吊る青銅製の鈴。寶鐸とも云ふ。
 葺石 古墳の盛土に葺いた石。
 吹放 板などで圍まず、自由に風が通る様にすること。
 複合天守閣 天守が小天守或はその他の副建築を伴なつて居るもの。
 覆堂 鞘堂を見よ。
 武家造 鎌倉時代から武家の間に用ゐられた邸宅の造。
 府縣社 社格の一。官國幣社に次ぎ、府或は縣内で廣く崇敬される神社を云ひ、等級はない。
 府縣道 國道に次ぐ重要な道路。(一)府縣廳所在地から隣接府縣廳所在地に達する路線、(二)府縣廳所在地から府縣内の市役所、樞要の地、港津または鐵道停車場に達する路線等これに關し、府縣知事の認定にかゝり、その有效幅員は三間以上を標準とする。

せて坐することである。
 坂東三十三所觀音 當省編纂旅行手帖參照。
 牛肉彫 高彫と薄肉彫との中間にある浮彫。
 ヒ 飛檐種 二軒の場合最も外方にある種。或は一軒でも反があるもの。檐は簷とも書く。
 檜皮葺 檜の皮を重ねて屋根を葺くこと。
 引目勾鼻 横に引いた細線で目を、鈎状の細線で鼻を現す描法。引目鎌鼻と記すこともある。
 飄形古墳 前方後圓墳を見よ。
 肘木 柱の上にあつて上部の重みを支へる横木。腕木とも云ふ。
 毘沙門天 多聞天とも云ふ。四天王の一にして、北方の守護神。
 飛天 天人、天女の意。
 一軒 種が一行に並んで居る軒。即ち地種(主種)のみから成つて居るもの。
 火袋 石燈籠の點火所。火舎とも云ふ。
 神櫛 櫛を圍らして神を祀る所で、社殿はない。
 白衣觀音 白衣を着て白蓮華の中に居る。
 日吉造 神社建築形式の一。本殿は弧立して居り、縫破風付向拜造で、千木、鯉木がない。滋賀縣日吉神社にのみ見られる。起源は平安時代と稱される。一名聖帝造。
 平入 屋根の平の方に出入口のあるもの。妻入の對。切妻造參照。

普賢菩薩像 釋迦の右の脇土。形像は多種であるが、多くは右手に金剛杖、左手に金剛鈴を持ち、六牙の白象に乗る。
 傳彩 色彩を施すこと。
 藤原時代 本書五一頁參照。
 伏鉢 塔の露盤の上にあつて饅頭形をなし、鉢を伏せた様な形のもの。覆鉢とも記す。
 扶桑教 神道一派。明治六年安野牛が組織した富士一山講社が明治十五年に獨立したもので、造化三神を主神とし、富士登山を勧める。大教廳は東京市世田谷區松原一丁目にある。
 蕪村 谷口氏。俳人で文人畫をよくした(二三七六―二四四三)舞臺造 懸崖を利用して高く組み立てた建物。
 札所 巡禮者が受札或は納札をする寺院。西國三十三箇所、坂東三十三箇所、四國八十八箇所類。
 二手先 組物が二重あつて、出組より外方に多く出て居るもの。二手先組の略。
 二軒 地種及び飛簷種が二列に並んで居る軒。軒二重と云ふに同じ。佛龕 厨子を見よ。
 佛教 釋迦を開祖として、印度に起つた宗教である。支那、朝鮮を経て我が國に傳來し、その後邦人が唱道創立したものもあつて、今は左記の如く十三宗、五十六派の多きに至つたが、派数は近く二十七に減少すると云ふ。

- (一) 天台宗、同寺門派、同眞盛派
 - (二) 古義眞言宗、眞言宗醍醐派、同東寺派、同泉涌寺派、同山階派、同善通寺派、新義眞言宗智山派、同豐山派、眞言律宗
 - (三) 律宗
 - (四) 淨土宗、同西山禪林寺派、同西山光明寺派、同西山深草派
 - (五) 臨濟宗天龍寺派、同相國寺派、同建仁寺派、同南禪寺派、同妙心寺派、同建長寺派、同東福寺派、同大徳寺派、同圓覺寺派、同永源寺派、同方廣寺派、同佛通寺派、同國泰寺派、同向嶽寺派
 - (六) 曹洞宗 (七) 黄檗宗
 - (八) 眞宗本願寺派、同大谷派、同高田派、同興正派、同佛光寺派、同木邊派、同出雲路派、同山元派、同誠照寺派、同三門徒派
 - (九) 日蓮宗、日蓮正宗、顯本法華宗、本門宗、本門法華宗、法華宗、本妙法華宗、日蓮宗不受不施派、同不受不施講門派
 - (一〇) 時宗 (一一) 融通念佛宗 (一二) 法相宗 (一三) 華嚴宗
- 佛師 佛像彫刻師。佛工。
佛所 佛像彫刻製作所。
不動明王 五大明王の一。大日如來が一切の惡魔を降伏させるため、忿怒の相を現したるもの。火焰の中にあつて石上に坐し、左手に羅索を、右手に劍を持つが、劍の代りに鉗を持つもの、兩手で印を結ぶもの等があり、身色も不定である。不動尊とも云ふ。脇

立は右のが制吒迦(勢多迦)童子、左のが矜羯羅童子で、前者は右手に金剛棒を持つ、後者は頭に蓮華冠を戴いて居る。
船後光 佛、菩薩の光背の一種。頭部から發し、船を堅にした形のもの。一名頂光。
舟肘木 下部が舟形即ち弧形である肘木で、丸桁の直下にある。
プラン (Plan) 設計、平面圖。
文晁 谷氏。水墨山水に長じた畫家(二四二四—二五〇一)
粉本 繪畫の下書或は原圖の模寫。
平安時代 本書五〇頁を見よ、
扉中門 左右に角柱二本立て、屋根がない門。扉重門とも書く。一に「へいじん」とも稱する。
米點 畫の描法の一。宋の米芾父子が始めたと稱され、横平たい圓味のある點で描くこと。主にこの點を用ゐて描いた山水畫は米點山水、米法山水と云ふ。
幣殿 神社の拜殿と本殿との間にあつて、幣を手向ける所。
別格官幣社 社格の一。皇室、國家に對する忠臣を祀つてある特別な官幣社で、官幣小社と同様に待遇される。
ホ 抱一 酒井氏。光琳派の畫家(二四二一—二四八八)
寶篋印塔 寶篋印陀羅尼を納める塔である。中部は立方體の石で、臺石、笠石があり、何れも方形をなし、笠石の上部に飾がある。
寶形造 屋根が方錐狀をなし、四方の隅棟が上部で一箇所に集まつ

て居るもの。こゝに露盤その他の裝飾がある。隅棟は方錐の稜に當る。方形造、方桁造とも書く。大棟の兩端に隅棟が集まる屋根を方形造と云ふこともある。
方丈 方一丈の室の意で、狭小な僧坊を云ひ、轉じて方丈に居る人即ち住職をも意味する。この語は天竺の維摩が四方一丈の石室に三萬二千の獅子座(佛座席、高僧の座席)を設けた故事から起つたと云ふ。
寶鐸 風鐸を見よ。
方立門 出入口等の脇にある小柱或は薄い木。戸または扉の納りをよくするために設けられる。
北齋 葛飾氏、浮世繪をよくし、また戲畫を多く描いた(二四二〇—二五〇九)
菩薩 菩提薩埵の略。佛の次位にあつて、佛となる修行を勵むもの。廣義では大乘教に歸依したるもの。また神や高僧の名稱に用ゐることがある。
法界定印 胎藏界大日如來の入定印。右を下にして、兩手を重ねて膝の上に置き、兩手指の頭を支へしめる。
法華堂 もとは法華三昧をなすための建物。後には貴人の遺骨を葬る處。
法相宗 南都六宗の一。大乘教に屬し、白雉年間道昭が入唐傳來した。解深密經、成唯識論を根據とし、萬有は唯識の變化であると

説く。
火舎 燈籠を見よ。
堀 人工に依つて造つた川。水を湛へたものは澁(濠)と云ひ、否らざるものは空堀(隄)と云ふ。堀方の名には藥研堀、箱堀があつて、その断面前者は三角形、後者は四角形である。
本瓦葺 平瓦と丸瓦とを交代に並べて葺いた屋根。
本地佛 本地の佛の義。本地垂迹説が行はれ、天照大神(垂迹)は大日如來(本地)と云ふが如く神佛の合致が説かれたことがあつた。
本堂 寺院の中心をなす佛堂で、中堂(天台宗)、佛殿(禪宗)と呼ばれることがあり、金堂の名もある。
翻波式 衣紋の襷の彫刻形式で、圓い隆起と尖つた隆起とが交互になつて居るもの。
本柱 門の棟を支へる最も主要な柱。
本丸 城郭の最要部で、天守閣等がこゝにある。本城とも云ふ。
舞良戸 框の間に板を張り、表裏に細い木(舞良子)を幾本も横に取り付けた戸。
磨崖碑 天然の懸崖を利用した記念碑。
磨崖佛 自然の懸崖に彫刻した佛像。懸崖に洞穴を穿ちて、その中に安置した佛像をも云ふ。
卷斗 建築上椀形の小さいもの。

卷柱 帶模様を施した圓柱。帶模様は上下、左右即ち二方に細長く連続した模様である。

櫛窓、入口等の上方にある横木。

正信 狩野派初代の畫家(二二二—二二五〇)。

枳形 城の門と門との間にある四角形の平地。また柱の上方にある方形の木を云ふ。

斗組 柱の上部にあつて軒を支へる装置。腕の如く突出する肘木と

その上に敷つて居る方形のもの即ち斗とから成つて居る。枳組とも書く。一名斗拱。

枳組 欄間、障子等の骨組を方形に組むこと。

未社 本社に從屬して、攝社の下に位する小社。

疎村 平行して居る種相互の間隔を廣くした種の配置。主として住宅風の建築に用ゐる。繁種の對。

丸瓦 略々半圓筒狀の瓦。

圓山派 江戸時代の末、圓山應舉によつて開かれた一派の畫風である。

曼荼羅 道場、壇、輪圓具足、聚集と譯され、密教では正覺を成じたる佛内證(内心の悟)の境地を云ふ。曼陀羅とも書く。また佛界の模様を繪畫化したものも曼荼羅と稱され、淨土曼荼羅、金剛界曼荼羅等の名があり、淨土曼荼羅には當麻曼荼羅、觀經曼荼羅がある。

御影堂 佛教各宗派の開祖、高僧の像を安置する建物。讀み方は眞言宗、淨土宗では「みえいどう」であるが、眞宗では「ごえいどう」だと云ふ。

尊 神或は人の名稱の終に附ける尊稱。尊が貴く命が卑いとの説があるけれども、必ずしもその通でない。

禊教 神道の一派。天保年間井上正鏡が開き、吐蕃加美講と云つたことがあるが、明治六年現名に改め、同二十七年獨立の許可を得た。禊は神の救濟への唯一の道程と説く。本院を東京市下谷區西町に置いて居る。

彌陀 阿彌陀の略。

御嶽教 神道の一派。教祖は下山應助。御嶽大神を主神とし、奉齋神の神徳を發揚し、尊皇愛國の大義を宣明することを要旨とする。この派は明治十五年獨立を公認された。大本廳は東京市品川區西大崎二丁目にある。

彌陀の十六觀 阿彌陀如來が淨土及び佛身を觀する左記十六種の法。

日想觀、水想觀、地想觀、寶樹觀、寶池觀、寶樓觀、華座觀、像觀、眞身觀、觀音觀、勢至觀、普觀、雜觀、上輩觀、中輩觀、下輩觀

光起 土佐派の畫家(二二七—二三五一)

三斗 三つの小なる斗を載せて、丸桁を受ける大斗肘木。三斗組の

略。

光長 土佐派の畫家(一八六〇年代)

光信 土佐派の畫家、光長、光起と共に土佐派の三筆と稱される(一九四—二一八五)

三手先 組物が二手先よりも尙一層外方に出て居るもの。即ち大斗の上と支輪下との間に三重の斗組を有する出組。三手先組の略。

港 數多の船が安全に碇泊し得る水面。その所在地に依つて、海港、河港、湖港等と呼ばれ、利用に依つて軍港、商港、漁港、避難港等と稱される。商港の中で外國船が出入し得るものは開港或は貿易港と云はれる。

名神 官國幣の大社中、創祀の年代が古く、神統が正しい有名な神を祀つてあるものを云ふ。通音に依つて明神とも書き、大の字を加へて大明神と云つた。後には唯神の尊稱となつた。

名神大 名神大社の略である。名神で大社の社格があり、祈年、月次、新嘗等の祭に、案上官幣で奉幣のあつた重い神の稱である。

明神鳥居 島木鳥居の一。八幡鳥居の笠木、島木に反を有し、柱が内方へ傾斜したもので、額束及び楔があり、柱は掘立ではなく、柱礎に龜腹がある。普通見る鳥居の大多數はこれに屬する。例、明治神宮の鳥居。

住吉鳥居は明神鳥居に似て居るが、柱が角である。

三輪鳥居 島木鳥居の一。明神鳥居の左右兩翼に低い明神鳥居を附

けた様に見えるもので、親柱二本、子持柱二本である。例、奈良縣大神神社の鳥居。脇鳥居、三光鳥居とも云ふ。三輪鳥居に原を附したのものもある。

民社 社格を見よ。

明兆 畫僧。應永年中東福寺の殿司となり、南明院に住したので兆殿司と呼ばれる(二〇三—二〇九一)

ム 起破風 破風が凸形のもの。

向唐門 前後に唐破風があり、本柱、控柱とも都合四本ある門。

棟木 家の棟に用ゐる木材。

棟札 棟上の時、建築に關する年月、氏名等を記して棟木に打ち附ける札。

棟門 切妻破風の屋根を備へ、門柱が二本あるもの。一名むねかど。

宗忠鳥居 鹿島鳥居を見よ。

七 裳懸座 佛像臺座の一形式。佛像の衣の裳が臺座に垂れ懸つて居る形を彫刻したもの。或はその畫。

牧溪 支那宋代の有名な畫僧。

裳階 第一階に附設した廂。これに依つて第一階が重層の觀を呈する。裳層、雪打とも云ひ、雪打造の名がある。

元信 狩野派の第二世にして、同派の基礎を作つた大家(二一三六—二二一九)

桃山時代 本書五一頁参照。

母屋 棟及び軒に平行して種を受ける横木。

門跡 一門流の跡の意で、始めは僧侶の門流、師弟相傳の法系を云つた。後には寺院の資格を云ふ様になり、宮門跡(法親王)、攝家門跡(攝家)、准門跡(本願寺等)の別がある。また本願寺を意味することも有る。

ヤ

館 防禦設備を施した武將常住の居館。貴人の邸宅なども云ふ。

藥醫門 本柱の一方にのみ控柱を設けた門。本柱も控柱も各々二本を普通とする。屋根は切妻破風。

藥師如來 藥師瑠璃光如來の略。瑠璃光如來とも云ふ。病患を救ひ法藥を給ふ佛とされ、その形像は蓮華座上に趺坐し、左手に藥壺を持ち、右手は施無畏の印を結んだのが多い。

櫓 物見、倉庫等を兼ね、本丸、二の丸の壘上に設けられた建築物

云ひ、軸と接續して居る。軸の中で象牙を用いたものを牙軸と云ふ。

彌生式土器 東京市本郷區向ヶ岡彌生町の貝塚で始めて發見された土器と同式の素焼土器。

ユ

維摩圖 畫題。委しくは維摩詰、毘摩羅詰と云ひ、無垢稱或は淨名と譯される。毗舍離國毗耶離城の長者で、釋迦と時代が同じく、家にあつて菩薩の行を行つたから維摩居士とも云ふ。

友松 海北氏。狩野永徳の門人で、桃山時代裝飾畫の大家(二一九三—二二七五)

友雪 海北氏、友松の男(二二六八—二三三七)

瑜祇塔 高野山龍光院の傍にある小塔。瑜祇經の説に依つて建てられ、上に九輪がなく五峯を立て、各々に五輪がある。

行光 土佐派の畫家(二二〇〇年代)

雪見燈籠 石燈籠の一。笠が偏平で大きく、竿がなく、杵石の足が三本になつて居る。

ヨ

要港 軍港に次いで軍事上重要な港灣。

要塞地帯 要塞地帯とは要塞地帯法に據り、國防のため建設してある諸般の防禦營造物の周圍の區域を云ふのである。要塞地帯の幅員は防禦營造物の各突出部を連結する線を基線とし、この線から外方一定の距離以内に於いて定める。

要塞地帯は陸地と海面を問はず、これを三區に分け、基線から測

で、隅にあるものを隅(角)櫓と稱する。普通二層であるが、三層のものもある。矢倉とも書く。

靖國鳥居 鹿島鳥居を見よ。

八脚門 三間二面の屋根附門で、門柱四本の前後に、控柱各々一本、合計八本ある。

八棟造 神社建築の一形式。本殿と拜殿とは石の間(合の間)で連絡されるから石間造とも云ひ、大體は權現造であるが、拜殿の外に奏樂所、神饌所などが附加されて棟敷が多いから、八棟造と云ふ。千木、鯉木はない。例、京都の北野神社。この式は桃山以後に起つたと云ふ。

山越阿彌陀圖 畫題。山を越えて阿彌陀が來迎する光景。

山城 自然の山岳丘陵に築いた城。

大和表具 上中下の三大部に分れる。中部の書畫を書き付けた所を

紙中と云ひ、その上と下とにある横一文字のものを一文字(上の一文字、下の一文字)と呼び、紙中と一文字を取り圍む部分の中縁或は中廻し或は中と呼ぶ。中縁の左方或は右方の帶狀部は柱と云ひ、その幅の廣いものは燈籠、狭いものは輪補と稱する。

中縁の上方は上、天、地題と呼び、その表面に垂下して居る二本の紐状のものは風帶と云ふ。風帶の下端にある絲は露(白色)、華(紫色)と名づけてある。これ等より上方に環、掛緒、卷緒があり、終の二者は啄木と合稱される。中縁の下方は下、地、地題と

り二百五十間以内及び基線と防禦營造物間の區域を第一區、基線から測り七百五十間以内を第二區、基線から測り二千二百五十間以内を第三區とする。

何人と雖要塞司令官の許可なくして要塞地帯内水陸の形狀を測量、撮影、模寫、錄取し、または要塞地帯内を航空することが出来ない。この規定は要塞地帯外と雖も第三區の境界線から外方三千五百間以内の區域に適用される。

瓔珞 珠玉を連ねて作つた頭、頸などの裝身具。後には花形の金具、珠玉を綴つた佛像や佛像安置所の裝飾。一に瑤珞とも書く。

楊柳觀音 右手に柳の枝を持つて居る。

與願印 施願印を見よ。

横穴 邦人が古代に造つた墳墓の一。丘陵の側面にあつて、多くは群集して居る。

吉野燭時代 室町時代を見よ。

寄木造 種々の木材を密合させて造ること。

寄棟造 四注造を見よ。

四脚鳥居 兩部鳥居を見よ。

四脚門 圓い二本の大柱の前後に、方形の四本の袖柱を立てたもの。屋根は切妻。四足門とも書く。

鎧 戰鬥の際身體を掩護するために着用した戎衣。大鎧、胴丸、腹巻、具足、小具足等の別がある。また大鎧を鎧と略稱することが

ラ 來迎柱 本尊安置所に近い圓柱。
ある。

羅漢 阿羅漢(阿羅訶)の略。人天の供養を受ける資格ある覺者の汎稱。また釋迦の弟子の特稱。

螺鈿 貝殻の光輝ある部分を薄片とし、種々の形状に切断して漆器等の面に嵌入裝飾としたもの。象牙も用ゐられると云ふ。

螺髮 佛の頭髮が縮れて螺状になつて居ること。螺は貝類で殻が渦状をして居る。

卵塔 石塔婆の一。方形の臺石の上に卵形の石を載せたもの。一名無縫塔。卵塔場は墓地。

欄間 窓、出入口及び鴨居上方の開口等を云ふ。四脚門などの腰長押上の花狭間をも云ふ。

リ 律宗 南都六宗の一。唐僧鑑真に依つて傳へられ、戒律の嚴重な佛教である。眞言宗に附屬して居たこともあるが、今は獨立して居る。

龍宮造 樓門の一種。下部は白色のアーチ形であるが、上部の木材部は丹、群青等で彩色してある。屋根は入母屋。

龍頭 釣鐘の上にある龍頭形の部分。これを鈎にかけて梁につるす。

雨流造 雨水が兩方即ち二斜面へ流れる様に屋根を造ること。片流の對。

ロ 樓閣山水圖 樓閣が重要な部分を占める山水畫。

樓門 上に樓を有する重層の門。

六阿彌陀 六箇所にある阿彌陀の靈場。

六觀音 六種の觀音を云ひ、左記の通甲乙二種ある。

(甲) 大悲、大慈、師子無畏、大光普照、天人丈夫、大梵深遠

(乙) 千手、聖、馬頭、十一面、准胝、如意輪

六根清淨 眼根、耳根、鼻根、舌根、身根、意根の六を清淨にすること。根は強い作用を與へるものを云ふ。

六地藏 六種の地藏で、檀陀、寶珠、寶印、持地、除蓋障、日光を云ふ。

六玉川 六箇所の玉川は武藏、井手、高野、攝津、野田、野路である。

露地 茶室に附隨する庭。一に茶庭と云ふ。飛石、手水鉢(つくばい)、燈籠、樹木、苔類がある。

露盤 塔婆の相輪の下部または寶形造の屋頂にある箱形の臺。

露佛 露佛を見よ。

ワ 脇指 長さ二尺未満一尺以上ある片刃の切物。刀と共に腰に差し、大小と呼ばれる。

脇鳥居 三輪鳥居を見よ。

棹指鳥居 兩部鳥居を見よ。

渡櫓 下は門となり、上は歩行して一方から他方へ渡り得る様にな

兩部鳥居 島木鳥居の一。臺輪鳥居の兩柱の前後に控柱(兒柱)を

設け、これに上下二本の貫を渡したもの。笠木の上に雨覆屋根を

附けることがある。神佛混淆の神社に多く行はれたもの。四脚鳥

居、稚兒柱鳥居、袖鳥居、棹指鳥居、權現鳥居等の別稱がある。

例、嚴島の大鳥居。

臨濟宗 禪宗の一派。榮西が入宋して傳へた。教育の方法は猛烈で、

問答の時捧喝をすることがある。

輪藏 經文を入れる倉庫中に、軸を設けて回轉し得る様にした書

棚。

輪寶 轉輪聖王の寶器。形車輪の如く、數多の鋒これから出で、そ

の進轉する時は山岳も容易に破砕されると云ふ。

ル 廬遮那佛 毘廬遮那佛の略稱。大日如來を見よ。

瑠璃光如來 藥師如來を見よ。

レ 聯落 唐紙または畫箋紙全紙から、その堅約四分の一を切り落

したものを。

連結天守閣 獨立せる二つの天守閣を連結したもの。

櫓子 窓に堅に並べて取り付けた木、竹全部を云ふが、普通には縦

横に組んだ格子と區別しないことがある。連子とも書く。櫓子を

取り付けた窓は櫓子窓。

聯立天守閣 大天守が二基以上の小天守と竝立し、その間に庭など

があるもの。

つて居る。普通は單層であるが、重層のこともある。一名門櫓。

多門櫓を渡櫓と稱することがある。

渡櫓門 渡櫓に同じい。櫓門とも云ふ。

和様 建築上唐様、天竺様傳來前から本邦にある様式。

薬座鳥居 根卷鳥居を見よ。

割拜殿 中央が通路になつて居る拜殿。

索引

ヤバセウラ(矢橋浦)..... 336
 ヤブノウチシサテイ(飯内氏茶亭)..... 107
 ヤマグチジ(山口寺)..... 340
 ヤマクニジンシヤ(山國神社)..... 391
 ヤマクニムラ(山國村)..... 389
 ヤマシナゴボウ(山科御坊)..... 254

ユ

ユウゼンゾメ(友禪染)..... 98
 ユウリュウシヨウ(遊龍松)..... 280
 ユキサイデン(悠紀齋田)..... 354
 ユキシヤ(由伎社拜殿)..... 210
 ユムラオンセン(湯村温泉)..... 420
 ユラ(由良海水浴場)..... 403

ヨ

ヨウカイチマチ(八日市町)..... 382
 ヨウゲンイン(養源院)..... 155
 ヨウコクジ(楊谷寺)..... 281
 ヨウサンジンシヤ(養蠶神社)..... 399
 ヨウゼイテンノウゴリヨウ(陽成天皇御陵)..... 200
 ヨウバイダキ(楊梅瀑布)..... 322
 ヨコイシヨウナン(横井小楠殉節地)..... 130
 ヨシダジンシヤ(吉田神社)..... 200
 ヨシミコジンシヤ(吉御子神社)..... 338
 ヨドマチ(淀町)..... 283
 ヨリスガハマ(寄須ヶ濱)..... 371
 ヨロイノソデ(鎧の袖)..... 418

ラ

ライゴウイン(來迎院)..... 208
 ライゴウジ(來迎寺)(下埜本村)..... 317
 ライゴウジ(來迎寺)(饒原村)..... 358
 ライゴウジ(來迎寺)(彦根市)..... 374
 ライサンヨウ(賴山陽書齋)..... 129
 ラカンドウ(羅漢堂釋迦像)..... 328
 ラクシシヤ(落柿舎)..... 232
 ラクラクエン(樂々園)..... 373
 ラジヨウモンシ(羅城門址)..... 118

リ

リツメイカン(立命館大學)..... 130
 リユウオウジ(龍王寺十二神像)..... 365
 リユウコウイン(龍光院)..... 152
 リユウコクダイガク(龍谷大學)..... 113
 リユウフクジ(龍福寺)..... 346
 リョウアンジ(龍安寺庭園)..... 212
 リョウゲンイン(靈源院)..... 242
 リョウゴンジ(楞嚴寺)..... 399
 リョウベンゴコクジンシヤ(靈山護國神社)..... 176
 リョウトクジ(了徳寺)..... 220
 リンキユウジ(林丘寺)..... 205
 リンコジツケンシヨ(臨湖實驗所)..... 298
 リンセンジ(臨川寺)..... 227

ル

ルリケイ(琉璃溪)..... 396

レ

レイウンイン(靈雲院)..... 242
 レイウンイン(靈雲院書院)..... 216
 レイセンジ(冷泉寺)..... 365
 レイナンジ(嶺南寺)..... 345
 レンカイジ(蓮海寺)..... 353
 レンゲオウイン(蓮華王院)..... 154
 レンゲジ(蓮華寺)..... 205
 レンジヨウジ(蓮乗寺)..... 356
 レンダイジ(蓮臺寺)..... 337

ロ

ロクオウイン(鹿王院)..... 228
 ロクオンジ(鹿苑寺)..... 145
 ロクハラミツジ(六波羅密寺)..... 172
 ロツカクドウ(六角堂)..... 125
 ロツカクロウヤシ(六角半屋址)..... 119

ワ

ワダジンシヤ(和田神社本殿)..... 329
 ワタムキジンシヤ(綿向神社)..... 387
 ワタムキヤマ(綿向山)..... 387

メートル法換算表

1 耗	=3.3 厘
1 穂	=3.3 分
1 米	=3.3 尺
1 秆	=9.17 町=0.255 里 =0.621 哩=0.540 涅
1 方米	=10.89 方尺
1 アール	=30.3 坪
1 ヘクタール	=3025 坪=1.0083 町歩
1 方秆	=0.06 方里
1 瓦	= $\frac{4}{15}$ 匁=0.2667 匁
1 疋	=0.26667 貫
1 匁	=266.67 貫 =0.98 英噸

概算

100 米	ハ	約 1 町
4 秆	ハ	約 1 里
16 方秆	ハ	約 1 方里
1 アール	ハ	約 30 坪
1 ヘクタール	ハ	約 1 町歩

フクシヨウジ(福照寺)..... 343
 フクチヤマシ(福知山市)..... 412
 フクチヤマジヨウシ(福知山城址)..... 412
 フクデンジ(福田寺)..... 211
 フクトクジ(福德寺)..... 391
 フクリユウシ(伏龍祠)..... 320
 フクリユウジ(福龍寺)..... 346
 フクリヨウジ(福領寺)..... 319
 フクリンジ(福林寺)..... 352
 フサイジ(普濟寺)..... 394
 フジハラシユンゼイ(藤原俊成墓)..... 242
 フシミモモヤマヒガシゴリヨウ(伏見桃山東御陵)..... 251
 フジモリジンシヤ(藤森神社)..... 248
 ブジヨウジ(峯定寺)..... 211
 ブツコウジ(佛光寺)..... 119
 ブツコクジ(佛國寺黃檗高泉和尚碑)..... 248
 ブツシヨウジ(佛性寺)..... 356
 ブツポウジ(佛法寺)..... 357
 ブドウジ(不動寺本堂)..... 333
 フナオカヤマ(船岡山)..... 145
 フナヤマ(船山)..... 154
 フリットシヨカン(府立圖書館)..... 190

へ

ヘイアンシングウ(平安神宮)..... 190
 ヘイケムラ(平家村)..... 420
 ヘンジヨウジ(遍照寺)..... 226

ホ

ホウウンジ(法雲寺)..... 385
 ホウオンジ(報恩寺)..... 355
 ホウカイジ(法界寺)..... 263
 ホウカンジ(法觀寺)..... 175
 ホウコウジ(方廣寺)..... 168
 ホウコウジ(寶光寺)(坂本村)..... 304
 ホウコウジ(寶光寺)(常盤村)..... 353
 ホウコウジ(法光寺)..... 384
 ホウコクジンシヤ(豐國神社)..... 168
 ホウコンゴウイン(法金剛院)..... 217
 ホウゴンジ(寶嚴寺)..... 302
 ホウジン(寶慈院)..... 138
 ホウシヤクジ(寶積寺三重塔婆)..... 282

ホウジユジ(寶珠寺)..... 361
 ホウジヨウインジヨウコウジ(放生院常光寺)..... 268
 ホウシヨウジ(法性寺)..... 242
 ホウセンジ(法泉寺石塔婆)..... 276
 ホウゾウジ(法藏寺)..... 357
 ホウトウジ(寶塔寺)..... 246
 ホウネンイン(法然院)..... 197
 ホウボダイイン(寶菩提院)..... 279
 ホウラクジ(法樂寺)..... 333
 ホウリンジ(法輪寺)..... 229
 ホウリンジ(寶林寺)..... 395
 ホズガワクダリ(保津川下り)..... 392
 ボダイゼンジ(菩提禪寺)..... 340
 ホフクジ(保福寺)..... 325
 ホリカワ(堀川)..... 139
 ホンガンジ(本願寺)..... 411
 ホンコクジ(本國寺)..... 112
 ボンシヤクジ(梵釋寺)..... 385
 ボンシヤクジシ(梵釋寺址)..... 298
 ホンノウジ(本能寺)..... 124
 ホンポウジ(本法寺)..... 138
 ホンミヨウジ(本妙寺)..... 189

マ

マイズルコウエン(舞鶴公園)..... 400
 マイズルシ(舞鶴市)..... 400
 マキノオサイミヨウジ(槇尾西明寺)..... 222
 マキノ(牧野スキー場)..... 326
 マケジンシヤ(摩氣神社)..... 396
 マサナリシンノウオハカ(雅成親王御墓)..... 416
 マツオジンシヤ(松尾神社)(高麗村)..... 277
 マツノオジンシヤ(松尾神社)(京都市)..... 229
 マツノオデラ(松尾寺)..... 403
 マツバラナイコ(松原内湖)..... 374
 マハタキジンシヤ(眞幡寸神社)..... 248
 マミオカジンシヤ(馬見岡神社)..... 364
 マルヤマコウエン(圓山公園)..... 177
 マンゲツジ(満月寺)..... 319
 マンジュイン(曼珠院)..... 204

ミ

ミイデラ(三井寺)..... 288
 ミエイドウ(御影堂)..... 119
 ミカミジンシヤ(御上神社)..... 355
 ミカミヤマ(三上山)..... 355
 ミクモムラ(三雲村美松自生地)..... 341
 ミズグキノオカ(水莖岡)..... 364
 ミズタリジンシヤ(水度神社)..... 275
 ミヅロイケ(深泥池水生植物群落)..... 136
 ミナクチジンシヤ(水口神社)..... 349
 ミナクチマチ(水口町)..... 349
 ミナミザ(南座)..... 181
 ミナミハナザワ(南花澤花の木自生地)..... 382
 ミブキヨウゲン(壬生狂言)..... 118
 ミブデラ(壬生寺)..... 118
 ミミズカ(耳塚)..... 169
 ミムロトジ(三室戸寺)..... 267
 ミヤケハチマングウ(三宅八幡宮)..... 208
 ミヤコオドリ(都踊)..... 182
 ミヤズマチ(宮津町)..... 403
 ミヤノコウセン(宮乃鏡泉)..... 345
 ミヨウオウイン(明王院)..... 321
 ミヨウオンジ(妙音寺)..... 346
 ミヨウカクジ(妙覺寺)..... 138
 ミヨウカンジ(妙感寺)..... 342
 ミヨウキアン(妙喜庵)..... 282
 ミヨウケンジ(妙顯寺)..... 138
 ミヨウケンノウオウスキ(妙見の大杉)..... 414
 ミヨウジュイン(明壽院)..... 380
 ミヨウシンジ(妙心寺)..... 213
 ミヨウホウイン(妙法院)..... 170
 ミヨウマンジ(妙滿寺)..... 125
 ミヨウリュウジ(妙立寺)..... 407
 ミヨウレンジ(妙蓮寺)..... 139
 ミンチヨウハカ(明兆墓)..... 242

ム

ムコウジンシヤ(向神社)..... 280
 ムチサキジンシヤ(鞭崎神社表門)..... 336
 ムネタダジンシヤ(宗忠神社)..... 200
 ムラサキシキブデラ(紫式部寺)..... 123

メ

メイジテンノウゴリヨウ(明治天皇御陵)..... 250
 メイジテンノウセイセキ(明治天皇聖蹟).....
 ギヨウコウシヨキドテイ(行幸所木戸邸)..... 129
 クサツアンザイシヨ(草津行在所)..... 335
 ツチヤマアンザイシヨ(土山行在所)..... 350
 メヤミジゾウ(目疾地藏)..... 181

モ

モトイセコウダイジンシヤ(元伊勢皇大神社)..... 412
 モドリバシ(長橋)..... 139
 モドロキジンシヤ(還來神社)..... 321
 モモヤマジヨウシ(桃山城址)..... 250
 モンジヨウジ(女常寺)..... 411

ヤ

ヤクオンジ(藥園寺)..... 284
 ヤクシドウ(藥師堂)(西庄村)..... 326
 ヤクシドウ(藥師堂)(佐山村)..... 246
 ヤクシドウ(藥師堂佛頭)(小津村)..... 353
 ヤクシドウ(藥師堂)(山田村)..... 336
 ヤクシドウ(藥師堂)(兵主村)..... 357
 ヤクシドウ(藥師堂)(岡山村)..... 358
 ヤクノ(夜久野スキー場)..... 413
 ヤサカジンシヤ(八坂神社)(京都市)..... 179
 ヤサカジンシヤ(八坂神社)(佐山村)..... 350
 ヤサカノトウ(八坂の塔)..... 175
 ヤスマチ(野洲町)..... 354
 ヤセウエンチ(八瀬遊園地)..... 205
 ヤダジ(矢田寺)..... 124
 ヤダジゾウドウ(矢田地藏堂)..... 124
 ヤツコジヤヤ(奴茶屋)..... 254
 ヤトリジゾウドウ(矢取地藏堂)..... 378
 ヤナギノミヤ(柳の宮)..... 416

ツ

ツキノワゴリヨウ(月輪御陵)..... 243
 ツキノワジ(月輪寺)..... 237
 ツキヨミジンシヤ(月讀神社)..... 230
 ツクブスマジンシヤ(都久夫須麻神社)..... 303
 ツクリヤマコフン(作山古墳)..... 408
 ツチヤママチ(土山町)..... 350
 ツバキデラ(椿寺)..... 144
 ツルヤマ(鶴山)..... 415

テ

テラダヤ(寺田屋騒動の碑)..... 252
 テンキユウイン(天球院本堂及襖繪)..... 216
 テンジテンノウゴリヨウ(天智天皇御陵)..... 253
 テンジュアン(天授庵)..... 195
 テンジンシヤ(天神社法華經)..... 327
 テンネイジ(天寧寺)(彦根市)..... 375
 テンネイジ(天寧寺)(上川口村)..... 412
 テンノウザン(天王山)..... 282
 テンノウジンシヤ(天王神社本殿)..... 320
 テンノウノモリコフン(天皇の杜古墳)..... 278
 テンボウギミンヒ(天保義民碑)..... 341
 テンリュウジ(天龍寺)..... 227

ト

トウコウジ(東光寺)..... 369
 トウジ(東寺)..... 113
 トウジイン(等持院)..... 212
 トウシシヤダイガク(同志社大學)..... 131
 トウシユウイン(同聚院)..... 241
 トウジュシヨインシ(藤樹書院址)..... 323
 トウジュジンシヤ(藤樹神社)..... 324
 トウシヨウジ(洞照寺)..... 326
 トウフクジ(東福寺)(京都市)..... 238
 トウフクジ(東福寺)(守山町)..... 352
 トウホウブンカガクイン(東方文化學院京都研究所)..... 202
 トウモンイン(東門院)..... 352

トウラクジ(東樂寺)..... 415
 トガノオコウザンジ(榊尾高山寺)..... 222
 トバテンノウゴリヨウ(鳥羽天皇御陵)..... 247
 トヨオカマチ(豊岡町)..... 416
 トヨミツジンシヤ(豐滿神社)..... 381
 トリベノ(鳥邊野)..... 171
 トリベヤマ(鳥部山)..... 171

ナ

ナガオカキユウシ(長岡宮址)..... 279
 ナガオカテンマングウ(長岡天満宮)..... 281
 ナカシマジンシヤ(中島神社)..... 415
 ナガラコウエン(長等公園)..... 288
 ナガラヤマ(長等山)..... 288
 ナグサジンシヤ(名草神社)..... 414
 ナシノキジンシヤ(梨木神社)..... 130
 ナミマツユウセンジョウ(並松遊船場)..... 399
 ナムラジンシヤ(苗村神社)..... 365
 ナラビガオカ(榎ヶ岡)..... 217
 ナリアイサン(成相山スキー場)..... 406
 ナリアイデラ(成相寺)..... 406
 ナワナガトシヒ(名和長年碑)..... 139
 ナンゼンジ(南禪寺)..... 192
 ナンゼンジ(南禪寺庭園)..... 194

ニ

ニシオウジ(西大路の左巻榎)..... 387
 ニシオウタニ(西大谷)..... 121
 ニシジンオリモノ(西陣織物)..... 98
 ニシジンオリモノカン(西陣織物館)..... 139
 ニシデラ(西寺)..... 338
 ニシホンガンジ(西本願寺)..... 107
 ニソニン(二尊院)..... 232
 ニヤクオウジ(若王寺)(川西村)..... 277
 ニヤクオウジ(若王寺)(大石村)..... 333
 ニヤクオウジジンシヤ(若王子神社)..... 196
 ニヨイガタケ(如意岳)..... 196
 ニンナジ(仁和寺)..... 217

ネ

ネンテユウギョウジ(年中行事)(京都市)..... 99

ノ

ノウケイン(能化院)..... 265
 ノギジンシヤ(乃木神社)..... 251
 ノジノタマガワ(野路の玉川)..... 336
 ノチノウキノワゴリヨウ(後月輪御陵)..... 243
 ノデラン(野寺址)..... 144
 ノノミヤジンシヤ(野宮神社)..... 232

ハ

ハイシヨウボダイジ(慶小菩提寺石造多寶塔及石佛)..... 340
 バイセンクツ(梅仙窟)..... 328
 ハクサンジンシヤ(白山神社)..... 274
 ハコイシハマ(函石濱遺物包含地)..... 410
 ハシデラ(橋寺)..... 268
 ハシモト(橋本)..... 285
 ハチブセヤマ(鉢伏山スキー場)..... 414
 ハチマンジンシヤ(八幡神社)..... 361
 ハチマンシヤ(八幡社社殿)..... 364
 ハチマンマチ(八幡町)..... 360
 ハツカクイン(八角院)..... 285
 ハツケイメグリ(八景巡り)..... 301
 ハナノテラ(花の寺)..... 279
 ハマズメカイガン(濱詰海岸)..... 410
 ハンシユウイン(般舟院)..... 139
 ハンシユウサンマイイン(般舟三昧院)..... 139
 ハンドウジ(飯道寺)..... 343
 ハンドウジンシヤ(飯道神社)..... 344

ヒ

ヒエイザン(比叡山)..... 206
 ヒエイザンエンリヤクジ(比叡山延暦寺)..... 308
 ヒエイザン(比叡山鳥類蕃殖地)..... 206
 ヒエダノムラ(蔭田野村置青石假

晶)..... 394
 ヒガシオウタニ(東大谷)..... 177
 ヒガシデラ(東寺)..... 339
 ヒガシホンガンジ(東本願寺)..... 106
 ヒガシマイズルシ(東舞鶴市)..... 401
 ヒコネコウエン(彦根公園)..... 373
 ヒコネシ(彦根市)..... 372
 ヒコネジョウシ(彦根城址)..... 373
 ビシヤモンドウ(毘沙門堂)(京都市)..... 254
 ビシヤモンドウ(毘沙門堂薬師坐像)(苗村)..... 365
 ビシヤモンドウ(毘沙門堂十一面観音立像)(日野町)..... 387
 ビシヤモンドウ(毘沙門堂)(東舞鶴市)..... 402
 ビゾウジ(尾藏寺)..... 288
 ヒツサジンシヤ(比都佐神社石造寶篋印塔)..... 386
 ヒノオカ(日の岡)..... 253
 ヒノクンジョウイン(日野誕生院)..... 264
 ヒノマチ(日野町)..... 385
 ヒノヤクシ(日野薬師)..... 263
 ヒムレハチマングウ(日觸八幡宮)..... 361
 ヒヤクサイジ(百濟寺)..... 382
 ヒヤクマンベン(百萬遍)..... 202
 ヒヨウズジンシヤ(兵主神社)..... 357
 ビョウドウインホウオウドウ(平等院鳳凰堂)..... 270
 ビョウドウジ(平等寺)..... 119
 ヒヨシジンシヤ(日吉神社)..... 306
 ヒラサン(比良山)..... 322
 ヒラトザン(比良登山)..... 322
 ヒラノジンシヤ(平野神社)(京都市)..... 144
 ヒラノジンシヤ(平野神社)(大津市)..... 287
 ヒロサワノイケ(廣澤池)..... 226
 ビワコ(琵琶湖)..... 300

フ

フエノロサ(フエノロサ墓)..... 296
 フカクサキタゴリヨウ(深草北御陵)..... 246
 フクジュヅ(福壽寺)..... 364

シライシ(白石)..... 304
 シラカワ(白河)..... 202
 シラカワテンノウゴリヨウ(白河天皇御陵)..... 248
 シラヒゲジンシヤ(白鬚神社)..... 323
 シラミネジンゴウ(白峯神宮)..... 137
 シンキョウゴク(新京極)..... 122
 シングウジンシヤ(新宮神社表門)..... 345
 シングマノジンシヤ(新熊野神社の障)..... 156
 シンコウイン(神光院)..... 153
 シンコウイン(心光院)..... 209
 シンコウジ(眞光寺)..... 317
 シンゴウジ(眞迎寺)..... 319
 シンジュアン(眞珠庵)..... 150
 シンショウゴクラクジ(眞正極樂寺)..... 199
 シンセンエン(神泉苑)..... 125
 シンセンダミ(新選組壬生屯生所址)..... 119
 シンゼンコウジ(新善光寺)(京都市)..... 119
 シンゼンコウジ(新善光寺)(葉山村)..... 338
 シンゾウジ(神藏寺)..... 393
 シンチオンイン(新知恩院)..... 320
 シンドウジ(神童寺)..... 276
 シンニョジ(眞如寺)..... 376
 シンノウジ(神應寺)..... 285
 シンノウジ(神應寺の大樟)..... 285
 シンブクジ(眞福寺)..... 355
 シンミヤジンシヤ(新宮神社)..... 336
 シンメイヤマコブン(神明山古墳)..... 409

ス

ズイコウイン(瑞光院)..... 137
 ズイコウジ(瑞光寺)..... 246
 スイサンシケンジョウ(水産試験場)..... 374
 ズイシンイン(隨心院)..... 256
 ズキウラジュウコウ(杉浦重剛邸)..... 328
 スザクテンノウゴリヨウ(朱雀天皇御陵)..... 263
 スズカキユウカイドウ(鈴鹿舊街道)..... 351
 スズカトウダ(鈴鹿峠)..... 351

スズメノオヤド(雀のお宿)..... 247
 スリハリトウダ(摺針峠)..... 475

セ

セイアンジ(誓安寺)..... 384
 セイカジ(棲霞寺)..... 234
 セイガンジ(誓願寺)..... 122
 セイカンジ(清閑寺)..... 171
 セイトクイン(清徳院)..... 328
 セイリョウジ(清涼寺)(京都市)..... 233
 セイリョウジ(清涼寺)(土山町)..... 351
 セイレンジ(誓蓮寺)..... 346
 セキサンゼンイン(赤山禪院)..... 205
 セキシンジ(石津寺)..... 336
 セキホウジ(石峰寺)..... 246
 ゼゼ(膳所)..... 328
 ゼゼジンシヤ(膳所神社表門)..... 328
 セタバシ(瀬田橋)..... 329
 ゼンカイジ(禪海寺)..... 407
 ゼンキョアン(禪居庵襖繪)..... 174
 センケサテイ(千家茶亭)..... 138
 センコウジ(千光寺)..... 350
 センゼンジョウロクシヤカドウ(泉山丈六釋迦堂)..... 243
 センショウジ(専稱寺)..... 361
 ゼンジョウジ(禪定寺)..... 273
 ゼンショウジ(善勝寺)..... 339
 ゼンスイジ(善水寺)..... 342
 センニユウジ(泉涌寺)..... 242
 センネンジ(専念寺)..... 319
 センブクジ(泉福寺)..... 343
 ゼンボウジ(善峰寺)..... 280
 センボンシヤカドウ(千本釋迦堂)..... 139
 センミョウジ(善明寺)..... 381
 ゼンリンジ(禪林寺)..... 195

ソ

ソウウンジ(宗雲寺)..... 411
 ソウオウブジ(相應夫寺)..... 420
 ソウケンイン(總見院)..... 151
 ソウケンジ(總見寺)..... 369
 ソウゴンジ(莊嚴寺)..... 357
 ソウショウジ(宗正寺)..... 326

ソウセンジ(宗泉寺)..... 354
 ソウフクジシ(崇福寺址)..... 297
 ソウリンジ(雙林寺)..... 177
 ソウリントウ(相輪塔)..... 192
 ソノベテンマングウ(園部天満宮)..... 395
 ソメドノジゾウ(染殿地藏)..... 122

タ

ダイウンイン(大雲院)..... 121
 ダイカクジ(大覺寺)..... 234
 タイギョウジ(大行寺)..... 120
 タイコウアン(退耕庵)..... 242
 ダイコウジ(大岡寺)..... 349
 タイコウシヤ(大行社社殿)..... 381
 ダイロウトクイン(大興徳院)..... 156
 ダイコウミョウジ(大光明寺)..... 132
 ダイコウミョウジゴリヨウ(大光明寺御陵)..... 251
 ダイゴジ(醍醐寺)..... 256
 ダイゴテンノウゴリヨウ(醍醐天皇御陵)..... 262
 タイシヤクジ(帝釋寺)..... 420
 ダイジョウジ(大乘寺)..... 418
 ダイセンイン(大仙院書院庭園)..... 152
 ダイセンイン(大仙院本堂)..... 152
 ダイゼンジ(大善寺)..... 324
 大イトクジ(大徳寺)..... 146
 大イトクジ(大徳寺の墓碑)..... 153
 ダイニチドウ(大日堂大日坐像)..... 358
 ダイニホンブトクカイホンブ(大日本武徳會本部)..... 190
 ダイヒカク(大悲閣)..... 229
 ダイフクコウジ(大福光寺)..... 398
 ダイフクジ(大福寺)..... 346
 ダイブツデン(大佛殿)..... 168
 タイヘイジ(大平寺)..... 351
 ダイホウオンジ(大報恩寺)..... 139
 タイホウジンシヤ(大寶神社)..... 337
 ダイモンジオクリビ(大文字送火)..... 196
 ダイレンジ(大練寺)..... 288
 タカオジンゴジ(高雄神護寺)..... 220
 タカギジンシヤ(高木神社)..... 385
 タガ(多賀スキー場)..... 377
 タガジンシヤ(多賀神社)..... 375
 タガジンシヤ(多賀神社奥書院庭園)..... 376

タカセガワ(高瀬川)..... 120
 タカセガワ(高瀬川一之船入)..... 121
 タキギイツキユウジ(薪一休寺)..... 277
 タケシマ(多景島)..... 304
 タケダジンシヤ(竹田神社神像)..... 385
 タケノ(竹野海水浴場)..... 418
 タケベジンシヤ(建部神社)..... 329
 タジマミオノウラ(但馬御火浦)..... 420
 タチギカンノン(立木觀音)..... 333
 タチギキカンノン(立間觀音)..... 288
 タナカミヤマ(田上山)..... 332
 タムラジンシヤ(田村神社)..... 351
 タロボウ(太郎坊)..... 360
 タンゴコクブンジシ(丹後國分寺址)..... 407
 ダンノウホウリンジ(檀王法林寺)..... 189
 タンバコクブンジシ(丹波國分寺址)..... 394

チ

チオンイン(知恩院)..... 182
 チオンジ(知恩寺)..... 202
 チオンジ(智恩寺)..... 404
 チクブシマ(竹生島)..... 302
 チジャクイン(智積院)..... 169
 チゼンイン(智禪院)..... 343
 チナイ(知内鱒孵化場)..... 327
 チヤウスヤマコブン(茶白山古墳)..... 329
 チユウキョウテンノウゴリヨウ(仲恭天皇御陵)..... 242
 チユウゲンジ(仲源寺)..... 181
 チユウドウジ(中道寺)..... 391
 チョウエンジ(長縁寺)..... 327
 チョウコウドウ(長講堂)..... 119
 チョウシヤマコブン(銚子山古墳)..... 409
 チョウジュジ(長壽寺)..... 339
 チョウショウジ(長松寺)..... 351
 チョウフクジ(長福寺)(京都市)..... 231
 チョウフクジ(長福寺)(油日村)..... 346
 チョウフクジ(長福寺)(大原村)..... 347
 チョウホウジ(頂法寺)..... 125
 チョウホウジ(長法寺)..... 281
 チョウメイジ(長命寺)..... 362
 チョウラクジ(長樂寺)..... 360
 チンコウジ(珍皇寺)..... 174

コウリュウジ(廣隆寺)..... 224
 ゴオウジンシヤ(護王神社)..... 129
 コギドウ(古義堂)..... 128
 ゴクラクジ(極樂寺)..... 394
 コクブンジ(國分寺)..... 394
 コケデラ(苔寺)..... 230
 ゴコウノミヤジンシヤ(御香宮神社) 249
 ゴコクジンシヤ(護國神社)..... 373
 コゴウズカ(小督塚)..... 228
 ゴジヨウオウハシ(五條大橋)..... 121
 ゴチサン(五智山石佛群)..... 220
 ゴトバテンノウゴリヨウ(後鳥羽天皇御陵)..... 207
 コノエテンノウゴリヨウ(近衛天皇御陵)..... 247
 コノミヤジンシヤ(胡宮神社)..... 376
 コノジンシヤ(籠神社)..... 405
 コハタジンシヤ(許波多神社)..... 265
 コホウアン(孤篷庵)..... 152
 コホウアン(孤篷庵庭園)..... 153
 ゴリヨウジンシヤ(御靈神社)..... 412
 コンカイコウミヨウジ(光戒金明寺)..... 199
 コンゴウイン(金剛院)..... 402
 コンゴウオウイン(金剛王院)..... 262
 コンゴウジ(金剛寺)(日野町)..... 386
 コンゴウジ(金剛寺)(曾我部村)..... 393
 コンゴウジヨウジ(金剛定寺)..... 385
 コンゴウシンイン(金剛心院)..... 407
 コンゴウリンジ(金剛輪寺)..... 379
 コンゼジ(金勝寺)..... 340
 コンタイジ(金體寺)..... 339
 コンダイジ(金臺寺)..... 378
 コンチイン(金地院)..... 194
 コンドウジユウゾウ(近藤重藏墓) 323

サ

サイエイジ(西榮寺)..... 366
 サイガンジ(西岸寺)..... 320
 サイガンジ(西願寺)..... 358
 サイキョウジ(西教寺)..... 315
 サイコウジ(西向寺)..... 146
 サイコウジ(西光寺)(京都市)..... 226
 サイコウジ(西光寺)(八幡町)..... 364
 サイジシ(西寺址)..... 118

サイドウジ(西導寺)..... 265
 サイノカミ(才の神の藤)..... 413
 サイホウジ(西方寺)..... 140
 サイホウジ(西芳寺)..... 230
 サイミョウジ(西明寺)(東甲良村) 378
 サイミョウジ(西明寺)(西大路村) 387
 サイライジ(西來寺)..... 365
 サガコクゾウ(嵯峨虚空藏)..... 229
 サカシタ(坂下不斷櫻)..... 351
 サカトキジンシヤ(酒解神社神輿庫)..... 283
 サカノウエタムラマロ(坂上田村麻呂墓)..... 255
 サカモトリユウマ(坂本龍馬遭難地)..... 122
 サクマシヨウザン(佐久間象山遭難碑)..... 124
 サグリジンシヤ(雙栗神社)..... 275
 サゲジンシヤ(佐牙神社本殿)..... 275
 ササキジンシヤ(沙沙貴神社)..... 366
 サネモリ(眞盛)..... 140
 サワヤマジヨウシ(佐和山城址)..... 374
 サンシスイメイシヨ(山紫水明處) 129
 サンジチオンジ(三時知恩寺)..... 138
 サンジユウサンゲンドウ(三十三間堂)..... 154
 サンジヨウオウハシ(三條大橋)..... 123
 サンモンイン(三千院)..... 206
 サンヤツウ(三夜莊)..... 252

シ

シオノコウセン(鹽野鏡泉)..... 345
 ジオンジ(慈恩寺)(老蘇村)..... 370
 ジオンジ(慈恩寺)(東舞鶴市)..... 402
 シガイン(滋賀院)..... 314
 シガサトヒヤクズカ(滋賀里百塚) 304
 シガセイリン(志賀清林墓)..... 322
 シガラキノミヤシ(紫香樂宮址)..... 344
 シガラキマチ(信樂町)..... 344
 シガラキヤキ(信樂燒)..... 345
 ジキシアン(直指庵)..... 237
 ジゲンイン(慈眼院)..... 320
 ジゲンジ(慈眼寺)..... 384
 シシユウ(刺繡)..... 98
 ジシユジンシヤ(地主神社)..... 321

シジヨウオウハシ(四條大橋)..... 121
 シズシシヨウニユウトウ(質志鍾乳洞)..... 399
 シセツキヨウトカンコウアンナイシヨ(市設京都觀光案内所)..... 105
 シセツムリヨウキユウケイシヨ(市設無料休憩所)..... 188
 シセンドウ(詩仙堂)..... 203
 ジゾウイン(地藏院)(宇治町)..... 274
 ジゾウイン(地藏院)(葉山村)..... 338
 ジゾウドウ(地藏堂)..... 220
 シゾウリュウゾウイタビ(地藏立像板碑)..... 138
 ジダイマツリ(時代祭)..... 192
 シツキ(漆器)..... 99
 ジツソウイン(實相院)..... 208
 ジツゾウボウ(實藏坊)..... 315
 シノツジンシヤ(篠津神社表門)..... 328
 ジホウジ(持寶寺)..... 343
 シマメグリ(島巡り)..... 302
 シモガモジンシヤ(下賀茂神社)..... 132
 シモゴリヨウジンシヤ(下御靈神社)..... 125
 シヤカドウ(釋迦堂)..... 233
 シヤクオウジ(岩王寺)..... 400
 ジヤクコウイン(寂光院)..... 208
 ジヤクコウジ(寂光寺)..... 189
 シヤクゾウジ(石像寺)..... 140
 シユウオンアン(酬恩庵)..... 277
 シユウガクインリキユウ(修學院離宮)..... 204
 ジユウサンジユウセキトウバ(十三重石塔婆)..... 273
 ジユウハチジンシヤ(十八神社)..... 267
 ジユウコウイン(聚光院)..... 151
 ジユウホウジ(壽寶寺)..... 275
 シユンコウイン(春光院南蠻寺銅鐘)..... 216
 ショウアンジ(盛安寺)..... 304
 ジョウオウジ(聖應寺阿彌陀坐像) 355
 ショウガクイン(正覺院)..... 365
 ショウガンジ(正願寺)..... 334
 ジョウキョウジ(常教寺)..... 353
 ショウゲンズカ(將軍塚)..... 179
 ショウゲンジ(生源寺)..... 316
 ショウゴイン(聖護院)..... 199

シヨウゴイン(聖護院舊假皇居)..... 200
 ショウコウジ(正光寺)..... 365
 ジョウコウジ(淨光寺)..... 337
 ジョウコウジ(常光寺)..... 347
 ショウゴクジ(相國寺)..... 131
 ジョウゴンイン(淨嚴院)..... 367
 ショウジジ(勝持寺)..... 279
 ジョウジツイン(乘實院)..... 314
 ジョウジヤクコウジ(常寂光寺多寶塔婆)..... 232
 ショウジヨウケイン(清淨華院)..... 131
 ジョウシヨウアン(常照庵)..... 381
 ジョウジヨウジ(上乘寺)..... 342
 ショウセイエン(涉成園)..... 106
 ジョウゼンジ(常善寺)..... 335
 ショウテンキョウ(小天橋海水浴場)..... 411
 ショウデンジ(正傳寺)..... 153
 ジョウドイン(淨土院客殿)..... 273
 ショウトクジ(正徳寺)..... 340
 ジョウナングウ(城南宮)..... 248
 ショウナンコウクビズカ(小楠公首塚)..... 234
 ジョウネンジ(乘念寺)..... 287
 ジョウネンジ(常念寺)..... 356
 ショウフクジ(稱福寺)..... 327
 ショウフクジ(正福寺)(岩根村) 341
 ショウフクジ(正福寺)(南柚村) 345
 ジョウフクジ(淨福寺)..... 345
 ショウホウジ(正法寺)(京都市) 176
 ショウホウジ(正法寺)(安曇村) 324
 ショウホウジ(正法寺)(大津市) 333
 ショウホウジ(正法寺)(下田上村) 333
 ジョウホンジ(上品寺)..... 375
 ショウミョウジ(稱名寺)..... 275
 ショウミョウジ(正明寺)..... 386
 ジョウミョウジ(常明寺)..... 350
 ジョウラクイン(常樂院)..... 220
 ショウラクジ(勝樂寺)..... 377
 ジョウラクジ(常樂寺)..... 338
 ジョウラクジ(常樂寺の九重櫻) 391
 ショウリンジ(勝林寺)..... 207
 ショウリンジ(少林寺)..... 375
 ショウレンイン(青蓮院)..... 188
 ショウレンジ(生蓮寺)(岡山村) 363
 ショウレンジ(生蓮寺)(八日市町) 383

オマツザキ(雄松崎)..... 323
 オムロザクラ(御室櫻)..... 219
 オンシキョウトハクブツカン(恩賜
 京都博物館)..... 156
 オンシモトリキユウニジヨウジヨウ
 (恩賜元離宮二條城)..... 126
 オンジヨウジ(園城寺)..... 288
 オンセンジ(温泉寺)..... 417

カ

カイガケタニ(鎌掛谷石楠花群落)..... 387
 カイコウジ(戒光寺)..... 243
 ガイショウジ(會勝寺觀音堂)..... 369
 カイズオウサキ(海津大崎)..... 327
 カイズウイン(海藏院)..... 241
 カガミジンシヤ(鏡神社社殿)..... 359
 カガミヤマ(鏡山)..... 359
 カガミヤマ(鏡山古墳)..... 359
 カガミヤマ(鏡山窯址)..... 359
 カケシヨホウトウ(懸所寶塔)..... 334
 カゲロウイシ(蜻蛉石)..... 267
 カサマツコウエン(傘松公園)..... 406
 カサンテンモンダイ(花山天文臺)..... 253
 カスガジンシヤ(春日神社)(川邊
 村)..... 395
 カスガジンシヤ(春日神社表門)(金
 勝村)..... 339
 カスガジンシヤ(春日神社本殿)(大
 石村)..... 333
 カスガジンシヤ(春日神社本殿)(東
 押立村)..... 382
 カスマカイガン(香住海岸)..... 418
 カダアズママロ(荷田東滿舊宅)..... 245
 カタタマチ(堅田町)..... 319
 カツテジンシヤ(勝手神社)..... 366
 カツベジンシヤ(勝部神社)..... 352

四

カミヤガワ(紙屋川)..... 144
 カメオカジヨウシ(龜岡城址)..... 393
 カメヤマコウエン(龜山公園)..... 228
 カモガワ(賀茂川)..... 120
 カモガワオドリ(鴨川踊)..... 123
 カモジンシヤ(賀茂神社)..... 350
 カモミオヤジンシヤ(賀茂御祖神社) 132
 カモワケイカズチジンシヤ(賀茂別
 雷神社)..... 134
 カラサキノマツ(唐崎の松)..... 317
 カワチノカザアナ(河内の風穴)..... 377
 カワライジ(瓦屋寺)..... 383
 カンゲツキヨウ(觀月橋)..... 252
 カンジユジ(勸修寺)..... 255
 ガンジヨウジ(願成寺)..... 242
 ガンジヨウジユジ(願成就寺)..... 363
 ガンゾウジ(岩藏寺)..... 360
 カンダジンシヤ(神田神社本殿)..... 320
 カンダニジンシヤ(神谷神社)..... 411
 カンチイン(觀智院客殿)..... 117
 カンドウジ(觀道寺)..... 372
 ガントクジ(願徳寺)..... 279
 カンナベヤマ(神鍋山スキー場)..... 414
 カンノンジ(觀音寺)(普賢寺村)..... 276
 カンノンジ(觀音寺)(常盤村)..... 353
 カンノンシヨウジ(觀音正寺)..... 370
 カンノンドウ(觀音堂聖觀音坐像)
 (玉津村)..... 354
 カンノンドウ(觀音堂十一面觀音立
 像)(中里村)..... 357
 カンノンドウ(觀音堂聖觀音立像)
 (馬淵村)..... 364
 ガンプクジ(願福寺)..... 363
 カンムテンノウゴリヨウ(桓武天皇
 御陵)..... 250
 ガンリュウジ(願隆寺)..... 350

キ

ギオン(祇園の枝垂櫻)..... 177
 ギオンマツリ(祇園祭)..... 180
 キズオンセン(木津温泉)..... 410
 キタノジンシヤ(北野神社)..... 140
 キタハナザワ(北花澤花の木自生
 地)..... 382
 キチジヨウジ(吉祥寺)..... 366

ギチユウジ(義仲寺)..... 287
 キヌガサヤマ(衣笠山)..... 212
 キネンドウブツエン(記念動物園)..... 189
 キノサキオンセン(城崎温泉)..... 417
 キブネジンシヤ(貴船神社)..... 209
 キユウシユウリンジテイエン(舊秀
 隣寺庭園)..... 325
 キョウオウゴコクジ(教王護國寺)..... 113
 キョウトカンツリークラブ(京都カ
 ンツリークラブゴルフ場)..... 255
 キョウトゴシヨ(京都御所)..... 129
 キョウトシ(京都市)..... 91
 キョウトジヨクブツエン(京都植物
 園)..... 134
 キョウトテイコクダイガク(京都帝
 國大學)..... 201
 キョウトテイダイブンガク(京都
 帝大文學部陳列館)..... 201
 キョウトフキン(京都附近の交通機
 關)..... 103
 キョウトフリツイカダイガク(京都
 府立醫科大學)..... 130
 キョウバシ(京橋)..... 252
 ギョクホウイン(玉鳳院)..... 215
 ギョクレンイン(玉蓮院)..... 315
 キョタキガワ(清瀧川)..... 237
 キヨミズテラ(清水寺)..... 171
 キヨミズヤキ(清水焼)..... 99
 キョロクゴロウアンシ(許六五老庵
 址)..... 375
 キンカクジ(金閣寺)..... 145
 ギンカクジ(銀閣寺)..... 198
 キンシヨウジ(近松寺)..... 288
 キンシヨクジ(錦織寺)..... 356

ク

クサツマチ(草津町)..... 334
 クゼジンシヤ(久世神社)..... 275
 クツガワクルマズカコボン(久津川
 車塚古墳)..... 274
 クツキ(朽木溪谷)..... 325
 クツキ(朽木スキー場)..... 325
 クテジンシヤ(九手神社)..... 397
 グホウジ(求法寺)..... 314
 クホンジ(九品寺)..... 396

クミハマコ(久美濱湖)..... 410
 クラマジ(鞍馬寺)..... 210
 クラマヤマ(鞍馬山)..... 211
 クリスノガヨウシ(栗栖野瓦窯址)..... 209
 クルマサキジンシヤ(車折神社)..... 226
 クロノジンシヤ(黒野神社)..... 414
 クワノミジ(桑實寺)..... 369

ケ

ケイショウイン(桂昌院)..... 242
 ゲンダウエン(玄宮園)..... 373
 ケンクンジンシヤ(建勳神社)..... 146
 ケンコウイン(遣仰院)..... 131
 ゲンジボタル(源氏螢發生地)..... 352
 ケンニンジ(建仁寺)..... 173
 ゲンブドウ(玄武洞)..... 416

コ

コウエツジ(光悅寺)..... 154
 コウエンイン(光園院)..... 120
 コウカイドウ(公會堂)..... 190
 コウシヨウジ(興正寺)(京都市下京
 區)..... 113
 コウシヨウジ(興聖寺)(京都市上京
 區)..... 137
 コウシヨウジ(興聖寺)(宇治町)..... 269
 コウシヨウジ(興正寺)..... 325
 コウシヨウジ(光照寺)..... 358
 コウダイイン(光臺院)..... 262
 コウダイジ(高臺寺)..... 175
 コウデンジ(光傳寺)..... 335
 コウドウ(草堂)..... 129
 コウフクジ(興福寺)..... 383
 コウブンテンノウゴリヨウ(弘文天
 皇御陵)..... 296
 コウミヨウイン(光明院)..... 385
 コウミヨウジ(光明寺)(乙訓村)..... 281
 コウミヨウジ(光明寺)(油日村)..... 346
 コウミヨウジ(光明寺)(平田村)..... 360
 コウミヨウジ(光明寺)(奥上林村)..... 398
 ゴウムラ(郷村斷層)..... 409
 コウメイテンノウゴリヨウ(孝明天
 皇御陵)..... 243
 コウラジンシヤ(甲良神社)..... 377

ア

アエバノ(櫻庭野)..... 326
 アオタニバイリン(青谷梅林)..... 275
 アガジンシヤ(阿賀神社)..... 360
 アガタジンシヤ(縣神社)..... 273
 アサシロジンシヤ(朝代神社)..... 401
 アサヒヤキ(朝日焼)..... 269
 アサヒヤマ(朝日山)..... 269
 アズチジョウシ(安土城址)..... 367
 アタゴネンブツジ(愛宕念佛寺)..... 237
 アタゴヤマ(愛宕山)..... 237
 アナフジ(穴太寺)..... 393
 アブラヒジンシヤ(油日神社)..... 346
 アマズカコフン(天塚古墳)..... 223
 アマノハシダテ(天橋立)..... 404
 アミダジ(阿彌陀寺)..... 347
 アミダドウ(阿彌陀堂天部形立像)..... 366
 アヤベマチ(綾部町)..... 398
 アラシヤマ(嵐山)..... 228
 アラシヤマコウエン(嵐山公園)..... 228
 アラシヤマコウセン(嵐山鑛泉)..... 229
 アラミジンシヤ(荒見神社)..... 275
 アワズガハラ(粟津原)..... 329
 アワタジンシヤ(粟田神社)..... 189
 アワタヤキ(粟田焼)..... 99
 アンコクジ(安國寺)..... 399
 アンショウジ(安祥寺)..... 254
 アンヨウジ(安養寺)(大津市)..... 288
 アンヨウジ(安養寺)(治田村)..... 337
 アンラクジ(安樂寺)(京都市)..... 197
 アンラクジ(安樂寺)(下田上村)..... 333
 アンラクジ(安樂寺)(佐山村)..... 346
 アンラクジ(安樂寺)(物部村)..... 352
 アンラクジ(安樂寺)(野洲町)..... 356
 アンラクジ(安樂寺)(南比都佐村)..... 387
 アンラクジユイン(安樂壽院)..... 247
 アンラクリツイン(安樂律院)..... 315

イ

イイジンシヤ(井伊神社)..... 374
 イイタイロウ(井伊大老像)..... 372
 イクノノサト(生野の里)..... 397
 イクラジンシヤ(生和神社社殿)..... 356

イケダヤ(池田屋騒動舊址)..... 124
 イザキジ(伊崎寺)..... 363
 イザキフドウ(伊崎不動)..... 363
 イササジンシヤ(伊砂砂神社)..... 336
 イシカワジョウザン(石川丈山墓)..... 203
 イシザジンシヤ(石座神社神像)..... 329
 イシトウジ(石塔寺三重塔婆)..... 384
 イシバジ(石馬寺)..... 371
 イシヤマデラ(石山寺)..... 330
 イシヤマデラ(石山寺礎灰石)..... 331
 イズシジンシヤ(出石神社)..... 415
 イズミシキブジ(和泉式部寺)..... 123
 イズモジンシヤ(出雲神社)..... 394
 イセエジ(伊勢廻寺)..... 345
 イソウ(射添スキー場)..... 420
 イタツラハチマンジンシヤ(板列八幡神社)..... 408
 イチイノジ(檜野寺)..... 347
 イチゴンジカンノン(一言寺観音)..... 262
 イチリズカ(一里塚)..... 352
 イツキユウジンシヤ(一宮神社)..... 412
 イデノタマガワ(井出玉川)..... 275
 イトウジンサイ(伊藤仁齋舊宅址竝書庫)..... 128
 イナバヤクシ(因幡薬師)..... 119
 イナリジンシヤ(稻荷神社)..... 244
 イナリジンシヤ(稻荷神社舊本殿)..... 356
 イナリヤマコフン(稻荷山古墳)..... 323
 イバナイコ(伊庭内湖)..... 371
 イバムラ(伊庭村遊園地)..... 371
 イマクマノカンノン(今熊野観音)..... 156
 イマミヤジンシヤ(今宮神社)..... 146
 イワクラトモミ(岩倉具視幽棲舊宅)..... 208
 イワシミズハチマングウ(石清水八幡宮)..... 283

ウ

ウエノジンシヤ(上野神社神像)..... 358
 ウキミドウ(浮御堂)..... 319
 ウシオカンノンホウゴンジ(牛尾観音法嚴寺)..... 256
 ウジカミジンシヤ(宇治上神社)..... 268
 ウジガワ(宇治川)..... 267
 ウジガワ(宇治川探勝)..... 334

ウジガワライン(宇治川ライン)..... 334
 ウジジンシヤ(宇治神社)..... 268
 ウジチヤ(宇治茶)..... 269
 ウジバシ(宇治橋)..... 268
 ウジマチ(宇治町)..... 267
 ウズマサ(太秦の牛祭)..... 226
 ウソガワズツミ(宇曾川堤の櫻)..... 372
 ウバモチヤ(うばもち家)..... 335
 ウメダウンビン(梅田雲濱墓)..... 171
 ウメノミヤジンシヤ(梅宮神社)..... 232
 ウワミヤジンシヤ(宇和宮神社社殿)..... 337

エ

エイカンドウ(永観堂)..... 195
 エイゲンジ(永源寺)..... 383
 エイゴンジ(永嚴寺)..... 341
 エイショウイン(永照院)..... 342
 エイショウジ(永昌寺)..... 343
 エイミョウイン(永明院)..... 241
 エショウジ(會勝寺観音堂)..... 369
 エニチイン(恵日院)..... 314
 エビスヤマコフン(蛭山古墳)..... 408
 エンコウジ(圓光寺)..... 356
 エンプクジ(圓福寺)..... 285
 エンマンジ(圓満寺)..... 361
 エンリアン(厭離庵)..... 233
 エンリュウジ(圓隆寺)..... 401

オ

オイスギジンシヤ(老杉神社)..... 336
 オイソノモリ(老蘇森)..... 371
 オウイシジンヤシ(大石神社)..... 255
 オウイシヨシオ(大石良雄隠宅址)..... 255
 オウイシヨシオフジン(大石良雄夫人墓)..... 416
 オウエヤマ(大江山)..... 413
 オウガイカブレングョウ(鴨涯歌舞練場)..... 123
 オウギノシバ(扇の芝)..... 273
 オウギノセン(扇の山)..... 421
 オウクボトシミツ(大久保利通舊邸)..... 131
 オウサカセキシ(逢坂關址)..... 287

オウサカヤマ(逢坂山)..... 287
 オウサワノイケ(大澤池)..... 235
 オウシノハラジンシヤ(大篠原神社)..... 359
 オウシマジンシヤ(大島神社)..... 362
 オウスミノクルマヅカ(大住の車塚)..... 277
 オウタニダイガク(大谷大學)..... 153
 オウタノサワ(太田の澤のかきつばた發生地)..... 136
 オウチトウゲ(大内峠、樗峠)..... 408
 オウツシ(大津市)..... 286
 オウトリジンシヤ(大鳥神社)..... 347
 オウノジンシヤ(大野神社)..... 339
 オウバイイン(黄梅院本堂)..... 150
 オウバクサンマンブクジ(黄葉山萬福寺)..... 265
 オウハラノジンシヤ(大原野神社)..... 279
 オウホラベンザイテン(大洞辨財天)..... 374
 オウミジングウ(近江神宮)..... 296
 オウミズナギドリ(おほみづなぎどり蕃殖地)..... 402
 オウミドウ(大御堂)..... 276
 オウムラマスジロウ(大村益次郎殉難碑)..... 125
 オカザキコウエン(岡崎公園)..... 189
 オキツシマジンシヤ(奥津嶋神社)..... 362
 オキノシマ(沖島)..... 363
 オクイシジンシヤ(奥石神社)..... 370
 オグラノイケ(巨椋池)..... 252
 オグラヤマ(小倉山)..... 233
 オグリシアケチヤブ(小栗栖明智藪)..... 263
 オゴトコウセン(雄琴鑛泉)..... 319
 オシタテジンシヤ(押立神社)..... 381
 オジロ(小代スキー場)..... 420
 オズジンシヤ(小津神社)..... 354
 オダジンシヤ(小田神社)..... 358
 オドイ(御土居)..... 144
 オトクニデラ(乙訓寺)..... 280
 オノイモコ(小野妹子墓)..... 321
 オノタカムラジンシヤ(小野篁神社)..... 320
 オノドウフウジンシヤ(小野道風神社)..... 321

索引

この索引は發普通りの假名で示し五十音順に配列した。

ア	2	ネ	11
イ	2	ノ	11
ウ	2	ハ	11
エ	3	ヒ	11
オ	3	フ	11
カ	4	ヘ	12
キ	4	ホ	12
ク	5	マ	12
ケ	5	ミ	13
コ	5	ム	13
サ	6	メ	13
シ	6	モ	13
ス	8	ヤ	13
セ	8	ユ	14
ソ	8	ヨ	14
タ	9	ラ	14
チ	9	リ	14
ツ	10	ル	14
テ	10	レ	14
ト	10	ロ	14
ナ	10	ワ	14
ニ	10		

改版

日本案内記 近畿篇(上) 奥付



正價金貳圓三十錢

昭和十六年八月二十日印刷
昭和十六年八月二十五日發行

不許複製

發行
者刻

鐵道省

印刷者

東京市日本橋區本町三ノ九
株式會社
博文館
右代表者
大橋進一
取締役社長
(一三六五〇三)

東京市牛込區市谷加賀町一ノ十二
杉山退助

大日本印刷株式會社印刷

發賣所
配給元

東京市日本橋區本町
振替口座東京二四〇番
東京市神田區
淡路町三丁目九番地

株式會社
博文館
日本出版配給株式會社

